

レッドリストくまもと2024

－熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物－

令和6年（2024年）10月

熊 本 県

発刊にあたって

熊本県は、九州のほぼ中央部に位置し、阿蘇の雄大な草原や有明海の干潟、天草諸島など、豊かな自然環境に恵まれており、この中で多種多様な野生動植物が生息・生育しています。この豊かな自然や生物からの恵みを受けることで、私たちは生活しています。

しかし、土地の開発や外来生物の侵入、地域の過疎化や高齢化に伴う里地里山の荒廃等様々な要因により、生物を取り巻く環境は大きく変化しています。そうした環境の変化に伴い、多くの野生動植物の中には絶滅の危機に瀕しているものもあります。

本県では、平成3年（1991年）に「熊本県希少野生動植物の保護に関する条例」を施行し、全国に先駆けて希少野生動植物の保全対策に取り組んできました。現在は「熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例」として改正し、特に絶滅のおそれのある野生動植物49種を指定希少野生動植物に指定し、捕獲、採取等を制限するなど保全に努めています。

しかし、条例に基づき捕獲等を制限している野生動植物は、絶滅が危惧される種のごく一部であり、多くの絶滅危惧種を保全するためには、県民一人ひとりが生物多様性の重要性を認識し、保全に取り組んでいく必要があります。

本書は、平成10年（1998年）にレッドデータブックを初めて公表して以来6回目となり、絶滅が危惧される野生動植物の置かれた状況を表したものです。

本書の発刊により、県民の皆様が野生動植物や自然環境へ理解を深める資料となり、各種事業における環境配慮のための基礎資料として活用され、生物多様性の保全及び自然環境の保全への取り組みが一層進むことを願います。

最後になりましたが、県内の野生動植物の調査を積み重ねられ、さらに編著にご尽力いただいた熊本県希少野生動植物検討委員会の検討委員、調査員の皆様をはじめ、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

令和6年（2024年）10月

熊本県環境生活部長 小原 雅之

< 目 次 >

I.	はじめに	…	5
II.	レッドリストの発行と希少種保護対策の経過	…	6～
	1. レッドデータブック・レッドリスト発行の経過	…	6～
	2. 希少種保護対策の経過	…	7
III.	レッドリストくまもと2024（RL2024）の概要	…	8～
	1. 目的と概要	…	8～
	2. カテゴリーの定義と適用	…	12～
	3. 絶滅のおそれのある種の概要	…	18～
	4. 重要度の高い群落とハビタット	…	23～
IV.	レッドリスト	…	25～
	1. 維管束植物、コケ植物	…	25～
	2. 藻類	…	42～
	3. 哺乳類	…	44～
	4. 鳥類	…	49～
	5. 爬虫類	…	58～
	6. 両生類	…	60～
	7. 淡水魚類	…	62～
	8. 昆虫類	…	66～
	9. クモ・多足類	…	78～
	10. 陸産・淡水産貝類	…	80～
	11. 淡水産無脊椎動物	…	93
	12. 海洋動物	…	94～
	13. 群落	…	102～
	14. ハビタット	…	104
V.	指定希少野生動植物と生息地等保護区	…	105～
VI.	索引	…	107～

I. はじめに

野生動植物を人為的に絶滅させないためには、絶滅の恐れのある種を的確に把握する必要があります。そのため、国（環境省）は昭和 61 年（1986 年）から「緊急に保護を要する動植物の選定・調査」を実施し、平成 3 年（1991 年）に「日本の絶滅のおそれのある野生生物―脊椎動物編」及び「日本の絶滅のおそれのある野生生物―無脊椎動物編」を発行し、国民への啓発を始めました。

熊本県では全国に先駆けて平成 3 年（1991 年）に「熊本県希少野生動植物保護に関する条例」が施行され、熊本県希少野生動植物検討委員会が設置されました。そして、5 年間にわたる県下の希少野生動植物の調査、検討を始め、九州中央山地（3 年度）、人吉球磨地域（4 年度）、天草地域（5 年度）、芦北・水俣地域（5 年度）、阿蘇・県北地域（6 年度）、県央地域（7 年度）において、条例に基づく指定種等の選定のための調査を行いました。

平成 10 年（1998 年）には「熊本県の保護上重要な野生動植物―レッドデータブックくまもと」が発刊されました。その後、レッドデータブックは 10 年ごとに改訂され、熊本県では令和元年（2019 年）に 3 版目を発刊しております。また、レッドデータブックの発刊から 5 年後にレッドリストを発行することで、県民への啓発を続けてきましたが、希少野生動植物の減少には歯止めのかからない現状です。

希少種が減少する環境の変化には、宅地造成・道路工事・公園化・河川改修などの人為的なものの他に、度重なる豪雨災害・遷移が進むことによる湿地の減少などの自然的なものもあります。また、希少な種と認められたために盗掘や捕獲がなされ絶滅に瀕した種や、外来生物との共存が出来ず減少する種等も見られます。

レッドリストくまもと 2024 は、熊本県における保護上重要な野生動植物をリストアップしたものです。この冊子で県民への更なる啓発や重要な種の保護に寄与できたらと考えます。

ヒトは環境を変えることで進化を遂げてきたと言われますが、環境に合わせて進化できる生物はごく一部です。熊本県に生息・生育する希少な生物と環境の保護のために、この RL が役に立つことを心から願います。

熊本県希少野生動植物検討委員会 会長 石黒 義也

II. レッドリストの発行と希少種保護対策の経過

1. レッドデータブック・レッドリスト発行の経過

熊本県では、希少植物が盗掘などによって減少している現状に鑑みて、平成元年（1989年）に専門家による検討委員会を設置し、阿蘇地域の植物を中心に調査・検討を行い、平成2年（1990年）3月に「熊本県における希少動植物保護のあり方 報告書」を取りまとめた。その成果を踏まえ、平成3年（1991年）4月に、全国に先駆けて「熊本県希少野生動植物の保護に関する条例」（以下（保護条例）とする）を施行し、同時に「熊本県希少野生動植物検討委員会」を設置し、希少動植物の現状把握と具体的な保護方策に取り組んできた。

平成3年度（1991年）からは5年間にわたって県内全域の希少野生動植物の調査・検討を行い、平成4年（1992年）から平成8年（1996年）にかけて6つの地域ごとに順次調査報告書として取りまとめられた。

上記の結果に基づき、平成10年（1998年）3月に「熊本県の保護上重要な野生動植物 レッドデータブックくまもと」【RDB1998】（以下、RDB1998とする）を発刊した。これは、県下での保護上重要な動植物をリストアップし、「絶滅種」「絶滅危惧種」「危急種」「希少種」「情報不足種」の5つのカテゴリーに分類の上、解説を記載したものである。平成16年（2004年）3月には、「熊本県の保護上重要な野生動植物 レッドリストくまもと2004」【RL2004】（以下、RL2004とする）を発刊した。この際には、カテゴリー区分を環境省のカテゴリー区分に準じて変更し、さらに保護上重要な植物群落及びハビタットを新たに掲載した。平成21年（2009年）3月には、「改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物 レッドデータブックくまもと2009」【RDB2009】（以下、RDB2009とする）を発刊し、平成26年（2014年）7月には、「熊本県の保護上重要な野生動植物 レッドリストくまもと2014」【RL2014】（以下、RL2014とする）、令和元年（2019年）12月には、「レッドデータブックくまもとー熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」【RDB2019】（以下、RDB2019とする）を発刊した。以上のように、野生動植物の置かれた現状について、調査結果を踏まえて概ね5年ごとに見直しを行ってきた。

本書はRDB2019発刊後の令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの調査結果を取りまとめ、「レッドリストくまもと2024ー熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」【RL2024】（以下、RL2024とする）として公表するものである。

RDB・RL作成の経過

平成元年（1989年）6月

熊本県における希少野生動植物保護のあり方検討委員会発足

平成2年3月「熊本県における希少動植物保護のあり方報告書」

平成3年（1991年）4月

熊本県希少野生動植物検討委員会の発足

平成4年（1992年）3月「九州中央山地における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」
平成5年（1993年）3月「人吉・球磨地域における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」
平成6年（1994年）3月「天草地域における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」
「芦北・水俣地域における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」
平成7年（1995年）3月「阿蘇・県北地域における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」
平成8年（1996年）3月「県央地域における希少野生動植物の実情と保護方策 調査報告書」

平成10年（1998年）3月

熊本県の保護上重要な野生動植物（レッドデータブックくまもと）

平成11年（1999年）3月

くまもとの希少な野生動植物（RED DATA BOOK（普及版））

平成16年（2004年）3月

熊本県の保護上重要な野生生物リストーレッドリストくまもと2004ー

平成21年（2009年） 3月

↓ 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物 ―レッドデータブックくまもと2009―

平成26年（2014年） 7月

↓ 熊本県の保護上重要な野生動植物 ―レッドリストくまもと2014―

令和元年（2019年）12月

↓ レッドデータブックくまもと2019 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―

令和6年（2024年）10月

レッドリストくまもと2024 ―熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物―

2. 希少種保護対策の経過

保護条例に基づく保護対策については、平成3年（1991年）11月にハナシノブ、オオルリシジミなど5種を「特定希少野生動植物」に、阿蘇地域の3箇所を「特定希少野生動植物保護区」に指定し、その後、平成9年（1997年）3月までに、「特定希少野生動植物」26種及び「特定希少野生動植物保護区」19箇所を指定し、希少野生動植物の保護を図ってきた。

平成16年（2004年）12月には保護条例の目的を種の保全に限定せず、生物多様性保全へと拡大するなどした「熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例」へと全面改定した。従前の保護条例では特定希少野生植物は保護区でのみ採取などを制限していたが、この改訂条例では、特定希少野生動植物の捕獲・採取などを県内全域で禁止することとした。また、違反した場合の罰則を「1年以下の懲役または100万円以下の罰金」へと強化した。平成17年（2005年）5月には、指定希少野生動植物40種と生息地等保護区16箇所を指定し、同年6月に施行した。さらに平成25年（2013年）1月に指定希少野生動植物8種の追加指定（1種を解除）、また生息地等保護区1箇所の追加指定（2箇所を解除）、平成28年（2016年）4月に指定希少野生動植物8種の追加指定（1種を解除）、令和4年（2022年）2月に指定希少野生動植物2種の追加指定（7種を解除※）、生息地等保護区1箇所の解除※を行った。現在は指定希少野生動植物49種、生息地等保護区14箇所について、条例に基づく保護対策を実施している。

※「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定されたため（熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例において、指定希少野生動植物は国内希少野生動植物種を除くと規定されているため）。

III. レッドリストくまもと2024（RL2024）の概要

1. 目的と概要

(1) 目的

前述のとおり、RL2014及びRDB2019発刊後も希少野生動植物検討委員会による調査が続けられてきた。本書はRDB2019発刊後の令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの調査結果を取りまとめ、「レッドリストくまもと2024ー熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」（RL2024）として公表するものである。RL2024は、これまでのRDBやRLと同じく、今後の自然環境保全に関する基礎資料とすることを目的とする。また、絶滅のおそれのある野生動植物について、多くの県民へ身近な自然への関心と理解を広め、野生動植物の現状や課題などに関心を寄せることにより、希少野生動植物の保護活動に活用されることを期待するものである。

(2) 調査対象生物群の範囲

本書では、これまでのRDBやRLと同じく、原則として飼育・栽培種及び野生化した飼養鳥獣類を除く野生動植物を対象とした。

維管束植物については、県内に生育するか、過去に生育した維管束植物（種子植物、シダ植物）のうち、（a）熊本県植物誌（1969）に収録された種及び変種、（b）熊本県植物誌刊行後に生育が明らかになった種及び亜種・変種で、原則として熊本県植物誌の収録基準を満たすものを対象とした。コケ植物については、環境省RL2018に記載された種の中で、県内に産することが確認されている種をリストアップした。

藻類については、これまで便宜的に植物の項で取り扱ってきたが、近年の分類体系を参考にして、藍藻を含めて「藻類」として植物から独立させた。

なお、海域の動物については、「海洋動物」という分類名で一括して取り扱い、哺乳類、爬虫類、魚類、節足動物、軟体動物は陸域とともに海域の項目でも扱った。

(3) 調査対象種の範囲

植物：①維管束植物（シダ植物、種子植物）、②コケ植物（蘚類、苔類）

藻類：①海藻類、②淡水藻類

動物（陸域）：①哺乳類、②鳥類、③爬虫類、④両生類、⑤淡水魚類、⑥昆虫類（トンボ目、カマキリ目、バッタ目、カメムシ目、陸生甲虫類、水生甲虫類、ハチ目、チョウ類、ガ類）、⑦クモ・多足類、⑧陸産・淡水産貝類、⑨淡水産無脊椎動物

動物（海域）：①刺胞動物、②腕足動物、③軟体動物、④星口動物、⑤環形動物、⑥節足動物、⑦棘皮動物、⑧半索動物、⑨頭索動物、⑩魚類、⑪爬虫類、⑫哺乳類（総称として「海洋動物」とする）

(4) 調査対象地域

調査対象範囲は、離島を含む熊本県全域とした。

(5) 調査体制

熊本県希少野生動植物検討委員会は、会長及び副会長、植物、藻類、哺乳類、鳥類、爬虫・両生類、淡水魚類、昆虫類、クモ・多足類、陸産・淡水産貝類、淡水産無脊椎動物、及び海洋動物の11分科会の委員から構成され、さらに分科会ごとに調査員が配属されている。検討委員会では主に委員会全体にかかる決定事項や調整事項を検討し、分科会では検討委員を含み、現地調査等の作業を行った。

熊本県希少野生動植物検討委員会の体制

分科会別に五十音順、※は分科会リーダー

分科会 [注 1]	委員別	氏名	所属等 [注 2]	委嘱年度 [注 1]				
				R1	R2	R3	R4	R5
会長	検討委員	内野 明德	熊本大学名誉教授	○	○	—	—	—
		石黒 義也[注 3]	—	○	○	○	○	○
植物	検討委員	奥村 智治	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		甲斐 数美[注 4]	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		瀬井 純雄	認定NPO法人 阿蘇花野協会	○	○	○	○	○
		藺畑 親志[注 5]	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		高宮 正之	熊本大学名誉教授	—	—	○	○	○
		富田 壽人	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		山口 瑞貴[注 5]	熊本博物館	○	○	○	○	○
		※ 渡邊 将人	熊本大学薬学部	○	○	○	○	○
	調査員	石坂 征勝	—	○	○	—	—	—
		伊東 麗子	熊本記念植物採集会	—	—	—	○	○
		岡部 達郎	熊本記念植物採集会	—	○	○	○	○
		仮屋崎 忠[注 6]	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		河上 昭夫[注 7]	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	—
		堺 一樹	芦北地域振興局農業普及・振興課	○	○	○	○	○
		佐藤 千芳[注 7]	有限会社 熊本植物研究所	○	○	○	○	○
		高野 茂樹	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		徳留 一生	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
		西 一郎	熊本記念植物採集会	—	—	—	—	○
		山下 桂造	熊本記念植物採集会	○	○	○	○	○
藻類	検討委員	飯間 雅文	長崎大学大学院総合生産科学域	○	○	○	○	○
		※ 田川 伸一	熊本県立湧心館高等学校	○	○	○	○	○
	調査員	栗原 暁	九州大学大学院農学研究院	—	○	○	○	○
哺乳類	検討委員	※ 坂田 拓司	熊本野生生物研究会	○	○	○	○	○
		坂本 真理子	くまもと里と山研究所	○	○	○	○	○
		鈴木 圭	国立研究開発法人 森林総合研究所・九州支所	—	—	○	○	○
	調査員	天野 守哉	熊本県立熊本工業高等学校	○	○	○	○	○
		歌岡 宏信	NPO法人 くまもと未来ネット	○	○	○	○	○
		田中 英昭	熊本野生生物研究会	○	○	○	○	○
		田上 弘隆	開新高等学校	○	○	—	—	—
		中野 太九朗	アジア航測株式会社福岡支店	○	○	—	—	—
		長峰 智	熊本野生生物研究会	○	○	○	○	○
		前田 史和	熊本野生生物研究会	—	○	○	○	○
		安田 雅俊[注 7]	国立研究開発法人 森林総合研究所・九州支所	○	○	○	○	○

分科会 [注 1]	委員別	氏名	所属等 [注 2]	委嘱年度 [注 1]				
				R1	R2	R3	R4	R5
鳥類	検討委員	※ 坂梨 仁彦	-	○	○	○	○	○
		白石 健一	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	○
		田中 忠	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	○
	調査員	有馬 宏幸	㈱九州自然環境研究所	○	○	-	-	-
		井上 賢三郎	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	○
		光永 汪	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	-	-	-
		岡本 浩太郎	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	-
		金子 博臣	日本野鳥の会熊本県支部	-	-	○	○	○
		田上 貴文	日本野鳥の会熊本県支部	-	-	-	-	○
		西本 雄紀	日本野鳥の会熊本県支部	-	-	○	○	○
		松本 芳文	日本野鳥の会	-	-	○	○	○
		水上 健太	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	○
		皆吉 悦夫	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	○	○	○
		山本 和紀	日本野鳥の会熊本県支部	○	○	-	-	-
爬虫・両生類	検討委員	※ 藤吉 勇治	熊本県自然保護関係団体協議会	○	○	○	○	○
	調査員	石黒 靖之	-	○	○	○	○	○
		田上 良克	-	○	○	○	○	○
		中藺 洋行	熊本県博物館ネットワークセンター	○	○	○	○	○
淡水魚類	検討委員	清水 稔	熊本博物館	○	○	○	○	○
		※ 藤井 法行	日本魚類学会	○	○	○	○	○
	調査員	永田 新悟	日本魚類学会	○	○	○	○	○
		林田 創	一般財団法人 九州環境管理協会	-	-	-	○	○
		布田 欣也	西部ガスグループ・㈱ファイブ	○	○	○	○	○
昆虫類	検討委員	立川 喜一	熊本昆虫同好会	○	○	○	○	○
		※ 寺崎 昭典	合同会社 フィールドリサーチ	○	○	○	○	○
		富嶋 雄治	熊本昆虫同好会	○	○	○	○	○
		松井 英司	VIENNA COLEOPTERISTS SOCIETY (WCV)	○	○	○	○	○
		渡邊 竜己	熊本市立必由館高校	○	○	○	○	○
	調査員	田原 朗敏	日本鱗翅学会	-	○	○	○	○
		古川 雅通	日本蛾類学会	-	○	○	○	○
		松原 茂	松原環境調査	○	○	○	○	○
		渡邊 優美	NPO 法人生活と教育	○	○	○	○	○
クモ・多足類	検討委員	※ 村田 浩平	学校法人東海大学 農学部	○	○	○	○	○
	調査員	相浦 博彰	中外テクノス株式会社	-	○	○	○	○
		入江 照雄	-	○	○	○	-	-
		免田 隆大	熊本県博物館ネットワークセンター	○	○	○	○	○
		山崎 茂幸	中外テクノス株式会社	-	-	○	○	○

分科会 [注 1]	委員別	氏名	所属等 [注 2]	委嘱年度				
				R1	R2	R3	R4	R5
陸産・ 淡水産貝 類	検討委員	※ 西野 宏	熊本大学 大学院先端科学研究部	○	○	○	○	○
	調査員	松本 達也	日本貝類学会	○	○	○	○	○
淡水産 無脊椎動 物	検討委員	※ 田畑 清霧	熊本県立済々黌高等学校	○	○	○	○	○
	調査員	高松 安国	熊本県立済々黌高等学校	—	—	○	○	○
		松藤 加代子	熊本県立東稜高等学校	—	—	—	—	○
海洋動物	検討委員	逸見 泰久	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター	○	○	○	○	○
		※ 森 敬介	ひのくにベントス研究所	○	○	○	○	○
		渡部 哲也	西宮市貝類館	—	—	—	○	○
	調査員	武田 明美	—	○	○	○	○	○
		豊田 史弥	株式会社 吉永産業	○	○	○	○	○
		山下 博由	貝類多様性研究所	○	—	—	—	—
		吉崎 和美	世界自然保護基金ジャパン	○	○	○	○	○

[注 1]RDB2019 発行後である令和元年（2019 年）から RL2024 編纂前の令和 5 年（2023 年）までを示した。

[注 2]委嘱最終年度の所属

[注 3]令和元、2 年度は分科会リーダー、令和 3、4、5 年度は会長

[注 4]令和元、2、3 は調査員

[注 5]令和元、2 は調査員

[注 6]令和元、2、3 は検討委員

[注 7]令和元、2 は検討委員

2. カテゴリーの定義と適用

(1) カテゴリーの定義

本書の種の選定基準は、カテゴリー区分によることを原則とした。各カテゴリーの要件については、生物分類群の事情（情報の得やすさや情報の蓄積度合等）に差があり統一的な解釈が難しいため、それぞれの事情に応じた独自の解釈を行うことにした。

種の選定基準となるカテゴリー区分は、環境省の基準に準じ、定性的・定量的要件については県独自のものを設定した。（表2.1）

◇カテゴリーの概要

絶滅（EX）	本県ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅（EW）	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧IA類（CR）	深刻な絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IB類（EN）	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧II類（VU）	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種
情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種

◇付属資料

絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
要注目種（AN）	現在必ずしも絶滅危惧のカテゴリーに属しないが、存続基盤が今後変化及び減少することにより、容易に絶滅危惧に移行し得る可能性が高い種

表 2.1 RL2024 のカテゴリー

カテゴリー及び 基本概念	定性的要件	定量的要件 ※昆虫類には定量的要件を適用しない
絶滅 Extinct (EX) 本県ではすでに絶滅したと考えられる種	過去に本県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、本県ではすでに絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に本県に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、本県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生では絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。 ③飼育・栽培個体が明らかに本県に生息・生育していた個体の子孫であることが確認できている。 【情報量が少ないもの】 ④過去 50 年前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。	

カテゴリー及び 基本概念	定性的要件	定量的要件 ※昆虫類には定量的要件を適用しない
絶滅危惧 IA 類 Critically Endangered (CR) 深刻な絶滅の危機に 瀕している種 現在の状態をもたら した圧迫要因が引き 続き作用する場合、野 生での存続が困難な ものであって、ごく近 い将来における野生 での絶滅の危険性が 極めて高いもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準に まで減少している。 ②既知のすべての生息・生育地で、生息・ 生育条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力 を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある 別種が侵入している。 ⑤保護対策により現状が維持されている が、保護対策がなければ野生での存続が 困難なもの。 ⑥もともと希少であり、個体数または生息・ 生育地数がきわめて少なく、人的影響や 自然災害等により野生での存続が困難と なることが予測されるもの。 【情報量が少ないもの】 ⑦それほど遠くない過去（30 年～50 年） の生息・生育記録以後確認情報がなく、 その後信頼すべき調査が行われていな いため、絶滅したかどうかの判断が困難 なもの。	A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られ る場合。 1. 最近 30 年間（植物、哺乳類）、または、最 近 10 年間（鳥類、爬虫・両生類、クモ・多 足類）で 80%以上の減少があったと推定 される。 2. 今後 30 年間（植物、哺乳類）または、今 後 10 年間（鳥類、爬虫・両生類、クモ類） に 80%以上の減少があると予測される。 B. 生息・生育地が過度に分断されているか、 1～2 箇所であると推定される他、次の兆候 が見られる場合。 1. 生息・生育地面積や個体群に継続的な減 少が予測されるか、極度の減少が見られ る。 2. 極度に、生息・生育地面積が狭いか、個 体数が少ない。 C. 成熟個体数が 250 未満であると推定され、 さらに成熟個体数の継続的な減少が観察、も しくは推定・予測され、かつ個体群が構造的 に過度の分断を受けるか全ての個体が 1 つ の下位個体群に含まれる状況にある場合。 D. 成熟個体数が 50 未満（植物、哺乳類、爬虫・ 両生類）、または、10 未満（鳥類）であると 推定される個体群である場合。
絶滅危惧 IB 類 Endangered (EN) 絶滅の危機に瀕して いる種 現在の状態をもたら した圧迫要因が引き 続き作用する場合、野 生での存続が困難な ものであって、IA 類ほ どではないが、近い将 来における野生での 絶滅の危険性が高い もの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準に まで減少している。 ②既知のすべての生息・生育地で、生息・ 生育条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力 を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある 別種が侵入している。 ⑤保護対策により現状が維持されている が、保護対策がなければ野生での存続が 困難なもの。 ⑥もともと希少であり、個体数または生息・ 生育地数がきわめて少なく、人的影響や 自然災害等により野生での存続が困難と なることが予測されるもの。 【情報量が少ないもの】 ⑦それほど遠くない過去（30 年～50 年）の 生息・生育記録以後確認情報がなく、その 後信頼すべき調査が行われていないた め、絶滅したかどうかの判断が困難なも の。	A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られ る場合。 1. 最近 30 年間（植物、哺乳類）、または、 最近 10 年間（鳥類、爬虫・両生類、クモ類） で 50%以上の減少があったと推定され る。 2. 今後 30 年間（植物、哺乳類）、または、 今後 10 年間（鳥類、両生・爬虫類、クモ類） に 50%以上の減少があると予測される。 B. 生息・生育地が過度に分断されているか、 3～5 箇所であると推定される他、次の兆候 が見られる場合。 1. 生息・生育地面積や個体群に継続的な減 少が予測されるか、極度の減少が見られ る。 2. 極度に、生息・生育地面積が狭いか、個 体数が少ない。 C. 成熟個体数が 2,500 未満であると推定され、 さらに成熟個体数の継続的な減少が観察、も しくは推定・予測され、かつ個体群が構造的 に過度の分断を受けるか全ての個体が 1 つ の下位個体群に含まれる状況にある場合。 D. 成熟個体数が 250 未満（植物、哺乳類、爬虫・ 両生類）、または、30 未満（鳥類）であると 推定される個体群である場合。

カテゴリー及び 基本概念	定性的要件	定量的要件 ※昆虫類には定量的要件を適用しない
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。 ⑤保護対策により現状が維持されているが、保護対策がなければ近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。 ⑥もともと希少であり、生息・生育地数が少なく、人的影響や自然災害等により近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。	A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. 最近 30 年間（植物、哺乳類）、または、最近 10 年間（鳥類、爬虫・両生類、クモ・多足類）で 20%以上の減少があったと推定される。 2. 今後 30 年間（植物、哺乳類）または、今後 10 年間（鳥類、爬虫・両生類、クモ・多足類）に 20%以上の減少があると予測される。 B. 生息・生育地が過度に分断されているか、6～10 箇所であると推定される他、次の兆候が見られる場合。 1. 生息・生育地面積や個体群に継続的な減少が予測されるか、極度の減少が見られる。 2. 極度に、生息・生育地面積が狭いか、個体数が少ない。 C. 成熟個体数が 10,000 未満と推定され、さらに成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度の分断を受けるか全ての個体が 1 つの下位個体群に含まれる状況にある場合。 D. 成熟個体数が 1,000 未満（植物、哺乳類、爬虫・両生類）、または、100 未満（鳥類）と推定される個体群である場合。
準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	次に該当する種 生息・生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生息・生育条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種が侵入している。	
情報不足 Data Deficient (DD) 判定するだけの情報が不足している種	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には次のいずれかの要素）を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ①どの生息・生育地においても生息・生育密度が低く希少である。 ②生息・生育地が局限されている。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 ④生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 ⑤信頼できる文献によって本県に生息・生育するとされているが、現在確認できない。	

◇付属資料

カテゴリー及び 基本概念	定性的要件	定量的要件 ※昆虫類には定量的 要件を適用しない
絶滅のおそれのある 地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立してい る個体群で、絶滅のお それが高いもの。	次のいずれかに該当する地域個体群 ①生息・生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲 載種に準じて扱うべきと判断される地域個体群で、生息・生育域が 孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険 が増大していると判断されるもの。 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断 される地域個体群で、絶滅に瀕しているかその危険が増大してい ると判断されるもの。	
要注目種 Attention Needed (AN) 現在絶滅危惧のカテ ゴリーに属しない が、存続基盤が今後 変化及び減少するこ とにより、容易に絶 滅危惧に移行し得る 可能性の高い種	本県の他のカテゴリーには判定できないが、今後の動向に注意を払っ ていくべきであると判断される種で、次のいずれかに該当する種 ①環境省レッドデータブックでは「情報不足」を含むいずれかのカテ ゴリーに判定されているもの。 ②近隣各県のレッドデータブックにおいて2県以上で「情報不足」を 含むいずれかのカテゴリーに判定されているもの。あるいは、1県 のみの判定であっても個体数の減少要因の継続が今後本県でも考え られるもの。 ③全国の多くの都道府県で「情報不足」を含むいずれかのカテゴリー に判定され、個体数の減少要因の継続が今後本県でも考えられるも の。	

(2) 生物群別のカテゴリーの適用方法

分類群ごとに集積された情報には格差があり、全分野を数量的な要件で統一するには無理が生じる。そのため、分類群別にカテゴリーの適用方法を以下のとおり明記した。

① 維管束植物・コケ植物

維管束植物については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、要注目種の8段階に分類した。検討に際して、調査対象種が多数であること、調査能力には限界があり、短期間に定性的・定量的調査を行うことは困難であったが、熊本県の植物の量的把握は熊本県植物誌(1969)の編纂時に一度行われ、その後1980年代までに多くの追加資料が蓄積されている。そのため、1980年代から現在までの変動をおおよその基準とした。

コケ植物については、令和元年(2019年)以降は生育量の調査が進んでおらず、RDB2019のカテゴリーを引き継いだ。

② 藻類

藻類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足の5段階に分類した。RDB2019における評価以後の補完調査と文献調査による知見を検討し、総合的な再評価を行った。また、環境省RL2020も参考にした。海藻に関しては委員が県外在住で頻繁な調査ができず、定量的調査は困難であった。淡水藻に関しては、全てではないが頻繁な調査が可能であった。

③ 哺乳類

哺乳類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、要注目種の7段階に分類した。RDB2019での評価以後の補完調査と文献調査による知見を検討し、総合的な再評価を行った。定性的評価に関しては、潜在的な危険性として生息分布の局限や生息環境の限定などを考慮した。また、定量的評価を厳密に適用できる種はニホンカモシカなどのごく一部の種に限られた。基本的には県内における生息状況に基づいて評価したが、九

州各県や全国の状況も考慮した。絶滅や野生絶滅の判断は、原則として過去50年前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていないものとした。

④ 鳥類

鳥類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、絶滅のおそれのある地域個体群、要注目種の8段階に分類した。対象種の評価にあたっては、本県カテゴリーの定義に従って検討を行った。多くの鳥種の場合に定量的要件を満たす情報が少なかったために、主に定性的要件で評価せざるを得なかった。しかし、県内で繁殖が確認されている一部のタカ科鳥類や渡来地が限定的な種においては、定量的要件も加味して総合的に評価を行った。その際に、日本野鳥の会熊本県支部の「熊本県鳥類誌（熊本県産鳥類目録）2016」は、長期間の定性的なデータが蓄積されたもので、一定の傾向がつかめる種が多く、カテゴリー適用の参考にすることが多かった。

また、鳥類の場合、渡り鳥が多く含まれるために各県のRDBやIUCN（国際自然保護連合）のPopulation trendも参考にした。

⑤ 爬虫類・両生類

爬虫類・両生類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足の5段階に分類した。環境省のRDB記載種を参考にしながらも県内の現状に即して分科会独自に選定した。調査範囲や情報量に限界があり、定量的調査は困難であった。過去の熊本県RL2004及びRL2014の補足調査、RDB2019及びRL2024作成のための調査で得た結果をもとに検討した。

⑥ 淡水魚類

淡水魚類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、要注目種の6段階に分類した。環境省RL2020の記載種を参考にしながらも県内の現状に即し、県外の資料も参考にしながら分科会独自に選定した。また、外来種（国外外来種や国内外来種を含む）は選定しなかった。

⑦ 昆虫類

昆虫類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足、絶滅のおそれのある地域個体群、要注目種の8段階に分類した。RDB2019以後の現地調査で得た知見と文献を参考にした。また、外来種は対象から外した。

⑧ クモ・多足類

クモ・多足類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、準絶滅危惧、情報不足の4段階に分類した。環境省のRDB記載種で、県内に生息するものは、県独自のカテゴリー区分をした。なお、現在までの50年間の現地調査の結果により、環境省のRDB記載種以外については、独自に選定し、カテゴリー区分をした。多足類については、特にヤスデ類に関する現地調査の結果により、環境省RDB記載種以外について独自に選定し、カテゴリー区分をした。

⑨ 陸産・淡水産貝類

陸産・淡水産貝類については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足の5段階に分類した。RDB2019の出版以降にRDB補完調査を行って得た知見、各種環境アセスメントに関連する調査で新たに得られた知見、平成31年（2018年）以降に発表された信頼できる文献等を踏まえ、環境省が定めたRDB・RLも参考にしながら、熊本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因に定量的要因を加味しながら本県独自の選定を行った。特に、環境省が定めた絶滅危惧種のうち、県内においては分布域が広く、生息数も多い種については絶滅の危惧度が高いとは判定しなかった。また、他県に主に分布する種のうち、県境付近から県内の近

隣地域にかけて生息が確認されている種について、他県では普通種であっても選定の対象とした。逆に、他県では絶滅危惧度が高い種であっても県境近隣地域の急激な環境変化の予測ができない限り、本県内における絶滅危惧度が高いとは判定しなかった。

⑩ 淡水産無脊椎動物

淡水産無脊椎動物については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し準絶滅危惧の1段階に分類した。環境省RL2020の記載種と県外の資料を参考にしながら、県内の現状に即し、調査が進んでいる甲殻類のワラジムシ目、ヨコエビ目、エビ目について、分科会独自に選定した。

⑪ 海洋動物

海洋動物については、本県カテゴリー区分の定義に沿って定性的要因、定量的要因を検討し、絶滅、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、情報不足の6段階に分類した。海洋動物の多くは放卵放精で大量の子孫を放出し、その一部が親の生息地に戻ってくる生活史を持っている。定量要因としては個体数でなく、生息地の数、その広がりを重要視した。

3. 絶滅のおそれのある種の概要

(1) 選定結果の概要

熊本県における絶滅のおそれのある野生動植物種は、表3.1に示すとおり、植物（維管束植物、コケ植物）が939種、藻類が10種、陸域動物が603種及び海洋動物が290種にのぼる（亜種や変種を含む、以下同じ）。表3.2には、RDB2019とRL2024のカテゴリー別対照表を示した。

なお、ここで選定した種が熊本県における絶滅のおそれのある野生動植物の全てではないことに特に注意していただきたい。これらは、限られた時間内で選り出したものであり、まだ膨大な知見を集約・整理していく作業が必要であることはいうまでもない。したがって、本書で選定した絶滅のおそれのある種は暫定的なものであり、あらゆる生物がその候補であるとの認識の上で活用されることが望まれる。

表3.1 絶滅のおそれのある種の選定状況表

		カテゴリー							小計	付属資料		小計	合計
		EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD		LP	AN		
維管束植物	シダ植物	1		79	28	30	17	9	164				164
	種子植物	17	1	246	123	140	132	90	749		6	6	755
コケ植物	蘚類			2	4	4	8		18				18
	苔類			1			1		2				2
合計		18	1	328	155	174	158	99	933		6	6	939
藻類	海藻類			1				2	3				3
	淡水藻類			2	1	1	2	1	7				7
合計				3	1	1	2	3	10				10
哺乳類		3		3	1	6	6	3	22		4	4	26
鳥類		1		16	24	19	20	5	85	2	19	21	106
爬虫類							3		3				3
両生類				1	1	1	10	2	15				15
淡水魚類		3		4	3	11	16		37		16	16	53
昆虫類		9		73	25	58	68	29	262	1	5	6	268
クモ・多足類				1	1		4	7	13				13
陸産・淡水産貝類				20	10	11	25	29	95				95
淡水産無脊椎動物							4		4				4
合計		16		124	67	108	160	81	556	3	44	47	603
海洋動物	刺胞動物	1			2	1	1	1	6				6
	腕足動物			1			1		2				2
	軟体動物			17	33	71	70	20	211				211
	星口動物					1	1	1	3				3
	環形動物				3	2	7		12				12
	節足動物				8	6	25	4	43				43
	棘皮動物					1	4	2	7				7
	半索動物			2					2				2
	頭索動物				1				1				1
	魚類							1	1				1
	爬虫類			1					1				1
	哺乳類			1					1				1
合計		1		22	47	82	109	29	290				290
総計		35	1	477	270	365	429	212	1789	3	50	53	1842

表3.2 RL2024とRDB2019のカテゴリー別掲載種対照表

			カテゴリー							小計	付属資料		小計	合計
			EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD		LP	AN		
維管束植物	シダ植物	RL2024	1		79	28	30	17	9	164				164
		RDB2019	1		75	28	20	26	9	159		2	2	161
	種子植物	RL2024	17	1	246	123	140	132	90	749		6	6	755
		RDB2019	8	1	235	109	123	147	78	701		11	11	712
コケ植物	蘚類	RL2024			2	4	4	8		18				18
		RDB2019			2	4	4	8		18				18
	苔類	RL2024			1			1		2				2
		RDB2019			1			1		2				2
藻類	海藻類	RL2024			1				2	3				3
		RDB2019			1				5	6				6
	淡水藻類	RL2024			2	1	1	2	1	7				7
		RDB2019			2	1	1	2	2	8				8
哺乳類		RL2024	3		3	1	6	6	3	22		4	4	26
		RDB2019	3		3	3	3	7	2	21		3	3	24
鳥類		RL2024	1		16	24	19	20	5	85	2	19	21	106
		RDB2019	1		8	16	24	14	3	66	4	10	14	80
爬虫類		RL2024						3		3				3
		RDB2019						3		3				3
両生類		RL2024			1	1	1	10	2	15				15
		RDB2019			1	1	1	10	2	15				15
淡水魚類		RL2024	3		4	3	11	16		37		16	16	53
		RDB2019	3		3	4	11	15		36		15	15	51
昆虫類		RL2024	9		72	26	58	68	29	262	1	5	6	268
		RDB2019	7		68	21	57	74	27	254	1	5	6	260
クモ・多足類		RL2024			1	1		4	7	13				13
		RDB2019			1	1		4	7	13				13
陸産・淡水産貝類		RL2024			20	10	11	25	29	95				95
		RDB2019			12	5	7	20	18	62				62
淡水産無脊椎動物		RL2024						4		4				4
		RDB2019						4	1	5				5
海洋動物		RL2024	1		22	47	82	109	29	290				290
		RDB2019	1		19	48	90	115	26	299				299
総計		RL2024	35	1	477	270	365	429	212	1789	3	50	53	1842
		RDB2019	24	1	431	241	341	450	181	1660	5	46	51	1719

(2) 種名と配列

種の解説は、生物分類群別にカテゴリーの「絶滅」から「要注目種」の順で配したが、本書で採用した種の和名、学名等及びカテゴリー内の配列は、分類群別に次のとおりとした。

① 維管束植物・コケ植物

シダ植物については、科名と配列、学名、和名は Atsushi Ebihara, Tao Fujiwara, Masayuki Takamiya, Motomi Ito and Tetsukazu Yahara 「FernGreenList ver. 2.0: An updated checklist of wild fern and lycophyte species in Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. B, 49: 97-104.」(2023) に従った。科内の配列は学名のアルファベット順とした。

種子植物については、科名と配列は米倉浩司「新維管束植物分類表」(2019) に従い、種名と学名は米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名ー学名インデックス」(YList, <http://ylist.info> (2023 年 10 月 9 日現在)) に従った。また、これにないものは記載論文に従った。科内の配列は学名のアルファベット順とした。なお、本県のもは他変種などの可能性があるが、精査されていないため変種名を示さず広義で取り扱った場合、学名の最後に s. l. (=sensu lato) を付けて示した。

コケ植物については、各カテゴリーで蘚類、苔類の順に配列し、それぞれ学名のアルファベット順とした。種名と学名は Suzuki Tadashi 「A revised new catalog of the mosses of Japan. Hattoria, 7: 9-223.」(2016)、片桐知之・古木一郎 「日本産タイ類・ツノゴケ

類チェックリスト, 2018」(2018)に従った。なお、科名は環境省 RL2020 に従い、示さなかった。

② 藻類

藻類の種の配列は、カテゴリー区分ごとに海藻、淡水藻の順とした。

海藻類の種の配列及び学名の多くは吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男「日本産海藻目録改訂版(2015 年改訂版). Jpn. J. Phycol. (Sôru), 63: 129-189.」(2015)に従い、一部は最新の論文発表に従った。また、淡水藻類の種の配列は、区分ごとに紅藻、緑藻、藍藻の順とし、学名は「環境省 RL2020」に従った。

③ 哺乳類

分類学上の学名や和名、及びその配列は、川田伸一郎・岩佐真宏・福井大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽創・姉崎智子・鈴木聡・押田龍夫・横畑泰志「世界哺乳類標準和名リスト 2021 年度版」(<https://www.mammalogy.jp/list/index.html> 2023 年 5 月 1 日現在)に従った。

④ 鳥類

種の配列及び学名、和名は、日本鳥学会編「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012)に従った。県内で確認された種の数、22 目 67 科 367 種(亜種)である。

⑤ 爬虫類・両生類

県内の爬虫類は 2 目 7 科 16 種(亜種)である。目・科・種・亜種の配列及び学名は、主に環境省 RL2020 爬虫類・両生類に従った。環境省 RL2020 に記載のないものについては、日本産爬虫両生類標準和名リスト(https://herpetology.jp/wamei/index_j.php 2024 年 3 月 11 日現在)に従った。

県内の両生類は 2 目 7 科 20 種(亜種)である。目・科・種・亜種の配列及び学名は、主に環境省 RL2020 爬虫類・両生類に従った。環境省 RL2020 に記載のないものについては、日本産爬虫両生類標準和名リストに従った。

⑥ 淡水魚類

目、科、種の配列及び学名は、主に中坊徹次「日本産魚類検索—全種の同定 第三版」(2013)に従ったが、それ以降にシノニム・学名が変更されたものや、新種として学名が付けられたものは日本魚類学会ホームページ(http://www.fish-isj.jp/info/list_rename.html 2024 年 8 月 23 日現在)により適宜最新のものを採用した。県内の淡水魚類(川で採れた汽水・海水魚も含む)は 18 目 54 科 170 種(亜種)である。

⑦ 昆虫類

九州大学農学研究院昆虫学教室昆虫学データベース日本産昆虫学名和名辞書(DJI)(<https://insectdb.kyushu-u.ac.jp/dji/index-j.html> 2024 年 8 月現在)を基本とした。しかし、昆虫類は分類群が多いことから下記の文献も参考にした。また、リストの配列については、国土交通省水管理・国土保全局「河川水辺のための国勢調査生物リスト 2023 年版」(<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm> 2023 年 12 月 5 日更新版)における目・科の順に従った。

トンボ類は、科・種・亜種、配列順序、学名・和名は尾園暁・川島逸郎・二橋亮「日本のトンボ」(2012)。

バッタ目は、日本直翅類学会監修、村井貴志・伊藤ふくお「バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑」(2011)。

陸生甲虫類には、国土交通省水管理・国土保全局「河川水辺のための国勢調査生物リスト 2023 年版」(<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuList.htm> 2023 年 12 月 5 日更新版)、大桃定洋・福富宏和「日本産タマムシ大図鑑」(20

13)。カミキリムシに関しては、藤田宏・平山洋人・秋田勝己「日本産カミキリムシ大図鑑Ⅰ」(2018)、「同Ⅱ」(2023)。

水生甲虫類に関しては、中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之「日本の水生昆虫」(2020)。ミユキシジミガムシにおいては、Eishi Matsui「Notes on some new Hydrophiloidea from Japan (Coleoptera). Spec. Bull. Jpn. Soc. Coleopterol., Tokyo, (2): 81 - 90.」(1986)。

新たに選定したハチの記載種の和名・学名は、内藤親彦・篠原明彦・原秀穂「日本産ハバチ・キバチ図鑑」(2020)、多々内修・村尾竜起「日本産ハナバチ図鑑」(2014)。

チョウ類に関しては目・科・種・亜種などの分類タクサ、配列順序、学名・和名については、白水隆(著)・矢田脩ほか(編)「日本産蝶類標準図鑑」(2006)。

ガ類に関しては目・科・種・亜種などの分類タクサ、配列順序、学名・和名については、岸田泰則(編)「日本産蛾類標準図鑑Ⅰ」(2011)、岸田泰則(編)「日本産蛾類標準図鑑Ⅱ」(2011)、那須義次(編)・広渡俊哉(編)・岸田泰則(編)「日本産蛾類標準図鑑Ⅲ」(2013)、那須義次(編)・広渡俊哉(編)・岸田泰則(編)「日本産蛾類標準図鑑Ⅳ」(2013)。

⑧ クモ・多足類

県内のクモ類は45科462種、県内のヤスデ類は7目17科約50種である。目、科、種の配列及び学名は、クモ類では谷川明男「日本産クモ類目録 Ver. 2023R1」(2023)に従い、多足類は、青木淳一「日本産土壌動物 第二版: 分類のための図解検索」(2015)に従った。また、キムラグモ類については種名が不明確であることから環境省 RL2020 の記載に合わせることにした。

⑨ 陸産・淡水産貝類

陸産貝類についての種名(和名と学名)の配列は「環境省 RL2020」及びRisho Motochin, Min Wang and Rei Ueshima「Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). Zool. J. Linn. Soc., 181: 795-845.」(2017)に従い、湊宏「日本陸産貝類総目録」(1988)及び「日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究」(1994)も参考にした。

淡水産貝類についての種名(和名と学名)の配列は、環境省 RL2020 及び近藤高貴「日本産イシガイ目貝類図譜」(2008)を参考にした。

⑩ 淡水産無脊椎動物

種の配列及び学名は、主に環境庁編「日本産野生生物目録-本邦産動植物の種の現状-(無脊椎動物編1)」(1993)に従った。エビ類については林健一「日本産エビ類の分類と生態Ⅱ. コエビ下目(1)」(2007)も併用した。

⑪ 海洋動物

学名や分類群の更新は基本的にBISMaL(ビスマル: Biological Information System for Marine Life (<https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/index.html> 2024年8月現在))に準じたが、一部の種では状況に応じ、新学名、旧学名を使用した。環境省の表記と異なる場合は、環境省記載に準拠した。一部の貝類については、岡山県RDB2020の表記に準拠した。分類群の配列は、西村三郎(編)「原色検索日本海岸動物図鑑Ⅰ」(1992)、「同Ⅱ」(1996)や下記図鑑類を基準とした。節足動物の種の掲載順については、Ng, P. K. L., Guinot, D. and Davie, P. J. F.「Systema brachyurorum: Part I. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. Raffles Bull. Zool., 17: 1-286.」(2008)及び日本ベントス学会(編)「干潟の絶滅危惧動物図鑑」(2012)に従い、軟体動物は、奥谷喬司(編)「日本近

海産貝類図鑑」(2017)「干潟の絶滅危惧動物図鑑」(上述)に従った。魚類は、益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫「日本産魚類大図鑑」(1988)に従った。

県内の海洋生物種数は6,000種以上とされるが、未記載種も多く、詳細は不明である。

4. 重要度の高い群落とハビタット

種そのものの保護に加えて、種の集合体及び現実の生息生育実態の場としての群落やハビタットを保護することは、生物多様性を考える上で非常に重要である。以下に、重要度の高い群落やハビタットについて記載する。

(1) 群落、ハビタットの定義

本書では、野生動植物の生息・生育地において、植物及び藻類の単一のまたは複数の生育地を「群落」、動物の生息地を「ハビタット」と定義することとした。なお、植物群落についてこれまで「複合群落」としていたものについては植物群落RDB（1996）の表記に従い、「群落複合」に変更した。

(2) 群落、ハビタットの選定方法

群落の選定基準を表4.1に、ハビタットの選定基準を表4.2に示した。

表4.1 群落の選定基準

区分	要件
A	原生林もしくは、それに近い自然林
B	国内の若干の地域に分布するが、極めて稀な群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布など、分布境界域の産地に見られる群落または個体群
D	砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地など、特殊な立地に特有な群落または個体群で、その特徴が典型的なもの
E	郷土の景観を代表する群落で、その特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採などの手が入っていないもの
G	乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある群落または個体群
H	その他、学術上重要な群落
I	熊本県版 RDB・RL において、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を主要な構成要素として含むもの

表4.2 ハビタットの選定基準

区分	要件
A	国内において極めて稀な種が生息しているハビタット
B	県内において極めて稀な種が生息しているハビタット
C	熊本県固有種が生息しているハビタット
D	生物地理学上の分布境界域（北限・南限・隔離分布など）にあたる種が生息しているハビタット
E	特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット
F	乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット
G	模式標本となっている個体の産地など、学術上重要なハビタット
H	熊本県版 RDB・RL において、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

(3) カテゴリーの適用

群落及びハビタットのカテゴリーについては、表4.3と表4.4に従った。また、カテゴリーの区分は、(4) 評価項目の各項目合計点により、表4.4のとおり分類群ごとに行った。

表4.3 群落・ハビタットのカテゴリーの定義

区分	基本概念	要件
4	緊急に対策が必要	緊急に対策を講じなければ群落・ハビタットが壊滅する
3	対策が必要	対策を講じなければ、群落・ハビタットの状態が徐々に悪化する
2	破壊の危惧	現在の状態はよいが、日頃から保護・保全の配慮を怠れば、将来破壊されるおそれあり
1	要注意	当面は、新たな保護の必要はない

表4.4 分類群別カテゴリー選定表

分類	群落			ハビタット					
	植物		藻類	哺乳類	鳥類	両生類	昆虫類	海洋動物	複合ハビタット
	単一群落	群落複合							
4	15 点以上	15 点以上	15 点以上	11 点以上	12 点以上	12 点以上	12 点以上	12 点以上	12 点以上
3	12 点以上	12 点以上	12 点以上	10 点以上	10 点以上	11 点以上	10 点以上	10 点以上	10 点以上
2	10 点以上	10 点以上	10 点以上	8 点以上	8 点以上	10 点以上	8 点以上	8 点以上	9 点以上
1	9 点以上	9 点以上	9 点以上	5 点以上	6 点以上	3 点以上	6 点以上	6 点以上	6 点以上

(4) 評価項目

群落の評価項目を表4.5に、ハビタットの評価項目を表4.6に示した。しかし、RDB2019後に再評価のできる十分な調査ができず、RL2024では群落・ハビタットの掲載のみとした。

表4.5 群落の評価項目

項目	ランク	具体的要件
植生自然度	4	自然植生、発達した二次植生または自然植生に近い
	3	二次植生
	2	植林群落
	1	帰化植物・雑草群落
希少の包含性	4	RDB・RL 絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類（CR, EN, VU）を含む
	3	準絶滅危惧（NT）を含む
	2	情報不足（DD）・要注目種（AN）を含む
	1	RDB・RL 対象種を含まない
人為的影響	4	人為的影響を強く受ける（湿地など）
	3	人為的攪乱が続くと衰退する（草地、二次林など）
	2	人為的攪乱があった環境下でも存続する
	1	人為的攪乱があった環境下で増大する（帰化植物群落）
危急性	4	特に危機に瀕している群系
	3	危機に瀕している群系
	2	危機のおそれがある群系
	1	上記以外

表4.6 ハビタットの評価項目

項目	ランク	具体的要件
人為的影響	4	人為的影響を強く受ける
	3	人為的影響が続くと衰退する
	2	人為的影響下でも存続する
	1	人為的影響下で増大する
希少の包含性	4	RDB・RL 絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類（CR, EN, VU）を含む
	3	準絶滅危惧（NT）を含む
	2	情報不足（DD）・要注目種（AN）を含む
	1	RDB・RL 対象種を含まない
危急性	4	特に危機に瀕している
	3	危機に瀕している
	2	危機のおそれがある
	1	当面の危機は認められない

(5) 選定結果

表 4.7 RDB2019 と RL2024 の比較対照表

分類	群落			ハビタット						合計
	植物		藻類	哺乳類	鳥類	両生類	昆虫類	海洋動物	複合 ハビタット	
	単一群落	群落複合								
RDB2019	34	27	5	4	5	2	5	10	3	95
RL2024	33	28	5	4	5	2	4	10	3	94

IV. レッドリスト

1. 維管束植物・コケ植物

(1) 調査方法

これまでのフィールドワークで蓄積された知見と文献資料に基づき調査対象種の選定を行った。これらの種に対して、可能な限り現地調査を行い、現時点での生育量（個体数や生育面積）と生育状況、生育環境、生育に影響を及ぼす要因の把握に努めた。現地調査ができなかった種については、これまでの確認情報をもとに総合的に判断した。

(2) 産地情報の採用基準

調査員、検討委員の調査結果を基本とし、信用できる標本情報、文献情報も参考にした。

(3) 調査結果の概要

① 草原の植物

希少な草原性植物が多く分布する阿蘇地域においては、草原の管理放棄がいまだ増加傾向にある。阿蘇地域の草原では、「野焼き＋放牧」と「野焼き＋採草」の管理形態が基本であったが、近年は野焼きのみの管理で未利用の草原の面積が広い面積を占めるようになっている。放牧や採草が停止され野焼きのみの管理形態になる場合は、ススキをはじめとする大型多年生草本の生育量が増加するため、中型以下の植物の生存の脅威が増大する。このような背景を踏まえ阿蘇の草原は保全を重点的に行うべき地域であるが、立ち入りが年々厳しくなっており満足な調査すらできない状況にある。最近では野焼きによる事故や周囲への延焼もしばしば見られ、これらによる草原の管理停止が生じる例も見られるようになっている。さらに、大規模太陽光発電所（メガソーラー）が阿蘇の草原に建設されており、建設が増加した場合の希少種への影響も懸念される。

阿蘇地域以外の草原は、主として集落や田畑周辺に見られる小規模なものである。このような草原も住民の高齢化や農業従事者の減少により管理されなくなっている。そのため、かつて平地の草原では広く見られたノヒメユリ、オキナグサ、ヒメノボタン、キキョウなどは阿蘇地域以外で見られることが非常に稀になっている。

② 森林とその周辺の植物

木本の植物は伐採が即ち危機に瀕することとなるため、その影響は大きい。天然林の伐採は近年大きく減少している。その一方で木材価格の上昇によるスギ植林の伐採が広く見られるようになっている。そのため、林床の植生を構成する植物、特にエビネ類、シダ類に影響が出ているとともに枝条が周囲に放置されることによる影響も確認されている。

また、ニホンジカによる食害の影響も甚大で、さらに顕在化している。九州中央山地では、林床にニホンジカの忌避植物以外見られない状況が続いている。サキモリイヌワラビ、クリンユキフデ、ナンゴククガイソウなどは生育が確認できておらず、絶滅に近い状況であると考えられる。また、テバコワラビ、イツキカナワラビ、クマイワヘゴなどは食害防止ネット外ではほとんど見られなくなっている。

林床植物の減少は間接的に様々な影響を与える。林床植生が衰退すると表層土壌が浸食され樹木の根が露出し、倒木の要因となる。そのためスギラン、ホテイシダ、ヤシヤビシヤクなどの着生植物の減少にもつながっている。また、林床植物による被覆は土壌の乾燥化を防ぐはたらきもあるが、その機能が失われ森林の乾燥化が進行しており、ザリコミ、ツクシイワシャジンなどに大きな影響を及ぼしている他、コケ植物への影響も甚大であると考えられる。さらに、裸地化した林床は大雨による表層土壌の崩壊を招くことが示唆されており、浸食による土砂が集積する谷筋や溪流辺に生育する植物に大きな影響を及ぼしている。そのような環境に生育するホソバショリマ、ヒゴカナワラビ、オオヤマカタバミ、テリハアザミなどは消滅寸前となっている。

ニホンジカの食害地域はさらに拡大しており、これまであまり食害が見られなかった山都町北部や南阿蘇村～高森町にも影響が広がっている。特に、狼ヶ宇土と称される阿蘇南外輪山内壁は最近5年ほどで著しい被害が出ている。また、ニホンジカが生息しないとされていた天草地域でも目撃情報が増えつつあり、今後注視する必要がある。

平成 28 年（2016 年）の熊本地震の影響も少なからずある。北向山の自然林内では大規模な崩壊が各所で起こり、岩礫地状態の裸地が散在している。

その他大きく憂慮される点として、国内生育地が本県だけであるヒカリゼニゴケは、令和 2 年（2020 年）7 月豪雨による生育地の浸水及び土砂の堆積により環境が大きく変化し、危機的な状況となっている。

③ 水辺の植物

水田、湿原、河川、溜池、海中など、植物は多様な水環境にも生育するが、多くの種で絶滅が危惧される状況になっている。水田雑草とよばれるスブタ、オオホシクサ、オオアブノメなどは現在ほとんど見るができなくなっている。また、本県 RDB・RL に記載されていなかったセンニンモ、ウキヤガラなどについては調査中にほとんど確認できなかった。

これらは、主として中山間地の耕作放棄水田の増加、それに伴う溜池や水路の管理停止によるものが原因である。また、令和 2 年（2020 年）7 月豪雨の被害で放棄された水田も確認されている。農業従事者の減少により今後も耕作放棄は増加するものと考えられる。また、水田や水路の圃場整備も進んでおり、イヌクログワイ、キタミソウ、ヒメナミキへの影響が確認された。その他、生育地の除草、周辺環境の自然遷移により、熊本県が模式産地であるツクシガヤが激減した。

一方で、これまで調査があまり行われておらず情報不足 (DD) とされていたウミヒルモ類、トリゲモ類、ハママツナ類、サウトウガラシ類などいくつかの植物についてはおおよその生育量が判明したためカテゴリーの変更が可能となった。

④ その他

RL2024 において、かつては普通種とされている植物を収載するかどうかについて議論になった。熊本県植物誌（1969）で「極普通」、「普通」とされていたカゼクサ、コゴメカゼクサ、ウシクサ、オオバコ、センダングサなどは市街地で見られることが少なくなった。これらの植物は人里環境の変化の指標となる可能性もあり、身近な自然環境が気付かれることなく激変していることを示唆していると思われる。

(4) RDB2019 との比較

① 絶滅 (EX)

該当種数は 9 種から倍増し 18 種となった。絶滅危惧 IA 類 (CR) から変更したマネキンシジユガヤ、ケシンシジユガヤ、ハマビシ、サツマノギク、ドクゼリ、ヌマゼリの 6 種、情報不足 (DD) から変更したマメダオシ、ミズトラノオ、オナモミの 3 種はいずれも熊本県植物誌（1969）以降、50 年以上目撃情報のないものである。

② 野生絶滅 (EW)

該当種の変更はない。

③ 絶滅危惧 IA 類 (CR)

該当種数は 310 種から 325 種へ増えた。コケホラゴケ、ヒメコケシノブ、ニセシロヤマシダ、キバナノヒメユリ、ベンケイヤワラスゲ、タカネマスキサ、チョウセンキンミズヒキ、キリタチヤマザクラ、ギョクシンカの 9 種については近年になって熊本県での生育が明らかになったもの、もしくは新たに追加したものであり、生育量等から本カテゴリーに区分した。ヒロハナライシダ、シラネワラビ、ヒメサジラン、オオホシクサ、コバンムグラ、ヤマトグサ、ヒナヒゴタイ、ヒメヒゴタイなど 14 種については減少傾向が著しいことなどから絶滅危惧 IB 類 (EN) より本カテゴリーに変更した。ミヤコアオイ、オオウミヒルモ、イバラモ、マルバノサウトウガラシなど 10 種については近年の調査の結果、生育量等が把握され情報不足 (DD) から本カテゴリーに変更した。ホクリクムヨウランはこれまでクロムヨウランと誤認されていたものが本種であると判明したことで新たに追加し、クロムヨウランは削除した。ゴショイチゴは、本種と認識されていた植物がモミジイチゴとの雑種であるとの専門家の同定を受け削除した。トキワマンサクは野生ではないことが判明したため (Isagi & Kaneko, 2014) 削除した。

なお、本区分種の中には、ユノミネシダ、エゾスズラン、コオログラン、キヌラン、カワラサイコ、ツチグリ、ミヤマニガウリ、トモエソウ、シマヒメタデ (フトボノヌカボタデ)、オニコナスビなどのように、長期にわたり生育が確認できていない、あるいは確実な生育地での消失後に新たな生育の確認ができていないなど、極めて絶滅の可能性が高いと推察さ

れるものが多数ある。これらは、今後特に集中的な調査を行い、生育状況の把握を行うことが必要である。

④ 絶滅危惧 IB 類 (EN)

該当種数は 137 種から 151 種へ増えた。ホオノカワシダ、キクバドコロ、ツクシトウヒレンの 3 種は減少傾向が著しく、新たに追加した。チチブホラゴケ、スブタ、サギソウ、クロイチゴ、オオアブノメなど 16 種は現在の生育量を再評価した結果、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) から本カテゴリーに変更した。また、カテゴリー適用を見直した結果、キビノナワシロイチゴは準絶滅危惧 (NT) から、キンチャクアオイは要注目種 (AN) から本カテゴリーに変更した。ハコネシケチシダは稔性を持たない雑種であるとの近年の見解を踏まえ (Hori, 2020) 削除した。

一方、ハチジョウシダ、ヤクシマアカシユスラン、トキリマメ、シソクサなど 7 種は新たな生育地が複数判明したため絶滅危惧 IA 類 (CR) から本カテゴリーに変更した。イノウエトラノオ、イトトリゲモ、イヌクログワイ、ヒュウガセンキュウなど 8 種は近年の調査の結果、生育量等が把握され情報不足 (DD) から本カテゴリーに変更した。

⑤ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

該当種数は 143 種から 170 種へ増えた。ハルザキヤツシロラン、クロヤツシロラン、シラシマメダケ、イッショウチザサ、イヨカズラの 5 種は生育量の再評価に基づき、新たに追加した。マンネンスギ、ノヒメユリ、フッキソウ、ハカマカズラ、ヒロハコンロンカ、フナバラソウなど 30 種については、生育量を再評価した結果、準絶滅危惧 (NT) から本カテゴリーに変更した。また、カテゴリー適用を見直した結果、ヒメウラジロ、エビガラシダは要注目種 (AN) から本カテゴリーに変更した。

一方、ヒロハノコギリシダ、サツマシダ、ミヤマナルコユリ、ミヤマシラスゲ、スズメノハコベ、ヤナギアザミの 6 種は EN から本カテゴリーに変更した。また、シコクフクジュソウ、ハママツナ、ハマゼリの 3 種は生育量等が把握され情報不足 (DD) から本カテゴリーに変更した。

⑥ 準絶滅危惧 (NT)

該当種数は 173 種から 149 種へ減った。ミヤマエンレイソウ (シロバナエンレイソウ)、ウシクサ、カワラケツメイの 3 種は近年の減少傾向が大きく、新たに追加した。タチドコロ、ナガエミクリ、ミズユキノシタの 3 種は生育量を再評価した結果、新たに本カテゴリーに追加した。本県でトサコバイモとされていたものは、近年の研究によりヒゴコバイモとして記載された (Hill, 2016)。したがってトサコバイモは削除し、ヒゴコバイモを追加した。ヒメミズワラビ、ナギランは近年多数の生育地が確認されたため VU から本カテゴリーに変更した。ニオイタデ、サワトウガラシ、チョウセンヤマニガナなど 5 種は生育量等が把握され情報不足 (DD) から本カテゴリーに変更した。

なお、エゾノヒカゲノカズラ、アイナエ、イケマ、ミゾコウジュの 4 種は多くの生育地が確認されたため削除した。

⑦ 情報不足 (DD)

該当種数は 87 種から 99 種へ増え、新たに 36 種を追加した。トリゲモ、クモイジガバチ、ムカゴサイシン、コケイランモドキ、チャボイ、タマカラマツ、トウオオバコ、タチコゴメグサ、ヤマシロギク (イナカギク)、クサノオウバノギクの 10 種は近年本県における生育が確認されたものである。いずれも生育量は少ないと推察されるが、詳細が把握できないため本カテゴリーに追加した。

クロモ、センニンモ、ウキヤガラ、ヤマブキショウマ、ニシキソウ、センダングサ、ミヤマノダケの 7 種は減少傾向が見られるが、十分に調査されていないため本カテゴリーに追加した。ヒュウガナルコユリ、オオミクリ、ツクシクロイヌノヒゲ、アカヒゲガヤ、イシヅチカラマツ、マルバマンネングサ、イワタイゲキ、ホソバノウナギツカミ、モロコシソウ、ウスベニニガナの 10 種については以前から本県に生育することが分かっていたが、収載の可否を含め議論が進んでいないため本カテゴリーに追加した。ウライハチジョウシダ (Ebihara *et al.*, 2022)、コウライテンナンショウ、カントウマムシグサ、ヒメホウチャクソウ、アキタズムシソウ (Tsutsumi *et al.*, 2019)、ヤマクルマバナ、オオダイトウヒレンの 7 種は新記載や分類学的取り扱いの変更等の結果、本県に分布することが近年明らかになったものであるが、近縁種との分布量等の関係が分からず本カテゴリーに追加した。ウ

ジルカンダは生育状況から栽培逸出の可能性もあるが、極めて特殊な植物であるため本カテゴリーに追加した。クマナリヒラは本県が模式産地であり、分布量と生育環境からリスト追加が必要と判断されたが、そもそも栽培品である可能性が否定できず、本カテゴリーに追加した。

ノジトラノオは長期間確認されていないが、オカトラノオとの雑種は広く見られ、絶滅の判断が難しいため、ケイタオミズ(キミズモドキ)については分類学的混乱が見られるため、カスミザクラは野生ではないとの見解があるため、それぞれ絶滅危惧ⅠA類(CR)から本カテゴリーに変更した。ノジギクはシマカンギクとの識別が必要と判断されたため、絶滅危惧ⅠB類(EN)から本カテゴリーに変更した。マツモはヨツバリキンギョモ(DD)との識別が十分でないと考えられるため、絶滅危惧Ⅱ類(VU)から本カテゴリーに変更した。準絶滅危惧(NT)から本カテゴリーに変更した3種について、オオバメギは分布量の少なさから他のカテゴリーに移すべきであるが、詳細な状況が分からないため、マテバシイは確認情報がほとんどないことに加えて栽培逸出との区別がつきにくいいため、オグルマはエダウチオグルマとの区別が十分行われていないために変更した。

なお、ミゾハコベは多くの生育地が確認され、ヒメタヌキモは本種と同定されていたものが他種であることが判明したため、ホソバノセンダングサは外来種であるため削除した。

⑧ 要注目種(AN)

キシシマノガリヤスは環境省RL(2020)では絶滅危惧ⅠA類(CR)とされる。全国的に見ると危機的な状況であるが、本県の一部ではまとまった個体数が見られるため準絶滅危惧(NT)から本カテゴリーに変更した。また、ナガミノツルキケマン、ウスギモクセイは個体数が多いため、セイタカナミキソウは外来種であるため削除した。

なお、コケ植物については、RDB2019以降調査が進んでおらず、RDB2019のカテゴリーを引き継ぐこととなった。

(5) カテゴリーを見直した主な種及びその変更理由

ハマビシ 絶滅危惧ⅠA類(CR) → 絶滅(EX)

苓北町に生育していたが、その後の繰り返しの調査でも確認されていない。生育地は海水浴場として整備されており、今後確認できる可能性は極めて低いいため絶滅したものと判断した。

カスミザクラ 絶滅危惧ⅠA類(CR) → 情報不足(DD)

近年、相良村で生育が確認されているが、植栽由来で野生化した可能性が示唆されているため情報不足(DD)に変更した。今後の研究によっては削除となる可能性がある。

ケイタオミズ 絶滅危惧ⅠA類(CR) → 情報不足(DD)

本種はRL2014までキミズモドキの和名で、RDB2019では引用元の修正によりケイタオミズの和名で収載していた。その後、キミズモドキ、ケイタオミズともに県内に広く分布するオオサンショウソウの異名とされたが、オオサンショウソウとは別の分類群である可能性が指摘されている。分類学的に混乱しているため、「キミズモドキ(注:ケイタオミズ)」の和名で情報不足(DD)に変更した。

トキワマンサク 絶滅危惧ⅠA類(CR) → カテゴリー外

野生種と考えられてきたが、日本のすべての集団は野生ではなく栽培されたものであるとの研究結果(Isagi & Kaneko, 2014)が出ていることを踏まえて削除した。

ヒロハノコギリシダ 絶滅危惧ⅠB類(EN) → 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

県内では平成10年(1998年)に初めて確認されたものであり、RL2014までは絶滅危惧ⅠA類(CR)としていた。その後新たな生育地が次々と判明し、RDB2019では絶滅危惧ⅠB類(EN)に変更した。近年は、これまで確認されていた天草地域以外での新たな産地確認も続き、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に変更した。

ノジギク 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 情報不足 (DD)

天草市、苓北町、及び芦北地域で確認されているが、本種の可能性がある植物は確認した限りシマカンギクの白花品種であったため、情報不足 (DD) に変更した。なお、天草地域に由来する確実に本種である個体は系統栽培されているが、自生地情報は残されていない。

オナモミ 情報不足 (DD) → 絶滅 (EX)

かつては県内各地に見られたが、外来種のオオオナモミなどに入れ替わり全く見る事ができなくなっている。熊本県植物誌 (1969 年) 以降、確実な確認情報がないため絶滅したものと判断した。

ナガミノツルキケマン 要注目種 (AN) → カテゴリー外

環境省 RL (2020) には準絶滅危惧 (NT) として記載されていることを踏まえ、これまで要注目種 (AN) としていたが、阿蘇地域ではごく普通に見られるため削除した。

キリタチャマザクラ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

これまで宮崎県の固有変種と考えられていたが、県境付近の熊本県側にも分布することが確認されたため、絶滅危惧 IA 類 (CR) として追加した。

ニシキソウ 情報不足 (DD) 新規

平地の路傍や草地で見られたが、外来種のコニシキソウやハイニシキソウに生育地を奪われほとんど見られなくなっている。現在は自然度の高い中山間地の路傍で僅かに見られるが、これまであまり注目されておらず、情報不足 (DD) として追加した。

(6) 今後の課題

この 5 年間は、令和 2 年 (2020 年) 7 月豪雨をはじめとした自然災害が多数発生し、生育環境の状況が大きく変動している。また、草原や湿原など二次的自然環境は管理放棄や自然遷移に加え、ソーラーパネルの設置による環境の悪化が進んでいる。更に、ニホンジカによる食害、外来種の増加も著しい。そのためより多くの調査が必要になっているが、調査対象種は多数である一方で調査担当者が圧倒的に少ない。特に、コケ植物が理解できる担当者が育っていないことは喫緊の課題である。

また、調査能力には限界があり、特に定量的調査を行うことは困難な場合が多かった。そのため、RL2024 では、多くの場合で主として定性的要因をもとにカテゴリーの選定を行わざるを得なかった。また、定性的変化の把握においても、現在の調査担当体制では相当の無理があり、情報不足 (DD) 種の増加に見られるように調査レベルは粗いものにならざるを得なかった。

今後、これらの課題に対する対応が必要であるが、この状況は、これまでの調査のやり方が今後も踏襲されるのであれば、調査担当者の大きな増加がなければ今後も変わらない。しかし、調査が可能な人材は不足しており、調査担当者は高齢化が進行しているのが実態である。今後、調査を継続するには、カテゴリー定義の簡素化や調査対象種の限定など、調査員の負担の大幅な低減をはかるか、外部組織等へ調査を委託するなど、抜本的な対策を検討する必要がある。

(7) レッドリスト

維管束植物

絶滅 (EX) 【18 種】

シダ植物 (1 種)

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 イノモトソウ科	オキナワクジャクシダ	<i>Adiantum flabellulatum</i>	EX	

種子植物 (17 種)

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 アヤメ科	アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>	EX	

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
2	クサスギカズラ科	ハマタマボウキ <i>Asparagus kiusianus</i>	EX	EN
3	カヤツリグサ科	ハタバスゲ <i>Carex latisquamea</i>	EX	EN
4	カヤツリグサ科	マネキシンジュガヤ <i>Scleria rugosa</i> var. <i>onoei</i>	CR	
5	カヤツリグサ科	ケシンジュガヤ <i>Scleria rugosa</i> var. <i>rugosa</i>	CR	
6	イネ科	ビロードキビ <i>Urochloa villosa</i>	EX	EN
7	ハマビシ科	ハマビシ <i>Tribulus terrestris</i>	CR	EN
8	ムラサキ科	ムラサキ <i>Lithospermum murasaki</i>	EX	EN
9	ヒルガオ科	マメダオシ <i>Cuscuta australis</i>	DD	CR
10	シソ科	ルリハッカ <i>Amethystea caerulea</i>	EX	CR
11	シソ科	ミズトラノオ <i>Pogostemon yatabeanus</i>	DD	VU
12	ミツガシワ科	ミツガシワ <i>Menyanthes trifoliata</i>	EX	
13	キク科	サツラジマハナヤスリ <i>Chrysanthemum ornatum</i> var. <i>ornatum</i>	CR	
14	キク科	ミコシギク <i>Leucanthemella linearis</i>	EX	VU
15	キク科	オナモミ <i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>	DD	VU
16	セリ科	ドクゼリ <i>Cicuta virosa</i>	CR	
17	セリ科	ヌマゼリ <i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>	CR	VU

野生絶滅 (EW) 【1 種】

種子植物 (1 種)

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	バラ科	ツクシカイドウ <i>Malus hupehensis</i>	EW	EW

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【325 種】

シダ植物 (79 種)

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	ヒカゲノカズラ科	ナンカクラン <i>Phlegmariurus hamiltonii</i>	CR	
2	ミズニラ科	シナミズニラ <i>Isoetes sinensis</i>	CR	VU
3	ハナヤスリ科	アカハナワラビ <i>Botrychium nipponicum</i>	CR	
4	ハナヤスリ科	サクラジマハナヤスリ <i>Ophioglossum kawamurae</i>	CR	EN
5	ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ <i>Ophioglossum thermale</i>	CR	
6	ゼンマイ科	ヤシャゼンマイ <i>Osmunda lancea</i>	CR	
7	コケシノブ科	コケホラゴケ <i>Crepidomanes makinoi</i>		NT
8	コケシノブ科	ヒメコケシノブ <i>Hymenophyllum coreanum</i>		
9	コケシノブ科	コケシノブ <i>Hymenophyllum wrightii</i>	CR	
10	ヤブレガサウラボシ科	スジヒトツバ <i>Cheiropleuria integrifolia</i>	CR	
11	サンショウモ科	アカウキクサ <i>Azolla pinnata</i> subsp. <i>asiatica</i>	CR	EN
12	サンショウモ科	サンショウモ <i>Salvinia natans</i>	CR	VU
13	デンジソウ科	デンジソウ <i>Marsilea quadrifolia</i>	CR	VU
14	ホングウシダ科	ウチワホングウシダ <i>Lindsaea simulans</i>	CR	EN
15	ホングウシダ科	ハマホラシノブ <i>Odontosoria biflora</i>	CR	
16	イノモトソウ科	タキミシダ <i>Antrophyum obovatum</i>	CR	EN
17	イノモトソウ科	ヤワラハチジョウシダ <i>Pteris natiensis</i>	CR	EN
18	イノモトソウ科	サツマハチジョウシダ <i>Pteris satsumana</i>	CR	VU
19	イノモトソウ科	オオアマクサシダ <i>Pteris semipinnata</i>	CR	
20	イノモトソウ科	ヒカゲアマクサシダ <i>Pteris tokioi</i>	CR	EN
21	イノモトソウ科	モエジマシダ <i>Pteris vittata</i>	CR	
22	コバノイシカグマ科	ユノミネシダ <i>Histiopteris incisa</i>	CR	
23	コバノイシカグマ科	ウスバイシカグマ <i>Microlepia subtrigosa</i>	CR	NT
24	イワヤシダ科	イワヤシダ <i>Diplazopsis cavalieriana</i>	CR	
25	チャセンシダ科	オオタニワタリ <i>Asplenium antiquum</i>	CR	VU
26	チャセンシダ科	シモツクスリトラノオ <i>Asplenium boreale</i>	CR	
27	チャセンシダ科	ホコガタシダ <i>Asplenium ensiforme</i>	CR	CR
28	チャセンシダ科	コタニワタリ <i>Asplenium scolopendrium</i>	CR	
29	イワデンダ科	イワデンダ <i>Woodsia polystichoides</i>	CR	
30	メシダ科	テバコワラビ <i>Athyrium atkinsonii</i>	CR	VU
31	メシダ科	シイバサトメシダ <i>Athyrium neglectum</i> subsp. <i>australe</i>	CR	CR
32	メシダ科	サキモリイヌワラビ <i>Athyrium oblitescens</i>	CR	
33	メシダ科	サキバサトメシダ <i>Athyrium palustre</i>	CR	VU
34	メシダ科	コモチイヌワラビ <i>Athyrium strigillosum</i>	CR	EN
35	メシダ科	ホウライイヌワラビ <i>Athyrium subrigescens</i>	CR	EN
36	メシダ科	シマイヌワラビ <i>Athyrium tozanense</i>	CR	CR
37	メシダ科	アオグキイヌワラビ <i>Athyrium viridescens</i>	CR	EN
38	メシダ科	ヘビノネゴザ <i>Athyrium yokoscense</i>	CR	
39	メシダ科	ヒュウガシケンシダ <i>Deparia minamitanii</i>	CR	CR
40	メシダ科	ミクマノシダ <i>Diplazium conterminum</i> × <i>D. hachijoense</i>	CR	
41	メシダ科	ウスバミヤマノコギリシダ <i>Diplazium deciduum</i>	CR	
42	メシダ科	ニセヒロハノコギリシダ <i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>heterolepis</i>	CR	
43	メシダ科	シマシロヤマシダ <i>Diplazium doederleinii</i>	CR	
44	メシダ科	クワレシダ <i>Diplazium esculentum</i>	CR	
45	メシダ科	イヨクジャク <i>Diplazium okudairae</i>	CR	EN
46	メシダ科	フクレギシダ <i>Diplazium pinfaense</i>	CR	CR
47	メシダ科	ニセシロヤマシダ <i>Diplazium taiwanense</i>		VU
48	メシダ科	ヒメノコギリシダ <i>Diplazium wichurae</i> var. <i>amabile</i>	CR	NT
49	ヒメシダ科	タチヒメワラビ <i>Phegopteris bukoensis</i>	CR	
50	ヒメシダ科	ホソバショリマ <i>Thelypteris beddomei</i>	CR	
51	ヒメシダ科	タイヨウシダ <i>Thelypteris erubescens</i>	CR	CR
52	ヒメシダ科	アミシダ <i>Thelypteris griffithii</i> var. <i>wilfordii</i>	CR	
53	ヒメシダ科	ミゾシダモドキ <i>Thelypteris omeiensis</i>	CR	
54	キンモウワラビ科	ケキンモウワラビ <i>Hypodematium glandulosopilosum</i>	CR	
55	オシダ科	イツキカナワラビ <i>Arachniodes cantilenae</i>	CR	CR
56	オシダ科	ヒュウガカナワラビ <i>Arachniodes hiugana</i>	CR	CR

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
57	オシダ科	ヒロハナライシダ	<i>Arachniodes quadripinnata</i> subsp. <i>fimbriata</i>	EN	EN
58	オシダ科	ヒゴカナワラビ	<i>Arachniodes simulans</i>	CR	CR
59	オシダ科	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes yaoshanensis</i>	CR	CR
60	オシダ科	クマヤブソテツ	<i>Cyrtomium anomophyllum</i>	CR	CR
61	オシダ科	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	CR	CR
62	オシダ科	エビノオオクジャク	<i>Dryopteris dickinsii</i> × <i>D. polylepis</i>	CR	CR
63	オシダ科	シラネワラビ	<i>Dryopteris expansa</i>	EN	
64	オシダ科	ニセヨゴレイタチシダ	<i>Dryopteris hadanoi</i>	CR	NT
65	オシダ科	キリシマイワヘゴ	<i>Dryopteris hangchowensis</i>	CR	CR
66	オシダ科	イスタマシダ	<i>Dryopteris hayatae</i>	CR	
67	オシダ科	オワセベニシダ	<i>Dryopteris ryo-itoana</i>	CR	
68	オシダ科	スカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris simasakii</i>	CR	
69	オシダ科	リュウキュウイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> var. <i>ryukyuensis</i>	CR	
70	オシダ科	ヤマエオオクジャク	<i>Dryopteris</i> sp.	CR	
71	オシダ科	マルバヌカイトチシダモドキ	<i>Dryopteris tsugiwoi</i>	CR	CR
72	オシダ科	ツツイイワヘゴ	<i>Dryopteris tsutsuiana</i>	CR	CR
73	オシダ科	キュウシュウイノデ	<i>Polystichum grandifrons</i>	CR	CR
74	オシダ科	ナンビイノデ	<i>Polystichum otomusui</i>	CR	NT
75	ウラボシ科	ヤリノホクリハラン	<i>Leptochilus wrightii</i>	CR	
76	ウラボシ科	ヒメサザラン	<i>Loxogramme grammitoides</i>	EN	
77	ウラボシ科	オオクボシダ	<i>Micropolypodium okuboii</i>	CR	
78	ウラボシ科	ヒロハヒメウラボシ	<i>Oreogrammis nipponica</i>	CR	CR
79	ウラボシ科	キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	CR	EN

種子植物 (246 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	イチイ科	ハイイヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> subsp. <i>harringtonia</i> var. <i>nana</i>	CR	
2	ジュンサイ科	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	CR	
3	スイレン科	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	CR	VU
4	スイレン科	コウホネ	<i>Nuphar japonica</i> var. <i>japonica</i>	CR	
5	スイレン科	サイコクヒメコウホネ	<i>Nuphar saikokuensis</i>	CR	
6	スイレン科	ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i> var. <i>tetragona</i>	CR	
7	ウマノスズクサ科	ミヤコアオイ	<i>Asarum asperum</i> var. <i>asperum</i>	DD	
8	ウマノスズクサ科	アソサイシン	<i>Asarum misandrum</i>	CR	EN
9	サトイモ科	シコクヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> var. <i>longipedunculatum</i>	CR	EN
10	サトイモ科	オガタテンナンショウ	<i>Arisaema ogatae</i>	CR	CR
11	オモダカ科	マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiiifolia</i>	CR	VU
12	トチカガミ科	トゲウミヒルモ	<i>Halophila decipiens</i>	DD	VU
13	トチカガミ科	オオウミヒルモ	<i>Halophila major</i>	DD	
14	トチカガミ科	トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	CR	NT
15	トチカガミ科	サガミトリゲモ	<i>Najas chinensis</i>	DD	VU
16	トチカガミ科	ホッスモ	<i>Najas graminea</i>	CR	
17	トチカガミ科	イバラモ	<i>Najas marina</i>	DD	
18	ヒルムシロ科	コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	DD	VU
19	ヒルムシロ科	オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i>	CR	
20	ヒルムシロ科	リュウノヒゲモ	<i>Potamogeton pectinatus</i>	CR	NT
21	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>	CR	VU
22	サルトリイバラ科	ハマサルトリイバラ	<i>Smilax sebeana</i>	CR	
23	ユリ科	キバナノアマナ	<i>Gagea nakaiana</i>	CR	
24	ユリ科	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	CR	EN
25	ユリ科	キバナノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i> var. <i>flaviflorum</i>		CR
26	ラン科	シラン	<i>Bletilla striata</i>	CR	NT
27	ラン科	ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	CR	NT
28	ラン科	キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i>	CR	EN
29	ラン科	キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	CR	VU
30	ラン科	サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>	CR	VU
31	ラン科	ユウシュンラン	<i>Cephalanthera subaphylla</i>	EN	VU
32	ラン科	トケンラン	<i>Cremastra unguiculata</i>	CR	VU
33	ラン科	スルガラン	<i>Cymbidium ensifolium</i>	CR	CR
34	ラン科	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN	EN
35	ラン科	マヤラン	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	CR	VU
36	ラン科	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	CR	VU
37	ラン科	キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>	CR	EN
38	ラン科	ササバラン	<i>Empusa odorata</i>	CR	EN
39	ラン科	エゾスズラン	<i>Epipactis papillosa</i> var. <i>papillosa</i>	CR	
40	ラン科	カシノキラン	<i>Gastrochilus japonicus</i>	CR	VU
41	ラン科	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	CR	EN
42	ラン科	ホクリクムヨウラン	<i>Lecanorchis hokurikuensis</i>		
43	ラン科	ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	CR	EN
44	ラン科	フガクスズムシソウ	<i>Liparis fujisanensis</i>	CR	VU
45	ラン科	ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i> var. <i>krameri</i>	CR	
46	ラン科	ボウラン	<i>Luisia teres</i>	CR	NT
47	ラン科	アオフタバラン	<i>Neottia makinoana</i>	CR	
48	ラン科	ハクウンラン	<i>Odontochilus nakaianus</i>	CR	
49	ラン科	ムカデラン	<i>Pelatantheria scolopendrifolia</i>	CR	VU
50	ラン科	ムカゴトンボ	<i>Peristylus densus</i>	CR	EN
51	ラン科	ヒュウガトンボ	<i>Peristylus intrudens</i>	CR	
52	ラン科	ニイタカチドリ	<i>Platanthera brevicarata</i> s.l.	CR	
53	ラン科	マイサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>macrocentron</i>	CR	
54	ラン科	ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	CR	
55	ラン科	コバノトンボソウ	<i>Platanthera nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	CR	
56	ラン科	オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i>	CR	
57	ラン科	トンボソウ	<i>Platanthera ussuriensis</i>	CR	
58	ラン科	コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	CR	VU

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
59	ラン科	キヌラン	Zeuxine strateumatica	CR
60	キンバイザサ科	キンバイザサ	Curculigo orchoides	CR
61	アヤメ科	エヒメアヤメ	Iris rossii	CR VU
62	ワスレグサ科	ノカンゾウ	Hemerocallis fulva var. disticha	CR
63	ヒガンバナ科	キイトラッキョウ	Allium kiiense	CR VU
64	ヒガンバナ科	ヒメニラ	Allium monanthum	CR
65	クサスギカズラ科	タマボウキ	Asparagus oligoclonos	CR EN
66	クサスギカズラ科	ワニグチソウ	Polygonatum involucreatum	CR
67	ヤシ科	ビロウ	Livistona chinensis var. subglobosa	CR
68	ミズアオイ科	ミズアオイ	Monochoria korsakowii	CR NT
69	ガマ科	ヒメミクリ	Sparganium subglobosum	CR VU
70	ホシクサ科	オオホシクサ	Eriocaulon buergerianum	EN
71	ホシクサ科	ゴマシオホシクサ	Eriocaulon nepalense	CR EN
72	ホシクサ科	クロホシクサ	Eriocaulon parvum	CR VU
73	カヤツリグサ科	トダスゲ	Carex aequalta	CR CR
74	カヤツリグサ科	ベンケイヤワラスゲ	Carex benkei	
75	カヤツリグサ科	アワボスゲ	Carex brownii	CR
76	カヤツリグサ科	ハナビスゲ	Carex cruciata	CR VU
77	カヤツリグサ科	タマツリスゲ	Carex filipes var. filipes	CR
78	カヤツリグサ科	クジュウツリスゲ	Carex kujuzana	CR NT
79	カヤツリグサ科	カタスゲ	Carex macrandrolepis	
80	カヤツリグサ科	キノクニスゲ	Carex matsumurae	CR NT
81	カヤツリグサ科	ケヒエスゲ	Carex mayebarana	CR
82	カヤツリグサ科	ホシナシゴウソ	Carex maximowiczii var. levisaccus	CR
83	カヤツリグサ科	ミヤマイワスゲ	Carex odontostoma	CR VU
84	カヤツリグサ科	タカネマスキサ	Carex planata var. planata	
85	カヤツリグサ科	ムギガラガヤツリ	Cyperus unioides	CR CR
86	カヤツリグサ科	カガシラ	Diplacrum caricinum	CR VU
87	カヤツリグサ科	コツブヌマハリイ	Eleocharis parvinux	CR VU
88	カヤツリグサ科	イソテンツキ	Fimbristylis pacifica	CR
89	カヤツリグサ科	ノハラテンツキ	Fimbristylis pierotii	CR VU
90	カヤツリグサ科	ハタケテンツキ	Fimbristylis stauntonii var. stauntonii	CR EN
91	カヤツリグサ科	クロタマガヤツリ	Fuirena ciliaris	CR
92	カヤツリグサ科	ネビキグサ	Machaerina rubiginosa	CR
93	カヤツリグサ科	ロツカクイ	Schoenoplectiella mucronata var. ishizawae	CR EN
94	カヤツリグサ科	シズイ	Schoenoplectus nipponicus	CR
95	カヤツリグサ科	コマツカサススキ	Scirpus fuirenoides	CR
96	カヤツリグサ科	マツカサススキ	Scirpus mitsukurianus	CR
97	カヤツリグサ科	ツクシアブラガヤ	Scirpus rosthornii var. kiushuensis	CR EN
98	イネ科	コウボウ	Anthoxanthum nitens var. sachalinense	CR
99	イネ科	ホガエリガヤ	Brylkinia caudata	CR
100	イネ科	ツクシガヤ	Chikusichloa aquatica	CR VU
101	イネ科	イトアゼガヤ	Dinebra panicea subsp. panicea	CR
102	イネ科	ミズタカモジグサ (ミズタカモジ)	Elymus humidus	CR
103	イネ科	ミノボロ	Koeleria macrantha	CR
104	イネ科	ミチシバ	Melica onoei var. onoei	CR
105	イネ科	ヌマガヤ	Moliniopsis japonica	CR
106	イネ科	タキキビ	Phaenosperma globosum	CR
107	イネ科	ウキシバ	Pseudoraphis sordida	CR
108	イネ科	ササキビ	Setaria palmifolia	CR
109	ケシ科	シマキケマン	Corydalis balansae	CR
110	ツヅラフジ科	イソヤマアオキ	Cocculus laurifolius	CR
111	キンボウゲ科	ハナカズラ	Aconitum ciliare	CR EN
112	キンボウゲ科	ヤマハンショウヅル	Clematis crassifolia	DD
113	キンボウゲ科	カザグルマ	Clematis patens	CR NT
114	キンボウゲ科	キイセンニンソウ	Clematis uncinata var. ovatifolia	CR
115	キンボウゲ科	ミスミソウ	Hepatica nobilis var. japonica	CR NT
116	キンボウゲ科	ミヤマカラマツ	Thalictrum tuberiferum var. tuberiferum	CR
117	ボタン科	ベニバナヤマシャクヤク	Paeonia obovata	CR VU
118	スグリ科	ザリコミ	Ribes maximowiczianum	CR
119	ユキノシタ科	アワモリショウマ	Astilbe japonica	CR
120	ユキノシタ科	シコクチャルメルソウ	Asimitellaria stylosa var. makinoi	CR
121	ユキノシタ科	ナメラダイモンジソウ	Saxifraga fortunei var. suwoensis	CR
122	ベンケイソウ科	アズマツメクサ	Crassula aquatica	CR NT
123	ベンケイソウ科	チャボツメレンゲ	Meterostachys sikokianus	CR VU
124	マメ科	ヒロハネム	Albizia julibrissin var. glabrior	CR
125	マメ科	ヤエヤマハギカズラ	Galactia tashiroi f. yaeyamensis	CR
126	マメ科	クロバナキハギ	Lespedeza melanantha	EN VU
127	マメ科	トビカズラ	Mucuna sempervirens	CR
128	マメ科	ツクシムレスズメ	Sophora franchetiana	CR CR
129	ヒメハギ科	ヒナノカンザシ	Salomonina ciliata	CR
130	バラ科	チョウセンキンミズヒキ	Agrimonia coreana	CR VU
131	バラ科	チョウジザクラ	Cerasus apetala var. tetsuyae	CR
132	バラ科	キリタチヤマザクラ	Cerasus sargentii var. akimotoi	CR EN
133	バラ科	クサボケ	Chaenomeles japonica	CR
134	バラ科	カワラサイコ	Potentilla chinensis	CR
135	バラ科	ツチグリ	Potentilla discolor	CR VU
136	バラ科	オオバライチゴ	Rubus croceacanthus	CR
137	バラ科	サナギイチゴ	Rubus pungens var. oldhamii	CR VU
138	バラ科	アイズシモツケ	Spiraea chamaedryfolia var. pilosa	CR
139	バラ科	オニホソバシモツケ	Spiraea japonica var. tomentosa	CR
140	クロウメモドキ科	クロイゲ	Sageretia thea s.l.	CR
141	イラクサ科	ウワバミソウ	Elatostema involucreatum	CR
142	ウリ科	ミヤマニガウリ	Schizopepon bryoniifolius	CR
143	カタバミ科	オオヤマカタバミ	Oxalis obtriangulata	CR VU
144	コミカンソウ科	ツシマカンコノキ	Glochidion puberum	CR DD
145	スミレ科	ツクシスミレ	Viola diffusa	CR

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
146	スミレ科	アソヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i> var. <i>asoana</i>	CR
147	オトギリソウ科	トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	CR
148	フウロソウ科	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	CR VU
149	フウロソウ科	ミツバフウロ	<i>Geranium wilfordii</i> var. <i>wilfordii</i>	DD
150	ミソハギ科	ミズキカシグサ	<i>Rotala rosea</i>	CR VU
151	ミソハギ科	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	CR VU
152	アカバナ科	トダイアカバナ	<i>Epilobium platystigmatosum</i>	CR VU
153	ミツバウツギ科	ショウベンノキ	<i>Turpinia ternata</i>	CR
154	ムクロジ科	ナンゴクミネカエデ	<i>Acer australe</i>	CR
155	ムクロジ科	カラコギカエデ	<i>Acer tataricum</i> subsp. <i>aidzuense</i>	CR
156	ミカン科	タチバナ	<i>Citrus tachibana</i>	CR NT
157	アブラナ科	ハクサンハタザオ	<i>Arabidopsis halleri</i> subsp. <i>gemmae</i> var. <i>senanensis</i>	CR
158	アブラナ科	ハマハタザオ	<i>Arabis stelleri</i> var. <i>japonica</i>	CR
159	アブラナ科	ヒロハコロンソウ	<i>Cardamine appendiculata</i>	CR
160	アブラナ科	オクヤマガラシ (タカチホガラシ)	<i>Cardamine torrentis</i>	CR
161	アブラナ科	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i> var. <i>dentatus</i>	CR CR
162	アブラナ科	キバナハタザオ	<i>Sisymbrium luteum</i>	CR
163	ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	EN VU
164	ツチトリモチ科	アマクサツチトリモチ	<i>Balanophora subcupularis</i>	CR
165	ツチトリモチ科	キイレツチトリモチ	<i>Balanophora tobiaricola</i>	CR
166	オオバヤドリギ科	マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>	CR
167	タデ科	クリンユキフデ	<i>Bistorta suffulta</i>	CR
168	タデ科	ヤナギスカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	CR VU
169	タデ科	シマヒメタデ (フトボノスカボタデ)	<i>Persicaria tenella</i> s.l.	CR
170	ナデシコ科	タチハコベ	<i>Arenaria trinervia</i>	CR VU
171	アジサイ科	ヒュウガアジサイ	<i>Hydrangea serrata</i> var. <i>minamitanii</i>	CR VU
172	アジサイ科	キレンゲショウマ	<i>Kirengeshoma palmata</i>	CR VU
173	ハナシノブ科	ハナシノブ	<i>Polemonium caeruleum</i> subsp. <i>kiusianum</i>	CR CR
174	サクラソウ科	リュウキュウコザクラ	<i>Androsace umbellata</i>	CR
175	サクラソウ科	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	CR EN
176	サクラソウ科	オニコナスビ	<i>Lysimachia tashiroi</i>	CR EN
177	サクラソウ科	ユキワリソウ	<i>Primula farinosa</i> subsp. <i>modesta</i> var. <i>modesta</i>	CR
178	サクラソウ科	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>	CR NT
179	ツツジ科	アマクサミツバツツジ	<i>Rhododendron amakusaense</i>	CR EN
180	ツツジ科	レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> subsp. <i>japonicum</i>	CR
181	ツツジ科	ゲンカイツツジ	<i>Rhododendron mucronulatum</i> var. <i>ciliatum</i>	EN NT
182	ヤッコソウ科	ヤッコソウ	<i>Mitrastemon yamamotoi</i>	CR
183	アカネ科	コバナムグラ	<i>Exallage chrysotricha</i>	EN EN
184	アカネ科	オオバノヤエムグラ	<i>Galium pseudoasprellum</i> var. <i>pseudoasprellum</i>	CR
185	アカネ科	ウスユキムグラ	<i>Galium shikokianum</i>	CR
186	アカネ科	ソナレムグラ	<i>Leptopetalum coreanum</i> var. <i>coreanum</i>	CR
187	アカネ科	ギョクシンカ	<i>Tarenna kotoensis</i> var. <i>gyokushinkwa</i>	CR
188	アカネ科	ヤマトグサ	<i>Theligonum japonicum</i>	EN
189	リンドウ科	ハナイカリ	<i>Halenia corniculata</i>	CR
190	リンドウ科	イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	CR VU
191	マチン科	ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i>	CR VU
192	キョウチクトウ科	ツルモウリンカ	<i>Vincetoxicum tanakae</i>	CR
193	ムラサキ科	スナビキソウ	<i>Heliotropium japonicum</i>	CR
194	ムラサキ科	ケルリソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>radicans</i>	CR VU
195	ムラサキ科	チョウセンカメバソウ	<i>Trigonotis radicans</i> var. <i>sericea</i>	CR EN
196	ヒルガオ科	ソコベニヒルガオ	<i>Ipomoea littoralis</i>	CR
197	ヒルガオ科	グンバイヒルガオ	<i>Ipomoea pes-caprae</i>	CR
198	ナス科	アオホオズキ	<i>Physalisstrum japonicum</i>	CR VU
199	ナス科	ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>	CR
200	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ	<i>Deinostema adenocaulum</i>	DD VU
201	オオバコ科	ハマクワガタ	<i>Veronica javanica</i>	CR VU
202	オオバコ科	ナンゴククガイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i> var. <i>australe</i>	CR VU
203	オオバコ科	ツクシクガイソウ	<i>Veronicastrum sibiricum</i> var. <i>zuccarinii</i>	CR VU
204	ゴマノハグサ科	ハマジンチョウ	<i>Pentacoelium bontioideis</i>	CR VU
205	タヌキモ科	ミカワタヌキモ	<i>Utricularia exoleta</i>	CR VU
206	シソ科	カイジンドウ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	CR VU
207	シソ科	シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>	CR
208	シソ科	ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>	CR NT
209	シソ科	コナミキ	<i>Scutellaria guillemii</i>	CR VU
210	シソ科	ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	CR
211	シソ科	ケミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>pubiculis</i>	CR EN
212	シソ科	カリガネソウ	<i>Tripura divaricata</i>	CR
213	ハマウツボ科	ウスユキクチナシグサ	<i>Monochasma savatieri</i>	CR EN
214	ハマウツボ科	ハマウツボ	<i>Orobanchae coerulescens</i>	CR VU
215	キキョウ科	ツクシイワシャジン	<i>Adenophora hatsushimae</i>	CR CR
216	キキョウ科	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	CR VU
217	ミツガシワ科	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	CR NT
218	キク科	ブゼンノギク	<i>Aster hispidus</i> var. <i>koidzumianus</i>	CR NT
219	キク科	オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	CR
220	キク科	コバナガシクビソウ	<i>Carpesium faberi</i>	CR VU
221	キク科	テリハアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>lucens</i>	CR NT
222	キク科	オイランアザミ	<i>Cirsium spinosum</i>	CR
223	キク科	イワギク	<i>Chrysanthemum zawadskii</i> subsp. <i>naktongense</i> var. <i>dissectum</i>	CR VU
224	キク科	ヤナギニガナ	<i>Ixeridium laevigatum</i>	CR VU
225	キク科	コケセンボンギク	<i>Lagenophora lanata</i>	CR CR
226	キク科	ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>	CR
227	キク科	アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i> var. <i>hypoleucum</i>	CR EN
228	キク科	ヒナヒゴタイ	<i>Saussurea japonica</i> var. <i>japonica</i>	EN EN
229	キク科	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>	EN VU
230	キク科	キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	CR
231	キク科	ハチジョウナ	<i>Sonchus brachyotus</i>	DD
232	キク科	ヒュウガヤブレガサ	<i>Syneilesis akagii</i>	CR

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
233	キク科	ヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>indivisus</i>	EN	
234	キク科	キクバヤマボクチ	<i>Synurus palmatopinnatifidus</i> var. <i>palmatopinnatifidus</i>	CR	
235	キク科	カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>	CR	
236	キク科	ツクシタンポポ	<i>Taraxacum kiushianum</i>	CR	VU
237	キク科	タカネコウリンギク	<i>Tephrosieris flammea</i> subsp. <i>flammea</i>	CR	EN
238	キク科	オオハマグルマ	<i>Melanthera robusta</i>	CR	
239	ガマズミ科	レンブクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i> var. <i>moschatellina</i>	CR	
240	ウコギ科	ホソバチクセツニンジン	<i>Panax japonicum</i> var. <i>angustatus</i>	CR	
241	セリ科	ハナビゼリ	<i>Angelica inaequalis</i>	CR	
242	セリ科	ウバタケニンジン	<i>Angelica ubadakensis</i> var. <i>ubatakensis</i>	CR	EN
243	セリ科	ハマボウフウ	<i>Glehnia littoralis</i>	CR	
244	セリ科	カワラボウフウ	<i>Kitagawia terebinthacea</i>	CR	
245	セリ科	フキヤミツバ	<i>Sanicula tuberculata</i>	CR	VU
246	セリ科	カノツメソウ	<i>Spuriopimpinella calycina</i>	CR	

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【151 種】

シダ植物 (28 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヒカゲノカズラ科	ヒメスギラン	<i>Huperzia miyoshiana</i>	EN	
2	ヒカゲノカズラ科	ヒモツル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	EN	VU
3	ヒカゲノカズラ科	スギラン	<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i>	EN	VU
4	ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	EN	
5	コケシノブ科	チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i> var. <i>schmidtianum</i>	VU	
6	コケシノブ科	ヒメハイホラゴケ	<i>Vandenboschia nipponica</i>	VU	
7	コケシノブ科	オオハイホラゴケ	<i>Vandenboschia striata</i>	EN	
8	ヘゴ科	ヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	EN	
9	イノモトソウ科	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	CR	
10	イノモトソウ科	アイコハチジョウシダ	<i>Pteris laurisilvicola</i>	EN	
11	イノモトソウ科	ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	EN	VU
12	コバノイシカグマ科	ヒメムカゴシダ	<i>Monachosorum</i> × <i>arakii</i>	EN	EN
13	チャセンシダ科	ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	EN	
14	チャセンシダ科	イノウエトラノオ	<i>Asplenium varians</i>	DD	
15	チャセンシダ科	ナンゴクホウビシダ	<i>Hymenasplenium murakami-hatanakae</i>	EN	
16	イワデンダ科	コガネシダ	<i>Woodsia macrochlaena</i>	EN	
17	メシダ科	ミヤコイヌワラビ	<i>Athyrium imbricatum</i>	EN	
18	メシダ科	ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i>	EN	
19	メシダ科	オキナワコクモウクジャク	<i>Diplazium okinawaense</i>	EN	NT
20	ヒメシダ科	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i>	EN	
21	キンモウワラビ科	キンモウワラビ	<i>Hypodematium fauriei</i>	EN	VU
22	オシダ科	ハガクレカナワラビ	<i>Arachniodes yasu-inoue</i> var. <i>yasu-inoue</i>	EN	VU
23	オシダ科	ワカナシダ	<i>Dryopteris kuratae</i>	EN	
24	オシダ科	アツギノヌカイタチシダマガイ	<i>Dryopteris paomowanensis</i>	CR	
25	オシダ科	ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>	EN	CR
26	オシダ科	ホオノカワシダ	<i>Dryopteris shikokiana</i>	EN	
27	オシダ科	ホソバヤブソテツ	<i>Polystichum hookerianum</i>	EN	
28	ウラボシ科	コウラボシ	<i>Lepisorus uchiyamae</i>	EN	

種子植物 (123 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	スイレン科	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>	EN	VU
2	ウマノスズクサ科	キンチャクアオイ	<i>Asarum hexalobum</i> var. <i>perfectum</i>	AN	VU
3	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	EN	VU
4	サトイモ科	アオテンナンショウ	<i>Arisaema tosaense</i>	EN	
5	トチカガミ科	スズタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU	VU
6	トチカガミ科	イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i>	DD	NT
7	トチカガミ科	ヒラモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>higoensis</i>	EN	VU
8	シバナ科	シバナ	<i>Triglochin maritima</i> subsp. <i>asiatica</i>	EN	NT
9	ヒルムシロ科	イトモ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>	DD	NT
10	ヒルムシロ科	ホソバミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i> var. <i>octandrus</i>	EN	
11	カワツルモ科	カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	EN	NT
12	ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	<i>Burmanna championii</i>	EN	
13	ヒナノシャクジョウ科	シロシャクジョウ	<i>Burmanna cryptopetala</i>	EN	
14	ヒナノシャクジョウ科	キリシマシャクジョウ	<i>Burmanna nepalensis</i>	EN	VU
15	ヤマノイモ科	クバドコロ	<i>Dioscorea septemloba</i> var. <i>septemloba</i>	EN	
16	ユリ科	ホソバナコバイモ	<i>Fritillaria amabilis</i>	EN	NT
17	ラン科	キエビネ	<i>Calanthe citrina</i>	EN	EN
18	ラン科	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	EN	NT
19	ラン科	オサラン	<i>Eria japonica</i>	EN	VU
20	ラン科	オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i> s.l.	EN	
21	ラン科	サギソウ	<i>Habenaria radiata</i>	VU	NT
22	ラン科	ヒナラン	<i>Hemipilia gracilis</i>	EN	EN
23	ラン科	ウチョウラン	<i>Hemipilia graminifolia</i> var. <i>graminifolia</i>	EN	VU
24	ラン科	ムコウラン	<i>Lecanorchis japonica</i>	EN	
25	ラン科	ニラバラン	<i>Microtis unifolia</i>	EN	
26	ラン科	フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	EN	VU
27	ラン科	トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>	EN	NT
28	ラン科	ヤクシマアカシユスラン	<i>Rhomboda yakusimensis</i>	CR	VU
29	ラン科	ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	VU	EN
30	ラン科	ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>	EN	
31	ラン科	キバナノショウキラン	<i>Yoania amagiensis</i>	EN	EN
32	キンバイザサ科	コキンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i>	EN	

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
33	クサスギカズラ科	スズラン	<i>Convallaria majalis</i> var. <i>manshurica</i>	EN
34	クサスギカズラ科	カンザシギボウシ	<i>Hosta capitata</i>	EN
35	ホシクサ科	ヒロハノイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon alpestre</i>	EN
36	カヤツリグサ科	ワンドスゲ	<i>Carex argyi</i>	EN VU
37	カヤツリグサ科	コハリスゲ	<i>Carex hakonensis</i>	EN
38	カヤツリグサ科	アオバスゲ	<i>Carex insanae</i> var. <i>papillaticulmis</i>	VU
39	カヤツリグサ科	コウボウムギ	<i>Carex kobomugi</i>	EN
40	カヤツリグサ科	コウボウシバ	<i>Carex pumila</i>	EN
41	カヤツリグサ科	アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	EN
42	カヤツリグサ科	イヌクログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i> var. <i>dulcis</i>	DD
43	カヤツリグサ科	アオテンツキ	<i>Fimbristylis dipsacea</i> var. <i>verrucifera</i>	EN
44	カヤツリグサ科	ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectiella gemmifera</i>	EN VU
45	カヤツリグサ科	ヒメカンガレイ	<i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>mucronata</i>	EN VU
46	カヤツリグサ科	ツクシカンガレイ	<i>Schoenoplectiella multisetata</i>	EN
47	イネ科	ウンスケモドキ	<i>Eulalia quadrinervis</i>	VU NT
48	イネ科	ヒロハノドジョウウツナギ	<i>Glyceria leptolepis</i>	EN
49	ツツラフジ科	ミヤコジマツツラフジ	<i>Cyclea insularis</i>	EN
50	キンボウゲ科	アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	EN
51	キンボウゲ科	ヒメバイカモ	<i>Ranunculus kadszensis</i>	EN EN
52	アワブキ科	フシノハアワブキ	<i>Meliosma arnottiana</i> subsp. <i>oldhamii</i> var. <i>oldhamii</i>	EN
53	ツゲ科	ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> subsp. <i>microphylla</i> var. <i>japonica</i>	EN
54	マンサク科	ヒゴミズキ	<i>Corylopsis gotoana</i> var. <i>pubescens</i>	EN CR
55	スグリ科	ヤシャビシャク	<i>Ribes ambigua</i> s.l.	EN NT
56	ユキノシタ科	コチャルメルソウ	<i>Asimitellaria pauciflora</i>	EN
57	ユキノシタ科	ワタナベソウ	<i>Peltoboykinia watanabei</i>	EN VU
58	ユキノシタ科	ウチワダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>obtusocuneata</i>	EN
59	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonica</i>	EN NT
60	ブドウ科	クマガワブドウ	<i>Vitis kiusiana</i>	EN CR
61	マメ科	サイカチ	<i>Gleditsia japonica</i> var. <i>japonica</i>	VU
62	マメ科	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	EN VU
63	マメ科	フジキ	<i>Platysprion platycarpum</i>	EN
64	マメ科	トキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>	CR
65	マメ科	アカササゲ	<i>Vigna vexillata</i> var. <i>tsusimensis</i>	EN EN
66	バラ科	シモツケソウ	<i>Filipendula multijuga</i> var. <i>multijuga</i>	EN
67	バラ科	シマバライチゴ	<i>Rubus lambertianus</i>	EN VU
68	バラ科	クロイチゴ	<i>Rubus mesogaeus</i> var. <i>mesogaeus</i>	VU
69	バラ科	キビノナワシロイチゴ (キビナワシロイチゴ)	<i>Rubus yoshinoi</i>	NT
70	アサ科	キリエノキ	<i>Trema cannabina</i> var. <i>cannabina</i>	EN
71	カバノキ科	イワシデ	<i>Carpinus turczaninowii</i> var. <i>turczaninowii</i>	EN
72	ニシキギ科	オオツルウメモドキ	<i>Celastrus stephanotidifolius</i>	DD
73	スミレ科	ヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i> var. <i>yezoensis</i>	EN
74	オトギリソウ科	オオトモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> var. <i>longistylum</i>	EN
75	オトギリソウ科	ツクヌキオトギリ	<i>Hypericum sampsonii</i>	EN EN
76	ミソハギ科	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	CR EN
77	アカバナ科	イワアカバナ	<i>Epilobium amurense</i> subsp. <i>cephalostigma</i>	EN
78	ノボタン科	ヒメノボタン	<i>Osbeckia chinensis</i>	EN VU
79	ジンチョウゲ科	シマサクラガンビ	<i>Diplomorpha pauciflora</i> var. <i>yakushimensis</i>	EN
80	ナデシコ科	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	EN VU
81	ナデシコ科	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	EN VU
82	ヒユ科	ヒロハマツナ	<i>Suaeda malacosperma</i>	DD VU
83	ツツジ科	ジャクジョウソウ	<i>Hypopitys monotropa</i>	VU
84	ツツジ科	ヨウラクツツジ	<i>Rhododendron kroniae</i>	EN VU
85	ツツジ科	ナンゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron mayebarae</i> var. <i>mayebarae</i>	EN VU
86	アカネ科	ミヤマムグラ	<i>Galium paradoxum</i> subsp. <i>franchetianum</i>	EN
87	アカネ科	クルマバアカネ	<i>Rubia cordifolia</i> var. <i>lancifolia</i>	EN
88	リンドウ科	シノノメソウ	<i>Swertia swertopsis</i>	EN VU
89	モクセイ科	ミヤマイボタ	<i>Ligustrum tschonoskii</i> var. <i>tschonoskii</i>	EN
90	モクセイ科	マンシュウハシドイ	<i>Syringa reticulata</i> subsp. <i>reticulata</i> var. <i>amurensis</i>	EN
91	オオバコ科	オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	VU VU
92	オオバコ科	シソクサ	<i>Linnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>	CR
93	オオバコ科	ツクシトラノオ	<i>Veronica ovata</i> subsp. <i>kiusiana</i> var. <i>kiusiana</i>	EN VU
94	オオバコ科	イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> var. <i>lilacina</i>	EN VU
95	オオバコ科	ヤマトラノオ	<i>Veronica rotunda</i> var. <i>subintegra</i>	VU
96	ゴマノハグサ科	キタミソウ	<i>Limosella aquatica</i>	EN VU
97	タヌキモ科	ホザキノミミカキグサ	<i>Utricularia caerulea</i>	EN
98	シソ科	ビロードムラサキ	<i>Callicarpa kochiana</i>	EN VU
99	シソ科	タカクマヒキオコシ	<i>Isodon shikokianus</i> var. <i>intermedius</i>	VU
100	シソ科	ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	EN
101	ハマウツボ科	ゴマクサ	<i>Centranthera cochinchinensis</i> var. <i>lutea</i>	VU VU
102	ハマウツボ科	クチナシグサ	<i>Monochasma sheareri</i>	EN
103	ハマウツボ科	キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	EN
104	モチノキ科	フウリンウメモドキ	<i>Ilex geniculata</i> var. <i>geniculata</i>	EN
105	キキョウ科	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> subsp. <i>speciosa</i>	EN EN
106	キキョウ科	ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>	EN VU
107	キク科	ヤハズハハコ	<i>Anaphalis sinica</i> subsp. <i>sinica</i> var. <i>sinica</i>	EN
108	キク科	ヤブモモギ	<i>Artemisia rubripes</i>	VU VU
109	キク科	ヒゴシオン	<i>Aster maackii</i>	EN VU
110	キク科	マルバタウコギ	<i>Bidens biternata</i> var. <i>mayebarae</i>	VU
111	キク科	ヘイケモリアザミ	<i>Cirsium lucens</i> var. <i>bracteosum</i>	DD CR
112	キク科	ヒゴタイ	<i>Echinops setifer</i>	EN VU
113	キク科	イズハハコ	<i>Eschenbachia japonica</i>	EN VU
114	キク科	ハマニガナ	<i>Ixeris repens</i>	EN
115	キク科	ツクシトウヒレン	<i>Saussurea higomontana</i>	EN
116	キク科	アオヤギバナ	<i>Solidago yokusaiana</i>	EN
117	キク科	ウラギク	<i>Tripolium pannonicum</i>	EN NT
118	スイカズラ科	ウスバヒョウタンボク	<i>Lonicera cerasina</i>	EN VU
119	スイカズラ科	ヤマヒョウタンボク	<i>Lonicera mochidzukiana</i> var. <i>nomurana</i>	EN

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
120	セリ科	ヨロイグサ	<i>Angelica dahurica</i> var. <i>dahurica</i>	EN	
121	セリ科	ヒュウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i>	DD	CR
122	セリ科	ミシマサイコ	<i>Bupleurum stenophyllum</i> var. <i>stenophyllum</i>	EN	VU
123	セリ科	シムランニンジン	<i>Pterygopleurum neurophyllum</i>	CR	VU

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 【170 種】

シダ植物 (30 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヒカゲノカズラ科	マンネンシギ	<i>Lycopodium obscurum</i>	NT	
2	ヒカゲノカズラ科	ヒモラン	<i>Phlegmariurus sieboldii</i>	VU	EN
3	マツバラン科	マツバラン	<i>Psilotum nudum</i>	VU	NT
4	ハナヤスリ科	ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i>	VU	
5	コケシノブ科	オオコケシノブ	<i>Hymenophyllum badium</i>	NT	
6	ウラボシ科	カネコシダ	<i>Diplazium laevissimum</i>	VU	VU
7	ホングウシダ科	サイゴクホングウシダ	<i>Osmolindsaea japonica</i>	VU	
8	イノモトソウ科	ヒメウラボシ	<i>Cheilanthes argentea</i>	AN	VU
9	イノモトソウ科	エビガラシダ	<i>Cheilanthes chusana</i>	AN	VU
10	イノモトソウ科	ナカミシラン	<i>Haplopteris fudzinoi</i>	NT	
11	イノモトソウ科	クマガワイノモトソウ	<i>Pteris deltoidea</i>	VU	NT
12	イノモトソウ科	ホコシダ	<i>Pteris ensiformis</i>	NT	
13	イノモトソウ科	キドイノモトソウ	<i>Pteris kidoi</i>	NT	VU
14	コバノイシカグマ科	フジシダ	<i>Monachosorum maximowiczii</i>	VU	
15	チャセンシダ科	イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i>	VU	NT
16	イワデンドコ科	フクロシダ	<i>Woodsia manchuriensis</i>	VU	
17	シシガシラ科	ハイコモチシダ	<i>Woodwardia unigeninata</i>	NT	
18	メシダ科	トゲカラクサイヌワラビ	<i>Athyrium setuligerum</i>	VU	
19	メシダ科	アソシケシダ	<i>Deparia otomusui</i>	VU	EN
20	メシダ科	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>dilatatum</i>	EN	
21	メシダ科	ヒュウガシダ	<i>Diplazium takii</i>	VU	
22	ヒメシダ科	テツホシダ	<i>Thelypteris interrupta</i>	VU	
23	オシダ科	ナンゴクナライシダ	<i>Arachniodes fargesii</i>	VU	
24	オシダ科	オトコシダ	<i>Arachniodes yoshinagae</i>	NT	
25	オシダ科	ツクシヤブソテツ	<i>Cyrtomium tukusicola</i>	NT	
26	オシダ科	サツマシダ	<i>Ctenitis sinii</i>	EN	EN
27	オシダ科	ギフベニシダ	<i>Dryopteris kinkiensis</i>	VU	
28	オシダ科	キヨズミオオコジャク	<i>Dryopteris namegateae</i>	VU	
29	オシダ科	ミヤジマシダ	<i>Polystichum balansae</i>	VU	
30	ウラボシ科	カラクサシダ	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	NT	

種子植物 (140 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	マツ科	ハリモミ	<i>Picea polita</i>	VU	
2	マツ科	ヒメコマツ	<i>Pinus parviflora</i> var. <i>parviflora</i>	VU	
3	ヒノキ科	イブキ	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>chinensis</i>	VU	
4	ウマノスズクサ科	クロフネサイシン	<i>Asarum dimidiatum</i>	NT	NT
5	ウマノスズクサ科	マルミカンアオイ	<i>Asarum subglobosum</i>	VU	EN
6	サトイモ科	キリシマデンナンショウ	<i>Arisaema sazensoo</i>	VU	
7	サトイモ科	タシロテンナンショウ	<i>Arisaema tashiroi</i>	VU	
8	サトイモ科	ミツバデンナンショウ	<i>Arisaema ternatipartitum</i>	VU	
9	トチカガミ科	ヤナギスブタ	<i>Blyxa japonica</i>	VU	
10	トチカガミ科	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	VU	VU
11	アマモ科	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>	VU	
12	ユリ科	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	VU	
13	ユリ科	ノヒメユリ	<i>Lilium callosum</i>	NT	EN
14	ユリ科	カノコユリ	<i>Lilium speciosum</i> s.l.	VU	VU
15	ユリ科	ホトトギス	<i>Tricyrtis hirta</i> var. <i>hirta</i>	VU	
16	ユリ科	タマガワホトトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i>	VU	
17	ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i> var. <i>discolor</i>	VU	NT
18	ラン科	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	NT	
19	ラン科	マツラン	<i>Gastrochilus matsuran</i>	VU	VU
20	ラン科	アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia confusa</i>	VU	
21	ラン科	ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>		VU
22	ラン科	クロヤツシロラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>		
23	ラン科	ベニシュスラン	<i>Goodyera biflora</i>	VU	
24	ラン科	ツユクサシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	VU	
25	ラン科	ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	VU	
26	ラン科	ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i>	VU	
27	ラン科	ガンゼキラン	<i>Paraphaia flavus</i>	VU	VU
28	ラン科	ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i>	VU	
29	ラン科	ヤマトキノソウ	<i>Pogonia minor</i>	VU	
30	クサスギカズラ科	ミドリヨウラク	<i>Polygonatum inflatum</i>	VU	
31	クサスギカズラ科	ミヤマナルコユリ	<i>Polygonatum lasianthum</i> var. <i>lasianthum</i>	EN	
32	ショウガ科	アオノクマタケラン	<i>Alpinia intermedia</i>	VU	
33	ガマ科	ヤマミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	VU	NT
34	ガマ科	ミクリ	<i>Sparganium stoloniferum</i>	VU	NT
35	ホシクサ科	イトイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	VU	
36	イグサ科	イヌイ	<i>Juncus fauriei</i>	VU	
37	カヤツリグサ科	オニスゲ	<i>Carex dickinsii</i>	VU	
38	カヤツリグサ科	ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	VU	
39	カヤツリグサ科	ミヤマシラスゲ	<i>Carex olivacea</i> subsp. <i>confertiflora</i>	EN	
40	カヤツリグサ科	ヤチカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>omiana</i>	VU	

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
41	カヤツリグサ科	エゾツリスゲ	<i>Carex papulosa</i>	VU
42	カヤツリグサ科	トラノハナヒゲ	<i>Rhynchospora brownii</i>	VU
43	カヤツリグサ科	イトイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora faberi</i>	VU
44	カヤツリグサ科	イヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora japonica</i> var. <i>japonica</i>	VU
45	カヤツリグサ科	ヒメホタルイ	<i>Schoenoplectiella lineolata</i>	VU
46	カヤツリグサ科	シンジュガヤ	<i>Scleria levis</i>	VU
47	カヤツリグサ科	コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i>	VU
48	イネ科	シラシマメダケ	<i>Pleioblastus nabeshimanus</i>	
49	イネ科	イッショウチザサ	<i>Sasa magnifica</i>	
50	ケシ科	ツクシケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>heterocarpa</i>	VU
51	ケシ科	ヤマブキソウ	<i>Hylomecon japonica</i>	VU
52	キンボウゲ科	ミチノクフクジュソウ	<i>Adonis multiflora</i>	VU NT
53	キンボウゲ科	シコクフクジュソウ	<i>Adonis shikokuensis</i>	DD VU
54	キンボウゲ科	リュウキンカ	<i>Caltha palustris</i> var. <i>nipponica</i>	VU
55	キンボウゲ科	フジセンニンソウ	<i>Clematis chinensis</i> var. <i>fujisanensis</i>	VU
56	キンボウゲ科	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i> var. <i>cernua</i>	VU VU
57	キンボウゲ科	ノカラマツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	VU VU
58	ツゲ科	フッキソウ	<i>Pachysandra terminalis</i>	NT
59	ユキノシタ科	センダイソウ	<i>Saxifraga sendaica</i>	VU NT
60	タコノアシ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	VU NT
61	ブドウ科	ウドカズラ	<i>Ampelopsis cantoniensis</i> var. <i>leeoides</i>	VU
62	マメ科	レンリソウ	<i>Lathyrus quinquenervius</i>	VU
63	マメ科	ハカマカズラ	<i>Phanera japonica</i>	NT
64	マメ科	クマガワナンテンハギ	<i>Vicia unijuga</i> var. <i>austrohiogoensis</i>	VU
65	マメ科	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	VU
66	バラ科	ミヤマザクラ	<i>Cerasus maximowiczii</i>	VU
67	バラ科	イワキンバイ	<i>Potentilla ancistrifolia</i> var. <i>dickinsii</i>	VU
68	バラ科	コジキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i> var. <i>sumatranus</i>	VU
69	バラ科	ナガボノワレモコウ	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>tenuifolia</i>	VU
70	クロウメモドキ科	ハマナツメ	<i>Paliurus ramosissimus</i>	VU VU
71	アサ科	クワノハエノキ	<i>Celtis boninensis</i>	VU
72	イラクサ科	クサコアカソ	<i>Boehmeria gracilis</i>	VU
73	イラクサ科	チョクザキミズ	<i>Lecanthus peduncularis</i>	VU EN
74	イラクサ科	ツクシミズ	<i>Pilea sinofasciata</i>	VU
75	ブナ科	ハナガガシ	<i>Quercus hondae</i>	VU VU
76	クルミ科	ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>	VU
77	ニシキギ科	サワダツ	<i>Euonymus melananthus</i>	NT
78	コミカンソウ科	ヤマヒハツ	<i>Antidesma japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	VU
79	ヤナギ科	イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	VU
80	スミレ科	ヒナスミレ	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>	VU
81	フウロソウ科	イヨフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>shikokianum</i>	NT NT
82	ウルシ科	チャンチンモドキ	<i>Choerospondias axillaris</i>	VU EN
83	アブラナ科	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	VU NT
84	オオバヤドリギ科	オオバヤドリギ	<i>Taxillus yadoriki</i>	VU
85	イソマツ科	ハマサジ	<i>Limonium tetragonum</i>	VU NT
86	タデ科	アキノミチヤナギ	<i>Polygonum polyneuron</i>	VU
87	ナデシコ科	ヒメハナナデシコ	<i>Dianthus kiusianus</i>	VU
88	ナデシコ科	ワダソウ	<i>Pseudostellaria heterophylla</i>	VU
89	ヒユ科	ハママツナ	<i>Suaeda maritima</i> subsp. <i>asiatica</i>	DD
90	サクラソウ科	クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> subsp. <i>davurica</i>	VU
91	サクラソウ科	サクラソウ	<i>Primula sieboldii</i>	VU NT
92	ツツジ科	マルバノイチヤクソウ	<i>Pyrola nephrophylla</i>	VU
93	ツツジ科	ツクシアケボノツツジ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>pentaphyllum</i>	VU NT
94	ツツジ科	ツクシコメツツジ	<i>Rhododendron sohayakiense</i> var. <i>kiusianum</i>	NT
95	アカネ科	キヌタソウ	<i>Galium kinuta</i>	VU
96	アカネ科	ヒロハコンロンカ	<i>Mussaenda shikokiana</i>	NT
97	リンドウ科	ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>	VU NT
98	キョウチクトウ科	コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>	NT
99	キョウチクトウ科	シタキソウ	<i>Jasminanthus mucronata</i>	VU
100	キョウチクトウ科	ロクオンソウ	<i>Vincetoxicum amplexicaule</i>	VU VU
101	キョウチクトウ科	フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i>	NT VU
102	キョウチクトウ科	イヨカズラ	<i>Vincetoxicum japonicum</i>	VU
103	キョウチクトウ科	スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	VU NT
104	ムラサキ科	ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i>	VU
105	ナス科	ヤマホオズキ	<i>Archiphysalis chamaesarachoides</i>	NT EN
106	ナス科	メジロホオズキ	<i>Lycianthes biflora</i>	VU
107	ナス科	イガホオズキ	<i>Physalistrum echinatum</i>	NT
108	イワタバコ科	シシラン	<i>Lysionotus pauciflorus</i>	VU VU
109	オオバコ科	ホソバヒメトラノオ	<i>Veronica linariifolia</i> var. <i>linariifolia</i>	VU EN
110	オオバコ科	コクワガタ	<i>Veronica miqueliana</i> f. <i>takedana</i>	VU
111	シソ科	カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i>	VU
112	シソ科	ヒメキラソウ	<i>Ajuga pygmaea</i>	VU
113	シソ科	コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	VU
114	シソ科	タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i>	NT NT
115	シソ科	ジャコウソウ	<i>Chelonopsis moschata</i>	NT
116	シソ科	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	VU VU
117	シソ科	オオヤマジソ	<i>Mosla hadae</i>	VU NT
118	ハエドクソウ科	スズメノハコベ	<i>Microcarpaea minima</i>	EN
119	ハマウツボ科	ツクシゴメグサ	<i>Euphrasia multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	VU EN
120	モチノキ科	タマミズキ	<i>Ilex micrococca</i>	VU
121	キク科	フクド	<i>Artemisia fukudo</i>	NT NT
122	キク科	センボンギク (タニガワコンギク)	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>microcephalus</i>	VU
123	キク科	シオン	<i>Aster tataricus</i>	VU VU
124	キク科	サツマアザミ	<i>Cirsium austrokiushianum</i>	VU VU
125	キク科	ヤナギアザミ	<i>Cirsium lineare</i>	EN
126	キク科	ヤマヒヨドリバナ	<i>Eupatorium variabile</i>	VU
127	キク科	チョウセンスイラン (マンシュウスイラン)	<i>Hololeion fauriei</i>	VU

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
128	キク科	スイラン	<i>Hololeion krameri</i>	VU	
129	キク科	ウスゲタマブキ	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>farfarifolius</i>	NT	
130	キク科	ツクシコウモリソウ	<i>Parasenecio nipponicus</i>	NT	
131	キク科	ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i> var. <i>maximowiczii</i>	VU	
132	キク科	ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i>	VU	
133	キク科	ネコノシタ (ハマグルマ)	<i>Wollastonia dentata</i>	NT	
134	スイカズラ科	ナバナ	<i>Dipsacus japonicus</i>	VU	
135	スイカズラ科	ニシキウツギ	<i>Weigela decora</i> var. <i>decora</i>	VU	
136	ウコギ科	ウラジロウコギ	<i>Eleutherococcus hypoleucus</i>	NT	
137	ウコギ科	ケチドメグサ	<i>Hydrocotyle dichondrioides</i>	NT	
138	セリ科	イヌトウキ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	VU	VU
139	セリ科	カモノダケ	<i>Angelica shikokiana</i> var. <i>mayebarana</i>	VU	EN
140	セリ科	ハマゼリ	<i>Cnidium japonicum</i>	DD	

準絶滅危惧 (NT) 【149 種】
シダ植物 (17 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ハナヤスリ科	ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>	NT	
2	イノモトソウ科	ヒメズワラビ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	VU	
3	ハナヤスリ科	チャボハナヤスリ	<i>Ophioglossum parvum</i>	NT	VU
4	リュウビンタイ科	リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiiifolia</i>	NT	
5	コバノイシカグマ科	オドリコカグマ	<i>Microlepia sinostrigosa</i>	NT	
6	コバノイシカグマ科	オオフジシダ	<i>Monachosorum nipponicum</i>	NT	
7	スリワラビ科	スリワラビ	<i>Rhachidosorus mesosorus</i>	NT	
8	コウヤワラビ科	クサソテツ	<i>Onoclea struthiopteris</i>	NT	
9	シシガシラ科	オサシダ	<i>Spicantopsis amabilis</i>	NT	
10	メシダ科	サトメシダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i>	NT	
11	メシダ科	キリシマヘビノネゴザ	<i>Athyrium kirisimaense</i>	NT	
12	メシダ科	オオバミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium hayatamae</i>	NT	
13	ヒメシダ科	ヒメハシゴシダ	<i>Thelypteris cystopteroides</i>	NT	
14	オシダ科	ヌカイタチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i>	NT	
15	オシダ科	タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i>	NT	
16	オシダ科	タチデンド	<i>Polystichum deltodon</i>	NT	
17	ウラボシ科	ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i>	NT	

種子植物 (132 種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	イチイ科	イチイ	<i>Taxus cuspidata</i> var. <i>cuspidata</i>	NT	
2	ドクダミ科	ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	NT	
3	ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i>	NT	
4	ウマノスズクサ科	ツクシアオイ	<i>Asarum kiusianum</i>	NT	VU
5	ウマノスズクサ科	ウンゼンカンアオイ	<i>Asarum unzen</i>	NT	VU
6	ショウブ科	ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	NT	
7	オモダカ科	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	NT	NT
8	トチカガミ科	ヤマトウミヒルモ	<i>Halophila nipponica</i>	DD	
9	トチカガミ科	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i> var. <i>natans</i>	NT	
10	ヒルムシロ科	ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>	NT	
11	ヒルムシロ科	フトヒルムシロ	<i>Potamogeton fryeri</i>	NT	
12	ヤマノイモ科	ツクシタチドロコ	<i>Dioscorea asclepiadea</i>	NT	EN
13	ヤマノイモ科	タチドロコ	<i>Dioscorea gracillima</i>		
14	シュロソウ科	ミヤマエンレイソウ (シロバナエンレイソウ)	<i>Trillium tschonoskii</i>		
15	サルトリイバラ科	サツマサンキライ	<i>Smilax bracteata</i> var. <i>bracteata</i>	NT	
16	ユリ科	ヒゴコバイモ	<i>Fritillaria kiusiana</i>		
17	ラン科	マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	NT	NT
18	ラン科	ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	NT	NT
19	ラン科	ナツエビネ	<i>Calanthe puberula</i> var. <i>reflexa</i>	NT	VU
20	ラン科	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	NT	VU
21	ラン科	ナギラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU	VU
22	ラン科	カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	NT	
23	ラン科	ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	NT	VU
24	ラン科	ムカゴソウ	<i>Herminium angustifolium</i>	NT	EN
25	ラン科	ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i>	NT	
26	ラン科	クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	NT	
27	ワスレグサ科	キキョウラン	<i>Dianella ensifolia</i>	NT	
28	クサスギカズラ科	ケイビラン	<i>Comospermum yedoense</i>	NT	
29	クサスギカズラ科	ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>	NT	
30	ガマ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>		NT
31	ホシクサ科	ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i>	NT	
32	ホシクサ科	イヌノヒゲ	<i>Eriocaulon miquelianum</i> var. <i>miquelianum</i>	NT	
33	ホシクサ科	ニッポンイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i> var. <i>taquetii</i>	NT	
34	イグサ科	ハナビゼキショウ	<i>Juncus alatus</i>	NT	
35	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	<i>Juncus bufonius</i>	NT	
36	カヤツリグサ科	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>	NT	NT
37	カヤツリグサ科	ケスゲ	<i>Carex duvaliana</i>	NT	
38	カヤツリグサ科	イトスゲ	<i>Carex fernaldiana</i>	NT	
39	カヤツリグサ科	ホソバヒカゲスゲ	<i>Carex humilis</i> var. <i>nana</i>	NT	
40	カヤツリグサ科	フサスゲ (シラホスゲ)	<i>Carex metallica</i>	NT	
41	カヤツリグサ科	ピロードスゲ	<i>Carex miyabei</i>	NT	
42	カヤツリグサ科	ミヤマカンスゲ	<i>Carex multifolia</i> var. <i>multifolia</i>	NT	
43	カヤツリグサ科	アブラシバ	<i>Carex satsumensis</i>	NT	
44	カヤツリグサ科	シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i>	NT	

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
45	カヤツリグサ科	ヒゲスゲ	<i>Carex wahuensis</i> var. <i>bongardii</i>	NT
46	カヤツリグサ科	クログワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>	
47	カヤツリグサ科	マシカクイ	<i>Eleocharis tetraquetra</i>	NT
48	カヤツリグサ科	シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>	NT
49	カヤツリグサ科	ツクシテンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> subsp. <i>podocarpa</i>	VU
50	カヤツリグサ科	コイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fujiiana</i>	NT
51	イネ科	コウヤザサ	<i>Brachelytrum japonicum</i>	NT
52	イネ科	オオトボシガラ	<i>Festuca extremiorientalis</i>	NT
53	イネ科	イワタケソウ	<i>Leymus duthiei</i> subsp. <i>longearistatus</i> var. <i>japonicus</i>	NT
54	イネ科	アズマガヤ	<i>Leymus duthiei</i> subsp. <i>longearistatus</i> var. <i>longearistatus</i>	NT
55	イネ科	コメガヤ	<i>Melica nutans</i> subsp. <i>nutans</i>	NT
56	イネ科	イブキスカボ	<i>Milium effusum</i>	NT
57	イネ科	セイタカヨシ	<i>Phragmites karka</i>	NT
58	イネ科	ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberifera</i>	NT
59	イネ科	ウシクサ	<i>Schizachyrium brevifolium</i>	
60	イネ科	ナガミノオニシバ	<i>Zoysia sinica</i> var. <i>nipponica</i>	NT
61	メギ科	ヤチマタイカリソウ (注: ヒゴイカリソウ)	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>grandiflorum</i>	NT
62	キンボウゲ科	ユキワリイチゲ	<i>Anemone keiskeana</i>	NT
63	キンボウゲ科	ツクシクサボタン	<i>Clematis stans</i> var. <i>austrojaponensis</i>	NT
64	キンボウゲ科	トウゴクサバノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>	NT
65	キンボウゲ科	シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i> var. <i>actaeifolium</i>	NT
66	キンボウゲ科	マンセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegiifolium</i> var. <i>sibiricum</i>	NT EN
67	アワブキ科	アオカズラ	<i>Sabia japonica</i>	NT EN
68	ボタン科	ヤマシャクヤク	<i>Paonia japonica</i>	NT NT
69	ユキノシタ科	トサノチャルメルソウ (トサチャルメルソウ)	<i>Asimitellaria yoshinagae</i>	NT
70	ユキノシタ科	ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>	NT
71	ベンケイソウ科	アオベンケイ	<i>Hydotelephium viride</i>	NT
72	ベンケイソウ科	ハママンネングサ	<i>Sedum formosanum</i>	NT NT
73	マメ科	カワラケツメイ	<i>Chamaecrista nomame</i>	
74	マメ科	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	NT
75	マメ科	シバネム	<i>Smithia ciliata</i>	NT DD
76	マメ科	ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	NT
77	マメ科	ヒメヨツバハギ	<i>Vicia venosa</i> subsp. <i>cuspidata</i> var. <i>subcuspidata</i>	NT
78	バラ科	アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>	NT
79	バラ科	ツクシイバラ	<i>Rosa multiflora</i> var. <i>adenochaeta</i>	NT
80	バラ科	モリイバラ	<i>Rosa onoei</i> var. <i>hakonensis</i>	NT
81	バラ科	イワガサ	<i>Spiraea blumei</i> var. <i>blumei</i>	NT
82	クロウメモドキ科	キビノクロウメモドキ	<i>Rhamnus yoshinoi</i>	NT VU
83	イラクサ科	コケミズ	<i>Pilea peploides</i> var. <i>peploides</i>	NT
84	ニシキギ科	シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	NT
85	ヤナギ科	ノヤナギ	<i>Salix subopposita</i>	NT
86	スミレ科	サクラスミレ	<i>Viola hirtipes</i>	NT
87	スミレ科	キスミレ	<i>Viola orientalis</i>	NT
88	スミレ科	ホソバシロスミレ	<i>Viola patrinii</i> var. <i>angustifolia</i>	DD VU
89	スミレ科	アケボノスミレ	<i>Viola rossii</i>	NT
90	フウロソウ科	タチフウロ	<i>Geranium krameri</i>	NT
91	ミソハギ科	ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	NT VU
92	アカバナ科	ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>	
93	ムクロジ科	メグスリノキ	<i>Acer maximowiczianum</i>	NT
94	ミカン科	ハマセンダン	<i>Tetradium glabrifolium</i> var. <i>glaucum</i>	NT
95	アブラナ科	イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	NT
96	タデ科	イブキトラノオ	<i>Bistorta officinalis</i> subsp. <i>japonica</i>	NT
97	タデ科	ニオイタデ	<i>Persicaria viscosa</i>	DD
98	タデ科	コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>	AN VU
99	ヒユ科	ホソバハマアカザ (ホソバノハマアカザ)	<i>Atriplex patens</i>	NT
100	サクラソウ科	ミヤマコナスビ	<i>Lysimachia tanakae</i>	NT
101	イワウメ科	イワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> var. <i>soldanelloides</i>	NT
102	エゴノキ科	ハクウンボク	<i>Styrax obassia</i>	NT
103	マダタビ科	ウラジロマダタビ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>hypoleuca</i>	NT
104	ツツジ科	ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	NT
105	ツツジ科	ヒュウガミツバツツジ	<i>Rhododendron hyugaense</i>	NT
106	アカネ科	タニワタリノキ	<i>Adina pilulifera</i>	NT
107	アカネ科	ミサオノキ	<i>Aidia henryi</i>	NT
108	アカネ科	イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>	NT
109	アカネ科	ヘツカニガキ	<i>Sinoadina racemosa</i>	NT
110	キョウチクトウ科	タチカモメツル	<i>Vincetoxicum glabrum</i>	NT
111	モクセイ科	シオジ	<i>Fraxinus platypoda</i>	NT
112	オオバコ科	サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>	DD
113	オオバコ科	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	NT NT
114	ゴマノハグサ科	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i> var. <i>buergeriana</i>	NT VU
115	タヌキモ科	ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i>	NT
116	タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	NT NT
117	シソ科	ヤマトウバナ	<i>Clinopodium multicaule</i> var. <i>multicaule</i>	NT
118	シソ科	メハジキ	<i>Leonurus japonicus</i>	NT
119	シソ科	ハマゴウ	<i>Vitex rotundifolia</i>	NT
120	キキョウ科	バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>	NT VU
121	キキョウ科	サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	NT
122	キク科	マルバデイショウソウ	<i>Ainsliaea fragrans</i>	AN VU
123	キク科	イヌモモギ	<i>Artemisia keiskeana</i>	NT
124	キク科	モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i> var. <i>dipsacolepis</i>	NT
125	キク科	タカサブロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	NT
126	キク科	チョウセンヤマニガナ	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>raddeana</i>	DD
127	キク科	アソタカラコウ	<i>Ligularia</i> sp.	NT VU
128	キク科	ホクチアザミ	<i>Saussurea gracilis</i>	NT
129	キク科	キリシマヒゴタイ	<i>Saussurea scaposa</i>	NT
130	キク科	キオン	<i>Senecio nemorensis</i> var. <i>nemorensis</i>	NT
131	スイカズラ科	イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i>	NT VU

	科名	種名	RDB 2019	環境省 RL2020
		和名 学名		
132	セリ科	ムカゴニンジン <i>Sium ninsi</i>	NT	

情報不足 (DD) 【99 種】

シダ植物 (9 種)

	科名	種名 和名 学名	RDB 2019	環境省 RL2020
1	イワヒバ科	クラマゴケ <i>Selaginella remotifolia</i>	DD	
2	ハナヤスリ科	シチトウハナワラビ <i>Botrychium atrovirens</i>	DD	
3	サンショウモ科	オオアカウキクサ <i>Azolla japonica</i>	DD	EN
4	ホングウシダ科	アイノコホラシノブ <i>Odontosoria intermedia</i>	DD	
5	イノモトソウ科	ウライハチジョウシダ <i>Pteris wulaiensis</i>		
6	ヒメシダ科	アラゲヒメワラビ <i>Macrothelypteris torresiana</i> var. <i>torresiana</i>	DD	
7	オシダ科	ヤクカナワラビ <i>Arachniodes amabilis</i> var. <i>amabilis</i>	DD	
8	オシダ科	リョウトウイタチシダ <i>Dryopteris kobayashii</i>	DD	
9	オシダ科	イヌイワイタチシダ <i>Dryopteris saxifragivaria</i>	DD	

種子植物 (90 種)

	科名	種名 和名 学名	RDB 2019	環境省 RL2020
1	ウマノスズクサ科	アリマウマノスズクサ (ホソバウマノスズクサ) <i>Aristolochia shimadae</i>	DD	
2	ウマノスズクサ科	ウスバサイシン <i>Asarum sieboldii</i>	DD	
3	サトイモ科	コウライテンナンショウ <i>Arisaema peninsulae</i>		
4	サトイモ科	カントウマムシグサ <i>Arisaema serratum</i>		
5	トチカガミ科	クロモ <i>Hydrilla verticillata</i>		
6	トチカガミ科	トリゲモ <i>Najas minor</i>		VU
7	トチカガミ科	オオトリゲモ <i>Najas oguraensis</i>	DD	
8	ヒルムシロ科	センニンモ <i>Potamogeton maackianus</i>		
9	イヌサフラン科	ヒメホウチャクソウ <i>Disporum sessile</i> var. <i>minus</i>		
10	ラン科	アキタスズムシソウ <i>Liparis longiracemosa</i>		
11	ラン科	クモイジガバチ <i>Liparis truncata</i>		CR
12	ラン科	ムカゴサイシン <i>Nervilia nipponica</i>		EN
13	ラン科	ヒメフタバラン <i>Neottia japonica</i>	DD	
14	ラン科	コケイランモドキ <i>Oreorchis coreana</i>		
15	クサスギカズラ科	ヒュウガナルコユリ <i>Polygonatum falcatum</i> var. <i>hyugaense</i>		
16	ガマ科	オオミクリ <i>Sparganium coreanum</i>		VU
17	ホシクサ科	ツクシクロイヌノヒゲ <i>Eriocaulon kiusianum</i>		VU
18	イグサ科	オカスズメノヒエ <i>Luzula pallidula</i>	DD	
19	カヤツリグサ科	ウキヤガラ <i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>		
20	カヤツリグサ科	リュウキュウスゲ <i>Carex alliiformis</i>	DD	
21	カヤツリグサ科	コカンスゲ <i>Carex reinii</i>	DD	
22	カヤツリグサ科	ジングウスゲ <i>Carex sacrosancta</i>	DD	NT
23	カヤツリグサ科	クロミノハリイ <i>Eleocharis atropurpurea</i>	DD	CR
24	カヤツリグサ科	オオヌマハリイ <i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	DD	
25	カヤツリグサ科	チャボイ <i>Eleocharis parvula</i>		VU
26	カヤツリグサ科	オノエテンツキ <i>Fimbristylis fusca</i>	DD	VU
27	イネ科	アカヒゲガヤ <i>Heteropogon contortus</i>		EN
28	イネ科	アオネザサ <i>Pleioblastus humilis</i>	DD	
29	イネ科	アズマザサ <i>Sasaella ramosa</i> var. <i>remosa</i>	DD	
30	イネ科	クマナリヒラ <i>Semiarundinaria fortis</i>		
31	イネ科	ヤシャダケ <i>Semiarundinaria yashadake</i>	DD	
32	イネ科	ヒゲシバ <i>Sporobolus japonicus</i>	DD	
33	マツモ科	マツモ <i>Ceratophyllum demersum</i>	VU	
34	マツモ科	ヨツバリキンギョモ <i>Ceratophyllum platyacanthum</i> subsp. <i>oryzeturum</i>	DD	
35	ケシ科	ホザキケマン <i>Corydalis racemosa</i>	DD	
36	メギ科	オオバメギ <i>Berberis tschonoskyana</i>	NT	
37	キンボウゲ科	ヒキノカサ <i>Ranunculus ternatus</i> var. <i>ternatus</i>	DD	VU
38	キンボウゲ科	イシヅチカラマツ <i>Thalictrum minus</i> var. <i>yamamotoi</i>		EN
39	キンボウゲ科	タマカラマツ <i>Thalictrum watanabei</i>		VU
40	ベンケイソウ科	マルバマンネングサ <i>Sedum makinoi</i>		
41	マメ科	チョウセンニワフジ <i>Indigofera kirilowii</i>	DD	CR
42	マメ科	ウジランダ <i>Mucuna macrocarpa</i>		
43	バラ科	ヤマブキシヨウマ <i>Aruncus dioicus</i> var. <i>kamtschaticus</i>		
44	バラ科	カスミザクラ <i>Cerasus leveilleana</i>	CR	
45	バラ科	ツルキジムシロ <i>Potentilla stolonifera</i> var. <i>stolonifera</i>	DD	
46	イラクサ科	ニオウヤブマオ (オニヤブマオ) <i>Boehmeria holosericea</i>	DD	
47	イラクサ科	キミズモドキ (注: ケイタオミズ) <i>Pellionia keitaensis</i>	CR	
48	ブナ科	マデバシイ <i>Lithocarpus edulis</i>	NT	
49	ニシキギ科	ニバナクロツル <i>Tripterygium doianum</i>	DD	VU
50	トウダイグサ科	ニシキソウ <i>Euphorbia humifusa</i>		
51	トウダイグサ科	イワタイゲキ <i>Euphorbia jolkinii</i>		
52	トウダイグサ科	アソタイゲキ <i>Euphorbia pekinensis</i> subsp. <i>asoensis</i>	DD	EN
53	アマ科	マツバニンジン <i>Linum stelleroides</i>	DD	CR
54	オトギリソウ科	アゼオトギリ <i>Hypericum oliganthum</i>	DD	EN
55	タデ科	ヒメタデ <i>Persicaria erectominor</i> s.l.	DD	VU
56	タデ科	ナガバナウナギツカミ <i>Persicaria hastatosagittata</i>	DD	NT
57	タデ科	ホソバナウナギツカミ <i>Persicaria praetermissa</i>		
58	タデ科	スカボタデ <i>Persicaria taquetii</i>	DD	VU
59	タデ科	ネバリタデ <i>Persicaria viscofera</i> s.l.		
60	ナデシコ科	ヤンバルハコベ <i>Drymaria diandra</i>	DD	
61	ナデシコ科	ハマツメクサ <i>Sagina maxima</i>	DD	
62	ヒユ科	カワラアカザ <i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>	DD	
63	ツリフネソウ科	エンシュウツリフネソウ <i>Impatiens hypophylla</i> var. <i>microhypophylla</i>	DD	EN
64	サクラソウ科	ノジトラノオ <i>Lysimachia barystachys</i>	CR	VU

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
65	サクランソウ科	モロコシソウ	<i>Lysimachia sikokiana</i>		
66	ツツジ科	コケモモ	<i>Vaccinium vitis-idaea</i>	DD	
67	オオバコ科	トウオオバコ	<i>Plantago japonica</i>		
68	シソ科	ニシキゴロモ	<i>Ajuga yesoensis</i> var. <i>yesoensis</i>	DD	
69	シソ科	ヤマクルマバナ	<i>Clinopodium chinense</i> subsp. <i>glabrescens</i>		
70	シソ科	ヒメキシワタ	<i>Matsumurella tuberifera</i>	DD	VU
71	シソ科	ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i> var. <i>japonica</i>	DD	NT
72	ハマウツボ科	キュウシュウコゴメグサ	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i> var. <i>kiusiana</i>	DD	
73	ハマウツボ科	タチコゴメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i> var. <i>maximowiczii</i>		
74	モチノキ科	ツゲモチ	<i>Ilex goshiensis</i>	DD	
75	キキョウ科	モイワシヤジン (マンシュウツリガネニンジン)	<i>Adenophora pereskiifolia</i>	DD	
76	ミツガシワ科	ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	DD	NT
77	キク科	ミヤマヨメナ	<i>Aster savatieri</i> var. <i>savatieri</i>	DD	
78	キク科	ヤマシロギク (イナカギク)	<i>Aster semiamplexicaulis</i>		
79	キク科	センダングサ	<i>Bidens biternata</i> var. <i>biternata</i>		
80	キク科	ノジギク	<i>Chrysanthemum japonense</i> var. <i>japonense</i>	EN	
81	キク科	クサノオウバノギク	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>		VU
82	キク科	ウスベニガナ	<i>Emilia sonchifolia</i> var. <i>javanica</i>		
83	キク科	オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	NT	
84	キク科	ホソバニガナ	<i>Ixeridium beauverdianum</i>	DD	EN
85	キク科	タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	DD	VU
86	キク科	モミジコウモリ	<i>Japonicalia kiusiana</i>	DD	NT
87	キク科	コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>	DD	
88	キク科	オオダイトウヒレン	<i>Saussurea nipponica</i>		
89	キク科	タイキンギク	<i>Senecio scandens</i>	DD	NT
90	セリ科	ミヤマノダケ	<i>Angelica cryptotaeniifolia</i> s.l.		CR

要注目種 (AN) 【6種】

種子植物 (6種)

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	カヤツリグサ科	タイワンスゲ	<i>Carex formosensis</i>	AN	VU
2	イネ科	キリシマノガリヤス	<i>Deyeuxia autumnalis</i>	NT	CR
3	ユキノシタ科	ツクシチャルメルソウ	<i>Asimetellaria kiusiana</i>	AN	NT
4	キク科	アソノコギリソウ	<i>Achillea alpina</i> subsp. <i>subcartilaginea</i>	AN	NT
5	キク科	ヒロハヤマヨモギ	<i>Artemisia stolonifera</i>	AN	NT
6	キク科	ホソバオグルマ	<i>Inula linariifolia</i>	AN	VU

コケ植物

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1		オニゴケ	<i>Pseudospiridentopsis horrida</i>	CR	CR+EN
2		キャラハゴケモドキ	<i>Taxiphyllopsis iwatsukii</i>	CR	CR+EN
3		ヒカリゼニゴケ	<i>Cyathodium cavernarum</i>	CR	CR+EN

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【4種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1		コキシシッポゴケ	<i>Seligeria pusilla</i>	EN	CR+EN
2		ホソヒモゴケ	<i>Meteorium papillarioides</i>	EN	CR+EN
3		ヒメタチヒラゴケ	<i>Homaliadelphus targionianus</i> var. <i>rotundatus</i>	EN	CR+EN
4		コモチイチイゴケ	<i>Isopterygium propaguliferum</i>	EN	CR+EN

絶滅危惧 II 類 (VU) 【4種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1		タイワントラノオゴケ	<i>Taiwanobryum speciosum</i>	VU	VU
2		ムチエダイトゴケ	<i>Haplohymenium flagelliforme</i>	VU	VU
3		オオミツヤゴケ	<i>Entodon conchophyllus</i>	VU	VU
4		オオサナダゴケ	<i>Plagiothecium neckeroideum</i>	VU	VU

準絶滅危惧 (NT) 【9種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1		オオミズゴケ	<i>Sphagnum palustre</i>	NT	
2		クマノゴケ	<i>Diphyscium lorifolium</i>	NT	NT
3		トガリミミゴケ	<i>Calyptothecium hookeri</i>	NT	
4		ヒロハシノブイトゴケ	<i>Trachycladiella aurea</i>	NT	NT
5		セイナンヒラゴケ	<i>Neckeropsis calcicola</i>	NT	
6		キブリハネゴケ	<i>Pinnatella makinoi</i>	NT	NT
7		コキジノオゴケ	<i>Cyathophorum hookerianum</i>	NT	NT
8		コウライイチイゴケ	<i>Taxiphyllum alternans</i>	NT	
9		イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i>	NT	NT

2. 藻類

(1) 調査方法

海藻類については、RL2014 の踏襲にとどまった。顕微鏡的な微小藻類を除き、肉眼的な大きさの種を調査対象とし、「日本海藻誌」「新日本海藻誌」に記載されていて熊本県が分布域に入っている種、及び2、3の研究報告で県内産として取り上げられた種について、海藻類の一覧表を作成した。それらのうち、産出が稀、極めて稀と記載された種や、水産資源保護協会の「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料」及び環境省の RDB で希少な種として記載されている種を参考にして、調査候補種を選定した。

淡水藻類については、県内の産地が国の天然記念物に指定されている3種と、分布が全国的に局限された5種を調査対象とした。

(2) 産地情報の採用基準

産地情報については、現地調査のみを採用した。

(3) 調査結果の概要

県内に産する海藻類は、緑藻植物 43 種、褐藻植物 66 種、紅藻植物 153 種の、計 262 種が確認されている。これらのうち、褐藻ケベリグサ、紅藻イチマツノリ及びヒラミリンをカテゴリー外とした。

県下の淡水藻類については、RDB1998 発行後調査が進められている。これらのうち、藍藻アシツキをカテゴリー外とした。

(4) RDB2019 との比較

情報不足 (DD) からケベリグサ、イチマツノリ、ヒラミリン、アシツキを削除した。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

ケベリグサ 情報不足 (DD) →カテゴリー外

都道府県レベルでケベリグサを入れているのは熊本県だけであり、掲載された経緯が不明のためリストから削除した。

イチマツノリ 情報不足 (DD) →カテゴリー外

掲載された経緯が不明のためリストから削除した。

ヒラミリン 情報不足 (DD) →カテゴリー外

掲載された経緯が不明のためリストから削除した。

アシツキ 情報不足 (DD) →カテゴリー外

掲載された経緯が不明のためリストから削除した。

(6) 今後の課題

検討委員が県外在住のために、海藻類については生育の現地確認が十分できないままであり、情報収集不足は否めない。さらなる情報を収集する必要がある。一方、淡水藻類については、県内在住の検討委員が生育状況を把握でき、多くの場所で生育確認ができている。

近年、リストに掲載されているチャイロカワモズクの学名はヨーロッパに産するもので、日本には生えていないだろうという見解が主流派となっている。また、国内で「チャイロカワモズク」と呼ばれてきたものが複数種で構成されていることが分かってきているため、今後の調査次第では、和名と学名に変更が生じる可能性がある。

RL2024 には、シャジクモ類やフラスコモ類の記載が無いため、今後情報収集を進め、リストへの掲載を目指したい。

(7) レッドリスト

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ウシケノリ科	アサクサノリ	<i>Pyropia tenera</i>	CR	CR+EN
2	チスジノリ科	オキチモズク	<i>Nemalionopsis tortuosa</i>	CR	CR+EN
3	クロオコックス科	スイゼンジノリ	<i>Aphanothece sacrum</i>	CR	CR

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【1種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	チスジノリ科	チスジノリ	<i>Thorea okadae</i>	EN	VU

絶滅危惧 II 類 (VU) 【1種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	オオイシソウ科	オオイシソウ	<i>Compsopogon caeruleus</i>	VU	VU

準絶滅危惧 (NT) 【2種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	カワモズク科	チャイロカワモズク	<i>Sheathia arcuata</i>	NT	NT
2	カワモズク科	アオカワモズク	<i>Virescentia helminthosa</i>	NT	NT

情報不足 (DD) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	カサノリ科	ホソエガサ	<i>Acetabularia caliculus</i>	DD	CR+EN
2	ミリン科	アマクサキリンサイ	<i>Mimica amakusaensis</i>	DD	NT
3	カワノリ科	カワノリ	<i>Prasiola japonica</i>	DD	VU

3. 哺乳類

(1) 調査方法

これまでに熊本県内で確認されている野生の陸生哺乳類は、RDB2019に掲載された7目19科49種に加え、モリアブラコウモリとニホンウサギコウモリの2種が増え、7目19科51種(亜種)であった。これらの中から、外来生物やペット由来のイヌやアライグマ、イエネコ、クリハラリス、ヌートリア、アナウサギを除く45種を評価した。

RDB2019発行以降に実施した主な補完調査の対象種は、RDB2019に掲載された24種である。加えて、本県では確認されていないが、九州を含む西日本で生息が確認されている種についても情報収集に努めた。

RDB2019発行以降に実施した主な補完調査は以下の通りである。

① コウモリ生息確認調査

洞窟性及び、森林性コウモリ類の調査に力を注いでいる。調査地は洞窟や隧道、森林地帯の林内や河川上、家屋の天井裏やビルの隙間、新幹線高架などである。調査方法はカスミ網やハーブトラップ、捕虫網、手取りによる捕獲、ニホンコテングコウモリ(RDB2019ではコテングコウモリと表記)確認用アカメガシワトラップの設置などである。近年、コウモリの発する音声を自動的に録音する装置や音声解析ソフトが入手しやすくなったことから、従来のバットディテクターに加えてそれらを調査に用いている。これにより、調査効率が格段に良くなった。なお、一部の種では音声による種の判別が可能だが、ヒナコウモリ科の音声は判別が困難な種が多い。

② 樹上性小型哺乳類生息調査

巣箱自動撮影調査を実施した。樹木の幹に巣箱を設置し、それに向けて自動撮影カメラを設置するという方法である。主な対象はヤマネとニホンモモンガである。

③ カワネズミ確認調査

河川上流部の清流に生息する本種は、糞場の確認後にかご罠による捕獲や自動撮影カメラの設置による生息確認調査を行った。

④ ニホンカモシカ自動撮影調査

ニホンカモシカは生息数が急激に減少しているため、目視はもちろん糞塊による生息確認が困難になっている。そこで、自動撮影カメラを用いた調査を継続している。

⑤ 既存資料調査

公開されている文献や関係者からの聞き取りなどによる情報収集に努めている。さらに、環境アセスメントや河川水辺の国勢調査、保護林モニタリング調査などのデータを事業所や行政機関から提供いただいている。

(2) 産地情報の採用基準

検討委員及び調査員による現地調査結果、及び信頼できる文献情報(環境アセスメント調査結果等を含む)を採用した。

(3) 調査結果の概要

① コウモリ類生息調査

洞窟や隧道における目視や捕獲の調査ではクロホオヒゲコウモリやニホンコテングコウモリ、テングコウモリ、ノレンコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリの生息が確認された。森林地帯での林内や河川上では、クロホオヒゲコウモリやニホンコテングコウモリ、テングコウモリ、ノレンコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、さらに九州初確認となるモリアブラコウモリが捕獲された。新幹線高架の隙間をねぐらにするコウモリとしてはヒナコウモリやオヒキコウモリが確認された。天草地区では島嶼でオヒキコウモリが、市街地の民家やビルの隙間ではヒナコウモリが確認された。アカメガシワトラップを設置した菊池溪谷一帯ではニホンコテングコウモリが確認された。熊本城天守閣周辺を飛翔するオヒキコウモリは、平成28年(2016年)4月の熊本地震後も引き続き生息が確認されている。ただ、石垣修復工事の進捗が本種のねぐらに影響する可能性もあり、留意が必要である。九州では大分県のみで生息が確認されていたニホンウサギコウモリは、過去に

計画された滞留型川辺川ダム工事関連の環境調査においてダム建設予定地近郊で確認されていることが公表された。ただし、1例のみでその後は全く情報が得られていない。

② 樹上性小型哺乳類生息調査

高森町の祖母山登山道周辺の二次林で実施し、ヤマネとニホンモモンガが確認された。

③ カワネズミ確認調査

菊池市から阿蘇市にまたがる菊池溪谷と八代市泉町で調査を実施し、菊池溪谷において生息が確認された。

④ ニホンカモシカ自動撮影調査

RDB 補完調査としては平成 23 年（2011 年）から調査を始め、現在は山都町内大臣溪谷と高森町下切、高森町清栄山周辺に設置し、いずれの地点でも撮影されている。多くのカメラを設置している下切地区ではニホンカモシカのペアや親子の撮影もあり、県内においてある程度安定した生息地である可能性が高い。しかし、くくり罠によるものと思われる前肢欠損個体の確認や錯誤捕獲もあり、有効な保全策が必要となっている。

⑤ 既存資料調査

県内の各種開発行為等における環境アセスメント法や熊本県環境影響評価条例に基づいた環境調査、国土交通省が実施した「河川水辺の国勢調査」、及び森林管理局が実施する国有林における保護林モニタリング調査の結果について、県自然保護課を通して閲覧した。県 RDB 対象種のニホンジネズミ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ムササビ、カヤネズミなどの情報が得られた。また、特定外来生物のアライグマの生息情報が県北部から得られた。

(4) RDB2019 との比較

産業構造の変化や林業不振は農山村の高齢化や過疎化を招き、中山間地域の活力の衰退が進んでいる。このことが里山や草原、人工林の荒廃につながっている。また、ニホンジカ個体群の増大は過剰な採食が林床植生の大規模な消失を引き起こし、森林生態系の不可逆的な変化が進んでいる。これらは、各哺乳類の生息地にも大きな変化をもたらしている。特定外来生物については、宇土半島におけるクリハラリスは効果的な捕獲が進み、根絶の見込みが高くなっている。一方、アライグマは県北や県央における生息域の拡大が続いており対策の強化が課題である。

評価対象となった陸生哺乳類 45 種のうち、22 種を熊本県における保護上重要な種として選定し、カテゴリー区分をした。また、要注目種（AN）として 4 種を選定した。

絶滅種（EX）には引き続きオオカミとツキノワグマ、ニホンカワウソを選定した。

野生絶滅種（EW）には該当種はなかった。

絶滅危惧 IA 類（CR）には引き続きヒメヒミズとクロホオヒゲコウモリ、ニホンカモシカを選定した。

絶滅危惧 IB 類（EN）には引き続きニホンモモンガを選定した。

絶滅危惧 II 類（VU）には引き続きテングコウモリ、ニホンコテングコウモリ、ニホンイタチを選定した。また、ノレンコウモリとオヒキコウモリを絶滅危惧 IB 類（EN）から、ヒナコウモリを情報不足（DD）からカテゴリーを変えて選定した。

準絶滅危惧（NT）には引き続きムササビとヤマネ、カヤネズミ、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリを選定した。

情報不足（DD）には引き続きヤマコウモリを選定した。また、新たにニホンウサギコウモリとモリアブラコウモリを選定した。

絶滅のおそれのある地域個体群（LP）には該当種はなかった。

要注目種（AN）には引き続きスミスネズミとハタネズミ、ニホンジネズミを選定した。また、モモジロコウモリを準絶滅危惧（NT）からカテゴリーを変えて選定した。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

ヒナコウモリ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

全国に分布するが西日本からの採集記録は少ない。県内では昭和 42 年 (1967 年) 小川町での捕獲記録があるだけで、その後の調査でも生息情報は得られていないことから RDB1998 では情報不足としていた。その後、他県において新幹線高架の隙間でコロニーが発見される事例が複数報告され、本県でも調査を実施したところ県央部でコロニーが確認された。さらに、天草市においては市街地の複数の建造物及び橋梁をねぐらにするコロニーが発見されたが、その一部については駆除作業が実施されている。また、県央部の新幹線高架及び天草市では出産保育集団が確認され、県内各地において本種と推定される音声記録されている。以上から、情報不足から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

ノレンコウモリ 絶滅危惧Ⅰ類 (EN) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

県内では昭和 59 年 (1984 年) に熊本市の防空壕で 2 頭が確認された後、情報が得られていなかった。その後の RDB 補完調査により、洞窟や隧道等における確認箇所が県内 15 箇所以上となり、ねぐらとなる洞窟が分布する自然林等ではある程度広範囲に分布していると推定される。一方、出産保育が確認された洞窟が少ないことや、冬眠期のねぐらが全く確認されていないなどの懸念材料も残されている。以上から、絶滅危惧Ⅰ類 (EN) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

オヒキコウモリ 絶滅危惧Ⅰ類 (EN) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

RDB1998 作成段階では、熊本市内で 2 例 (昭和 39 年 (1964 年))、阿蘇郡で 1 例 (昭和 56 年 (1981 年)) の、いずれも単独で偶然発見された報告のみで、情報不足としていた。RDB 補完調査において、熊本城天守閣上空を飛翔する複数個体が本種と確定されたため、RL2014 において絶滅危惧Ⅰ類 (EN) に変更された。

その後、県央から県南の新幹線高架の複数箇所で確認された。さらに音声記録装置や解析ソフトの普及により、天草西海岸や県央から県南にかけての広い範囲で本種の音声を確認されるようになった。一方、季節的な生息場所の移動が推定されるなど生態に不明な点が多い。さらに、熊本地震によって崩壊した熊本城の石垣復旧工事の影響により、ここをねぐらとする個体が影響を受ける可能性もある。以上の点を総合的に判断し、絶滅危惧Ⅰ類 (EN) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

モリアブラコウモリ 情報不足 (DD) 新規

本種はこれまで本州及び四国で確認されている。令和 3 年 (2021 年) の RDB 補完調査において山江村の発達した二次林で捕獲され、これは九州での初記録である。その後の調査で八代市でも 2 頭が捕獲された。本種と思われる音声は自然林が広がっている地域で記録されているが、捕獲による確実な確認はできていないため、評価するだけの情報が不足している。

ニホンウサギコウモリ 情報不足 (DD) 新規

本種は西日本での確認が少なく、九州においては大分県のみで確認されていた。流水型川辺川ダム建設計画に伴い、過去の滞留型川辺川ダム建設計画時の環境調査結果を含む環境配慮レポートが令和 4 年 (2022 年) に公表されたが、その中にニホンウサギコウモリ生息の情報が記されている。現在、熊本県内における本種の生息情報はこれのみであり、評価するだけの情報が不足している。

モモジロコウモリ 準絶滅危惧 (NT) → 要注目種 (AN)

県内では森林地帯の 20 以上の自然洞や人工洞で確認されており、森林内の河川上で目撃や捕獲情報が蓄積され、広い範囲で生息していることが明らかになった。一方、隣接他県では絶滅危惧のいずれかのカテゴリーに選定されていることや、出産保育が確認された場所は少なく、存続基盤の変化により絶滅危惧に移行する可能性がある。以上から、準絶滅危惧 (NT) から要注目種 (AN) に変更した。

(6) 今後の課題

RDB1998 発行後、県内における哺乳類相の解明のために補完調査を継続して実施してきた。それにより新たな種が確認されたり、各種の生息状況が徐々に明らかになってきた。一方、現段階においても生息状況の把握が十分ではない種も多く、以下の課題が残されている。

- ① コウモリ類については RDB2019 以降に 2 種の生息が追加確認されたが、今後も新たな種が確認される可能性がある。また、防空壕や隧道などの人工洞は人の手によって環境を改変される可能性が高く、特に希少種が繁殖や冬眠等に利用する洞の保全が必要である。情報不足 (DD) とした 3 種 (ヤマコウモリ、ニホンウサギコウモリ、モリアブラコウモリ) については、生息情報の収集に特に力を入れる必要がある。また、熊本城天守閣周辺で活動するオヒキコウモリは、城の石垣をねぐらにしている可能性が高い。平成 28 年 (2016 年) の熊本地震による石垣崩壊後も生息が確認されているが、その後の天守閣や石垣の復旧工事がここをねぐらとする個体に影響を与える可能性があり、留意が必要である。なお、新たな調査手法として音声分析による種判別の導入を目指しているが、現段階では一部の種に限られる。
- ② ニホンカモシカは増加したニホンジカとの餌資源をめぐる競合等を受けて激減し、絶滅の危険が増大している。今後の継続的な分布調査とともに、絶滅を回避するための積極的な保護対策が緊急に必要である。
- ③ ヤマネとニホンモモンガは小型で夜行性であることからその姿を見る機会は少なく、現在最も有効なのは巣箱自動撮影調査である。この方法によって分布状況が徐々に明らかになってきた。県内における分布の規定要因を明らかにすることが課題で、今後も分布状況の未確認地域で調査を実施する必要がある。
- ④ ムササビは里山を代表する哺乳類であるが、生息地の分断で遺伝的な孤立が懸念されている。本種の生息には営巣・繁殖に利用する樹洞が必要で、そのような木が育つ森林の広がり確保したり、コリドーによって社寺林や屋敷林、里山の連続性を向上させたりすることが重要である。このような視点に立った分布調査と生息地保全活動が望まれる。
- ⑤ 約 20 年前の全県的なロードキル個体の調査の結果、ニホンイタチは分布している地域に限られ、外来生物のシベリアイタチは全県的に生息域が拡大していた。その後の状況は把握されていない。目撃や映像での区別は困難なため、捕獲や死体拾得で得られた個体の DNA 判別となる。早期に分布の把握が必要である。
- ⑥ ヒメヒミズについては、分布と生息数の把握のため、九州中央山地と祖母傾山系での調査を継続する必要がある。
- ⑦ ニホンリスは平成 6 年 (1994 年) に狩猟鳥獣から除外されたが、それまでの狩猟報告にはリス類の記録が掲載されている。しかし、ニホンモモンガやヤマネ、外来生物のクリハラリスが誤認されている可能性があり、ニホンリスの生息を示す信頼できる情報とは言えない。また、これまでの補完調査で捕獲や目撃等が全くない。したがって、現段階ではニホンリスが生息している (した) 事を示す確かな証拠は得られていない。つまり、どのカテゴリー区分にも選定できないため引き続き「保留」として扱う。
- ⑧ 県下の神社などには、ニホンカワウソの前肢が「カップ」の手と称して保管されている可能性があり、その情報を確認する必要がある。
- ⑨ 要注目種のスミスネズミとハタネズミはその判別や生息確認に熟練が必要であり、生息情報が得にくい。そのスキルを高めて調査を行う必要がある。
- ⑩ カワネズミは痕跡 (糞場) の確認により生息の有無が可能であり、この方法で各地の河川における生息情報を収集する。
- ⑪ 外来生物の情報収集と対策も重要である。特定外来生物であるクリハラリスは平成 20 年 (2008 年) に宇城市で野生化個体群が発見されたが、その後の対策が功を奏して駆除が進み、根絶が見込める状況になった。引き続き確実な根絶に向けた捕獲やモニタリングを続ける必要がある。また、アライグマは県北地域において確実に定着し、県央での情報も増えている。また、県南部でも数例の情報が得られた。早急に実効性のある対策に取り組む必要がある。ニホンイタチを駆逐し続けているシベリアイタチについても情報収集と対策の構築が望まれる。ハクビシンは確実な生息情報が得られていない。
- ⑫ 開発事業等で実施される各種の環境アセスメントの情報や行政が実施している環境調査のデータを極力入手し、評価に必要な基礎データとする。

(7) レッドリスト

絶滅 (EX) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	イヌ科	オオカミ	<i>Canis lupus</i>	EX	EX
2	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	EX	
3	イタチ科	ニホンカワウソ	<i>Lutra nippon</i>	EX	EX

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	モグラ科	ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>	CR	
2	ヒナコウモリ科	クロホオヒゲコウモリ	<i>Myotis pruinus</i>	CR	VU
3	ウシ科	ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	CR	LP

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【1種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	リス科	ニホンモンガ	<i>Pteromys momonga</i>	EN	

絶滅危惧 II 類 (VU) 【6種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	DD	
2	ヒナコウモリ科	ノレンコウモリ	<i>Myotis bombinus</i>	EN	VU
3	ヒナコウモリ科	テングコウモリ	<i>Murina hilgendorfi</i>	VU	
4	ヒナコウモリ科	ニホンコテングコウモリ	<i>Murina silvatica</i>	VU	
5	オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ	<i>Tadarida insignis</i>	EN	VU
6	イタチ科	ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	VU	

準絶滅危惧 (NT) 【6種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	トガリネズミ科	カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephalus</i>	NT	LP
2	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	NT	
3	ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>	NT	
4	ヤマネ科	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>	NT	
5	ネズミ科	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	NT	
6	リス科	ムササビ (ホオジロムササビ)	<i>Petaurista leucogenys</i>	NT	

情報不足 (DD) 【3種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	DD	VU
2	ヒナコウモリ科	モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i>		VU
3	ヒナコウモリ科	ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus sacrimontis</i>		

要注目種 (AN) 【4種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	トガリネズミ科	ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	AN	
2	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	NT	
3	キヌゲネズミ科	スミスネズミ	<i>Craseomys smithii</i>	AN	
4	キヌゲネズミ科	ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	AN	

4. 鳥類

(1) 調査方法

検討対象種について、検討委員及び調査員による現地調査を行った。また、その他の種については、必要に応じて随時現地調査を行い、データの積み重ねを行った。さらに、検討委員及び調査員による補完調査でも元々の飛来数が少なく、発見が困難な種については、日本野鳥の会熊本県支部が行う観察会などにおける出現種の評価を行い採用した。その他、これまで検討しなかった新たな文献についても調査を行った。

(2) 産地情報の採用基準

産地情報は、調査員による現地調査による記録の他、客観的に判断できる生態写真及びはく製や羽毛標本、複数の観察者による目撃情報があるものについて採用した。

(3) 調査結果の概要

RL2024 では、1 科 1 種の絶滅 (EX)、14 科 16 種の絶滅危惧 IA (CR)、15 科 24 種 (亜種) の絶滅危惧 IB (EN)、13 科 19 種の絶滅危惧 II 類 (VU)、15 科 20 種の準絶滅危惧 (NT) 及び情報不足 (DD) の 5 科 5 種の合計 39 科 85 種と絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) 2 科 2 種を選定した。さらに、今後の個体群の動態を見極める必要がある要注目種 (AN) として 12 科 19 種を選定した。すべての種を合わせると、41 科 106 種になる。

(4) RDB2019 との比較

RDB2019 から比べると大幅に掲載種が増加している。特に、新たにコガラとゴジュウカラが絶滅危惧 II 類 (VU) に選定されたが、その理由は、九州中央山地の落葉広葉樹林の衰退が大きく影響していると考えられる。この冷温帯域に生育するブナ林は日本の南限に位置するもので、メボソムシクイやコマドリ、キバシリ、ゴジュウカラ、コガラ、ホシガラスなど、繁殖の南限と考えられる貴重な個体群が生息する地域である。ブナ林を含む九州中央山地の広葉樹林の衰退が進むことにより、貴重な個体群の減少傾向は続いていくものと考えられる。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

ウズラ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

かつては阿蘇の原野などで繁殖していたが、現在では繁殖個体群は見られなくなった。越冬個体群が、大河川の河川敷の草地や農耕地にわずかに渡来するのみである。

アカヤマドリ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

概ね県北の、林床植生の豊かな、標高 1,200m 程度までの自然林や人工林などに留鳥として生息する。近年は、イノシシやニホンジカの増加で、林床植生が破壊されて、ほとんど姿が見られなくなった地域もある。

コシジロヤマドリ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

概ね県南の、林床植生の豊かな、標高 1,200m 程度までの自然林や人工林などに留鳥として生息する。近年は、イノシシやニホンジカの増加で、林床植生が破壊されて、ほとんど姿が見られなくなった地域もある。

オオヒシクイ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として少数が農耕地や沿岸地域に渡来する。県内では、特に沿岸域で散発的に観察されているが、これまで、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイを区別せずに記録していた時間が長くあったので、今後は識別に注意して記録していくことが必要である。

ヒシクイ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として少数が農耕地や沿岸地域に渡来する。県内では、特に沿岸域で散発的に観察されているが、これまで、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイを区別せずに記録していた時間が長くあったので、今後は識別に注意して記録していくことが必要である。

マガン 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として少数が農耕地や沿岸地域に渡来する。県下各地、特に沿岸域で散発的に観察されているので、今後も注視が必要である。

カリガネ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として、有明海沿岸域や農耕地、江津湖などで記録されている。他のガン類やカモ類と一緒にいることが多い。

アカツクシガモ 要注目種 (AN) 新規

まれな冬鳥として、県下各地の沿岸域や大河川、江津湖などで記録されている。単独もしくは2～3羽で見られることが多く、6羽で飛来したこともある。

オシドリ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として、県下各地の樹林に囲まれたため池や河川、ダム湖などに渡来する。1度だけ、ダム湖で親鳥に連れられた幼鳥が観察されたことがある他、河川の上流域やダム湖で越夏する個体も観察されており、県内での繁殖の可能性が考えられる。

トモエガモ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

かつては、冬鳥として内陸の河川や湖沼などに、少数が飛来するだけであったが、近年は数千から数万の単位で、特に不知火海の河口域などで確認されている。IUCN の個体群動態でも増加傾向にあるとされており、LC にカテゴライズされている。

アカハジロ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥として、淡水のため池や河川などに渡来する。単独で飛来することが多いが、近年、記録される頻度が高くなっている。

コウノトリ 要注目種 (AN) 新規

1960 年代、70 年代、80 年代、90 年代に各 1 回ずつの秋から冬の記録がある。その後しばらく途絶えて、平成 25 年 (2013 年) 以降は、兵庫県における保護増殖事業による繁殖個体の飛来の記録がある。

ヒメウ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

天草西海岸及び離島に、冬鳥として少数が渡来する。ウミウに混じって見られ、最多で 30 羽以上が見られたこともあるが、多くの場合、10 羽以下である。

サンカノゴイ 要注目種 (AN) → 情報不足 (DD)

冬鳥もしくは旅鳥として、ヨシやマコモなどがよく茂った淡水の湿地に少数が渡来している。江津湖での記録がほとんどである。県下各地にも飛来しているものと推察されるが、他地域での観察例が少なく、評価するには至らない。継続的なデータの集積が求められる。

ヨシゴイ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

夏鳥として渡来し、河川敷やため池などのヨシ原で繁殖する。かつては、複数河川の河川敷で見られることもあったが、現在知られている確実な繁殖地は、1 箇所のみである。

ササゴイ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥として渡来し、県内各地の街路樹や公園樹などで繁殖する。営巣地であった河畔林の減少により、人間の生活圏内で繁殖することがほとんどで、様々な軋轢が生じており、減少傾向が続いている。

クロサギ 要注目種 (AN) 新規

留鳥として、主に県南及び天草地方の海岸域に見られる。岩礁地帯で多く見られ、島嶼部にも生息する。個体数が少ないうえに、繁殖地が限られており、沿岸域の整備等により一気に減少する可能性がある。

カラシラサギ 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

旅鳥として、主に春季に河口域や干潟に飛来し、稀に内陸の淡水域の湖沼や水田などで見られることがある。データの蓄積が進み、個体数は少ないが、定期的な渡来地の一部が判明した。

ヘラサギ 要注目種 (AN) → 準絶滅危惧 (NT)

冬鳥として、有明海や八代海の干潟に少数が渡来する。クロツラヘラサギの群れに混じることが多く、内陸の江津湖や海から離れたため池に飛来することもある。

クロツラヘラサギ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

冬鳥として、有明海や不知火海に渡来する。近年、渡来数が増えて、熊本県内で 200 羽前後が越冬するようになった。世界的に個体数が増加しており、減少傾向は改善されているものと推定される。

クロトキ 要注目種 (AN) 新規

夏から秋にかけての記録が多く、渡来時期がよく分からない。1980 年代の記録がほとんどで、昭和 56 年 (1981 年) には、越夏したことがある。2000 年代以降は、1 回の記録しかない。

クロヅル 要注目種 (AN) 新規

冬鳥としてごく稀に広大な農耕地に飛来する。他のツルの群れの中に単独で見られることが多い。ナベクロヅルと称される、ナベヅルとの雑種個体も記録されている。

シマクイナ 要注目種 (AN) 新規

冬鳥もしくは旅鳥として、ごく少数が県下各地の水湿地に渡来しているものと推察される。小型で、水草に隠れて見えないことが多く、発見が困難である。調査法を検討し、詳細な調査が必要である。

クイナ 情報不足 (DD) 新規

冬鳥として、県下各地の水湿地に渡来しているものと推察される。半夜行性のため、観察が困難で、観察事例のほとんどが江津湖に偏っている。護岸の整備や水湿地の減少に伴って渡来数も減少しているものと考えられる。

ジュウイチ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥として、九州中央山地の標高 500m 以上の、いわゆる奥山に少数が渡来する。宿主としてはオオルリが推定されるが、オオルリの個体数減少と相まって減少傾向が続いている。

ツツドリ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥として、九州中央山地や外輪山などの標高 500m 以上の林に少数が渡来する。熊本県内における宿主は不明であるが、ウグイスやヤブサメ、オオルリなどが推定される。

ケリ 要注目種 (AN) 新規

かつては稀な冬鳥として広大な農耕地にごく少数が飛来するのみであったが、平成 18 年 (2006 年) に初めての県内での繁殖が確認されて以降は、毎年のように繁殖が見られており、増加傾向にある。

ミヤコドリ 情報不足 (DD) 新規

冬鳥として、少数が有明海や不知火海沿岸に飛来する。渡来数、観察頻度とも少ないが、毎年のようにどこかの干潟では観察されているので、今後とも注視が必要である。

アオシギ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

冬鳥として、少数が山間地の河川や水路に渡来する。かつては江津湖に渡来したこともあるが、現在定期的な渡来地は数箇所に限られた場所のみと推察される。

オオジシギ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

夏鳥として、阿蘇北外輪山に少数が渡来する。昭和 59 年（1984 年）に阿蘇外輪山で生息が初めて確認され、昭和 60 年（1985 年）に繁殖が確認された。当時は、複数箇所の牧野で、ディスプレイフライトが確認されていたが、減少傾向が続き、近年は、限られた牧野でしか観察されなくなった。

コシヤクシギ 要注目種 (AN) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

旅鳥として、ごく少数が主に春の渡りの時期に、沿岸地域の農耕地や草地に渡来する。観察例が少なく、データの集積が必要である。

ダイシャクシギ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

旅鳥又は冬鳥として、有明海や八代海に渡来する。かつては、50 羽を超える群れでの飛来や越冬が観察されることもあったが、近年は、単独または数羽程度である。

ハウロクシギ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

旅鳥又は冬鳥として、有明海や八代海に渡来する。かつては、50 羽を超える群れが観察されることもあったが、近年は、単独または数羽程度である。

アカアシシギ 絶滅危惧 II 類 (VU) 新規

旅鳥として、有明海や八代海の干潟、農耕地などに少数が飛来する。秋の渡り時に多く記録されており、近年は、単独または 2～3 羽で見られる程度である。

シベリアオオハシシギ 要注目種 (AN) 新規

旅鳥として、干潟やハス田などに稀に飛来する。春の渡り時に比較的多く記録されており、単独で記録されている。

カラフトアオアシシギ 情報不足 (DD) → 要注目種 (AN)

旅鳥もしくは冬鳥として、有明海や八代海沿岸での記録があるが、定期的な渡来とは考えにくい。環境省 RL2020 (CR) や IUCN (EN) においても、減少傾向にあるとされており、本県においても注視していく必要がある。

タマシギ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥又は留鳥として、各地の低地の農耕地、特に水田や蓮田等に渡来し繁殖する。特徴的な声で、夜間に鳴くことで、生息を知ることが多かったが、近年は聞かれる場所が少なくなった。

ツバメチドリ 絶滅危惧 II 類 (VU) 新規

旅鳥として、広大な農耕地に飛来する。繁殖したこともあるが、現在では、繁殖は見られなくなった。

カモメ 準絶滅危惧 (NT) 新規

冬鳥として、有明海や八代海の沿岸域に少数が飛来していたが、近年は、ほとんど見られなくなった。IUCN によれば、世界的な増減傾向は不明であるが、経度懸念 (LC) に選定されている。

オオセグロカモメ 情報不足 (DD) 新規

冬鳥として、有明海や八代海、天草沿岸などに飛来する大型のカモメ類である。カモメ類は、年齢や亜種などの違いにより、羽衣の変化が多様であり、本県においては、十分に識別されてきたとは言い難い。今後、詳細な検討を加え、注視していくことが必要である。

ウミスズメ 要注目種 (AN) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

冬鳥として、天草西海岸沖や八代海に少数が渡来する。観察が困難で、渡来数も多くはないと考えられ、観察頻度が下がっている。

ミサゴ 情報不足 (DD) 新規

主に天草地域の沿岸域で繁殖し、周年生息するとともに、冬鳥としても各地の沿岸域に飛来する。魚食性で内陸のダム湖などに飛来することもある。IUCN によれば、増加傾向とのことであるが、海洋域の生態系上位種でもあり、環境変化の指標ともなり得る種であるので、今後とも注視していきたい。

ハチクマ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

夏鳥として、ごく少数ではあるが、県内各地の低山地の林に渡来して繁殖していた。近年は、夏季の観察例はほとんどなく、県内での繁殖はごく限られた場所・つがいのみになっているものと推定される。

ハイイロチュウヒ 準絶滅危惧 (NT) 新規

冬鳥として、広大な農耕地や草原に渡来する。近年は、ネズミ類や小鳥類などの餌動物の減少により、飛来数が少なくなっている。特に主な飛来地である阿蘇の草原面積の減少が懸念される。

ツミ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

留鳥又は夏鳥として、少数が低山地の林に渡来し繁殖する。餌となる小鳥類の減少や森林伐採などが本種の減少の要因と考えられる。

ハイタカ 準絶滅危惧 (NT) 新規

冬鳥として、農耕地や山地に少数が飛来する。餌となる小動物の減少が本種の生存危機となっているものと推察される。

サシバ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥として、少数がいわゆる谷津田と呼ばれる、山間の農耕地に渡来し繁殖する。かつては、立田山や金峰山などの熊本市内での繁殖も見られたが、現在は、市街地近郊での繁殖はほとんどなくなってしまった。餌場として利用していた水田が放棄され、遷移の進行とともに藪になったことも減少の大きな要因と考えられる。

オオコノハズク 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

かつては、留鳥または夏鳥として立田山や金峰山、大津街道杉並木など、各地で繁殖が見られていたが、近年は、ほとんど観察されることがなくなった。

フクロウ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

留鳥として、県下各地の低山地や社寺林などに生息する。近年、大径木の枯死や伐採により営巣木が少なくなり、繁殖できる環境が少なくなっている。これまでは、亜種キュウシュウフクロウとして掲載していたが、中間型があり、実態がよく分からないので、種フクロウとして記載した。

アオバズク 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

夏鳥として、社寺林や大径木のある環境に渡来する。しかし、近年、大径木が枯死したり、伐採されたりして営巣木が少なくなり、繁殖環境が少なくなっている。

ブッポウソウ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

夏鳥として、高木のある社寺林や溪谷の橋梁などで繁殖していたが、近年は、多くの社寺林で営巣木が枯死したり、伐採されたりして、現在では県内数箇所の橋梁で繁殖しているのみになった。

オオアカゲラ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

本種は、県内に生息する大型キツツキであるアオゲラより、高標高地に生息する傾向がある。特に、九州中央山地では、ニホンジカによる食害を受けて、ブナ林が衰退傾向にあり、本種の生息環境も悪化している。

シマアカモズ 要注目種 (AN) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

1970年代から1980年代にかけて、熊本市内において毎年のように繁殖が見られたが、近年では、主に渡りの時期に、農耕地でごく少数が確認されるだけとなった。今後ともデータの集積が必要である。

ホシガラス 要注目種 (AN) → 絶滅危惧ⅠA類 (CR)

九州中央山地の高標高地に、留鳥としてごく少数が生息する。しかし近年は、当該地域の山城はニホンジカによる食害でブナ林が衰退し、生息環境が極めて悪化しており、観察頻度も下がっている。

コガラ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 新規

九州中央山地の高標高地や阿蘇外輪山の上部域に、留鳥として少数が生息する。特に、近年、九州中央山地の生息域はニホンジカによる食害でブナ林が衰退し、生息環境が極めて悪化しており、観察頻度も下がっている。

コシアカツバメ 絶滅危惧ⅠB類 (EN) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

夏鳥として、県下各地の市街地に渡来する。かつて存在した、人吉市や御船町、山都町、小国町などのコロニーは一時期ほとんど消失したが、近年、小国町で300巣以上の大きなコロニーが確認されたように、一時期の減少傾向が改善された地域もある。御船町や山都町をはじめいくつかの地域では、回復していない。

ウチヤマセンニュウ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠA類 (CR)

夏鳥として渡来するが、現在では天草西海岸の一つの離島だけで生息が確認されている。個体数は少なく、生息地の面積も狭く、1～数つがい程度と推定される。イノシシの生息が確認されており、一気に生息地が消滅する可能性がある。

コヨシキリ 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) → 準絶滅危惧 (NT)

夏鳥として、阿蘇地域の外輪山上に少なからず渡来し繁殖する。高茎の草原に多い。阿蘇地域が本種の繁殖南限であり、希少な生息地として絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) としていたが、絶滅に傾いていると選定するほど少なくはないものと判断された。

ゴジュウカラ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 新規

九州中央山地の高標高地や阿蘇外輪山の上部域に、留鳥として少数が生息する。特に、近年、九州中央山地の生息域はニホンジカによる食害でブナ林が衰退し、生息環境が極めて悪化しており、観察頻度も下がっている。

キバシリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

主に九州中央山地の高標高地、およそ1,000m以上の針広混交林から夏緑樹林に、留鳥として生息する。九州中央山地では、ニホンジカによる食害を受けて、ブナ林が衰退傾向にあり、生息環境が極めて悪化しており、観察頻度も下がっている。

オオムシクイ 要注目種 (AN) 新規

平成24年(2012年)以降、種メボソムシクイからあらたな種として分けられたために、古い記録はない。野外において、目視で識別することは困難であるが、囀りが類似種と異なるため、春に記録されることが多い。

キビタキ 要注目種 (AN) → カテゴリー外

かつては、比較的標高の高い夏緑樹林で夏鳥として渡来し、繁殖していたが、九州中央山地の夏緑樹林が衰退するにつれて、低標高地の照葉樹林でも繁殖するようになった。今では県下各地の低地で比較的普通の夏鳥として、あるいは旅鳥として渡来するために、評価対象から除外することとした。

ハギマシコ 準絶滅危惧 (NT) 新規

冬鳥として、県内各地の高標高地の樹林や原野などに飛来していた。阿蘇外輪山では、毎年のように飛来していた場所でも、近年は、ほとんど観察されなくなっている。

コイカル 要注目種 (AN) → カテゴリー外

かつては、複数年に渡って熊本市内での繁殖が見られたが、近年は、旅鳥として通過または冬鳥として少数が渡来するだけにすぎなくなった。個体数も減少傾向は見られず、評価の対象から除外することとした。

ホオアカ 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) → 要注目種 (AN)

阿蘇地域に留鳥もしくは夏鳥として広く渡来し繁殖する。ホオジロと違い、薮化が進んでいない純粋な草原に多く、微環境を棲み分けているものと考えられる。本種は、阿蘇地域が繁殖の南限地としてこれまで絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) としてきたが、絶滅に傾いているとは判断できないが、阿蘇の草原を指標する貴重な種として今後も注視していく必要がある。

カシラダカ 準絶滅危惧 (NT) 新規

減少傾向にある他の多くのホオジロ科鳥類の中でも特に減少傾向が際立っている。IUCN の RL2016 年版においても絶滅危惧種Ⅱ類 (VU) に選定されている。かつては、数十羽の群れで観察されることもあったが、近年では観察頻度、飛来数とも少なくなっている。

(6) 今後の課題

九州中央山地の夏緑樹林帯は衰退の一途を辿り、高標高地に生息する鳥類の減少傾向は継続しているため、今後も注視し続けていくことが必要不可欠である。しかし、この一帯はアプローチが困難で、調査にも長時間を要するため、安全に調査できるスキルを有する調査員の確保が困難になっている。令和 5 年 (2023 年) 現在、国見岳 (1738.8m) や烏帽子岳 (1692.2m) へアプローチする道路が崩壊しており、調査が困難になっている。また、市房山では、稜線の崩壊により縦走路が閉ざされ、登山道の崩落も度々起こり、調査の継続が困難になっている。

また、島嶼域及び海洋に生息する希少鳥類の生息情報の収集も経費や調査員の確保が困難になっている。

最後に、RDB に掲載すべき鳥類の定量的な調査が出来ていない点を指摘しておきたい。つまり、定量的な調査を行うには、予算的にも調査員のスキルの向上においても、何らかの対策が必要である。

(7) レッドリスト

絶滅 (EX) 【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 カラス科	オナガ	<i>Cyanopica cyanus japonica</i>	EX	

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【16 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 キジ科	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	EN	VU
2 サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis sinensis</i>	EN	NT
3 ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus jotaka</i>	CR	NT
4 シギ科	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	EN	NT
5 シギ科	ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	CR	CR
6 タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus orientalis</i>	EN	NT
7 タカ科	イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos japonica</i>	CR	EN
8 フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus lempiji semitorques</i>	EN	
9 ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis calonyx</i>	EN	EN

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
10	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	CR EN
11	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	CR VU
12	カラス科	ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes japonica</i>	AN
13	ムシクイ科	メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	CR
14	センニュウ科	ウチヤマセンニュウ	<i>Locustella pleskei</i>	VU EN
15	ヒタキ科	コマドリ	<i>Luscinia akahige akahige</i>	CR
16	ホオジロ科	コジュリン	<i>Emberiza yessoensis yessoensis</i>	CR VU

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【24 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	キジ科	アカヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii soemmerringii</i>	VU NT
2	キジ科	コシジロヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii ijimae</i>	VU NT
3	ウ科	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus pelagicus</i>	VU EN
4	サギ科	ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	EN VU
5	サギ科	ササゴイ	<i>Butorides striata amurensis</i>	VU
6	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	VU
7	カッコウ科	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	VU
8	シギ科	アオシギ	<i>Gallinago solitaria japonica</i>	DD
9	シギ科	コシヤクシギ	<i>Numenius minutus</i>	AN NT
10	シギ科	ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	VU VU
11	タマシギ科	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis benghalensis</i>	VU VU
12	カモメ科	コアジサシ	<i>Sterna albifrons sinensis</i>	EN VU
13	ウミスズメ科	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	AN CR
14	タカ科	チュウヒ	<i>Circus spilonotus spilonotus</i>	EN EN
15	タカ科	サシバ	<i>Butastur indicus</i>	VU VU
16	フクロウ科	コノハズク	<i>Otus sunia japonicus</i>	EN
17	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	VU
18	フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata japonica</i>	VU
19	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda major</i>	EN
20	キツツキ科	オオアカゲラ	<i>Dendrocopos</i>	VU
21	モズ科	シマアカモズ	<i>Lanius cristatus lucionensis</i>	AN
22	キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris japonica</i>	VU
23	ヒタキ科	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	EN
24	ヒタキ科	コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica dauurica</i>	EN

絶滅危惧 II 類 (VU) 【19 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	カモ科	トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	EN VU
2	ハト科	カラスバト	<i>Columba janthina janthina</i>	VU NT
3	トキ科	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN EN
4	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	VU
5	チドリ科	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus dealbatus</i>	VU VU
6	シギ科	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica baueri</i>	VU VU
7	シギ科	ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata orientalis</i>	NT
8	シギ科	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	VU VU
9	シギ科	アカアシシギ	<i>Tringa totanus ussuriensis</i>	VU
10	シギ科	タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	VU VU
11	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	VU
12	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	VU VU
13	タカ科	ツミ	<i>Accipiter gularis gularis</i>	NT
14	タカ科	クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis orientalis</i>	VU EN
15	ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	VU VU
16	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata atrocaudata</i>	VU
17	シジュウカラ科	コガラ	<i>Poecile montanus restrictus</i>	
18	ツバメ科	コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica japonica</i>	EN
19	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	

準絶滅危惧 (NT) 【20 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	カモ科	ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	NT VU
2	サギ科	チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>	NT NT
3	サギ科	カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>	DD NT
4	トキ科	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia leucorodia</i>	AN DD
5	ツル科	マナヅル	<i>Grus vipio</i>	NT VU
6	ツル科	ナベヅル	<i>Grus monacha</i>	NT VU
7	クイナ科	ヒクイナ	<i>Porzana fusca erythrothorax</i>	NT NT
8	カッコウ科	カッコウ	<i>Cuculus canorus telephonus</i>	NT
9	シギ科	ハマシギ	<i>Calidris alpina sakhalina</i>	NT NT
10	カモメ科	ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	NT VU
11	カモメ科	カモメ	<i>Larus canus</i>	
12	タカ科	ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus cyaneus</i>	
13	タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i>	NT
14	タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis fuyiyamae</i>	NT NT
15	フクロウ科	コミミズク	<i>Asio flammeus flammeus</i>	NT
16	ムシクイ科	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	NT
17	ヒタキ科	オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i>	NT
18	ヨシキリ科	コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps</i>	LP
19	アトリ科	ハギマシコ	<i>Leucosticte arctica brunneonucha</i>	
20	ホオジロ科	カシラダカ	<i>Emberiza rustica latifascia</i>	

情報不足 (DD) 【5 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	サギ科	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris stellaris</i>	AN	EN
2	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus indicus</i>		
3	ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus osculans</i>		NT
4	カモメ科	オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>		NT
5	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>		NT

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) 【2 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	タカ科	ノスリ	<i>Buteo buteo japonicus</i>	LP	
2	セキレイ科	ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i>	LP	

要注目種 (AN) 【19 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	カモ科	オオヒシクイ	<i>Anser fabalis middendorffii</i>		NT
2	カモ科	ヒシクイ	<i>Anser fabalis serrirostris</i>		VU
3	カモ科	マガン	<i>Anser albifrons albifrons</i>		NT
4	カモ科	カリガネ	<i>Anser erythropus</i>		EN
5	カモ科	アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>		DD
6	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		DD
7	カモ科	アカハジロ	<i>Aythya baeri</i>		DD
8	コウノトリ科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>		CR
9	サギ科	クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>		
10	トキ科	クロトキ	<i>Threskiornis melanocephalus</i>		DD
11	ツル科	クロヅル	<i>Grus grus lilfordi</i>		DD
12	クイナ科	シマクイナ	<i>Coturnicops exquisitus</i>		EN
13	チドリ科	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>		DD
14	シギ科	シベリアオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>		DD
15	シギ科	カラフトオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>	DD	CR
16	ウミスズメ科	マダラウミスズメ	<i>Brachyramphus perdix</i>	AN	DD
17	モズ科	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	AN	CR
18	ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>		DD
19	ホオジロ科	ホオアカ	<i>Emberiza fucata fucata</i>	LP	

5. 爬虫類

(1) 調査方法

「熊本県希少野生動植物検討委員会」が設置された平成3年(1991年)以降5年をかけて、県内全域の6地域の生息状況を調査した。この調査結果にその後の補足調査の結果と文献調査、標本調査も行った。また、県内全地域で188校の小・中学校の教師・児童生徒・保護者などを対象にしたアンケート調査も行い、参考とした。さらに、過去のRL2004及びRL2014の補足調査、RDB1998、RDB2009、RDB2019の調査結果のモニタリングとRL2024作成のための補足調査を実施した。

(2) 産地情報の採用基準

現地での生息確認調査を基本にした。また、アンケート調査で得た信憑性の高い情報や信頼性の高い文献等情報も採用した。なお、生息確認は、路上死体を含む成体・幼体の目撃によって行い、ヘビ類では種の同定が可能な脱皮殻も確認記録に含めた。

(3) 調査結果の概要

県内の爬虫類は2目7科16種(亜種)である。それらのうち、カメ類の1種とヘビ類の2種を準絶滅危惧(NT)として引き続き選定した。

① ニホンイシガメ

生息確認情報は急速に減少しており、カメ類の中では最も絶滅が危惧されている。個体数の減少は、河川等の護岸工事による産卵場所の減少、外来種の侵入、水質汚濁などが影響していると考えられる。近年、クサガメとニホンイシガメの交雑種(ウンキュウ)が県内でも確認されるようになったので拡大が危惧される。

② タカチホヘビ

森林の落葉が堆積した湿気のある所で半地中性の生活をしている。落葉や朽木を除去している時に偶然に確認される。局地的に生息しているため、森林の伐採、林道工事などによる生活環境の悪化で、生息地・生息個体数ともに減少している。

③ シロマダラ

小型のヘビ類やトカゲ類を主に採餌する。民家近くで確認され、植木が多い旧家の植木鉢の下や倉庫の中で捕獲されることが多い。夜行性のために目撃される事は少ない。近年、住宅の近代化などで、生息地・個体数ともに減少している。

(4) RDB2019 との比較

調査の結果、本県における爬虫類の構成及び状況は大きく変わっていないため、RDB2019の掲載種と同様とした。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

調査の結果、本県における爬虫類の構成及び状況は大きく変わっていないため、RDB2019のカテゴリーと同様とした。

(6) 今後の課題

ニホンイシガメとクサガメは県内に広く分布するが、ミシシippアカミミガメとの競合が大きく、今後の生存競争が心配される。ニホンスッポンも県内に広く生息するが、養殖個体の逃げ出しもあり、全てが自然な状態での生息とは言い難い状況である。カメ類は寿命が長く、同一個体が数例の目撃にされることがあり、捕獲個体に標識をつけるなどの方策も検討する必要がある。

ヘビ類の生息地は食性などの生態と密接に関係している。特に準絶滅危惧(NT)に選定されている種は狭食性、夜行性、半地中性で生息確認が困難である。ジムグリ、ヤマカガシなども人の生活圏内ではほとんど見なくなった。ジムグリは半地中生活のため、土地造成などの影響を受けている。ヤマカガシは主にカエルを採餌するので、カエルの減少にともない個体数が減少している。準絶滅危惧(NT)のニホンイシガメ、タカチホヘビ、シロマダラとともに、県内に生息する爬虫類全種の確認調査の必要性を感じる。

(7) レッドリスト

準絶滅危惧 (NT)

科名		種名		RDB	環境省
		和名	学名	2019	RL2020
1	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT	NT
2	タカチホヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	NT	
3	ナミヘビ科	シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>	NT	

6. 両生類

(1) 調査方法

平成3年（1991年）から平成8年（1996年）にかけて、県内を6つの地域に分けて実施した「希少野生動植物の実情と保護方策」作成のための調査、及びRDB1998作成のための補足調査で得られた結果をもとに、絶滅のおそれのある種の選定を行った。さらに、過去のRL2004及びRL2014の補足調査、RDB2009の補足調査及びRDB2019の調査結果のモニタリングとRL2024作成のための補足調査を実施した。

(2) 産地情報の採用基準

現地での確認調査を基準にした。「希少野生動植物の実情と保護方策」作成の際に県下全域の小中学校の児童生徒から得たアンケート結果等の情報などに基づく聞き込みなどの補完調査結果では、信憑性の高いもののみ採用した。また、信頼性の高い文献などの情報も採用した。

(3) 調査結果の概要

県内の両生類は2目7科20種（亜種）である。それらのうち、絶滅危惧ⅠA類（CR）を1種、絶滅危惧ⅠB類（EN）を1種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）を1種、準絶滅危惧（NT）を10種、情報不足（DD）として2種を引き続き選定した。

- ① 絶滅危惧ⅠA類（CR）：ソボサンショウウオ（RDB2019ではオオダイガハラサンショウウオ）
- ② 絶滅危惧ⅠB類（EN）：オオイタサンショウウオ
- ③ 絶滅危惧Ⅱ類（VU）：ベッコウサンショウウオ
- ④ 準絶滅危惧（NT）：チクシブチサンショウウオ（RDB2019ではブチサンショウウオ）、コガタブチサンショウウオ、カスミサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カジカガエル
人の生活圏に生息する種が多く、土地や農地の開発や農業形態の変化などにより生息環境が破壊される状況が各地で認められる。それに伴い、生息が確認できない地点や生息個体数が急激に減少している地点が多く認められる。
- ⑤ 情報不足（DD）：アマクササンショウウオ、オオサンショウウオ

(4) RDB2019 との比較

調査の結果、本県における両生類の構成及び状況は大きく変わっていないため、RDB2019の掲載種と同様とした。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

調査の結果、本県における両生類の構成及び状況は大きく変わっていないため、RDB2019のカテゴリーと同様とした。

(6) 今後の課題

ベッコウサンショウウオについては、生息域の開発が広い範囲において進行し、生息環境の悪化が継続的に進行している。保全策等を含めた現地調査の継続が必要である。また、極めて限られた地域に生息するソボサンショウウオについては啓発などにより、伐採等の人の活動に伴う影響をできるだけ小さくすることが必要である。

オオイタサンショウウオやカスミサンショウウオ、トノサマガエルなどの人の生活圏と重なるような所に生息する種については、生息状況の変化に十分注意していく必要がある。さらに里山などの保全を図っていくことも必要であると考えられる。

アマクササンショウウオについては、平成15年（2003年）に天草においてはじめて存在が報告され、平成26年（2014年）に新種として記載された。環境省RDB2020で絶滅危惧ⅠA類（CR）とされている。現在生息状況等について調査を進めているが、RL2024でも情報不足（DD）とした。

(7) レッドリスト

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 サンショウウオ科	ソボサンショウウオ	<i>Hynobius shinichisatoi</i>	CR	EN

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 サンショウウオ科	オオイタサンショウウオ	<i>Hynobius dunni</i>	EN	VU

絶滅危惧 II 類 (VU) 【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 サンショウウオ科	ベッコウサンショウウオ	<i>Hynobius ikioi</i>	VU	VU

準絶滅危惧 (NT) 【10 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 サンショウウオ科	チクシブチサンショウウオ	<i>Hynobius oyamai</i>	NT	VU
2 サンショウウオ科	コガタブチサンショウウオ	<i>Hynobius stejnegeri</i>	NT	VU
3 サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	NT	VU
4 イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	NT	NT
5 ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus</i>	NT	
6 アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	NT	
7 アカガエル科	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	NT	
8 アカガエル科	ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	NT	
9 アカガエル科	トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	NT	NT
10 アオガエル科	カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	NT	

情報不足 (DD) 【2 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 サンショウウオ科	アマクササンショウウオ	<i>Hynobius amakusaensis</i>	DD	CR
2 オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>	DD	VU

7. 淡水魚類

(1) 調査方法

淡水魚類の調査は、文献、採集、目視、聞き取りで行った。なによりも採集調査が最も確実なものであるが、各調査員の長年の個人的なデータ蓄積が大変役立っている。それは目視や聞き取りに関しても同じである。本県における文献は大変少なかったのだが、平成3年(1991年)頃から建設省(現：国土交通省)による「河川水辺の国勢調査」が全国的に行われるようになり、それに伴って地方の河川の綿密な調査も増えてきた。それらの調査は、環境省の「生物多様性調査」とともに貴重な結果をもたらしてくれている。

(2) 産地情報の採用基準

情報はすべて、文献情報があるものまたは標本があるもの、現地調査で確認できたものを採用することを基本とした。しかし、絶滅としているアカザやニホンイトヨ、カマキリ(アユカケ)に関しては確実性のある現地での聞き取りを採用した部分もある。

(3) 調査結果の概要

絶滅(EX)のうち、RDB2019において「イトヨ(降海型)」と表記していたものを「ニホンイトヨ」に改めた。

本県の絶滅危惧IA類(CR)4種のうち、アリアケヒメシラウオは絶滅の可能性はあるが、今後再度の精査の機会を得て結論付けることにした。本種は筑後川と緑川の感潮域にのみ生息するとされていた。しかし、緑川においては近年、アリアケシラウオはわずかに採集されたが本種が確認されたことはない。

ニッポンバラタナゴは球磨川水系が天然分布の南限であったが、別亜種であるタイリクバラタナゴとの交雑で、純粋なニッポンバラタナゴの生存が危ぶまれている。平成10年(1998年)頃、県北地域と阿蘇市の1地点において、純粋なニッポンバラタナゴの生息が確認されていたが、RDB2009以降に県下数地点で新たに、DNA判定において純粋なニッポンバラタナゴが確認された。その一方で、タイリクバラタナゴの生息域はここ約35年の間に拡大している。過去にニッポンバラタナゴが確認されていても、現在、タイリクバラタナゴが侵入している水系においてはすでに雑種化しているものと考えられる。交雑個体と純粋なニッポンバラタナゴを外部形態のみで判別することは不可能であり、そのことが本種の調査を困難にしている。

ヤマノカミは、菊池川等では昔は普通に見られていたが、昭和52年(1977年)に2尾採集されたのが近年における唯一の確認で、生息が危ぶまれている。

カジカ中卵型(今まで「ウツセミカジカ(カジカ小卵型；両側回遊型)」と表記してきたものを「カジカ中卵型」に改めた)は、50年ほど前に氷川の下流部では多く生息していたが、今では激減。球磨川でも昔(少なくとも5、60年以上前)は生息したといわれていたが、平成30年(2018年)に球磨川の下流部でカジカ中卵型が複数個体採捕確認された。また近年、菊池川水系3支川の上流部でカジカが多数確認されている。

(4) RDB2019 との比較

RDB2019では絶滅種(EX)から準絶滅危惧(NT)までの36種と要注目種(AN)15種が選定されたが、RL2024では絶滅種(EX)から準絶滅危惧(NT)までの37種と要注目種16種が選定された。RDB2019からの主な変更点は、絶滅危惧IB類(EN)のセボシタビラを絶滅危惧IA類(CR)に変更、新たにドジョウを準絶滅危惧(NT)に、ヒモハゼを要注目種(AN)に加えたことである。セボシタビラに関しては、一部で生息数回復の兆しが見られる地域もあるものの、県全体としては生息環境の悪化は改善されておらず危機的状況にあることから、カテゴリーを見直した。ドジョウに関しては、重要な産卵場所である水田とその周辺環境の改変により、農地周辺での個体数が激減しているため新たに選定した。

RDB1998の頃と比べると、絶滅危惧種に加わったハゼ類の増加が目立つ。しかし、これは生息環境の悪化によるというわけではない。その主な要因は、当時建設省(現：国土交通省)の河川水辺の国勢調査をはじめとする各種の環境調査が近年多く行われるようになったこと、それに伴って採集技術も向上したため、県内では従来見られなかったあるいは極めて希少だった魚種が確認されるようになったことである。RL2014から新たに絶滅危惧II類(VU)に選定され

たキセルハゼがその例で、本種の確認は県下ではじめてのことであった。また、これらの魚種の中には南方系のハゼ類がいくらか見られるが、そのほとんどは天草諸島の黒潮の影響を受ける地域に見られる種である。

上で述べた南方系のハゼ類のうち、ミナミハゼとノボリハゼ、クチサケハゼの3種はRDB1998の発刊後、天草上・下島の黒潮の影響を受ける河川の河口部で、わずかな個体数ではあるが採集確認された。近年、大きく問題化してきた地球温暖化の影響かもしれないし、あるいは以前からあった死滅回遊魚の例であるかもしれない。これら3種はRL2004の準絶滅危惧からRL2014で「要注目種」に移し、現在も継続調査中である。

アカザに関しては、RDB1998で絶滅種として記載したが、隣県の県境近くの河川で確認されていることもあり、生息の可能性を否定することなく調査を継続している。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

セボシタビラ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

工事や外来種等による生息環境の悪化により、産卵床となる二枚貝類とともに個体数が激減している。本種は「筑後川水系を中心とする九州北西部（激減）、長崎県壱岐（絶滅）」（中坊編（2013））から本県の菊池川水系、緑川水系までの限られた狭い地域にしか分布していなかったもので、もともと個体数は多くなかった。一部の生息地では危機的状況であることからRDB2019改訂版時点で絶滅危惧 IB 類 (EN) としたが、その状況は菊池川水系においては悪化し、菊池川本川でも近年まったく確認されておらず、わずかな範囲の農水路が生息地として残っているにすぎない。江津湖周辺においても似たような状況であり、今後、絶滅が危ぶまれるので絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

ドジョウ 準絶滅危惧 (NT) 新規

全県的にみると、ドジョウは生息するところもあるが、全く見られなくなったというところもある。特に都市部ではなかなか確認できない状況である。このように、近年の減少は農地の基盤整備が進み「昔ながらの田んぼ」、「昔ながらの農水路」がなくなってしまったことに一因があると思われる。田んぼと水路との連続性がなくなり、ドジョウやメダカ等の行き来が阻まれるようになった。他に外来種の問題もある。阿蘇市では近年、国外外来種のカラドジョウが定着し、今後ドジョウがカラドジョウに置換してしまうことが懸念されるほどに増加している。このようなことは県下の他の地域でも起こり得ることで、今後、注視していく必要がある。

ヒモハゼ 要注目種 (AN) 新規

過去、本種は45年ほど以前に県北の2河川で確認されてはいるものの、近年の確認は白川と球磨川においてのみである。経年変化を見ると例外的な年があるものの、押し並べて確認個体数は少ない。海水域における現況は分からないが、汽水域においては今後注意して見ていく必要があると思われる。

(6) 今後の課題

昔から普通に生息していた種が近年になって減少している。主たる要因は、捕獲圧よりもむしろ生息環境の悪化である。それは、河川改修工事による河川のコンクリート化、農地の基盤整備による用水路のコンクリート化、家庭雑排水や農薬による水質悪化等によるものと思われる。さらに、ブラックバスやブルーギル、ティラピア類などの無謀な放流によって、外来魚が種類、個体数共に増加している。外来種の増加は、在来種の生息に大きな影響を及ぼしており、希少種の保全にとっても大きな課題である。

外来種に関しては、国外外来種のみならず、近年は国内外来種も大きな問題となっており、生息域がますます拡大している。例えば、ワタカは平成7年（1995年）に加勢川（野田堰下）で初めて確認されが、今では県北まで広く生息するようになった。また、イチモンジタナゴは昭和53年（1978年）に球磨川水系百済木川でタイリクバラタナゴとほぼ同時にはじめて確認したものだが、その後緑川水系加勢川・江津湖等でも生息が確認されるようになった。それからしばらくの期間、イチモンジタナゴが生息するのは九州では熊本県だけだと言われてきたが、最近、熊本県以外の九州北部でも確認されるようになった。タナゴ類の保全にはその産卵母貝となる二枚貝の保全が重要である。熊本県で確認される二枚貝類はヌマガイとイシガイ、マツ

カサガイ（普通）、ニセマツカサガイ、カタハガイ（少ない）、キュウシュウササノハガイとタガイ（極少）である。

タナゴ類は、小規模な河川や農業用排水路等に生息していることが多く、人間活動による影響を受けやすい。昨今、生物多様性保全の観点から一級河川～準用河川に関しては行政も注意を払っている様子が認められるが、小規模な普通河川（法定外河川）は市町村に管理義務がないため、川浚いや周辺の草刈り等、河川の維持管理において農業従事者に対して積極的に指導することがない。例えば、熊本市内の河川では、農家が重機を用いて過剰に浚渫したことにより二枚貝類が激減し、3種見られていたタナゴ類のうち2種が後に見られなくなった。タナゴ類においては、公共工事よりもむしろ、農業従事者による河川管理が脅威となっている。

アリアケギバチは菊池川においては十分に復活したと考えられる。筑後川上流部（小国町、南小国町）と緑川では減少している恐れもあり、今後精査の必要がある。緑川においては、平成8年（1996年）にギギ（本県においては国内外来種）が1尾採捕された記録があるが、その後今日までに新たな捕獲事実はない。過去、アリアケギバチが分布した球磨川がギギに置換したのは、ここ数十年前のことである。緑川をはじめ、他河川が同じ道筋をたどらないことを願いながら、今後も注視していく必要がある。

大規模な開発事業はそれなりの環境配慮制度に従った基準のもとに、河川等は自然破壊から擁護されるようになった。調査のために日頃よくフィールドに出かける生物研究家たちは誰もが感じることであるが、「生物多様性」がうたわれる現代においてさえも河川等の自然破壊を引き起こしているのは、むしろ中小規模な事業（中小の工事）であることが多い。

水中に生息する魚類には、生息環境の物理的な要因や水質の問題、生物的な要因などが複合的に関係しており、これら淡水魚の減少の要因を一つに求めることは困難である。また、生息域の水は上流から流れてくるものであり、上流側の森林などの自然環境や水質汚染源などの諸問題が広域的に関係する。したがって、魚類の保全対策では総合的な環境問題を考慮する必要がある。

(7) レッドリスト

絶滅 (EX) 【3種】

科名	種名	RDB	環境省
	和名	2019	RL2020
1 アカザ科	アカザ	EX	VU
2 トゲウオ科	ニホンイトヨ	EX	LP
3 カジカ科	カマキリ (アユカケ)	EX	VU
	学名		
	<i>Liobagrus reinii</i>		
	<i>Gasterosteus nipponicus</i>		
	<i>Rheopresbe kazika</i>		

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【4種】

科名	種名	RDB	環境省
	和名	2019	RL2020
1 コイ科	セボシタビラ	EN	CR
2 コイ科	ニッポンバラタナゴ	CR	CR
3 シラウオ科	アリアケシラウオ	CR	CR
4 シラウオ科	アリアケヒメシラウオ	CR	CR
	学名		
	<i>Acheilognathus tabira nakamurae</i>		
	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>		
	<i>Salanx ariakensis</i>		
	<i>Neosalanx reganinus</i>		

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【3種】

科名	種名	RDB	環境省
	和名	2019	RL2020
1 カジカ科	ヤマノカミ	EN	EN
2 カジカ科	カジカ	EN	NT
3 カジカ科	カジカ中卵型	EN	EN
	学名		
	<i>Trachidermus fasciatus</i>		
	<i>Cottus pollux</i>		
	<i>Cottus sp.</i>		

絶滅危惧 II 類 (VU) 【11種】

科名	種名	RDB	環境省
	和名	2019	RL2020
1 コイ科	ヤリタナゴ	VU	NT
2 コイ科	カネヒラ	VU	
3 コイ科	カゼトゲタナゴ	VU	EN
4 ギギ科	アリアケギバチ	VU	VU
5 シラウオ科	シラウオ	VU	
6 ケツギョ科	オヤニラミ	VU	EN
7 ハゼ科	イドミミズハゼ	VU	NT
8 ハゼ科	ムツゴロウ	VU	EN
9 ハゼ科	クボハゼ	VU	EN
10 ハゼ科	ギセルハゼ	VU	EN
11 ハゼ科	エドハゼ	VU	VU
	学名		
	<i>Ianakia lanceolata</i>		
	<i>Acheilognathus rhombeus</i>		
	<i>Rhodeus smithii smithii</i>		
	<i>Tachysurus aurantiacus</i>		
	<i>Salangichthys microdon</i>		
	<i>Coreoperca kawamebari</i>		
	<i>Luciogobius pallidus</i>		
	<i>Boleophthalmus pectinirostris</i>		
	<i>Gymnogobius scrobiculatus</i>		
	<i>Gymnogobius cylindricus</i>		
	<i>Gymnogobius macrognathos</i>		

準絶滅危惧 (NT) 【16 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ南方種	<i>Lethenteron</i> sp. S.	NT	VU
2	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	NT	EN
3	カタクチイワシ科	エツ	<i>Coilia nasus</i>	NT	EN
4	コイ科	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	NT	NT
5	コイ科	カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	NT	NT
6	ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		NT
7	メダカ科	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	NT	VU
8	サヨリ科	クルマサヨリ	<i>Hyporhamphus intermedius</i>	NT	NT
9	カワアナゴ科	カワアナゴ	<i>Eleotris oxycephala</i>	NT	
10	カワアナゴ科	チチブモドキ	<i>Eleotris acanthopoma</i>	NT	
11	ハゼ科	シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>	NT	VU
12	ハゼ科	タビラクチ	<i>Apocryptodon punctatus</i>	NT	VU
13	ハゼ科	タネハゼ	<i>Callogobius tanegasimae</i>	NT	
14	ハゼ科	ゴマハゼ	<i>Pandaka</i> sp.	NT	VU
15	ハゼ科	シロチチブ	<i>Tridentiger nudicervicus</i>	NT	NT
16	ハゼ科	チクゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>	NT	VU

要注目種 (AN) 【16 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ウナギ科	オオウナギ	<i>Anguilla marmorata</i>	AN	
2	ドジョウ科	アリアケスジシマドジョウ	<i>Cobitis kaibarai</i>	AN	EN
3	ヨウジウオ科	ガンテンイシヨウジ	<i>Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus</i>	AN	
4	ヨウジウオ科	テングヨウジ	<i>Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus</i>	AN	
5	カワアナゴ科	オカメハゼ	<i>Eleotris melanosoma</i>	AN	
6	ハゼ科	ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i>		NT
7	ハゼ科	ワラスボ	<i>Odontamblyopus lacepedii</i>	AN	VU
8	ハゼ科	チワラスボ	<i>Taenioides snyderi</i>	AN	EN
9	ハゼ科	ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i>	AN	
10	ハゼ科	ミナミハゼ	<i>Awaous ocellaris</i>	AN	
11	ハゼ科	ショウキハゼ	<i>Tridentiger barbatus</i>	AN	NT
12	ハゼ科	ノボリハゼ	<i>Oligolepis acutipennis</i>	AN	
13	ハゼ科	クチサケハゼ	<i>Oligolepis stomias</i>	AN	
14	ハゼ科	ヒナハゼ	<i>Redigobius bikolanus</i>	AN	
15	ハゼ科	ルリヨシノボリ	<i>Rhinogobius mizunoi</i>	AN	
16	ハゼ科	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i>	AN	

8. 昆虫類

(1) 調査方法

トンボ類は、RDB2019 に記載された 12 科 38 種について、現地調査・文献調査を行った。

カマキリ目は 1 種について、現地調査・文献調査を行った。

バッタ目は、RDB2019 に記載された 13 種を調査対象種とした。

カメムシ目は、RDB2019 に記載されたセミ類 3 種と新たに 1 種、アメンボ類 2 種について、現地調査・文献調査を行った。

陸生甲虫類は、RDB2019 に記載された 77 種及び新たに 6 種について、現地調査・文献調査を行った。

水生甲虫は、RDB2019 に記載された 61 種及び新たに 5 種について、現地調査・文献調査を行った。また、水生半翅目は、RDB2019 に記載された 3 種及び新たに 4 種について、現地調査・文献調査を行った。

ハチ類は、RDB2019 に記載された 3 種及び新たにホシアシブトハバチとキバラハキリバチ 2 種を調査対象種とし、現地調査・文献調査を行った。

チョウ類は、RDB2019 に記載された 4 科 43 種と新たに 2 種について、現地調査・文献調査を行った。

ガ類は、RDB2019 に記載された 13 種と新たに 2 種について、現地調査・文献調査を行った。

(2) 産地情報の採用基準

現地調査の結果、及び信頼度の高い文献情報を採用した。なお、文献情報の場合には標本が残っているものと写真で記録されたものを採用基準とした。

(3) 調査結果の概要

RDB2019 からの 5 年間で、昆虫相に大きな影響を与えたのは温暖化現象（異常気象）、里山の崩壊（少子高齢化）、ニホンジカやイノシシの急激な増加（食害）である。

温暖化で乾燥化が進行し、湿地や池沼等が減少してトンボ等の水生昆虫の生息地が消失した。さらに里山に見られた池沼等も管理がなされず、水の循環はなくなり、遷移の進行で、オオイトトンボ等のイトトンボ類の生息地は 9 割近くが消失した。里山はかつてはクヌギ、コナラ、アラカシの疎林等の二次林は管理されていた。また、小川、水田、畑等利用されて、多様性に恵まれていた。しかし、少子高齢化で後継者も少なくなり、里山の維持管理は出来なくなった。そこにニホンジカやイノシシが入り、里山の崩壊に拍車をかけた。

最近特に多くの河川で河川改修が行われ、特に阿蘇地域では顕著である。ツルヨシ等の見られる箇所はグンバイトンボ、アオハダトンボ、ニホンカワトンボの重要な生息地であるが、河川工事により多くのツルヨシ等の群落がなくなり、同時に希少種の生息地も消失した。

他県にはない、特徴的な昆虫相が見られる場所の一つが、阿蘇の二次草地である。草原の管理や維持は牧野組合の方々の努力でなされており、基本的には採草、野焼き、放牧が必要であるが、畜産形態も変わり、改良草地が増加し、多くの牧野では後継者不足で維持管理が困難になっている。そのため、オオルリシジミやヒメシロチョウ、ゴマシジミ等の草原性昆虫類は危機的な状況になっている。

もう一つが九州中央山地である。九州中央山地では、多様な森林性昆虫が見られるが、大型林道の建設、ニホンジカやイノシシの食害で下層植生は消失し、乾燥化も急激に進行している。また、温暖化も影響し、ブナ、ミズナラの落葉広葉樹林帯で枯死が多く見られる。そのため、フジミドリシジミ、メスアカミドリシジミ等のゼフィルスも最近ではほとんど見られない状況である。

(4) RDB2019 との比較

RDB2019 での昆虫類は、72 科 260 種（亜種を含む）が記載されている。RL2024 で記載された種は、76 科 268 種（亜種を含む）である。

トンボ類では、新規の記載種はなく、カテゴリーが変更になったのがホンサナエ（CR→DD）、オオイトトンボ（EN→CR）、セスジイトトンボ（NT→VU）、ムスジイトトンボ（NT→VU）、サラサヤンマ（AN→NT）の 5 種である。ホンサナエは近年確実な記録がないために情報不足（DD）に

変更した。オオイトトンボは全国的に減少し、県内でも2箇所では確認されていない。セスジイトトンボ、ムスジイトトンボも同様で、かつて確認されていた生息地で個体数が激減している。サラサヤンマの生息地である樹林に囲まれた、休耕田、湿地では遷移が進行し、多くの生息地が消滅した。

カマキリ目では新たにウスバカマキリ (DD) を記載した。

バッタ目には変更はない。

カメムシ目セミ類については、キュウシュウエゾゼミ (VU) の1種を新たに記載した。エゾハルゼミ以外に、エゾゼミ、アカエゾゼミ、キュウシュウエゾゼミを調査した。アカエゾゼミは詳しい調査ができなかったが、エゾゼミとキュウシュウエゾゼミの鳴き声と成虫を確認できた。その中でも、エゾゼミについては情報不足 (DD) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) にカテゴリーを変更した。

陸生甲虫類では、今まで無選定であったが、絶滅 (EX) にアカヘリミドリタマムシを新たに記載し、ミツノエンマコガネ (CR)、ヨツボシメツブテントウ (CR)、マルクビケマダラカミキリ (VU)、ヤマトモンシデムシ (DD) を新たに追加記載した。しかし、コカブトムシ (VU)、マイマイカブリ (NT)、タマムシ (NT)、ミカドテントウ (NT)、オオシロオビゾウムシ (NT) の5種は削除した。

絶滅 (EX) のアカヘリミドリタマムシは昭和10年(1935年)、あさぎり町の白髪岳で1頭記録されたが、その後、現在に至るまで記録はなく、絶滅と判断した。

絶滅危惧ⅠA類 (CR) は、RDB2019の8種に、ミツノエンマコガネ、ヨツボシメツブテントウの2種を追加した。ミツノエンマコガネは天草諸島を含む本県西部の海岸部や平地、低山地から記録されていたが、平成15年(2003年)に嘉島町での記録を最後に、姿を消した種である。ヨツボシメツブテントウは、143年前に球磨村で採集された Syntype 標本がロンドン自然史博物館に保存されている。その後、あさぎり町の白髪岳と相良村の北岳で再発見されたが、それから36年間生息確認の情報がない。なお、RDB2019の絶滅危惧ⅠA類 (CR) に選定していたヒコサンヒゲナガコバネカミキリは、その後の分類で亜種に格下げられ、ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ九州亜種に変更されたため、カテゴリーの変更は行わず、和名、学名を変更した。

絶滅危惧ⅠB類 (EN) には、オオクワガタ、クロモンマグソコガネ、モンクロベニカミキリの3種を生息地環境の激減、消滅に加え、極めて低い生息密度と局地的から選定した。

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) には、RDB2019の25種に、無選定であったマルクビケマダラカミキリ1種を追加した。本県での生息確認は、熊本市と玉名市の2箇所で行われた。2箇所とも風呂用燃料の乾燥木内であったが、現在では薪を使う生活様式の消滅で、近年姿を消した種であるので新たに選定した。

情報不足 (DD) には、長期間個体が確認されていないヤマトモンシデムシ、ムモンベニカミキリを追加した。

また、RDB2019で絶滅危惧Ⅱ類 (VU) としていたコカブトムシは、文献調査や近年の調査で低山地から丘陵地、自然林内、そして人工並木等、広範囲に生息確認があるため削除した。

RDB2019で準絶滅危惧 (NT) としていた36種の内、マイマイカブリ、タマムシ、ミカドテントウ、オオシロオビゾウムシの4種はこれまでの文献調査や近年の調査から、県内広く、平地から低山地、中央山地まで生息確認ができたため削除した。

水生甲虫類では、サメハダマルケシゲンゴロウ (CR) の1種を新たに記載した。ヒメシジミガムシ (NT) はカテゴリー外に変更した。8科61種(ドウクツケシガムシを含む)のうち、絶滅 (EX) に2科5種、絶滅危惧ⅠA類 (CR) に7科38種、絶滅危惧ⅠB類 (EN) に4科10種、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に2科7種、準絶滅危惧 (NT) に1科1種を区分した。

ハチ類では十分な調査は行われてはいないが、無選定であったホシアシブトハバチ (NT) とキバラハキリバチ (NT) を新たに記載した。

クマモトツチスガリ (DD) は既存の生息地が完全に消失し、以後熊本県では50年近く生息の確認情報がないことから、カテゴリーを絶滅 (EX) に変更した。

シャンハイチビコハナバチからコハナバチ属 *Lasioglossum* の一種 (DD) に変更された種は、草原性の希種でない事が判明したので、カテゴリー外に変更した。

ケブカアオコハナバチ (DD) はカテゴリーの変更は行わなかった。ただ種 *Lasioglossum algirum* の亜種から種に昇格しているため、調査の進展次第ではカテゴリーの変更は避けられ

ない。よって、絶滅種（EX） 1 科 1 種、準絶滅危惧（NT） 2 科 2 種、情報不足（DD） 1 科 1 種に区分した。

チョウ類では、スギタニルリシジミ九州亜種（NT）、ヤマトスジグロシロチョウ（AN）の2種を新たに記載した。

カテゴリーが変更になったのは、ゴマシジミ中国地方・九州亜種（EN→CR）、ヒメシロチョウ（VU→EN）、クロヒカゲモドキ（VU→EN）、ヒメキマダラヒカゲ（NT→EN）、ホシミスジ（NT→VU）、キマダラモドキ（NT→VU）の6種である。

スギタニルリシジミ九州亜種は溪流にみられる種で、県内では3月下旬から4月上旬に見られていた。しかしここ数年温暖化の影響で発生が1週間以上早くなっている。生息地では個体数が多くみられていたが、最近では激減し、溪流も自然災害等で環境が悪化している。

ヤマトスジグロシロチョウは里山を代表するチョウであるが、里山の崩壊に伴って生息地が急激に減少している。

ゴマシジミ中国・九州亜種は日がよく当たりワレモコウが生育し、シワクシケアリが生息するススキの草原である。最近既存の生息地ではほとんど確認が出来ていない。

ヒメシロチョウは阿蘇の草原を代表するチョウで、食草であるツルフジバカマの新芽に産卵を行うチョウであるが、全国的に減少している。草地等の管理が行われず、遷移が進行して生息環境が悪化している。

クロヒカゲモドキはクヌギやコナラ等の林内の湿地が生息地であるが、伐採、工事、湿地の開発で生息地が消失している。また、温暖化により湿地が乾燥し、生息地が減少している。

ヒメキマダラヒカゲは標高が 1,000m以上の山地のササ類が生育する薄暗い林内に生息している。ニホンジカの食害でササ類が消滅し、多くの生息地がなくなった。

ホシミスジは食樹がシモツケで、里山の樹林周辺、山地の崖等に生育しているが、観光開発、道路建設で生息地が減少している。また道路の崖へのコンクリート吹き付け等も減少化の原因の一つである。

キマダラモドキの食草はイネ科植物で、阿蘇草原の明るい疎林内や林縁部が生息地となっている。別荘地やペンション等の土地造成等で生息地が減少している。また、クヌギ林の管理が行われず、林内が暗くなり生息ができない状況になっている。

ガ類では、ギンモンアカヨトウ（CR）、オナガミズアオ（DD）の2種を新たに記載した。

オナガミズアオは食樹がハンノキ属で、九州では産地が局所的で個体数も少ない。開発によって生息環境が悪化する恐れがあるが、県内の生息情報が少ないため情報不足とした。

準絶滅危惧（NT）の種においては、里山、草原などを生息環境とする種は、管理放棄やニホンジカ、イノシシの増加により環境の悪化が懸念される状態である。また、森林性の種に関してもニホンジカ、イノシシの増加による今後の影響が心配される。しかし、現状では、どの種も大幅に個体数が減少しているという状況にはないため現状維持とした。また、情報不足（DD）の種においては、ヒゴキリガの活動する条件などが解明されつつあり、近年確認数が増加している。しかし、詳しい生息域や野外での食餌植物などまだ不明な点も多い。その他の情報不足（DD）の種においても十分な調査が行われていないため、これらの種も現状維持とした。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

ホンサナエ 絶滅危惧 IA 類（CR） → 情報不足（DD）

平地や山地の砂泥底河川の中流域に生息する種である。嘉島町で2箇所確認され、その後、緑川水系で確認されていた。しかし、平成 24 年（2012 年）の大水害で、生息する砂泥河床が大きな被害を受けた後、確実な記録はないことから、情報不足（DD）とした。過去に確認されていた生息地は現状では生息環境は悪化し、絶滅の可能性も考えられる。

ホンサナエは熊本県以外でも著しい減少化がみられる。

オオイトトンボ 絶滅危惧 IB 類（EN） → 絶滅危惧 IA 類（CR）

平地から丘陵地の浮葉植物や沈水植物が多くみられる池沼・湖や休耕田に生息する種である。県内では全域で確認されていたが、確実な生息地が県央地域でわずかにみられるだけである。池沼は管理されず、遷移が進行し開放水面が消失し、生息環境が悪化した。休耕田も2～3年間は良好な水生昆虫の生息域であるが、ガマ類などの植物が入り、最終的にはセイタカアワダ

チソウ等の群落になり、陸地化で生息地が消滅することから絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。なお、全国的に減少化がみられ、宮崎県では絶滅となっている。

セスジイトトンボ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

平地から丘陵地の浮葉植物や沈水植物が多くみられる池沼に生息している。県内全域で確認されていたが、現在では生息地であった池沼の管理がなされず、遷移が進行して開放水面が消失して陸地化が起こっている。また外来種のオオクチバス等が放流された池では大きな影響が出ていると考えられるので、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

ムスジイトトンボ 絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

平地から丘陵地の浮葉植物や沈水植物が多くみられる広い池沼に生息している。セスジイトトンボと同じく、県内全域で確認されていたが、現在では生息地であった池沼の多くが管理されず、遷移が進行して開放水面が消失して陸地化が起こっている。また外来種のオオクチバス等が放流された池では大きな影響が出ていると考えられるので、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

サラサヤンマ 要注目種 (AN) → 準絶滅危惧 (NT)

平地から丘陵地の樹林に囲まれた低湿地に生息しており、県内では阿蘇地方を除く全域で確認されていた。しかし、生息地である湿地や休耕田は維持管理ができず陸地化が進み、湿地の埋め立てや、周辺の樹木の伐採、温暖化により湿地が乾燥することにより、生息環境が悪化していることから、準絶滅危惧 (NT) とした。

ウスバカマキリ 情報不足 (DD) 新規

草原性の種で、近年まで熊本県では未記録であった。阿蘇の草原や県内の一級河川の河川敷草地からも記録がなかったが、平成 28 年 (2016 年) に大津町で生息を確認した。しかし、まだ調査が不十分であるので、情報不足 (DD) とした。

エゾゼミ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

エゾゼミは 1,000m 近いブナ林やアカマツ、モミの針葉樹林に生息する大型のセミである。調査にて、鳴き声と成虫を阿蘇地方で確認できたので、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

キュウシュウエゾゼミ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 新規

九州では 1,000m 以上のミズナラ・ブナ帯に生息しているが、生息地は僅かである。キュウシュウエゾゼミは情報不足のために平成 21 年 (2009 年) に選定種から除外したことがあるが、九州中央山地で確認されたため、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

アカヘリミドリタマムシ 絶滅 (EX) 新規

日本産タマムシ類中の最希少種として知られ、九州では唯一あさぎり町で昭和 10 年 (1935 年) 6 月 25 日 (Y・Hitara 採集) に採集された 1 メスの標本が国立科学博物館に現存する。

5 月から 8 月にマツ材に集まり、特にオスはヒメコマツやゴヨウマツの孤立木樹冠に集まる。再発見の可能性が全くない訳ではないが、本県では 89 年間再発見されていないことから、絶滅 (EX) とした。

ミツノエンマコガネ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

主に平地に生息地があり、糞や野鳥の死骸を餌としこれらに集まるが、生態は不明な点が多い。熊本県では過去 11 例の採集記録があり、県北部・県央・県南部・天草で記録されているが、生息地は極めて局限される。新しい生息地の発見が待たれるが、現状では困難で本種の生息地が主に平地であり宅地開発などの人為的影響を非常に受けやすく、過去の生息地もほぼ消滅したと推定される。また、20 年程新たな採集記録もないことから絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

ヨツボシメツブテントウ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

球磨村で明治 14 年 (1881 年) 4 月に採集された 2 頭の標本をもとに明治 29 年 (1896 年) に新種記載されて以降 101 年間記録がなかった種であるが、あさぎり町と相良村で再発見され

た。その後、相良村では明 21 年（1988 年）まで生息が確認されていたが、それ以降、本県を初め全国で記録がない。生態も冬季カシ類の樹皮下で越冬すること以外判明しておらず不明である。現在の知見では熊本県の特産種であること、36 年間生息が確認できていないことから絶滅危惧 IA 類（CR）とした。

オオクワガタ 絶滅危惧Ⅱ類（VU） → 絶滅危惧 IB 類（EN）

県央地域の丘陵地に点在する雑木林が主な生息地であったが、宅地や畑地化、道路や環境整備等により生息地は消滅しつつあるので、絶滅危惧 IB 類（EN）とした。

クロモンマグソコガネ 絶滅危惧Ⅱ類（VU） → 絶滅危惧 IB 類（EN）

県北地域では 11～1 月に生息確認できるが、ほぼ同時期に確認できる他のマグソコガネ類と比較し極めて局所的で少ない個体数であるので、絶滅危惧 IB 類（EN）とした。

モンクロベニカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類（VU） → 絶滅危惧 IB 類（EN）

今後、小国町や南小国町のクスギ林等で生息確認されるかもしれないが、近年県内での確認はないので、絶滅危惧 IB 類（EN）とした。なお、比較的多かった大分県でも減少し、絶滅危惧に上げられた。

マルクビケマダラカミキリ 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 新規

本種の産卵対象木は、樹皮がしっかり付いた固い乾燥木であるため、自然林内での生育は難しく、本県の中央山地での記録はない。本県での確認は、熊本市と玉名市の 2 箇所である。しかし、燃料がガス等に置き換わり、薪の利用が減っていくに従って、このカミキリムシの生息場所は激減した。

平成 11 年（2000 年）以降も街路灯付近で確認されていたが、令和 2 年（2020 年）を最後に玉名市では確認されていない。今後も薪を使用する環境の減少、消滅により生息の維持が難しくなると思われることから、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とした。

コカブトムシ 絶滅危惧Ⅱ類（VU） → カテゴリー外

原生林から低山地まで、県内に広く生息している。身近な雑木林でも、シイやサクラ等多種の洞や枯死部、また腐朽が進んだ倒木内などに生息する為に目にする事は少ない。平成 18 年（2006 年）以後も合志市、熊本市、宇土市、八代市等でも社寺や公園、サクラ並木でも確認出来ているので、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

マイマイカブリ 準絶滅危惧（NT） → カテゴリー外

身近な低山地から中央山地、天草まで広く生息している。ただ地上徘徊性昆虫であるため目につき難い。令和元年（2019 年）以降も玉名市、玉名郡、阿蘇市、熊本市で確認出来ているので、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

タマムシ 準絶滅危惧（NT） → カテゴリー外

平地から山地帯のエノキやハルニレ、他の広葉樹の梢を飛翔する個体を非常に多く見かける事や市街地の公園内の植栽された広葉樹の立ち枯れに産卵しに飛来しているメスも良く見かける。生息域も県下のほぼ全域である事、垂直分布も平地からブナ帯以下まで幅広い事、個体数も多い事から、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

ミカドテントウ 準絶滅危惧（NT） → カテゴリー外

平地から丘陵地、低山地、山地のイチイガシの他、神社の御神木や公園に植栽されたイチイガシから多数の個体を確認することができた。イチイガシが有ればほぼ生息しているので、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

オオシロオビゾウムシ 準絶滅危惧（NT） → カテゴリー外

令和 3 年（2021 年）以後の調査でも個体数は少ないが県北の荒尾市、玉名市、熊本市、宇土市、高森町、南阿蘇村で確認できるので、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

ヤマトモンシデムシ 情報不足 (DD) 新規

熊本県では菊池市と大津町で各 1 個体の採集記録があるだけで、その後県内では 20 年間確認されていないので、情報不足 (DD) とした。

ムモンベニカミキリ 情報不足 (DD) 新規

九州では熊本県と大分県との阿蘇・九重の高原のカシワ林に生息するのが確認されている。しかし、熊本県では、南小国町で昭和 54 年 (1979 年) に 3 頭が採集されたのが最初で、発見当初カシワを調べれば新産地が見つかると思われていた種であるが、44 年間本県では追加記録が途絶えている。南小国町のカシワ林もかなり伐採され、新産地の確認もない状況であるので情報不足 (DD) とした。

サメハダマルケシゲンゴロウ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

令和 4 年 (2022 年) に熊本からも記録された種 (渡部・松井 他, 2022) であるが、本県では、上天草市の限られたポイントでのみ確認されており、絶滅が危惧される状況であるため、絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

ヒメシジミガムシ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

近年の調査結果により、安定した生息状況が見られるため、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

クマモトツチスガリ 情報不足 (DD) → 絶滅 (EX)

1977 年 8 月に八代市泉町で採集された 1 個体 (♀) に基づいて新種記載されたが、その後隣接する腰越のお堂の床下の土中で営巣しているのが発見されて多数が採集されたことがある。既存の生息地が完全に破壊されて消失し、以後、熊本県では 50 年近く生息の確認情報がないことからカテゴリーを絶滅 (EX) に変更した。

ホシアシブトハバチ 準絶滅危惧 (NT) 新規

本来は森林性種と思われるが、幼虫の食草がエノキ・エゾエノキであるため市街地でも発見されている。成虫は 4 月から 5 月に発生する。熊本県では南阿蘇村、熊本市、天草市、高森町の 4 例記録がある。エノキは平地から 1,000m 位まで普遍的に分布するが、現在の熊本県での知見では、生息地は局限され個体数も非常に少ない。しかしながら、ハバチ類を研究する人が少なく目が届いていないだけの可能性が高く、現時点では準絶滅危惧 (NT) とした。

キバラハキリバチ 準絶滅危惧 (NT) 新規

海浜や河川敷の砂地で営巣することが知られている種であるが、熊本県では未記録の種であった。上天草市と嘉島町、熊本市で生息を確認したが、個体数は非常に少ない。生息環境が不安定で植物遷移の変化や人為的影響を受けやすいと考えられるが、新しい生息地の発見も期待できるので、準絶滅危惧 (NT) にした。

コハナバチ属の 1 種 情報不足 (DD) → カテゴリー外

シャンハイチビコハナバチ (仮称) からコハナバチ属 *Lasioglossum* の一種 (DD) に変更された種は、令和 3 年 (2021 年) に新種記載され、ユミチビコハナバチの和名が与えられた。しかし、草原性の希少種でない事が判明したので、本見直しでは RL のカテゴリーから除外した。

ゴマシジミ 中国地方・九州亜種 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

生息域は阿蘇地方で、南限が山都町である。採草・放牧がなされず、野焼きだけ行われるとススキだけの草原になり、食草であるワレモコウ等の植物が見られなくなっている。また、幼虫との関係で、シワクシケアリの生息も重要である。最近では中央火口丘周辺、産山、南阿蘇、小国地域では生息地が急激に減少しているので、絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

ヒメシロチョウ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

食草であるツルフジバカマが生育する日当たりがいい火山性草原である阿蘇地方に生息している。県内では年に3回発生しているが、個体数が非常に少なくなった。ツルフジバカマは草原の縁や作業道沿いに多く、草地の管理ができず、遷移が進行した。さらに観光や宅地化で生息環境が悪化しているので、絶滅危惧ⅠB類 (EN) とした。なお、近年全国的に減少している種である。

クロヒカゲモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

阿蘇地方のコナラ、クヌギなどからなる二次林で、林内は薄暗く、小川が流れる湿度の高い林縁部の陰地に生息しており、分布は局所的で生息地、個体数も少ない種である。現在確認されている生息地もわずかであり、別荘、ペンションなどの宅地造成による伐採や温暖化で生息地の乾燥化が起こっているので、絶滅危惧ⅠB類 (EN) とした。

ヒメキマダラヒカゲ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

標高 1,000m以上の山地のササ類が生育する薄暗い森林の林床が生息地である。天草地域以外に生息しているが、急激に生息地、個体数が激減した。一番の原因はニホンジカによるササの食害により、林床の表土がむき出しになり大雨で生息地がなくなったことである。そのため、絶滅危惧ⅠB類 (EN) とした。

ホシミスジ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

食樹であるシモツケが生育する里山の人家周辺、樹林地周辺、山地の道路や崖に生息している。生息地は阿蘇地方と九州中央山地であるが、主要生息地は阿蘇地方の里山である。ホテル、キャンプ場、道路建設で生息環境が悪化し、生息地が減少している。また九州中央山地においては生息地の崖へのコンクリート吹き付け等で生息地が破壊されている。そのために絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

キマダラモドキ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

食草であるイネ科植物が生育する火山性草原の明るい疎林内や林縁部に生息している。阿蘇地方で草原内のカシワ、クヌギなどからなる疎林に多く見られる。別荘地、ペンション建設、放牧の中止等で生息環境が悪化しているので絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とした。

スギタニルリシジミ九州亜種 準絶滅危惧 (NT) 新規

食樹であるキハダ、ミズキが生育している低山地から山地の渓流域が生息地である。調査の結果、既存の生息地の消失や個体数の減少が確認できたので準絶滅危惧 (NT) とした。減少の要因は道路工事、自然災害等が考えられる。なお、沖縄県を除く九州では熊本以外は RDB に選定されている。

ヤマトスジグロシロチョウ 要注目種 (AN) 新規

食草スズシロソウの生育する平地から山地に生息している。九州中央山地ではシコクハタザオを食草としている。本来里山のチョウであるが、宅地開発、道路工事等で生息地が減少しているので要注目種 (AN) とした。

ギンモンアカヨトウ 絶滅危惧ⅠA類 (CR) 新規

熊本県では未記録の種であったが、県央域の熊本市の湿地で生息を確認した。九州では対馬と本土域の佐賀県と福岡県から記録があるのみであり、現在の知見では日本の南限地である。食草はヤナギタデで、成虫は4月から9月までに年2化以上発生すると考えられている。生息環境の消失や悪化が原因となり個体数が激減する可能性が高いとされる。なお、熊本市の生息地も開発行為でいつ消滅するか分からない状況にある。平成 26 年 (2014 年) に1頭採集した後、本県では記録がないため、緊急性を考慮して絶滅危惧ⅠA類 (CR) とした。

オナガミズアオ 情報不足 (DD) 新規

北海道から九州まで分布し、ハンノキ類を食樹としている。本県では、これまで県北地域での記録が1例あるのみであった。オナガミズアオは過去に選定種となり調査が行われたが、追加の記録が得られず、選定種から除外したことがある。しかし、県南地域で生息が確認されたので情報不足 (DD) とした。近似種のオオミズアオは低地から山地まで普通にみられるのに対し、本種の九州での記録は非常に少ない。

(6) 今後の課題

継続観察・調査を必要とする種は以下のとおりである。

トンボ類では、特に情報不足 (DD) のミナミヤンマ、ベッコウトンボとハビタットが消滅したゲンバイトンボ、減少化が著しいイトトンボ類の調査が必要である。

バッタ目では情報不足 (DD) のコバネササキリ、アシグロツユムシ、タンボオカメコオロギ、オオオカメコオロギ、ハマスズ、ムサシセモンササキリモドキ、クロダケササキリモドキの調査が必要である。

カメムシ目では情報不足 (DD) のアカエゾゼミの調査が必要である。

陸生甲虫類では情報不足 (DD) のカワラハンミョウ、ルイスハンミョウ、アマミナカボソタマムシなど7種の調査が必要である。

水生甲虫類では、RL掲載種全てにおいて継続観察・調査を必要とするが、マルコガタノゲンゴロウ及び新たにCRとしたサメハダマルケシゲンゴロウは、特に留意が必要である。

ハチ類については、全県的な調査を地道に継続していく必要がある。

チョウ類については、カテゴリーに含めていないクロシジミは草原に生息する種であり、野焼きの影響が想定されるので、個体数・生息環境の調査を継続する必要がある。また、ウラクロシジミ、ウラギンヒョウモン、ギンイチモンジセセリも調査が必要である。県内のウラギンヒョウモンは、ヤマウラギンヒョウモンとサトウラギンヒョウモンの2種が確認されている。しかし、2種の識別、分布等は不明な点が多いため、種の扱いはウラギンヒョウモンとした。

ガ類では、情報不足 (DD) としたフジキオビ、クワトゲエダシャク、オナガミズアオ、スキバハウジャク、クビグロケンモン、ヒゴキリガ。また近年環境変化が著しい草原、湿地、低地の樹林などに生息する種についても留意すべきと考えられる。

上記以外に調査で主な対象とされなかった分類群で、カメムシ類、ハネカクシ類、オサムシ類、ハムシ類などについても今後の検討課題としなければならない。

(7) レッドリスト

絶滅 (EX) 【9種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	バッタ科	カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	EX	
2	シジミチョウ科	ルーミスシジミ	<i>Panchala ganesa loomisi</i>	EX	VU
3	ゲンゴロウ科	キボシツブゲンゴロウ	<i>Japanolaccophilus nipponensis</i>	EX	NT
4	ゲンゴロウ科	コクromaゲンゴロウ	<i>Platambus insolitus</i>	EX	
5	ゲンゴロウ科	オオマダラゲンゴロウ	<i>Sandracottus hunteri</i>	EX	
6	ゲンゴロウ科	スジゲンゴロウ	<i>Hydaticus satoi</i>	EX	EX
7	ミズスマシ科	ツマキレオナガミズスマシ	<i>Orectochilus agilis</i>	EX	VU
8	タマムシ科	アカヘリミドリタマムシ	<i>Buprestis (Cypriacis) splendens niponica</i>		
9	フシダカバチ科	クマモトツチスガリ	<i>Cerceris kumamotoensis</i>	DD	

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【73種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	CR	EN
2	イトトンボ科	モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	CR	NT
3	イトトンボ科	オオイトトンボ	<i>Paracercion sieboldii</i>	EN	
4	モノサシトンボ科	ゲンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	CR	NT
5	ヤンマ科	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	CR	NT
6	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	CR	NT
7	ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna crenata</i>	CR	
8	サナエトンボ科	ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagoyanus</i>	CR	VU
9	エゾトンボ科	エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>	CR	
10	エゾトンボ科	ハネビロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	CR	VU
11	ヤマトンボ科	キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	CR	NT
12	トンボ科	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>	CR	
13	トンボ科	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	CR	
14	イトアメンボ科	イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>	CR	VU
15	コオイムシ科	タガメ	<i>Kirkaldyia deyrollei</i>	CR	VU

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
16	コバンムシ科	コバンムシ	<i>Ilyocoris cimicoides exclamationis</i>	CR EN
17	シジミチョウ科	フジミドリシジミ	<i>Sibataniaozephyrus fujisanus</i>	CR
18	シジミチョウ科	ウラジロミドリシジミ	<i>Favonius saphirinus</i>	CR
19	シジミチョウ科	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	CR
20	シジミチョウ科	アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brillantinus</i>	CR
21	シジミチョウ科	ゴイシツバメシジミ	<i>Shijimia moorei</i>	CR CR
22	シジミチョウ科	クロツバメシジミ西日本亜種	<i>Tongeia fischeri shojii</i>	CR NT
23	シジミチョウ科	オオルリシジミ九州亜種	<i>Shijimiaeoides divinus asonis</i>	CR EN
24	シジミチョウ科	ゴマシジミ中国地方・九州亜種	<i>Maculinea teleius daisensis</i>	EN EN
25	ヤガ科	ギンモンアカヨトウ	<i>Plusilla rosalia</i>	VU
26	オサムシ科	ツヅラセメクラチビゴミムシ	<i>Rakantrechus lallum</i>	CR EN
27	ハンミョウ科	ヨドシロヘリハンミョウ	<i>Callytron inspecularis</i>	CR VU
28	ゲンゴロウ科	シマケシゲンゴロウ	<i>Coelambus chinensis</i>	CR
29	ゲンゴロウ科	チビマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus pumilus</i>	CR NT
30	ゲンゴロウ科	マルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus subtilis</i>	CR NT
31	ゲンゴロウ科	サメハダマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus stridulus</i>	
32	ゲンゴロウ科	キボシケシゲンゴロウ	<i>Allopachria flavomaculata</i>	CR DD
33	ゲンゴロウ科	カンムリセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus kammuriensis</i>	CR
34	ゲンゴロウ科	ヒコサンセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus takakurai</i>	CR
35	ゲンゴロウ科	チンメルマンセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus zimmermanni</i>	CR
36	ゲンゴロウ科	ケベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>	CR NT
37	ゲンゴロウ科	クロマメゲンゴロウ	<i>Platambus stygius</i>	CR
38	ゲンゴロウ科	ホソクロマメゲンゴロウ	<i>Platambus optatus</i>	CR
39	ゲンゴロウ科	マルコガタノゲンゴロウ	<i>Cybister lewisianus</i>	CR CR
40	ゲンゴロウ科	オオゲンゴロウ	<i>Cybister chinensis</i>	CR
41	ゲンゴロウ科	マルガタゲンゴロウ	<i>Graphoderus adamsii</i>	CR VU
42	ゲンゴロウ科	ナガマルチビゲンゴロウ	<i>Lelodytes kyushuensis</i>	CR
43	ミズスマシ科	オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	CR NT
44	ミズスマシ科	コオナガミズスマシ	<i>Orectochilus punctipennis</i>	CR VU
45	ミズスマシ科	オナガミズスマシ	<i>Orectochilus regimbarti regimbarti</i>	CR
46	ミズスマシ科	コミズスマシ	<i>Gyrinus curtus</i>	CR EN
47	ミズスマシ科	ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus gestroi</i>	CR EN
48	ミズスマシ科	ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	CR VU
49	コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ	<i>Haliphus eximius</i>	CR VU
50	コガシラミズムシ科	チビコガシラミズムシ	<i>Haliphus japonicus</i>	CR
51	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ	<i>Haliphus sharpi</i>	CR VU
52	コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	<i>Canthydrus politus</i>	CR VU
53	コツブゲンゴロウ科	ムモンチビコツブゲンゴロウ	<i>Neohydrocoptus sp.</i>	CR VU
54	ダルマガムシ科	ハセガワダルマガムシ	<i>Ochthebius hasegawai</i>	CR
55	ダルマガムシ科	ホンシュウセスジダルマガムシ	<i>Ochthebius japonicus</i>	CR
56	ダルマガムシ科	ナカナゲダルマガムシ	<i>Ochthebius nakanei</i>	CR
57	ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	<i>Hydrochus japonicus</i>	CR NT
58	ガムシ科	ドウクツケシガムシ	<i>Cercyon uenoi</i>	CR
59	ガムシ科	ウスイロツヤヒラタガムシ	<i>Agraphydrus ishiharai</i>	CR
60	ガムシ科	アリアケキイロヒラタガムシ	<i>Enochrus yukinoae</i>	CR
61	ガムシ科	ケベリケシヒラタガムシ	<i>Crenitis nakanei</i>	CR
62	ガムシ科	トカラクロケシヒラタガムシ	<i>Crenitis tokarana</i>	CR
63	ガムシ科	ニセコクロヒラタガムシ	<i>Chasmogenus orbus</i>	CR
64	ガムシ科	シジミガムシ	<i>Laccobius bedeli</i>	CR EN
65	ガムシ科	チビマルガムシ	<i>Paracymus orientalis</i>	CR
66	コガネムシ科	ダイコクコガネ	<i>Copris ochus</i>	CR VU
67	コガネムシ科	ミツノエンマコガネ	<i>Parascatanomus tricornis</i>	
68	コガネムシ科	ツヤマグソコガネ	<i>Aphodius impunctatus</i>	CR
69	テントウムシ科	ヨツボシメツブテントウ	<i>Sticholotis pictipennis</i>	
70	テントウムシ科	イセテントウ	<i>Chujoichilus isensis</i>	CR
71	カミキリムシ科	ケベリカタビロハナカミキリ	<i>Pachyta erebia</i>	CR
72	カミキリムシ科	ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ九州亜種	<i>Molorchus nitidus adachii</i>	CR
73	ハムシ科	キンイロネクイハムシ	<i>Donacia japana</i>	CR NT

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【25 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	イトトンボ科	コフキヒメイトトンボ	<i>Agriocnemis femina orvzae</i>	EN
2	カワトンボ科	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	EN
3	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>	EN
4	シジミチョウ科	オナガシジミ	<i>Araragi enthea</i>	EN
5	シジミチョウ科	メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus</i>	EN
6	シジミチョウ科	カラスシジミ	<i>Fixsenia w.album fentoni</i>	EN
7	シジミチョウ科	ミヤマカラスシジミ	<i>Fixsenia mera</i>	EN
8	シジミチョウ科	タイワンツバメシジミ	<i>Everes lacturnus kawaii</i>	EN
9	タテハチョウ科	クロヒカゲモドキ	<i>Lethe marginalis</i>	VU EN
10	タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>	NT
11	シロチョウ科	ヒメシロチョウ	<i>Leptidea amurensis</i>	VU EN
12	ハンミョウ科	シロヘリハンミョウ	<i>Callytron yuasai yuasai</i>	EN NT
13	ゲンゴロウ科	オオマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus bonvouloiri</i>	EN NT
14	ゲンゴロウ科	サワダマゲンゴロウ	<i>Platambus sawadai</i>	EN
15	ゲンゴロウ科	アヤナミツゲンゴロウ (シャープツブゲンゴロウ)	<i>Laccophilus sharpi</i>	EN
16	ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringi</i>	EN NT
17	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	EN NT
18	ホソガムシ科	チュウブホソガムシ	<i>Hydrochus chubu</i>	EN VU
19	ガムシ科	ミユキシジミガムシ	<i>Laccobius miyuki</i>	EN NT
20	ガムシ科	コガタガムシ	<i>Hydrophilus bilineatus cashimirensis</i>	EN VU
21	ガムシ科	ホソゴマフガムシ	<i>Berosus pulchellus</i>	EN
22	クワガタムシ科	オオクワガタ	<i>Dorcus hopei binodulosus</i>	VU VU
23	コガネムシ科	クロモンマグソコガネ	<i>Aphodius variabilis</i>	VU NT

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
24	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	<i>Leptelmis gracilis</i>	EN	VU
25	カミキリムシ科	モンクロベニカミキリ	<i>Purpuricenus lituratus</i>	VU	

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 【58 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	イトトンボ科	ベニイトトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>	VU	NT
2	イトトンボ科	セスジイトトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	NT	
3	イトトンボ科	ムスジイトトンボ	<i>Paracercion melanotum</i>	NT	
4	カワトンボ科	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	VU	NT
5	ムカシトンボ科	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>	VU	
6	サナエトンボ科	ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	VU	
7	サナエトンボ科	アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	VU	
8	サナエトンボ科	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>	VU	NT
9	サナエトンボ科	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i>	VU	NT
10	トンボ科	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>	VU	
11	ヒバリモドキ科	ナギサスズ	<i>Caconemobius sazanami</i>	VU	
12	セミ科	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	DD	
13	セミ科	キュウシュウエゾゼミ	<i>Tibicen kyushyuensis</i>		
14	イトアメンボ科	オキナワイトアメンボ	<i>Hydrometra okinawana</i>	VU	
15	タイコウチ科	ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	VU	
16	セセリチョウ科	キバナセセリ	<i>Burara aquilina chrysaeglia</i>	VU	
17	シジミチョウ科	ウラゴマダラシジミ	<i>Artopoetes pryeri</i>	VU	
18	シジミチョウ科	ウラケンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>	VU	
19	シジミチョウ科	ウラムスジシジミ	<i>Wagino signatus</i>	VU	
20	シジミチョウ科	ハヤシミドリシジミ	<i>Favonius ultramarinus</i>	VU	
21	シジミチョウ科	エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i>	VU	
22	シジミチョウ科	オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	VU	
23	シジミチョウ科	クロミドリシジミ	<i>Favonius yuasai</i>	VU	
24	シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i>	VU	
25	シジミチョウ科	シルビアシジミ	<i>Zizina emelina</i>	VU	EN
26	タテハチョウ科	ホシミスジ	<i>Neptis pryeri setoensis</i>	NT	
27	タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	VU	CR
28	タテハチョウ科	キマダラモドキ	<i>Kirinia fentonii</i>	NT	NT
29	タテハチョウ科	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	VU	
30	オサムシ科	セアカオサムシ	<i>Hemicarabus tuberculosus</i>	VU	NT
31	ゲンゴロウ科	コウベツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus kobensis</i>	VU	NT
32	ゲンゴロウ科	タテナミツブゲンゴロウ (ルイスツブゲンゴロウ)	<i>Laccophilus lewisius</i>	VU	
33	ゲンゴロウ科	チャイロマメゲンゴロウ	<i>Agabus browni</i>	VU	
34	ゲンゴロウ科	セスジゲンゴロウ	<i>Copelatus japonicus</i>	VU	
35	ゲンゴロウ科	ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i>	VU	
36	ガムシ科	マルヒラタガムシ	<i>Enochrus subsignatus</i>	VU	NT
37	ガムシ科	コガムシ	<i>Hydrochra affinis</i>	VU	DD
38	ムネアカセンチコガネ科	ムネアカセンチコガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>	VU	
39	クワガタムシ科	ルリクワガタ	<i>Platycerus delicatulus delicatulus</i>	VU	
40	クワガタムシ科	キュウシュウニセコルリクワガタ	<i>Platycerus urushiyamai</i>	VU	
41	クワガタムシ科	ヒメオオクワガタ九州亜種	<i>Dorcus montivagus adachii</i>	VU	
42	コガネムシ科	ミヤマダイコクコガネ	<i>Copris pecuarius</i>	VU	
43	コガネムシ科	オオチャイロハナムグリ	<i>Osmoderma opicum</i>	VU	NT
44	コガネムシ科	アカマダラハナムグリ	<i>Anthrachophora rusticola</i>	VU	DD
45	タマムシ科	アオタマムシ	<i>Eurythyrea tenuistriata</i>	VU	
46	タマムシ科	キンヘリタマムシ九州亜種	<i>Lamprodila pretiosa inexpecta</i>	VU	
47	タマムシ科	アオナガタマムシ	<i>Agrilus planipennis</i>	VU	
48	タマムシ科	ルリナカボソタマムシ	<i>Coraebus niponicus</i>	VU	
49	カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	<i>Stenogrinum quadrinotatum</i>	VU	EN
50	カミキリムシ科	クスベニカミキリ	<i>Pyrestes nipponicus</i>	VU	
51	カミキリムシ科	ミドリカミキリ	<i>Chloridolum viride</i>	VU	
52	カミキリムシ科	マルクビケマダラカミキリ	<i>Trichoferus campestris</i>		
53	カミキリムシ科	トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis kurosawai</i>	VU	
54	カミキリムシ科	オオトラカミキリ	<i>Xylotrechus villioni</i>	VU	
55	カミキリムシ科	ヒメヒロウドカミキリ	<i>Acalolepta degener</i>	VU	NT
56	カミキリムシ科	ムネホシシロカミキリ	<i>Olenecamptus clarus</i>	VU	
57	カミキリムシ科	イッシキキモンカミキリ	<i>Glenea centroguttata</i>	VU	
58	カミキリムシ科	アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>	VU	VU

準絶滅危惧 (NT) 【68 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	イトトンボ科	キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>	NT	
2	イトトンボ科	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	NT	
3	ヤマイトトンボ科	ヤクシマトゲオトンボ	<i>Rhipidolestes yakusimensis</i>	NT	
4	ヤンマ科	サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>	AN	
5	サナエトンボ科	タベサナエ	<i>Trigomphus citinus tabei</i>	NT	NT
6	サナエトンボ科	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>	NT	NT
7	トンボ科	タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>	NT	
8	カマドウマ科	アソキマダラウマ	<i>Neotachycines asoensis</i>	NT	
9	ツユムシ科	ウンゼンツユムシ	<i>Ducetia unzenensis</i>	NT	
10	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscyrthus japonicus</i>	NT	
11	バッタ科	イナゴモドキ	<i>Mecostethus parapleurus</i>	NT	
12	セミ科	エゾハルゼミ	<i>Terpnosia nigricosta</i>	NT	
13	ヨコバイ科	ヒラタミミズク	<i>Tituria angulata</i>	NT	
14	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ	<i>Canthophorus niveimarginatus</i>	NT	NT
15	コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	NT	NT
16	マダラガ科	ヤホシホソマダラ	<i>Balataea octomaculata</i>	NT	NT

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
17	セセリチョウ科	ヘリグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus</i>	NT
18	シジミチョウ科	スギタニルリシジミ九州亜種	<i>Celastrang sugitanii kyushuenis</i>	
19	シジミチョウ科	アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	NT
20	シジミチョウ科	クロツバメシジミ九州沿岸・朝鮮半島亜種	<i>Tongeia fischeri caudalis</i>	NT
21	タテハチョウ科	シータテハ	<i>Polygonia c-album hamigera</i>	NT
22	タテハチョウ科	ウラギンセンジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	NT
23	タテハチョウ科	クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene midas</i>	NT
24	タテハチョウ科	ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>	NT
25	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>	NT
26	タテハチョウ科	ウラナミジャノメ	<i>Ipthima multistriata nipponica</i>	NT
27	スズメガ科	ヒメスズメ	<i>Deilephila askoldensis</i>	NT
28	ヒトリガ科	ヤネホソバ	<i>Eilema fuscodorsalis</i>	NT
29	ドクガ科	トラサンドクガ	<i>Kidokuga torasan</i>	NT
30	ヤガ科	コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>	NT
31	ヤガ科	ナマリキシタバ	<i>Catocala columbina yoshihikoi</i>	NT
32	ヤガ科	オニベコシタバ	<i>Catocala dula</i>	NT
33	ヤガ科	カギモンハナオイアツバ	<i>Cidaripura signata</i>	NT
34	オサムシ科	クロカビロオサムシ	<i>Calosoma maximowiczii</i>	NT
35	ハンミョウ科	アイヌハンミョウ	<i>Cicindela gemmata aino</i>	NT
36	ハンミョウ科	ホソハンミョウ	<i>Cylindera gracilis</i>	NT
37	ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus weymarni</i>	NT
38	アカマダラセンコガネ科	アカマダラセンコガネ	<i>Ochodaeus maculatus maculatus</i>	NT
39	コガネムシ科	クロカナブン	<i>Rhomborrhina polita</i>	NT
40	コガネムシ科	キョウトアオハナムグリ	<i>Protaetia lenzi</i>	NT
41	タマムシ科	クロマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis querceti</i>	NT
42	ホタル科	ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>	NT
43	ホタル科	ヒメボタル	<i>Luciola parvula</i>	NT
44	カッコームシ科	ヤマトヒメメダカカッコームシ	<i>Neohydus hozumii</i>	NT
45	デントウムシ科	ハラグロオオデントウ	<i>Callicaria superba</i>	NT
46	デントウムシ科	ジュウサンホシデントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i>	NT
47	デントウムシ科	オオデントウ	<i>Synonycha grandis</i>	NT
48	ヒラタムシ科	ルリヒラタムシ	<i>Cucujus mnischei</i>	NT
49	オオキノコムシ科	オオキノコムシ	<i>Encaustes praenobilis</i>	NT
50	アリモドキ科	ヒゴケナガクビボソムシ	<i>Neostereopalpus kyushuensis</i>	NT
51	アカハネムシ科	オカモトツヤアハネムシ	<i>Tosadendroides okamotoi</i>	NT
52	ゴミムシダマシ科	ソボトゲヒサゴゴミムシダマシ	<i>Misolampidius sobosanus</i>	NT
53	ホソカミキリムシ科	オオクボカミキリ九州亜種	<i>Tengius ohkuboi kurosawai</i>	NT
54	カミキリムシ科	シコクヒメコブハナカミキリ	<i>Pseudosieversia shikokensis</i>	NT
55	カミキリムシ科	フタコブルリハナカミキリ	<i>Japanocorus coeruleipennis</i>	NT
56	カミキリムシ科	ムナコブハナカミキリ	<i>Xenophyrama purpureum</i>	NT
57	カミキリムシ科	ヘリグロホソハナカミキリ九州亜種	<i>Ohbayashia nigromarginata rufoflava</i>	NT
58	カミキリムシ科	ヒゲブトハナカミキリ	<i>Pachypidonia bodemeyeri</i>	NT
59	カミキリムシ科	イガブチヒゲハナカミキリ	<i>Stictoleptura igai</i>	NT
60	カミキリムシ科	オオホソコバネカミキリ	<i>Necydalis solida</i>	NT
61	カミキリムシ科	スネケブカヒロコバネカミキリ	<i>Merionoeda hirsuta</i>	NT
62	カミキリムシ科	オオアオカミキリ	<i>Chloridolum thaliodes</i>	NT
63	カミキリムシ科	ヨコヤトラカミキリ	<i>Epiclytus yokoyamai</i>	NT
64	カミキリムシ科	アカジマトラカミキリ	<i>Akajimatora bellus</i>	NT
65	カミキリムシ科	シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina yamawakii</i>	NT
66	カミキリムシ科	キュウシュウシナカミキリ	<i>Eutetrappa sedecimpunctata australis</i>	NT
67	コンボウハバチ科	ホシアシブトハバチ	<i>Agenocimbex maculatus</i>	DD
68	ハカリバチ科	キバラハカリバチ	<i>Megachile (Amegachile) xanthotrix</i>	NT

情報不足 (DD) 【29 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	サナエトンボ科	ホンサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>	CR
2	ミナミヤンマ科	ミナミヤンマ	<i>Chlorogomphus brunneus costalis</i>	DD
3	トンボ科	ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	DD
4	カマキリ科	ウスバカマキリ	<i>Mantis religiosa</i>	DD
5	ツユムシ科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>	DD
6	キリギリス科	コバネササキリ	<i>Conocephalus japonicus</i>	DD
7	ササキリモドキ科	ムサシセモンササキリモドキ	<i>Nipponomeconema musashiense</i>	DD
8	ササキリモドキ科	クロダケササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kurodakensis</i>	DD
9	コオロギ科	タンボオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus aomoriensis</i>	DD
10	コオロギ科	オオオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus magnatus</i>	DD
11	ヒバリモドキ科	ハマスズ	<i>Dianemobius csikii</i>	DD
12	セミ科	アカエゾゼミ	<i>Tibicen flammatus</i>	DD
13	シジミチョウ科	ウラクロシジミ	<i>Iratsume orsedice</i>	DD
14	アゲハモドキガ科	フジキオビ	<i>Schistomitra funeralis</i>	DD
15	シャクガ科	クワトゲエダシャク	<i>Apochima excavata</i>	DD
16	ヤマユガ科	オナガミズアオ	<i>Actias gnoma</i>	NT
17	スズメガ科	スキバホウジャク	<i>Hemaris radians</i>	DD
18	ヤガ科	クビグロケンモン	<i>Acronicta digna</i>	DD
19	ヤガ科	ヒゴキリガ	<i>Orthosia yoshizakii</i>	DD
20	ハンミョウ科	カワラハンミョウ九州亜種	<i>Chaetodera laetescrptia kyushuensis</i>	DD
21	ハンミョウ科	ルイスハンミョウ	<i>Cicindela lewisi</i>	DD
22	シデムシ科	ヤマトモンシデムシ	<i>Nicrophorus japonicus</i>	NT
23	タマムシ科	アマミナカボソタマムシ	<i>Coraebus amamianus</i>	DD
24	コメツキムシ科	トラフコメツキ	<i>Selatosomus onerosus</i>	DD
25	オオクスイムシ科	ミドリオオクスイ	<i>Helota cereopunctata</i>	DD
26	カミキリムシ科	ムモンベニカミキリ	<i>Amarsysus sanguinipennis adachii</i>	
27	カミキリムシ科	サツマリノガカミキリ	<i>Oberea yasuhikoi</i>	DD
28	オトシブミ科	トライクビチョッキリ	<i>Deporaus tigris</i>	DD
29	コハナバチ科	ケブカアオコハナバチ	<i>Lasiglossum (Evylaeus) pseudannulipes</i>	DD

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) 【1 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ナベブタムシ科	八景水谷・江津湖の両通水池に生息するナベブタムシ	<i>Aphelocheirus vittatus</i>	LP	

要注目種 (AN) 【5 種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ヤンマ科	マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>	AN	
2	エゾトンボ科	トラフトンボ	<i>Epithea marginata</i>	AN	
3	シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ	<i>Pieris nesis japonica</i>		
4	タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>	AN	
5	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	AN	NT

9. クモ・多足類

(1) 調査方法

過去 50 年間の現地調査と RL2004 作成のための調査並びに RDB2009、RL2014、RDB2019 及び RL2024 作成のために行った現地補充調査の結果をもとに絶滅のおそれのある種を選定した。

(2) 産地情報の採用基準

過去 50 年間の現地調査の結果（信頼度の高い文献情報）と RL2024 に関わる現地補充調査の結果を採用した。

(3) 調査結果の概要

森林（林床、崖地）、洞窟、地中、海浜などの特殊な環境を生息地とする地表性クモとヤスデ類を中心に調査した。県内のクモ類は 45 科 462 種、ヤスデ類は 7 目 17 科約 50 種である。クモ類は、ヒラヤジグモ、ミナミコマチグモ、ヘリジロハシリグモ、ヤギヌマノセマルトラフカニグモの他、特定外来生物であるセアカゴケグモ、ハイイロゴケグモが新たに確認された。選定したクモ・多足類は、蛛形綱（クモ形綱、クモ綱）クモ目と、倍脚綱（ヤスデ綱）ジヤスデ目、ヒラタヤスデ目、イメヤスデ目、オビヤスデ目に属する種である。熊本県特産のイツキメナシナミハグモやカワベナミハグモは、県内における生息域も限られ、環境悪化で減少の危険度が大いことから引き続き選定した。キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ワスレナグモの 3 種は、県内における分布状況が少しずつ明らかになりつつあるが、確実な生息域が限られ、分布記録が少ないため引き続き選定した。選定した。同様に、神社仏閣の古木などに生息するドウシグモは県内での記録が少なく、海岸に生息するヤマトウシオグモも記録が少ないことから、情報不足（DD）として引き続き選定した。

倍脚綱（ヤスデ綱）については、オビヤスデ目ノコギリヤスデ類、ヒメヤスデ目ネンジュヤスデなどについて調査した。特に県内以外から記録がないヤマシナヒラタヤスデの生息状況については、平成 28 年（2016 年）の熊本地震後に確認できていないため注意を要する。

(4) RDB2019 との比較

キムラグモ類は、森林の林床（リター）や崖地に生息する。県内にはヒゴキムラグモとブンゴキムラグモの 2 種が記録されている。両種とも分布は広いので、RDB2019 と同様に、RL2024 においても「準絶滅危惧（NT）」に選定した。しかしながら、平成 28 年（2016 年）の熊本地震による生息地の斜面崩壊の影響などの生息環境の悪化により震災前に比べて激減している地域も見られ、個体数の回復の推移を見守ることが重要である。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

RL2024 において、カテゴリーを見直した種はない。

(6) 今後の課題

開発などの影響を受けやすいイツキメナシナミハグモ、カワベナミハグモの生息状況及び個体数の推移を見守る必要がある。生息域が特殊なヤマトウシオグモの記録は、非常に少ない状況が続いており、詳細な調査が必要である。

(7) レッドリスト

絶滅危惧 IA 類（CR）【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 ナミハグモ科	イツキメナシナミハグモ	<i>Cybaeus itsukiensis</i>	CR	CR+EN

絶滅危惧 IB 類（EN）【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 ナミハグモ科	カワベナミハグモ	<i>Cybaeus kawabensis</i>	EN	

準絶滅危惧 (NT) 【4種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ハラフシグモ科	キムラグモ類	<i>Heptathela</i> spp.	NT	
2	ジグモ科	ワスレナグモ	<i>Calommata signata</i>	NT	NT
3	トタテグモ科	キノボリトタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>	NT	NT
4	トタテグモ科	キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	NT	NT

情報不足 (DD) 【7種】

	科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
		和名	学名		
1	ウシオグモ科	ヤマトウシオグモ	<i>Desis japonica</i>	DD	DD
2	ホウシグモ科	ドウシグモ	<i>Asceua japonica</i>	DD	DD
3	イトヤスデ科	オカツクシヤスデ	<i>Kiusiozonium okai</i>	DD	
4	ヒラタヤスデ科	ヤマシナヒラタヤスデ	<i>Yamasinaium noduligerum</i>	DD	
5	ホタルヤスデ科	ヤマリュウガヤスデ	<i>Skleroprotopus montanus</i>	DD	
6	カザアナヤスデ科	ネンジュヤスデ	<i>Sinostemmiulus japonicus</i>	DD	
7	オビヤスデ科	ノコギリヤスデ類	<i>Prionomatis</i> spp.	DD	

9. 陸産・淡水産貝類

(1) 調査方法

検討委員及び調査員により行われたこれまでの現地調査、特に RDB2019 出版以降に行われた県境地域や天草地域の現地補完調査、熊本県博物館ネットワークセンター貝類調べ隊による県内調査、県内各所で行われている公共工事等に伴う環境アセスメント調査の結果も踏まえ、日本貝類学会及び関連団体から提供された文献等及び「環境省 RL2020」も加味しながら、県内の生息状況を網羅的に考察し、本県において絶滅が危惧される為に保護が必要と判断された種を独自に選定した。

(2) 産地情報の採用基準

検討委員及び調査員によるこれまでの現地確認調査を基本とした。また、信憑性の高い各種環境アセスメント調査の結果及び信頼性の高い文献情報も採用した。

(3) 調査結果の概要

検討委員によるこれまでの調査研究で明らかにされた県内に生息する陸産貝類は、文献情報も含めて 28 科 148 種、また、淡水産貝類は 16 科 37 種である。そのうち、陸産貝類は絶滅危惧 IA 類 (CR) 7 科 19 種、絶滅危惧 IB 類 (EN) 6 科 7 種、絶滅危惧 II 類 (VU) 8 科 9 種、準絶滅危惧 (NT) 7 科 23 種、情報不足 (DD) 10 科 26 種を選定した。また、淡水産貝類は絶滅危惧 IA 類 (CR) 1 科 1 種、絶滅危惧 IB 類 (EN) 2 科 3 種、絶滅危惧 II 類 (VU) 2 科 2 種、準絶滅危惧 (NT) 2 科 2 種、情報不足 (DD) 2 科 3 種を選定した。RL2024 において、陸産・淡水産貝類で選定された種は合計 95 種類であり、62 種類を選定した RDB2019 に比較して大幅に増加した。

(4) RDB2019 との比較

タカチホムシオイはこれまで本県ではピルスブリムシオイとしていた種である。県央から県南の石灰岩地帯や自然林内に分布している。個体数は少ないことから、準絶滅危惧 (NT) から絶滅危惧 IA 類 (CR) に変更した。

シイバムシオイはこれまで本県ではハリマムシオイとしていた種である。最近の研究で、県内のハリマムシオイはシイバムシオイと同種とされた (矢野, 2015)。タカチホムシオイと同様に、県央から県南の石灰岩地帯や自然林内に分布している。個体数は少なく、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

フトクビムシオイ (仮称) (矢野, 2015) は昭和 45 年 (1970 年) 頃から県南の石灰岩地で発見された種で、自然林内からも見出される。生息地が限られるようで、個体数も多くないことから、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

ゴカノショウゴマガイ (仮称) とハマダゴマガイ (仮称) (浜田, 1973) はともに昭和 45 年 (1970 年) 頃から県央から県南にかけての山岳地帯自然林内や石灰岩地から発見された希少な種であるため、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。特に、ハマダゴマガイ (仮称) は限られた地域にしか分布しておらず、個体数も少なく、絶滅が危惧される。

ヤマトキバサナギガイは殻高 2mm 弱の微小な貝で、県南の石灰岩地落葉下などから発見される。個体数が極めて少なく絶滅が危惧されるので、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) とした。

オオスミウロコマイマイは県央から県南にかけての山岳地帯自然林内から 1970 年台に発見された種で、個体数は極めて少ない。殻の形状はコオオベソマイマイ類似種に似るがより小形で、体層周縁はさらに角張る。また、ジタロウマイマイという報告もあるが (西, 2018)、オオスミウロコマイマイのシノニムと思われる。従って、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) にとした。

キュウシュウササノハガイ (Kondo & Hattori, 2019) は菊池川水系の限られた場所でしか見つかっておらず、絶滅が極めて危惧されることから、絶滅危惧 IB 類 (EN) から絶滅危惧 IA 類 (CR) に変更した。

絶滅危惧 IB 類 (EN) のオオウスイロヘソカドガイは天草牛深沖の島嶼やその沿岸部の限られた地域に見られることから、新たに絶滅危惧 IB 類 (EN) とした。

ノミガイもオオウスイロヘソカドガイと同様の地域で発見されており、情報不足 (DD) から絶滅危惧 IA 類 (CR) に変更した。

カワモトギセルは県央から県南にかけての山岳地帯自然林内に生息しており、個体数は少ない。森林の伐採や風水害による環境改変により絶滅がさらに危惧されると判断されたので、絶滅危惧Ⅱ類（VU）から絶滅危惧Ⅰ類（EN）に変更した。

カサネシタラは県全域の自然林内で見られる希少種で、個体数が極めて少なく、見つけることが困難な種である。情報不足（DD）から絶滅危惧Ⅰ類（EN）に変更し、注意を促した。

チクヤケマイマイは県央の石灰岩地帯草むら等で見られる種である。生息場所が限られており、絶滅危惧Ⅱ類（VU）から絶滅危惧Ⅰ類（EN）に変更した。

アマクサマイマイは南方系のカタツムリで、天草牛深沖の島嶼やその沿岸部の限られた地域に見られる。これまではパンダナマイマイと称していた種で、2024 年に新種記載された（Hirano, 2024）。本県が分布の北限と思われ、新たに絶滅危惧Ⅰ類（EN）とした。

ホラアナミジンナは山間部湧水や滝壺などに見られる種である。近年の異常気象による風水害が原因でこれらの環境が激変しており、絶滅危惧Ⅱ類（VU）から絶滅危惧Ⅰ類（EN）に変更した。

絶滅危惧Ⅱ類（VU）に掲げていた種のうち、ウスイロオカチグサは各種環境アセスメント調査結果より、熊本市をはじめとして宇城市、八代市、芦北町、津奈木町、人吉市、苓北町の河川域で生息が確認され、分布が徐々に明らかになってきた。よって、絶滅危惧Ⅰ類（EN）から一カテゴリーを下げて、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とした。

RDB2019 で準絶滅危惧（NT）とされていたミジンマイマイは、宇土市、玉名市、長洲町、天草市の海岸線付近で確認されている。しかし、個体数は少なく、絶滅の危惧度が高まったので、カテゴリーを1つ上げ、絶滅危惧Ⅱ類（VU）とした。

本県でこれまでホソヒメギセルと同定していた種は、最近の研究でニセモリサキギセル（仮称）（モリサキギセル近似種）とされた（湊・室原, 2011）（多田・矢野, 2012）。県南山岳地帯の自然林内で見られ、個体数は極めて少ないことから、情報不足（DD）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更した。なお、RDB2019 では本種をニセスギモトギセル（モリサキギセル近似種）と誤記したが、正しくはニセモリサキギセル（仮称）（モリサキギセル近似種）である。

ナガオカモノアラガイは県北菊池川水系と県央加勢川・緑川水系に見られる。生息地が限定され、最近個体数が減っているようであることから、準絶滅危惧（NT）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更した。

オオコウラナメクジは県南の陰しい山岳地帯の自然林内に生息しており、個体数は極めて少ない。風水害や樹林伐採に伴い、絶滅の危機が増大していると判断され、情報不足（DD）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更した。

ツシマナガキビは県央から県南にかけての限られた石灰岩地に生息する固有種で、個体数は少ない。ダム建設に伴う開発や風水害による生息地崩壊による環境改変は絶滅の危機を増大させると判断し、準絶滅危惧（NT）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更した。なお、九州産のタカキビはツシマナガキビのシノニムと思われる（矢野, 2015）。

ケシガイはニホンケシガイと共に見出される県内では最も小さいカタツムリの一種である。ニホンケシガイに比べて生息地が限られているようで、自然林内の落葉下で発見される。絶滅の危機に瀕していると判断され、情報不足（DD）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）に変更した。

ナミハダギセルは九州南部に分布する細長い中形のキセルガイ類であり、本県では県南の人吉市から水上村の市房山にかけての山岳部の自然林内で確認されているが、個体数は少ない。最近の自然林伐採や風水害による環境破壊により絶滅が危惧されだしたので、新たに準絶滅危惧（NT）とした。

アラナミギセルは五木村、山江村、球磨村、相良村、あさぎり町及び天草市や芦北町の自然林内で見られる小形のキセルガイ類である。最近になって分布が明らかになってきた種で、個体数は多くない。存続基盤が脆弱な種と判断し、新たに準絶滅危惧（NT）とした。

シンチュウギセルは八代市、五木村、山江村の山間部自然林内で見られる小形のキセルガイ類で、個体数は少ない。最近になり分布が知られるようになった種であることから、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）に変更した。

アラハダノミギセルも最近の調査により分布が知られるようになった小形のキセルガイ類で、天草市や八代市、五木村、水上村の自然林内で見られる。従って、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）に変更した。

オオウエキビは近年の環境アセスメント調査で生息が明らかになってきた微小なシタラガイ類である。八代市、球磨村、五木村の自然林内で見られ、個体数は極めて少ない。従って、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）に変更した。

ウメムラシタラは市街地周辺の自然林から山地の自然林内まで広く分布している微小なシタラガイ類である。コシダカシタラと共に採集されることがあるが、個体数はウメムラシタラの方が少ない。環境省 RL2020 では情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）とされていることから、本県でも新たに準絶滅危惧（NT）とした。

オオクラヒメベッコウも近年の環境アセスメント調査で生息が明らかになってきた小形のシタラガイ類である。球磨村、五木村及び天草市南部の自然林内で見られる。従って、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）に変更した。

ヒラベッコウの仲間（旧タカハシベッコウ）は山間部のやや湿潤な森林内で見られる美しい小形のシタラガイ類である。個体数は少なく、引き続き準絶滅危惧（NT）とした。なお、本種はこれまでタカハシベッコウとしてきた種で、近年の研究から別種であることが分かった（上島, 2007）。

ヒラベッコウは八代市、球磨村、五木村などの自然林内に見られる小形のベッコウマイマイ類である。ウラジロベッコウやタカハシベッコウに似るが、やや大形である。個体数は少なく、情報不足（DD）から準絶滅危惧（NT）に変更した。

レンズガイは低地から山地まで広く見られるベッコウマイマイ類である。自然林淵の草むらやガレ場でもよく見かける。最近、個体数が減っていることから、新たに準絶滅危惧（NT）とした。

情報不足（DD）のカタハリピルスブリムシオイ（仮称）は、RDB2019 でタネガシマムシオイとしていた種で、殻の形状からこのように仮称された（矢野, 2024）。小形のムシオイガイ類で、九州西部の島嶼や長崎県本土、県内では天草地域で採集記録がある。しかし、県内における生息状況が確認できず、評価には至らなかった。希少種であることには変わりなく、引き続き情報不足（DD）とした。

チョウセンスナガイは朝鮮半島南部の巨済島を模式産地とする微小な貝で、国内の分布はよく分かっていない。スナガイと違い、内陸の石灰岩地帯で見られる（湊, 1992）。五木村での採集記録があるが（西・潮崎, 2014）、個体数は少ないようで、新たに情報不足（DD）とした。

サツマオカチョウジガイは最近の環境アセスメント調査で分布が明らかになった種で、五木村で見つかった。個体数は少ないようで、県内の分布もよく分からないので、新たに情報不足（DD）に上げた。

ヒラドマルナタネも最近の環境アセスメント調査で分布が明らかになった種で、五木村で見つかった。また、別の採集記録もあるが（西, 2022）、生息状況等や県内のその他の分布は不明であるため、新たに情報不足（DD）に上げた。

マルナタネは樹上性の微小な貝で、枝先等に群生していることがある。八代市での発見後、下益城郡内や五木村や天草でも記録がある。しかし、その後の調査でも県内の分布はよく分からないことから、新たに情報不足（DD）とした。

アズマギセルは鹿児島県下甕島を模式産地とし、甕島列島に分布する中形のキセルガイ類である。殻口縁に刻み状の歯状列がり、殻口正面から見て体層内側に月状壁があるのが特徴である。水俣市で1個体採集された記録があるのみで（湊 他, 2016）、本県における分布は全く解明されていない。よって、新たに情報不足（DD）とした。

コシキジマギセルも鹿児島県下甕島を模式産地とする小形のキセルガイ類で、甕島特産種である。天草市と北向山で記録があるのみである（浜田, 1970）。これまでの調査でも、その分布は未だに不明であるため、新たに情報不足（DD）とした。

ナタネガイ科の5種、ナタネガイ、ハリマタタネ、ミジンナタネ、クルマナタネ、カトウナタネはいずれもの大変微小な貝である。阿蘇北向山原生林内や五木村、玉名市や上天草市の自然林内で発見されている。県内の分布は定かではなく、新たに情報不足（DD）に上げた。

ヒゼンキビは上益城郡、八代市、球磨村、山江村、五木村にかけての石灰岩地帯や自然林内落葉下で普通に見られる種で、個体数も少なくはない。よって、情報不足（DD）から外すことにした。

キカイキビ近似種はハリマキビに似るがやや大きい。記録には八代市とだけあり（潮崎, 2014）、死殻のみ採集されている。詳細は全く不明であることから、新たに情報不足（DD）に上げて調査対象種とすることにした。

コガタシロヒメベッコウ（早瀬 他, 2016）とシロヒメベッコウの仲間（矢野, 2019）は最近その存在が示された大変微小な貝である。両種ともヒメベッコウに似るが、やや大きく、殻は白っぽいのが特徴である。県内では玉名市、八代市、坂本町、球磨村、山江村、五木村の石灰岩落葉下に見られるようである。個体数は少ないことから、新たに情報不足（DD）に上げて今後の調査対象種とした。

カドヒメベッコウはツノイロヒメベッコウによく似ており、最近の研究でそのシノニムとして扱われている（上島, 2007）。よって、RL2024 から削除した。

シチトウベッコウ（西, 2019）は 1970 年台に八代市の標高の高い山岳地帯自然林内で苔むした大木の樹幹上を這っているところを発見された大変珍奇なシタラガイ類である。個体数は極めて少ないことから、新たに情報不足（DD）に上げ、今後の調査対象とした。

ハクサンベッコウ類似種はウラジロベッコウに似るが殻の巻き方が荒く、タカハシベッコウよりも小さい種を本種に当てている。同定そのものが未だにはっきりしない種で（西, 2013）、新たに情報不足（DD）に上げた。県央から県南にかけての自然林内落葉下に見られるが、個体数は少ない。

ヒゴフリイデルマイマイは本県ではこれまでフリイデルマイマイとしてきた種で（矢野私信, 2023）、県内の森林内に広く分布している。模式産地は球磨村である（前田 他, 1983）。殻表に鱗片状突起が存在する。コベソマイマイと同様に森林の環境指標生物となり得るので、新たに情報不足（DD）に上げ、今後の詳しい分布調査の対象とした。

コウベマイマイ類似種について、本県ではこれまでコウベマイマイとしてきた種で（矢野私信, 2023）、殻表に鱗片状突起がなくて光沢のあるオオベソマイマイ属の平たいマイマイである。県央から県南にかけての森林内でよく見かける。本種も森林の環境指標生物となり得るので、新たに情報不足（DD）に加えた。

ツシマケマイマイは、平成 27 年（2015 年）に熊本城内にある監物台樹木園内から発見された（湊 他, 2018）。模式産地は長崎県対馬で、対馬より樹木の移植に伴い移入されたと思われる。その後、定着が確認されたので、新たに情報不足（DD）に上げ、県下の分布調査の対象とした。

タメトモマイマイは琉球が模式産地の南方系のマイマイ類で、平成 3 年（1991 年）に天草市の山林頂上付近で発見されたが、個体数は少ない。その後、森林伐採によって見られなくなり、今後の詳しい再調査が必要である。よって、新たに情報不足（DD）とした。

セトウチマイマイは近畿西部から中国四国地方、九州では福岡県、大分県、宮崎県に広く分布する中形のカタツムリで、普通種として扱われている。近年、宮崎県五ヶ瀬川水系の本県側山都町（西・潮崎, 2014）と高森町及び緑川水系山都町の自然度の高い樹林の樹幹上で発見されたが、個体数は多くない。その後、小国町でも記録があり（西・潮崎, 2019）、県境付近に近い自然度の高い森林内で見られる。生息状況の観察から、他県からの移入ではなく自然分布していると考えられる。よって、本県は日本におけるセトウチマイマイの西限ないし南限と思われる。ツクシマイマイに比べて殻はやや小さく、殻表の成長脈が緻密で、軟体の色と模様の特徴がある。なお、県央から県南にかけての山地森林内にツクシマイマイと同じ場所で見られるタカチホマイマイ（ツクシマイマイの亜種）にも似るが（Nishi & Sota, 2007）、軟体の色と模様で区別される。今後、県内における詳しい分布調査が必要であるため、新たに情報不足（DD）とした。

アキメカサマイマイ近似種は亜成体死殻 1 個体が近年天草市で記録された（潮崎, 2014）。オオカサマイマイ類は琉球列島を模式産地とし、殻径/殻高の比率で亜種が区別される。鹿児島県では奄美大島にオオシマカサマイマイ（d/h 0.34）、カタカサマイマイ（d/h 0.40-0.45）、薩摩半島にアキメカサマイマイ（d/h 0.32-0.36）が分布している（湊・行田, 2007）。天草で記録された死殻 1 個体は亜成貝であり、アキメカサマイマイ近似種ということになっているが、詳しい採集場所は不明である。従って、新たに情報不足（DD）とすることで、今後の調査対象とした。

トウキョウヒラマキガイは最近、宇城市の水田横水路で発見されたヒラマキガイ科の淡水産貝類で、関東を中心に分布しており、福岡県や沖縄県でも見られる。その後の再調査で確認

できず、散発的に発生した可能性もある。従って、新たに情報不足 (DD) とすることで、今後再調査を繰り返し、定着しているかどうかの再確認を行う予定である。

(5) カテゴリーを見直した主な種及びその変更理由

タカチホムシオイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

模式産地は宮崎県西臼杵郡高千穂町黒仁田柘ヶ竜鍾乳洞 (石灰岩地)。最近になって種の同定法が明確になり (矢野, 2015)、県央から県南にかけての分布が徐々に明らかになってきた。個体数は極めて少なく、環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種であると判断されることから、準絶滅危惧 (NT) から絶滅危惧 IA 類 (CR) に変更した。

シイバムシオイ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

模式産地は宮崎県東臼杵郡椎葉村松木稻荷穴の入り口 (石灰岩地)。これまで本県ではハリマムシオイとしていた種で、最近の研究でシイバムシオイと同種とされた (矢野, 2015)。種の同定法が明確になり、県央から県南にかけての分布が徐々に明らかになってきた。個体数は極めて少なく、環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種であると判断されることから新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

フトクビムシオイ (仮称) 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

最近の研究でフトクビムシオイと仮称された種である (矢野, 2015)。本県では昭和 45 年 (1970 年) 頃、山江村の石灰岩地で初めて発見され、徐々に分布が明らかになってきた。個体数は極めて少なく、環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種であると判断されることから、タカチホムシオイと同様に新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

ゴカノショウゴマガイ (仮称) 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

昭和 45 年 (1970 年) 頃から県央から県南にかけての山岳地帯自然林内に生息していることが知られるようになった。その後、ゴカノショウゴマガイと仮称された (浜田, 1973)。個体数は極めて少なく、環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種であると判断される。従って、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

ハマダゴマガイ (仮称) 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

1970 年台前半に八代市の山岳地帯自然林内で最初に発見された。その後、ハマダゴマガイと仮称されるようになった (浜田, 1977)。個体数は極めて少なく、環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種であると判断されることから、ゴカノショウゴマガイと同様に新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

ヤマトキバサナギガイ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

県南の石灰岩地帯ガレ場で発見される微小な貝で、五木村や天草市の島嶼でも発見されているが、本県では生息場所が限られ、個体数は極めて少ない。環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種と判断されることから、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

オオスミウロコマイマイ 絶滅危惧 IA 類 (CR) 新規

県南にかけての山岳地帯自然林内から 1970 年台に発見された種で、個体数は極めて少ない。上述したように、殻の形状はコオオベソマイマイ類似種より小形で、殻表に鱗片状突起が存在し、体層周縁の竜骨は明瞭である。殻の形状はコオオベソマイマイ類似種に似るがより小形で、体層周縁はさらに角張る。ジタロウマイマイという記録もあるが (西, 2018)、オオスミウロコマイマイのシノニムと思われる。環境変化に伴い深刻な絶滅の危機に瀕している種と判断されることから、新たに絶滅危惧 IA 類 (CR) に加えた。

キュウシュウササノハガイ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

キュウシュウササノハガイ (Kondo & Hattori, 2019) は菊池川水系の極めて限られた場所で生息が確認されており、絶滅の危機度が極めて高いと判断された。よって、絶滅危惧 IB 類 (EN) から絶滅危惧 IA 類 (CR) に変更した。

オオウスイロヘソカドガイ 絶滅危惧 IB 類 (EN) 新規

模式産地は鹿児島県種子島で、南方系の貝。屋久島、口永良部島、鹿児島県本土、福岡県、愛媛県、大阪湾、兵庫県但馬、石川県、福井県、新潟県、愛知県、東京湾、北は宮城県までの海岸飛沫帯岩礁地の高潮帯礫間や流木などのゴミに紛れて生息している。生息域が岩礁と陸の境目に限定された大変狭い範囲で、県内では天草市の島嶼やその沿岸部の限られた地域で見られる。よって、海岸線の護岸工事や海岸道路工事に伴う生息環境の改変はすぐに絶滅の危機に瀕すると判断した。よって、新たに絶滅危惧 IB 類 (EN) に加えた。

ノミガイ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

模式産地は台湾で、南方系の貝。海岸線の樹林内や草地で見られ、県内では天草市の島嶼やその沿岸部のかなり限られた地域で見られる。このため、海岸線の護岸工事や海岸道路工事に伴う生息環境の改変があればすぐに絶滅の危機に瀕すると判断した。よって、情報不足 (DD) から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。

カワモトギセル 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

模式産地は山口県岩国市城山で、山口県と九州北東部に分布するとされている。本県では泉町、山都町にかけての山岳地帯自然林内に生息しており、個体数は少ない。森林の伐採や風水害による環境改変により絶滅がかなり危惧されると判断されたので、絶滅危惧 II 類 (VU) から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。

カサネシタラ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

全国的に分布している種であるが、極めて個体数が少ない希少な種である。県内では県北の菊池溪谷自然林内で初めて発見された後、八代市や五木村で見られるようになった。森林伐採や自然災害による生息環境の改変はすぐに絶滅の危機に瀕すると判断し、情報不足 (DD) から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。

チクヤケマイマイ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

模式産地は島根県松江市竹矢町。県内では県央の石灰岩地帯草むら等で見られる種である。生息場所が限られており、森林伐採や自然災害、道路拡張工事などによる生息環境の改変はすぐに絶滅の危機に瀕すると判断された。よって、絶滅危惧 II 類 (VU) から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。

アマクサマイマイ 絶滅危惧 IB 類 (EN) 新規

これまでは南方系のカタツムリであるパンダナマイマイとされていた種である。しかし、殻の形状及び解剖学的所見から別種と判断され、令和 6 年 (2024 年) に新種記載された (Hirano, 2024)。本県が分布の北限と思われ、天草市の島嶼やその沿岸部の限られた地域で見られる。よって、自然災害や護岸工事、海岸道路工事に伴う生息環境の改変はすぐに絶滅の危機に瀕すると判断されることから、新たに絶滅危惧 IB 類 (EN) に加えた。

ホラアナミジンナ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

ヌマツボ科の淡水産貝類。本県では山間部湧水や滝壺などに見られる種である。場所によって個体数は多いが、山間部湧水では個体数は少ない。生息場所が湧水という場所に限られており、近年の異常気象による風水害が原因でこれらの環境が激変している。よって、環境が激変しており、絶滅危惧 II 類 (VU) から絶滅危惧 IB 類 (EN) に変更した。

ウスイロオカチグサ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

模式産地は琉球で、南方系の貝。しかし、近年では関東地方まで分布を広げている。最近の環境アセスメント関連調査では河川調査も注意深く行うようになり、熊本市をはじめ宇城市、八代市、芦北町、津奈木町、人吉市、苓北町の河川域での生息が確認され、県内の分布が徐々に明らかになってきた。依然絶滅の危機は増大しているが、個体数は少なくないため、絶滅危惧 IB 類 (EN) から一つカテゴリーを下げ、絶滅危惧 II 類 (VU) に変更した。

ミジンマイマイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

スナガイと同様、宇土市、玉名市、長洲町、天草市の海岸線付近で確認されている。しかし、個体数は少なく、道路拡張工事や宅地化が進み、さらに絶滅の危惧度が増した。よって、準絶滅危惧 (NT) から一つカテゴリーを上げ、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

ニセモリサキギセル (仮称) (モリサキギセル近似種) 情報不足 (DD) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ニセモリサキギセル (仮称) はモリサキギセル近似種で、これまで本県でホソヒメギセルと同定されていた。最近の研究で、ニセモリサキギセル (仮称) (モリサキギセル近似種) とされた (湊・室原, 2011) (多田・矢野, 2012)。県南山岳地帯の自然林内で見られ、個体数は極めて少ない。森林伐採や風水害による環境変化は絶滅に直結することより、情報不足 (DD) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。なお、RDB2019 では本種をニセスギモトギセル (モリサキギセル近似種) と誤記したが、正しくはニセモリサキギセル (仮称) (モリサキギセル近似種) である。

ナガオカモノアラガイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

関西以西に広く分布するが、個体数は少ない。県内では菊池川水系と加勢川水系のアシやヨシの葉上、川沿いの廃船上に付着しているのを見かける。に付着していることが多い。護岸工事等でアシやヨシ原が改変されることは即、絶滅につながる恐れがあることから、準絶滅危惧 (NT) から一つカテゴリーを上げて、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

オオコウラナメクジ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

模式産地は鳥取市久松山。県内では県南の標高の高い険しい山岳地帯自然林内に生息しているが、個体数は極めて少ない。昨今の風水害や樹林伐採に伴い、絶滅の危機が増大していると判断され、情報不足 (DD) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

ツシマナガキビ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

模式産地は長崎県上対馬。県内では県央から県南にかけての限られた石灰岩地に生息する固有種で、個体数は少ない。ダム建設に伴う開発や風水害による生息地崩壊等による環境改変により絶滅の危機が増大していると判断され、準絶滅危惧 (NT) から一つカテゴリーを上げて、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。なお、九州産のタカキビはツシマナガキビのシノニムと思われる (矢野, 2015)。

ケシガイ 情報不足 (DD) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

模式産地は種子島だが、全国に分布している。県内ではニホンケシガイと共に見出される最も小さいカタツムリの一種である。ニホンケシガイに比べて生息地が限られているようで、自然林内の落葉下で発見される。樹林伐採や風水害に伴う環境改変は絶滅を増大させると判断され、情報不足 (DD) から絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に変更した。

ナミハダギセル 準絶滅危惧 (NT) 新規

模式産地は鹿児島県肝属郡田代町で、九州南部に分布している。本県では水上村の市房山自然林内で見つかった。県内の分布は南部の宮崎県と鹿児島県に接する地域に限られ、個体数は少ない。存続基盤が脆弱で、環境改変は絶滅につながると判断され、新たに準絶滅危惧 (NT) に加えた。

アラナミギセル 準絶滅危惧 (NT) 新規

模式産地は鹿児島で、ナミハダギセルと同様に九州南部に分布している。県内では五木村、山江村、球磨村、相良村、あさぎり町及び天草市と芦北町の各所で見つっている。県北から県央、天草下島にかけての山間部自然林内で見られるピルスブリギセルに似るが、体層下の腔襞の形と位置が違う。個体数は少なく、存続基盤が脆弱であると判断され、新たに準絶滅危惧 (NT) に加えた。

シンチュウギセル 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

模式産地は高知県高岡郡葉山村で、四国と九州（大分県、宮崎県）に分布している。本県では八代市、相良村、五木村の自然林内で見ついている。個体数は少なく、存続基盤が脆弱であると判断され、情報不足 (DD) から準絶滅危惧 (NT) に変更した。

アラハダノミギセル 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

模式産地は鹿児島県下甕島で、鹿児島県本土と宮崎県に分布している。小形のキセルガイで、自然林内の朽木等で見つかる。県内では天草市や八代市、五木村、水上村で見ついている。個体数は多くなく、存続基盤が脆弱であると判断され、情報不足 (DD) から準絶滅危惧 (NT) に変更した。

オオウエキビ 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

模式産地は兵庫県で、日本各地に分布している。微小なシトラガイ科の貝で、自然林内落葉下で見つかる。個体数は極めて少なく、希少な貝である。県内では八代市、五木村、球磨村で見つかり、存続基盤が脆弱であると判断される。よって、情報不足 (DD) から準絶滅危惧 (NT) に変更した。

ウメムラシトラ 準絶滅危惧 (NT) 新規

日本各地に分布する微小なシトラガイ科の貝で、自然林内落葉下で見つかる。コシタカシトラと一緒に見つかることがある。県内では玉東町の木葉山、熊本市の立田山及び金峰山、阿蘇北向山、八代市、氷川町、五木村などで見ついている。個体数は少なく、存続基盤が脆弱であると判断され、新たに準絶滅危惧 (NT) に加えた。

オオクラヒメベッコウ 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

模式産地は屋久島だが、日本各地に分布している。微小なシトラガイ科の貝で、自然林内落葉下で見つかる。個体数は極めて少なく、希少な貝である。県内では天草市や水上村の市房山で見ついている。存続基盤が脆弱であると判断され、情報不足 (DD) から準絶滅危惧 (NT) に変更した。

ヒラベッコウ 情報不足 (DD) → 準絶滅危惧 (NT)

日本各地に分布していると思われる。ウラジロベッコウやヒラベッコウの仲間（旧タカハシベッコウ）より大きい平たいベッコウマイマイ科の貝。自然林内落葉下で見つかることが多いが、個体数は極めて少ない。県内では八代市や球磨村、五木村で見ついている。存続基盤が脆弱であると判断され、情報不足 (DD) から準絶滅危惧 (NT) に変更した。

レンズガイ 準絶滅危惧 (NT) 新規

日本各地に分布する低地から山地まで広く見られるベッコウマイマイ類で、自然林淵の草むらやガレ場でもよく見かけられた。しかし、近年、全国的に個体数が減っており、県内でも見かけなくなった。このことから、存続基盤が脆弱であると判断し、新たに準絶滅危惧 (NT) に加えた。

チョウセンスナガイ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は朝鮮半島南部の巨済島で、大変微小な貝である。国内の分布はよく分かっていないが、海岸線に生息するスナガイと違い、内陸の石灰岩地帯で見られる（湊, 1992）。県内では最初、スナガイと間違えて報告されたが、殻口歯状突起の違いからチョウセンスナガイと訂正された（西・潮崎, 2014）。個体数は少ないようで、県内の分布も明らかではない。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

サツマオカチョウジガイ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は鹿児島県開聞岳で、大分県と宮崎県にも分布する。オカチョウジガイに似るが、臍孔が開く。個体数は少ないようで、県内の分布も五木村以外、明らかではない。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

ヒラドマルナタネ 情報不足 (DD) 新規

非常に微小なマキゾメガイ科の貝で、個体数は極めて少ない。県内の分布も五木村以外に明らかでない。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

マルナタネ 情報不足 (DD) 新規

樹上性で非常に微小なマキゾメガイ科の貝で、枝先等に群生していることがある。八代市での確認され、下益城郡内や五木村、天草でも記録がある。しかし、その後の調査での県内の分布は不明であり、新たに情報不足 (DD) に加えた、広く情報を募ることとした。

アズマギセル 情報不足 (DD) 新規

模式産地は鹿児島県下甕島で、甕島列島に分布する中形のキセルガイ類である。殻の特徴は殻口縁に刻み状歯状列がり、殻口を正面から見た時に体層内側に月状襞が見える。水俣市で1個体採集された記録があるのみで(湊 他, 2016)、本県における分布は全く解明されていない。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

コシキジマギセル 情報不足 (DD) 新規

模式産地は鹿児島県下甕島で、甕島特産の小形のキセルガイ類である。天草市と阿蘇北向山で記録があるのみである(浜田, 1970)。これまでの調査でも分布は未だに不明であるため、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

ナタネガイ 情報不足 (DD) 新規

大変微小な貝で、阿蘇北向山や五木村の自然林内落葉下に見られる。個体数が極めて少なく、環境改変は絶滅につながる恐れがある。これまでの調査では分布は不明であるため、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

ハリマナタネ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は兵庫県で、大変微小な貝。阿蘇北向山や五木村、上天草市、玉名市の自然林内落葉下に見られる。ナタネガイ同様に個体数が極めて少なく、環境改変は絶滅につながる恐れがある。これまでの調査では県内の分布は分からず、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

ミジンナタネ 情報不足 (DD) 新規

大変微小な貝で、五木村の自然林内落葉下で発見されている。ナタネガイ同様に個体数が極めて少なく、環境改変は絶滅につながる恐れがある。これまでの調査では県内の分布は分からず、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

クルマナタネ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は山形県で、大変微小な貝。県内では玉名市で発見されている。ナタネガイ同様に個体数が極めて少なく、環境改変は絶滅につながる恐れがある。これまでの調査では県内の分布は分からず、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

カトウナタネ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は福岡県柳川市で、大変微小な貝。県内では玉名市で発見されている。ナタネガイ同様に個体数が極めて少なく、環境改変は絶滅につながる恐れがある。これまでの調査で県内の分布はよく分からず、新たに情報不足 (DD) に加え、広く情報を募ることとした。

ヒゼンキビ 情報不足 (DD) → カテゴリー外

模式産地は長崎県平戸島。大変微小な貝であるが、県内各地の自然林内で発見される。RDB2019 では情報不足 (DD) に上げた。しかし、個体数は多く、絶滅の危機があるとは思われないため、カテゴリー外とした。

キカイキビ近似種 情報不足 (DD) 新規

ハリマキビに似るがやや大きい。記録には八代市とだけあり（潮崎, 2014）、死殻のみ採集されている。生息状況や個体数などの詳細は全く不明であり、新たに情報不足 (DD) に加え、調査対象種とすることにした。

カドヒメベッコウ 情報不足 (DD) → カテゴリー外

ツノイロヒメベッコウによく似た小形のシトラガイで、周縁に角がある。ツノイロヒメベッコウの殻よりもやや丸みを帯びているとされていた。しかし、近年の研究で、ツノイロヒメベッコウのシノニムとされた（上島, 2007）。よって、RDB2019 では情報不足 (DD) に上げたが、カテゴリー外とした。

コガタシロヒメベッコウ 情報不足 (DD) 新規

本種は最近その存在が示された大変微小な貝である（早瀬 他, 2016）。ヤクシマヒメベッコウに似るが、軟体と殻が白っぽい。県内では宇城市、八代市、水俣市、球磨村、山江村、五木村の特に石灰岩落葉下で見られるようである。個体数は少ないことから、新たに情報不足 (DD) に加え、今後の調査対象種とすることにした。

シロヒメベッコウの仲間 情報不足 (DD) 新規

本種も最近になってその存在が示された大変微小な貝である（矢野, 2019）。ヤクシマヒメベッコウよりもさらに大きく、殻は白っぽいようである。県内の分布や生息状況は全く不明であることから、新たに情報不足 (DD) に加え、調査対象種とすることにした。

シチトウベッコウ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は伊豆諸島三宅島で、1970 年台に八代市の標高の高い山岳地帯自然林内で苔むした大木の樹幹上を這っているところを発見された。大変珍奇なシトラガイ類で、当時は不明種として扱われた。個体数は極めて少なく、県内のその他の分布は不明であるため、新たに情報不足 (DD) に加え、調査対象種とすることにした。

ハクサンベッコウ類似種 情報不足 (DD) 新規

本種はウラジロベッコウに似るが殻の巻き方が荒く、やや小形である。同定そのものが未だにはっきりしない種で（西, 2013）あるため、新たに情報不足 (DD) に加え、調査対象種とすることにした。

ヒゴフリエルマイマイ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は球磨村で（前田 他, 1983）、殻表に鱗片状突起が存在するのが特徴である。これまでの研究でフリエルマイマイの模式産地は長崎近郊、分布は九州北部並びに西部とされ、それに対して、ヒゴフリエルマイマイは九州南部に生息すると考えられている（黒田, 1958）。県下の森林内に広く分布している。森林の環境指標生物となり得るので、新たに情報不足 (DD) に加え、さらに詳しい分布調査の対象とした。

コウベマイマイ類似種 情報不足 (DD) 新規

本県ではこれまでコウベマイマイとしてきた種。ヒゴフリエルマイマイに似るが、殻表に鱗片状突起がなく、光沢のあるオオベソマイマイ属の平たいマイマイである。県央から県南にかけての森林内でよく見かける。本種も森林の環境指標生物となり得るので、新たに情報不足 (DD) に加え、さらに詳しい分布調査の対象とした。

ツシマケマイマイ 情報不足 (DD) 新規

本種は平成 27 年（2015 年）に熊本城内にある監物台樹木園内から初めて発見された（湊 他, 2018）。模式産地は長崎県対馬で、対馬よりヒトツバタゴ（ナンジャモンジャノキ）の移植に伴って移入されたと思われる。その後、樹木園内に定着が確認された。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、県下の分布調査の対象とした。

タメトモマイマイ 情報不足 (DD) 新規

模式産地は琉球で、南方系のマイマイ類である。平成3年(1991年)に天草市の山林頂上付近で発見された。個体数は極めて少ない。その後、山頂付近の森林が伐採されたことによって見かけなくなった。今後、絶滅も含めた詳しい調査が必要であるため、新たに情報不足 (DD) に加え、生息調査の対象とした。

セトウチマイマイ 情報不足 (DD) 新規

日本では近畿以西に分布し、九州では福岡県、大分県、宮崎県に広く生息している普通種である。殻径 30 mm 弱の樹上性中形マイマイ類である。平成 26 年 (2014 年) に宮崎県五ヶ瀬町に接する熊本県山都町山林内から初めてセトウチマイマイの生息が報告された (西・潮崎, 2014)。その後、宮崎県五ヶ瀬川水系から本県側高森町及び山都町緑川水系の自然度の高い樹林内に生息していることが確認された。今の所、分布は限られており個体数も多くはない。その後、福岡県に接する小国町でも記録があり (西・潮崎, 2019)、他県と接する県境付近の自然度の高い森林内で見られるようである。生息環境の観察から、自然分布していると考えられる。よって、本県は日本におけるセトウチマイマイの西限ないし南限と思われる。福岡県、大分県、宮崎県では普通種であるが、本県側県境付近の環境変化は本種の生存に重大な影響を及ぼす恐れがある。よって、新たに情報不足 (DD) に加え、更なる分布調査の対象とした。

アキメカサマイマイ近似種 情報不足 (DD) 新規

模式産地が琉球列島である南方系カサマイマイ類であるオオカサマイマイの亜種として知られる。近年、亜成体死殻 1 個体が天草市で見つかった (潮崎, 2014)。同定の結果、この亜成体死殻 1 個体はアキメカサマイマイ近似種とされた (湊・行田, 2007)。詳しい採集場所は不明であるため、新たに情報不足 (DD) に加え、漂着等も含めて今後の調査を行う予定である。

トウキョウヒラマキガイ 情報不足 (DD) 新規

関東を中心に分布しており、福岡県や沖縄県でも見られるヒラマキガイ科の淡水産貝類である。令和元年 (2019 年) に宇城市の水田横水路で発見された。その後の再調査では、確認できていない。散発的に発生した可能性もあることから、新たに情報不足 (DD) に加え、今後再調査を行う予定である。

(6) 今後の課題

RL2024 で選定した種数は 95 種であり、RDB2019 以後の調査結果を踏まえて、RDB2019 に掲載した種数 62 種より 33 種増加した。本県全体で考えると、熊本県に生息する陸産・淡水産貝類の 51% が RL2024 に選定されたことになる。これは貝類専門家のデータ蓄積によって研究が進んできたこと、RDB 補完調査が徐々に進んでいること、信頼できる査読つき論文が入手しやすくなったこと、環境アセスメント報告書などの各種報告書に信頼できる写真が掲載されるようになったことにより、RL 選定の質が向上したことによる。また、昭和 45 年 (1970 年) 頃から本県に生息が知られている種で、まだ正式な学名が確定していないフトクビムシオイ、ゴカノショウゴマガイ、ハマダゴマガイ、ニセモリサキギセル、コウベマイマイ類似種や近年の調査で明らかになってきたキカイキビ近似種、シロヒメベッコウの仲間、ハクサンベッコウ類似種、アキメカサマイマイ近似種について、RL2024 に新たに追加して注意を促したことによる。

他県と接する地域の調査は今後とも重点的に行う必要がある。加えて天草地域は南方系陸産貝類が含まれており、この地域も重点的な調査が望まれる。陸産貝類や淡水産貝類の場合、他の生物に比べて移動能に欠け、生息環境の改変はそれらの生存に直結する。ここ数年来の傾向として、生存を脅かす要因は森林伐採も大きいですが、地球温暖化に伴う異常気象に起因する風水害による環境改変がその大きな要因を占めるようになってきた。また、同じ地域での度重なる徹底的な環境アセスメント調査は、調査の際の踏み付けや不必要な捕獲採集等により逆に大きな環境破壊をもたらしている。さらに、シイボルトコギセル、スグヒダギセルやアズキガイなど群生しやすい種を対象とした生物統計的研究と称しての大量捕獲は、その地域に大きな環境変化をもたらした。環境保全の観点から貝類研究は、化学研究のようにマクロ的視野から必要最小限の個体を扱うミクロ視野的研究へと移行させることが望まれる。情報

不足（DD）に上げた種の中には大変微小な貝を含んでおり、調査には困難をきたすことが多い。今後とも、できるだけ多くの調査者によって調査が進められ、微小種の分布が明らかにされていくことを希望する。

最後に、貝類研究で助言をいただいている湊宏日本貝類学会名誉会員と矢野重文日本貝類学会評議員並びに上島励博士（東京大学理学系研究科生物科学専攻生物学科）に感謝の意を表す。また、熊本県博物館ネットワークセンターの中蘭洋行氏及び調査員でもある松本達也氏、同貝類調べ隊の隊員の方々には日頃から貝類調査に協力いただいている。この場を借りてお礼申し上げる。

(7) レッドリスト

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【20 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 ヤマキサゴ科	ヤマキサゴ	<i>Waldemaria japonica</i>	CR	
2 ヤマタニシ科	イトマキミジンヤマタニシ	<i>Cyathopoma nishinoi</i>	CR	CR+EN
3 ムシオイガイ科	クマモトアツブタムシオイ	<i>Awalycaeus shiosakimasahiro</i>	CR	
4 ムシオイガイ科	タカチホムシオイ	<i>Chamalycaeus nishii</i>	NT	CR+EN
5 ムシオイガイ科	シイバムシオイ	<i>Chamalycaeus shiibaensis</i>		CR+EN
6 ムシオイガイ科	フトクビムシオイ (仮称)	<i>Chamalycaeus</i> sp.		
7 ゴマガイ科	ゴカノショウゴマガイ (仮称)	<i>Diplomatica</i> sp.		
8 ゴマガイ科	ハマダゴマガイ (仮称)	<i>Diplomatica</i> sp.		
9 キセルガイ科	ヒゴコンボウギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) higomonticola</i>	CR	CR+EN
10 キセルガイ科	イシカワギセル	<i>Megalophaedusa (Neophaedusa) ishikawai</i>	CR	CR+EN
11 キセルガイ科	カザアナギセル	<i>Megalophaedusa (Neophaedusa) spelaeonis</i>	CR	CR+EN
12 キセルガイ科	ケショウギセル	<i>Megalophaedusa (Neophaedusa) alba</i>	CR	CR+EN
13 キセルガイ科	ナンビギセル	<i>Megalophaedusa (Pauiciphaedusa) toshiyukii</i>	CR	CR+EN
14 キセルガイ科	ハナコギセル	<i>Reinia (Pictophaedusa) euholostoma</i>	CR	CR+EN
16 キセルガイ科	マルクチョコギセル	<i>Reinia (Pictophaedusa) holotrema</i>	CR	CR+EN
15 キバサナギガイ科	ヤマトキバサナギガイ	<i>Vertigo japonica</i>		VU
17 ナンバンマイマイ科	オオウスビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragosa</i>	CR	VU
18 ナンバンマイマイ科	オオスミビロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis osumiensis</i>	CR	NT
19 ナンバンマイマイ科	オオスミウロコマイマイ	<i>Aegista</i> sp.		
20 イシガイ科	キュウシュウササノハガイ	<i>Lanceolaria kihirai</i>	EN	EN

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【10 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 キバサナギガイ科	スナガイ	<i>Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella armigerella</i>	EN	NT
2 カワザンショウガイ科	オオウスイロヘソカドガイ	<i>Paludinella tanegashimae</i>		
3 ノミガイ科	ノミガイ	<i>Tornatellides boeningi</i>	DD	VU
4 キセルガイ科	カワモトギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) kawamotoi</i>	VU	VU
5 シタラ科	カサネシタラ	<i>Sitalina insignis</i>	DD	NT
6 ナンバンマイマイ科	チクヤケマイマイ	<i>Aegista (Plectotropis) aemula aemula</i>	VU	
7 ナンバンマイマイ科	アムクサマイマイ	<i>Bradybaena toshiyukihamadai</i>		
8 スマツボ科	ホラアナミジンナ	<i>Moria nipponica</i>	VU	VU
9 イシガイ科	ニセマツカサガイ	<i>Inversunio yanagawensis</i>	EN	VU
10 イシガイ科	カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i>	EN	VU

絶滅危惧 II 類 (VU) 【11 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサ	<i>Paludinella debilis</i>	EN	
2 ミジンマイマイ科	ミジンマイマイ	<i>Vallonia costata</i>	NT	
3 キセルモドキ科	キセルモドキ	<i>Mirus reinianus</i>	VU	
4 キセルモドキ科	ホソキセルモドキ	<i>Mirus rugulosus</i>	VU	NT
5 キセルガイ科	ニセモリサキギセル (仮称) (モリサキギセル近似種)	<i>Megalophaedusa (Aulacophaedusa) sp. cf. morisakii</i>	DD	
6 オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	NT	NT
7 オオコウラナメクジ科	オオコウラナメクジ	<i>Nipponarion carinatus</i>	DD	NT
8 シタラ科	ツシマナガキビ	<i>Trochochlamys longissima</i>	NT	NT
9 ケシガイ科	ケシガイ	<i>Carychium pessimum</i>	DD	NT
10 エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	<i>Gabbia kiusiuensis</i>	VU	VU
11 イシガイ科	マツカサガイ	<i>Pronodularia japonensis</i>	VU	NT

準絶滅危惧 (NT) 【25 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 ムシオイガイ科	サツナムシオイ	<i>Chamalycaeus satumanus satumanus</i>	NT	NT
2 ゴマガイ科	シリプトゴマガイ	<i>Arinia japonica</i>	NT	VU
3 カワザンショウガイ科	ヘソカドガイ	<i>Paludinella japonica</i>	NT	
4 キセルガイ科	カタギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) interlamellaris</i>	NT	NT
5 キセルガイ科	アメイロギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) virdiflava</i>	NT	
6 キセルガイ科	オキモドキギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) okimodoki</i>	NT	NT
7 キセルガイ科	ナミハダギセル	<i>Stereophaedusa (Mesophaedusa) cymatodes</i>		
8 キセルガイ科	トサギセル	<i>Stereophaedusa (Placeophaedusa) tosana tosana</i>	NT	NT
9 キセルガイ科	ピルスブリギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusoides) pilsbryana</i>	NT	NT

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020	
	和名	学名			
10	キセルガイ科	シマケルギセル	<i>Megalophaedusa (Pinguiphaedusa) schmackeri</i>	NT	NT
11	キセルガイ科	アラナミギセル	<i>Megalophaedusa (Tyrannophaedusa) oxycyma</i>		
12	キセルガイ科	シンチュウギセル	<i>Megalophaedusa (Mundiphaedusa) aenea</i>	DD	
13	キセルガイ科	アラハダノミギセル	<i>Zaptyx (Hemizaptyx) asperata</i>	DD	NT
14	シタラ科	オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>	DD	DD
15	シタラ科	ウメムラシタラ	<i>Sitalina japonica</i>		NT
16	シタラ科	オオクラヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys lampra</i>	DD	
17	ベッコウマイマイ科	テラマチベッコウ	<i>Bekkochlamys teramachii</i>	NT	NT
18	ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウの仲間	<i>Bekkochlamys</i> sp.	NT	
19	ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	DD	DD
20	ベッコウマイマイ科	レンズガイ	<i>Otiosiopsis japonica</i>		VU
21	ナンバンマイマイ科	コベソマイマイ	<i>Satsuma (Satsuma) myomphala myomphala</i>	NT	
22	ナンバンマイマイ科	シメクチマイマイ	<i>Satsuma (Satsuma) ferruginea</i>	NT	
23	ナンバンマイマイ科	キュウシュウシロマイマイ	<i>Trishoplita eumenes eumenes</i>	NT	
24	ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ	<i>Stenothyra japonica</i>	NT	VU
25	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis</i>	NT	DD

情報不足 (DD) 【29 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020	
	和名	学名			
1	ムシオイガイ科	カタハリビルスプリムシオイ（仮称）	Chamalycaeus sp.	DD	NT
2	キバサナギガイ科	チョウセンサナガイ	Gastrocopta coreana		
3	ナタネガイモドキ科	ナタネガイモドキ	Pyramidula (Pyramidulops) conica	DD	NT
4	オカクチキレガイ科	サツマオカチョウジガイ	Allopeas satsumense		
5	マキノメガイ科	ヒラドマルナタネ	Pupisoma japonicum		
6	マキノメガイ科	マルナタネ	Parazoogenetes orcula		
7	キセルガイ科	アズマギセル	Stereophaedusa (Luchuphaedusa) azumai		EN
8	キセルガイ科	コシキジマギセル	Stereophaedusa (Pinguiphaedusa) koshikijimana		NT
9	キバサナギガイ科	キバサナギガイ	Vertigo hirasei	DD	CR+EN
10	ナタネガイ科	ナタネガイ	Punctum amblygonum		
11	ナタネガイ科	ハリマナタネ	Punctum japonicum		
12	ナタネガイ科	ミジンナタネ	Punctum atomus		
13	ナタネガイ科	クルマナタネ	Punctum rota		
14	ナタネガイ科	カトウナタネ	Punctum elachistum		
15	シタラ科	キカイキビ近似種	Parakaliella aff. Kikaigashimae		
16	シタラ科	コガタシロヒメベッコウ	Discoconulus sp.		
17	シタラ科	シロヒメベッコウの仲間	Discoconulus sp.		
18	シタラ科	シチトウベッコウ	Nipponochlamys izushichitojimana		DD
19	シタラ科	ハクサンベッコウ類似種	Nipponochlamys sp.		
20	ナンバンマイマイ科	カンダマイマイ	Aegista (Coelorus) kandai	DD	CR+EN
21	ナンバンマイマイ科	ヒゴフリイデルマイマイ	Aegista friedeliana peraperata		
22	ナンバンマイマイ科	コウベマイマイ類似種	Aegista sp.		
23	ナンバンマイマイ科	ツシマケマイマイ	Aegista trochula		NT
24	ナンバンマイマイ科	タメトモマイマイ	Phaeohelix phaeogramma phaeogramma		
25	ナンバンマイマイ科	セトウチマイマイ	Euhadra subnimbosa		
26	ナンバンマイマイ科	アキメカサマイマイ近似種	Videnoida sp. cf. horiomphala esuritor		
27	タニシ科	オオタニシ	Heterogen japonica	DD	NT
28	ヒラマキガイ科	ヒメヒラマキミズマイマイ	Gyraulus pulcher	DD	EN
29	ヒラマキガイ科	トウキョウヒラマキガイ	Gyraulus tokyoensis		DD

11. 淡水産無脊椎動物

(1) 調査方法

淡水産無脊椎動物については、肉眼で確認できる大きさの甲殻類、その中でもワラジムシ目、ヨコエビ目、エビ目を調査対象種とした。調査は文献、採集、聞き取りで行った。

(2) 産地情報の採用基準

情報は現地調査で確認できたものを採用することを基本とした。

(3) 調査結果の概要

調査対象とした甲殻類のワラジムシ目、ヨコエビ目、エビ目は、県内の河川、湖沼、湧水等の淡水域において約 15 種が記録されている。そのうち、サイゴクコツブムシ、ヤマトヌマエビ、ヒメヌマエビ、ミナミヌマエビを準絶滅危惧（NT）と判断した。

サイゴクコツブムシは熊本市及びその近郊に限られた湧水域において確認されており、海産系遺留種とされている。分布が局所的であることから、生息環境の変化が個体数の減少につながる可能性がある。

ヤマトヌマエビとヒメヌマエビはどちらも海環境と河川環境を行き来する通し回遊種である。ダムや堰による河川環境の分断により、遡上できない河川が増えていることから、生息域の縮小に伴う個体数の減少が心配される。

ミナミヌマエビは淡水域のみで生活史が完結する陸封種である。水系ごとに遺伝的に異なる集団となっている可能性が高いが、外来亜種あるいは近縁種の放流により雑種化が進んでしまう可能性がある。外部形態のみによる判断は困難であるが、確認できる範囲において、県内の多くの水域において雑種化が進んでいる可能性が高い。

(4) RDB2019 との比較

準絶滅危惧（NT）からビワカマカヨコエビを削除した。情報不足（DD）であったミナミヌマエビを準絶滅危惧（NT）に加えた。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

ミナミヌマエビ 情報不足（DD） → 準絶滅危惧（NT）

ミナミヌマエビは外来亜種あるいは近縁種の放流により雑種化が進んでしまう可能性が高いが、外部形態のみによる判断は困難である。現地調査において典型的な在来種の外部形態を示す個体を確認できる水域が、県内で激減した。このことから、雑種化が進んでいる可能性が高いと判断し、準絶滅危惧（NT）に加えた。

ビワカマカヨコエビ 準絶滅危惧（NT） → カテゴリー外

ビワカマカヨコエビは琵琶湖の固有種であり、本県には移入によりもたらされた可能性もあることから準絶滅危惧（NT）から外した。

(6) 今後の課題

淡水産無脊椎動物の属する分類群は極めて多様で多くの動物門が含まれる。県内において十分な調査が行われていない分類群も多い。RL2024 では、甲殻類の一部の目のみを対象としたが、これについても調査は不十分で、県内全域での生息状況を明らかにするには至っていない。今後、現地調査を重ねて情報を蓄積していく必要がある。

(7) レッドリスト

準絶滅危惧（NT）【4 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 コツブムシ科	サイゴクコツブムシ	<i>Gnorimosphaeroma iriei</i>	NT	
2 ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ	<i>Caridina multidentata</i>	NT	
3 ヌマエビ科	ヒメヌマエビ	<i>Caridina serratirostris</i>	NT	
4 ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>	DD	

12. 海洋動物

(1) 調査方法

県内の海域は有明海、八代海（不知火海）の二大内湾と天草諸島西方の天草灘の3海域に区分され、環境の多様性が高くなっている。県内に生息する海洋動物は分類群が多岐にわたり、種類数も原生動物を除いて6,000種以上と見積もられ、その調査は困難を伴っている。

県内には九州大学天草臨海実験所と熊本大学合津マリンステーションの2つの臨海実験所が設置されており、県内各地の海域で採集された多くの標本とそれらに基づく動物相の目録がある。また、熊本県希少野生動植物検討委員会では平成3年（1991年）年より現在まで、県下全域の希少野生動植物の現地調査を実施し、基礎資料を積み上げて、各種調査報告として出版されている。上記資料及びメンバーによる現地調査の結果をもとに1998年にRDB1998として公表し、その後の調査をもとに平成16年（2004年）、平成21年（2009年）、平成26年（2014年）、令和元年（2019年）にRL・RDBとして改訂を進めてきた。海洋動物分科会ではRL2024改訂版作成にあたり、RDB2019掲載種を中心に候補種を選定し、その後の文献及び現地調査、検討により、カテゴリーの変更、種の追加・削除、生息分布情報の更新をおこなった。これらと並行して、最新の知見に基づき、分類、学名の改訂をおこなった。また環境省による海産無脊椎動物のRDB選定が進んだため、その評価を反映した。

候補種の選定にあたっては、主として人間の生活や活動と関わりが深く、かつ調査研究情報が豊富な潮間帯域（干潟、塩性湿地、岩礁など）と20m以浅の潮下帯に生息する種を候補種とした。なお、熊本県を模式産地（タイプ産地）とする種に関しては、生息域に関わらず、文献・標本・調査情報を積極的に収集し、評価をおこなった。

(2) 産地情報の採用基準

上述の2つの臨海実験所の出版した動物相目録に記載されている産地情報、一部専門家、漁業者に限定した聞き取り調査、標本の確認、海洋生物分科会メンバーによる現地調査を基準とした。

(3) 調査結果の概要

県内に生息する海綿から哺乳類まで6,000種以上の海洋動物の中からRDB2019選定種299種を中心に検討を加え、最終的に全290種を選定した。

(4) RDB2019 との比較

生息地の消滅や個体群の減少傾向が認められた種は上位カテゴリーへの移動をおこなった。シマヘナタリ、ワダツミギボシムシ、イソアワモチ、ハマシイノミガイ、ズベタイラギ、リシケタイラギ、イタヤガイ、オオノガイ、バカガイ、ヤドリカニダマシ、トリウミアカイソモドキ、メナガオサガニ、内訳は軟体動物8種、節足動物3種、半索動物1種の計12種であった。新規の追加種はなかった。

新たな生息地発見や安定的な存在が確認された種、海水温変動などによる自然遷移や偶因分布の要素が強い種、生息分布情報が不十分な種は下位カテゴリーへの移動や指定種からの削除をおこなった。下位カテゴリーへの移動をおこなった種はゴマフダマ、イチョウシラトリ、シオマネキ、ミドリシャミセンガイ種群、クロヘナタリ、イボウミニナ、カニノテムシロ、バイ、スオウクチキレ、トガリユウシオガイ、シオヤガイ、アリアケモドキ、ヒメヤマトオサガニ、ハクセンシオマネキ、アカホシマメガニ、コヅツガイ、ホンコンマメガニ、軟体動物10種、節足動物5種、腕足動物1種の計17種であった。ミドリシャミセンガイの学名が*Lingula anatina*とされたが、同属他種が混在している可能性があるため、ミドリシャミセンガイ種群*Lingula* spp.とした。

指定から削除した種はシロナマコガニ、ウモレマメガニ、ユウシオガイ、ニッポンフサゴカイ、ツノガニ、ヒシガニ、ユビアカベンケイガニ、チゴイワガニ、ハマクマノミ、節足動物6種、軟体動物1種、環形動物1種、魚類1種の合計9種であった。削除理由は本来の分布域でない事、あるいは、豊富に出現し絶滅の危険がないためである。

指定の新規追加がないため、指定種総数は RDB2019 の 299 種から 9 種減り、290 種となった。内訳は絶滅 (EX) 1 種、絶滅危惧 IA 類 (CR) 22 種、絶滅危惧 IB 類 (EN) 47 種、絶滅危惧 II 類 (VU) 82 種、準絶滅危惧 (NT) 109 種、情報不足 (DD) 29 種であった。

指定種の概要は次のとおりである。

絶滅 (EX) は刺胞動物のマンジュウイシモドキ 1 種類のみであった。

絶滅危惧 IA 類 (CR) は 22 種であり、軟体動物が巻貝のヌノメヘナタリ、二枚貝のヒメアカガイなど 17 種と大部分を占めており、その他の分類群は哺乳類のスナメリ、爬虫類のアカウミガメ、半索動物のミサキギボシムシ、ワダツミギボシムシ、腕足動物のオオシャミセンガイであった。

絶滅危惧 IB 類 (EN) は 47 種であり、軟体動物が 33 種 (70%)、その他の分類群は節足動物 8 種、環形動物 3 種、刺胞動物 2 種、頭索動物 1 種であった。

絶滅危惧 II 類 (VU) は 82 種であり、軟体動物 71 種 (86%)、次いで節足動物 6 種、その他は、環形動物 2 種、棘皮動物、星口動物、刺胞動物が各 1 種であった。

準絶滅危惧 (NT) は 109 種であり、軟体動物 70 種 (64%)、節足動物 25 種 (23%)、他 14 種であった。

情報不足 (DD) は 29 種であった。

(5) カテゴリーを見直した種及びその変更理由

シマヘナタリ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内及び県内最大の生息地である大野川、氷川で激減した。

ワダツミギボシムシ 絶滅危惧 IB 類 (EN) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

これまで記録のあった天草周辺の砂質干潟で発見例減少。巣穴の周囲に砂粒からなる紐状の糞塊を積み上げるため、生息の確認が可能である。

イソアワモチ 絶滅危惧 II 類 (VU) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

過去に、天草下島 (通詞島、富岡、牛深)、水俣で記録されているが、近年は確認されていない。

ハマシイノミガイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

生息環境の破壊。発見例が減少した。

ズベタイラギ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IA 類 (CR)

発見例が激減した。

リシケタイラギ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

発見例が減少した。

イタヤガイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

天草下島の干潟に多産する場所があったが、干潟では発見できなくなった。干潟個体群は絶滅寸前だと思われる。

オオノガイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 IB 類 (EN)

RDB2019 では、八代海 (球磨川、水俣) に比較的豊富とされていたが、発見例が減少した。他の生息地では未確認。

バカガイ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

発見例が減少した。

ヤドリカニダマシ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧 II 類 (VU)

宿主である多毛類のムギワラムシの生息数が少ないため。

トリウミアカイソモドキ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
発見例が減少した。

メナガオサガニ 準絶滅危惧 (NT) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
発見例が減少した。

ゴマフダマ 絶滅危惧Ⅰ類 (EN) → 情報不足 (DD)
天草、八代海で急増。瀬戸内海でも増えており、温暖化の影響も考えられる。外来種説もあるため、情報不足 (DD) とした。

イチョウシラトリ 絶滅危惧Ⅰ類 (EN) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
天草、荒尾の泥質干潟で、安定的に生息している。

シオマネキ 絶滅危惧Ⅰ類 (EN) → 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
生息地が増加している。

ミドリシャミセンガイ種群 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
天草、八代海で増えている。

クロヘナタリ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
安定的な個体群が存在している。

イボウミニナ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
天草、八代海で急増している。

バイ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
発見例が増加している。

スオウクチキレ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
発見例が増加している。

トガリュウシオガイ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
発見例が増加している。

シオヤガイ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
発見例が増加している。

アリアケモドキ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
発見例が増加している。

カニノテムシロ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
天草、八代海で増えている。

ヒメヤマトオサガニ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
各地で増加している。

ハクセンシオマネキ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 準絶滅危惧 (NT)
各地で増加している。

アカホシマメガニ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → 情報不足 (DD)
従来アカホシマメガニとされていた種に複数種含まれている事が分かった。

コヅツガイ 準絶滅危惧 (NT) → 情報不足 (DD)

潮下帯種であるため。

ホンコンマメガニ 準絶滅危惧 (NT) → 情報不足 (DD)

アカホシマメガニと混同され、未記載種のため、同定が困難である。

シロナマコガニ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → カテゴリー外

宿主シロナマコは熊本に分布しない。同定間違いと思われる。

ウモレマメガニ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → カテゴリー外

潮下帯種であるため。

ユウシオガイ 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) → カテゴリー外

普通種であるため。

ニッポンフサゴカイ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

普通種であるため。

ツノガニ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

潮下帯では普通種であるため。

ヒシガニ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

ホソウデヒシガニと混同されている可能性あり。

ユビアカベンケイガニ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

普通種であるため。

チゴイワガニ 準絶滅危惧 (NT) → カテゴリー外

普通種であるため。

ハマクマノミ 情報不足 (DD) → カテゴリー外

遇来性であるため。

(6) 今後の課題

海洋生物の属する分類群は極めて多様で多くの動物門が含まれ、対象種は 6,000 種以上となっている。大型種から小型種まで多くの種を含むが、この改訂版では RDB1998 と同様に、一部の分類学上重要な種類を除いては肉眼で確認できる種のみとした。

本県の有明海、八代海、不知火海、天草灘は全国的に見ても独特の環境であり、特産種も多く、新種や日本初記録など学術上貴重な種も多くなっている。RL2024 において指定した種類は重要であるが、今後の調査・研究の進展によりさらなる追加が必要になると思われる。

また、情報不足 (DD) として示した種類の多くは今後の調査及び分類学の進展により、上位のカテゴリーへ移ると考えられる。

海洋生物は陸上生物に比べて普段人の目に触れる事は少なく、人目に触れやすい潮間帯の生物についても、食用となる種類以外はあまり注目される事がない。また近似種が多いため、その区別は専門家以外では困難で、正確な情報が限定され、聞き取り調査なども制限が多くなる。種の分布域や密度などの情報は、潮間帯に生息する種類以外は極めて貧弱で、個々の種の分布を明らかにするのは困難な状況である。本書に掲載されている他の生物群と比べると不十分な状況であるが、対象種の多さと多様性を持つ海洋生物という範疇では現時点では仕方がないと考えられる。今後も現地調査を積み重ねて、各種の分布状況を少しずつでも明らかにして行き、保全活動等に役立てる必要がある。

(7) レッドリスト

絶滅 (EX) 【1 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 クサビライシ科	マンジュウイシモドキ	<i>Cycloseris tenuis</i>	EX	-

絶滅危惧 IA 類 (CR) 【22 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 シヤミセンガイ科	オオシヤミセンガイ	<i>Lingula adamsi</i>	CR	-
2 キバウミニナ科	ヌノメヘナタリ	<i>Pirenella cancellata</i>	CR	CR
3 キバウミニナ科	シマヘナタリ	<i>Cerithidea tonkiniana</i>	EN	CR+EN
4 ドロアワモチ科	ドロアワモチ	<i>Onchidium sp. A</i>	CR	VU
5 ドロアワモチ科	ヤベガワモチ	<i>Onchidium sp. B</i>	CR	CR+EN
6 オカミミガイ科	オキヒラシイノミ	<i>Pythia cecillei</i>	CR	CR+EN
7 フネガイ科	ヒメアカガイ	<i>Anadara troscheli</i>	CR	CR+EN
8 フネガイ科	ヒメエガイ	<i>Mesocibota bistrigata</i>	CR	EN
9 フネガイ科	ビョウブガイ	<i>Trisidos kiyonoi</i>	CR	CR+EN
10 ハボウキ科	ズベタイラギ	<i>Atrina japonica</i>	NT	NT
11 ナタメガイ科	アゲマキ	<i>Sinonovacula constricta</i>	CR	CR+EN
12 ウロコガイ科	ミドリユムシヤドリガイ	<i>Sagamiscintilla thalassemicola</i>	CR	CR+EN
13 シオサザナミ科	フジナミガイ	<i>Hiatula boeddinghausi</i>	CR	CR+EN
14 ニオガイ科	イシゴロモ	<i>Aspidopholas yoshimurai</i>	CR	CR+EN
15 パカガイ科	チリメンユキガイ	<i>Meropesta sinojaponica</i>	CR	CR+EN
16 マルスダレガイ科	アツカガミ	<i>Dosinia biscocata</i>	CR	CR+EN
17 マルスダレガイ科	ウラカガミ	<i>Dosinia corrugata</i>	CR	CR+EN
18 マルスダレガイ科	チョウセンハマグリ	<i>Meretrix lamarckii</i>	CR	-
19 ギボシムシ科	ミサキギボシムシ	<i>Balanoglossus misakiensis</i>	CR	-
20 ギボシムシ科	ワダツミギボシムシ	<i>Balanoglossus carnosus</i>	EN	-
21 ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	CR	EN
22 ネズミイルカ科	スナメリ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>	CR	-

絶滅危惧 IB 類 (EN) 【47 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1 ウメボシイソギンチャク科	ニンジンイソギンチャク	<i>Paracondylactis hertwigi</i>	EN	-
2 セトモノイソギンチャク科	マキガイイソギンチャク	<i>Paranthus sociatus</i>	EN	-
3 サメハダヒザラガイ科	オオシリプトヒザラガイ	<i>Parachiton latus</i>	EN	-
4 ムシロガイ科	ヒロオビヨフバイ	<i>Nassarius succinctus</i>	EN	CR+EN
5 ムシロガイ科	ウネムシロ	<i>Reticunassa hiradoensis</i>	EN	CR+EN
6 エゾバイ科	オガイ	<i>Cantharus cecillei</i>	EN	EN
7 モミジボラ科	ホンコンモミジボラ	<i>Inquisitor latifasciata</i>	EN	-
8 タケノコガイ科	イワカワトクサ	<i>Duplicaria evoluta</i>	EN	VU
9 タケノコガイ科	シチクガイ	<i>Hastula rufopunctata</i>	EN	NT
10 オオシイノミガイ科	ムラクモキジビキガイ	<i>Japonactaeon nipponensis</i>	EN	NT
11 フタマイマイ科	ウミマイマイ	<i>Lactiforis takii</i>	EN	VU
12 ドロアワモチ科	イソアワモチ	<i>Peronia verruculata</i>	VU	-
13 トウガタガイ科	イボキサゴナカセクチキレモドキ	<i>Brachystomia umbonicolola</i>	EN	VU
14 トウガタガイ科	イソチドリ	<i>Amathina tricarinata</i>	EN	CR+EN
15 フネガイ科	クマサルボウ	<i>Anadara globosa</i>	EN	VU
16 フネガイ科	ハイガイ	<i>Tegillarca granosa</i>	EN	VU
17 サンカクサルボウ科	ササゲミエガイ	<i>Estellacar galactodes</i>	EN	CR+EN
18 イガイ科	ケガイ	<i>Trichomya hirsuta</i>	EN	-
19 イタボガキ科	イタボガキ	<i>Ostrea denselamellosa</i>	EN	CR+EN
20 ハボウキ科	リシケタイラギ	<i>Atrina lischkeana</i>	NT	NT
21 イタヤガイ科	イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>	NT	-
22 イタヤガイ科	ヤミノニシキ	<i>Volachlamys hirasei</i>	EN	CR+EN
23 オキナガイ科	コオキナガイ	<i>Laternula impura</i>	EN	CR+EN
24 ツキガイ科	イセシラガイ	<i>Pegophysema bialata</i>	EN	CR+EN
25 ウロコガイ科	アリアケケボリ	<i>Bornioopsis ariakensis</i>	EN	CR+EN
26 ウロコガイ科	ヒナノズキン	<i>Devonia semperi</i>	EN	CR+EN
27 ウロコガイ科	ハナビラガイ	<i>Fronsella ohshimai</i>	EN	CR+EN
28 ウロコガイ科	オキナノエガオ	<i>Platymysia rugata</i>	EN	CR+EN
29 オオノガイ科	オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i>	NT	NT
30 ザルガイ科	ヒシガイ	<i>Fragum bannoi</i>	EN	VU
31 ニッコウガイ科	アワジチガイ	<i>Macoma awajiensis</i>	EN	-
32 アサジガイ科	フルイガイ	<i>Semele cordiformis</i>	EN	CR+EN
33 シオサザナミ科	ムラサキガイ	<i>Hiatula adamsii</i>	EN	VU
34 パカガイ科	ミルクイ	<i>Tresus keenae</i>	EN	VU
35 マルスダレガイ科	サザメガイ	<i>Dosinia iwakawai</i>	EN	-
36 ゴカイ科	アリアケカワゴカイ	<i>Hediste japonica</i>	EN	-
37 イソメ科	オニイソメ	<i>Eunice aphroditois</i>	EN	-
38 ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>	EN	-
39 ホンヤドカリ科	ヨモギホンヤドカリ	<i>Pagurus nigrofascia</i>	EN	-
40 カニダマシ科	ウチノミカニダマシ	<i>Polyonyx utinomii</i>	EN	-
41 ムツアシガニ科	ヤドリムツアシガニ	<i>Hexapinus simplex</i>	EN	-
42 ヤワラガニ科	アリアケヤワラガニ	<i>Elamenoopsis ariakensis</i>	EN	DD
43 ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	<i>Clistoeloma sinense</i>	EN	-
44 ムツハアリアケガニ科	アリアケガニ	<i>Cleistostoma dilatatum</i>	EN	-
45 カクレガニ科	オオヨコナガビンノ	<i>Tritodynamia rathbuni</i>	EN	-
46 カクレガニ科	ギボシマメガニ	<i>Pinnixa balanoglossana</i>	EN	-
47 ナメクジウオ科	ヒガシナメクジウオ	<i>Branchiostoma japonicum</i>	EN	-

絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 【82 種】

科名	和名	種名 学名	RDB 2019	環境省 RL2020
1	ウミサボテン科	ウミサボテン	<i>Cavernularia elegans</i>	VU -
2	スカシガイ科	セムシマドアカガイ	<i>Rimula cumingii</i>	VU VU
3	ニシキウズ科	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	VU NT
4	アマオブネ科	ヒロクチカノコ	<i>Neripteron</i> sp.	VU NT
5	アマオブネ科	ウミヒメカノコ	<i>Smaragdia</i> sp.	VU VU
6	オニノツノガイ科	カヤノミカニモリ	<i>Clypeomorus bifasciata</i>	VU NT
7	オニノツノガイ科	トウガタカニモリ	<i>Rhinoclavis sinensis</i>	VU -
8	トゲカワニナ科	タケノコカワニナ	<i>Rhinoclavis vertagus</i>	VU VU
9	スナモチツボ科	サナギモツボ	<i>Finella pupoides</i>	VU VU
10	ホソスジチョウジガイ科	スジウネリチョウジガイ	<i>Rissoina costulata</i>	VU VU
11	ワカウラツボ科	ゴマツボモドキ	<i>Hyala bella</i>	VU VU
12	カワザンショウ科	ヨシダカワザンショウ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>	VU NT
13	カワザンショウ科	アズキカワザンショウ	<i>Pseudomphala miyazakii</i>	VU VU
14	カワザンショウ科	カハタレカワザンショウ	<i>Xenassiminea nana</i>	VU VU
15	スイショウガイ科	フドロ	<i>Margistrombus robustus</i>	VU NT
16	タマガイ科	アダムスタマガイ	<i>Cryptonatica adamsiana</i>	VU NT
17	タマガイ科	オリイレシラタマ	<i>Sigatica bathyraphe</i>	VU NT
18	イトカケガイ科	ウネナシイトカケ	<i>Acrilla acuminata</i>	VU VU
19	イトカケガイ科	オダマキ	<i>Epitonium auritum</i>	VU NT
20	ムシロガイ科	オマセムシロ	<i>Reticunassa praematurata</i>	VU VU
21	アッキガイ科	ハネナシウラク	<i>Ceratostoma rorifluum</i>	VU VU
22	コロモガイ科	オリイレボラ	<i>Trigonostoma scalariformis</i>	VU VU
23	イモガイ科	ベッコウイモ	<i>Conus fulmen</i>	VU VU
24	タクミニナ科	タクミニナ	<i>Mathilda sinensis</i>	VU CR
25	オオコメツブガイ科	コメツブツララ	<i>Acteocina decoratoides</i>	VU VU
26	ブドウガイ科	カミスジカイコガイダマシ	<i>Cylichnatys angusta</i>	VU VU
27	ヒラマキガイ科	クルマヒラマキ	<i>Helicorbis cantori</i>	VU VU
28	トウガタガイ科	ヌノメホソクチキレ	<i>Synola tenuisculpta</i>	VU VU
29	トウガタガイ科	スカルミクチキレ	<i>Sayella</i> sp.	VU NT
30	トウガタガイ科	マキモノガイ	<i>Leucotina dianae</i>	VU CR+EN
31	ドロアワモチ科	センペイアワモチ	<i>Plateindex</i> sp.	VU CR+EN
32	オカミミガイ科	ナラビオカミミガイ	<i>Auriculastra duplicata</i>	VU VU
33	オカミミガイ科	オカミミガイ	<i>Ellobium chinense</i>	VU VU
34	オカミミガイ科	シイノミミミガイ	<i>Cassidula plecotrematoides japonica</i>	VU CR+EN
35	オカミミガイ科	クリイロコミミガイ	<i>Laemodonta siamensis</i>	VU VU
36	オカミミガイ科	キヌカツギハマシイノミ	<i>Melampus singaporensis</i>	VU VU
37	オカミミガイ科	ハマシイノミガイ	<i>Melampus nuxeastaneus</i>	NT -
38	イガイ科	サザナミマクラ	<i>Modiolatus flavidus</i>	VU NT
39	イタボガキ科	スミノエガキ	<i>Crassostrea ariakensis</i>	VU VU
40	スエモノガイ科	シナヤカスエモノガイ	<i>Thracia concinna</i>	VU VU
41	チリハギガイ科	ツルマルケボリ	<i>Bornioopsis tsurumaru</i>	VU VU
42	ウロコガイ科	セワケガイ	<i>Bornioopsis yamakawai</i>	VU VU
43	ウロコガイ科	ニッポンヨーヨーシジミ	<i>Divariscintilla toyohiwakensis</i>	VU VU
44	ウロコガイ科	オウギウロコガイ	<i>Galeommella utinomii</i>	VU CR+EN
45	ウロコガイ科	マゴコロガイ	<i>Peregrinamor ohshima</i>	VU NT
46	ウロコガイ科	フジタニコハクノツユ	<i>Tellima fujitaniana</i>	VU VU
47	イソカゼガイ科	イソカゼガイ	<i>Basterotia gouldi</i>	VU CR+EN
48	ユキノアシタ科	ユキノアシタ	<i>Cultellus attenuatus</i>	VU -
49	ニッコウガイ科	オオモモノハナ	<i>Macoma praetexta</i>	VU NT
50	ニッコウガイ科	テリザクラ	<i>Moerella iridescens</i>	VU VU
51	ニッコウガイ科	モモノハナ	<i>Moerella jedoensis</i>	VU NT
52	ニッコウガイ科	ダイミョウガイ	<i>Pharaonella perna</i>	VU NT
53	ニッコウガイ科	ベニガイ	<i>Pharaonella sieboldii</i>	VU NT
54	ニッコウガイ科	アオサギガイ	<i>Psammotreta praerupta</i>	VU -
55	ニッコウガイ科	ヒラザクラ	<i>Tellinides striatus</i>	VU NT
56	ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	<i>Serratina diaphana</i>	EN CR+EN
57	シオサザナミ科	ハザクラ	<i>Gari minor</i>	VU NT
58	フジノハナガイ科	ナミノコガイ	<i>Donax cuneatus</i>	VU NT
59	フジノハナガイ科	フジノハナガイ	<i>Donax semigranulosus</i>	VU NT
60	ニオガイ科	ウミタケ	<i>Barnea (Umitakea) japonica</i>	VU VU
61	オオノガイ科	ヒメマスオ	<i>Cryptomya busoensis</i>	VU VU
62	オオノガイ科	クシケマスオ	<i>Cryptomya elliptica</i>	VU NT
63	バカガイ科	ユキガイ	<i>Meropesta nicobarica</i>	VU NT
64	バカガイ科	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>	NT -
65	チドリマスオ科	チドリマスオ	<i>Donacilla picta</i>	VU -
66	マルスダレガイ科	イオウハマグリ	<i>Pitar sulfureus</i>	VU VU
67	マルスダレガイ科	ウスハマグリ	<i>Pitar kurodai</i>	VU CR+EN
68	マルスダレガイ科	オキアサリ	<i>Macridiscus multifarius</i>	VU -
69	マルスダレガイ科	コタマガイ	<i>Macridiscus melanaegis</i>	VU -
70	マルスダレガイ科	シラオガイ	<i>Circe undatina</i>	VU NT
71	マルスダレガイ科	ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	VU VU
72	ハナグモリ科	ハナグモリ	<i>Glaucanome angulata</i>	VU VU
73	スジホシムシ科	スジホシムシ	<i>Sipunculus nudus</i>	VU -
74	ゴカイ科	ウチワゴカイ	<i>Nectoneanthes uchiwa</i>	VU -
75	ツバサゴカイ科	ムギワラムシ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i>	VU -
76	カニダマシ科	ムドリカニダマシ	<i>Polyonyx sinensis</i>	NT -
77	モクズガニ科	トリウミアカインモドキ	<i>Sestrostoma toriumii</i>	NT -
78	ベンケイガニ科	フジテガニ	<i>Clistocelema villosum</i>	VU -
79	オサガニ科	メナガオサガニ	<i>Macrophthalmus serenei</i>	NT -
80	スナガニ科	シオマネキ	<i>Tabuca arcuata</i>	EN VU
81	モクズガニ科	ミナミアシハラガニ	<i>Pseudohelice subquadrata</i>	VU -
82	イトマキヒトデ科	チビイトマキヒトデ	<i>Aquilonastra minor</i>	VU -

準絶滅危惧 (NT) 【109 種】

	科名	種名	RDB 2019	環境省 RL2020
		和名 学名		
1	ウメボシイソギンチャク科	ハナワケイソギンチャク <i>Neocondylactis</i> sp.	NT	-
2	シャミセンガイ科	ミドリシャミセンガイ種群 <i>Lingula</i> spp.	VU	-
3	コガモガイ科	ツボミ <i>Patelloida conulus</i>	NT	NT
4	ニシキウズ科	キサゴ <i>Umbonium costatum</i>	NT	-
5	ユキスズメ科	ミヤコドリ <i>Phenacolepas pulchella</i>	NT	NT
6	ユキスズメ科	ヒナユキスズメ <i>Phenacolepas</i> sp.	NT	NT
7	オニノツノガイ科	コゲツノブエ <i>Cerithium coralium</i>	NT	VU
8	キバウミナ科	ヘナタリ <i>Pirenella nipponica</i>	NT	NT
9	キバウミナ科	カワアイ <i>Pirenella pupiformis</i>	NT	VU
10	キバウミナ科	クロヘナタリ <i>Cerithideopsis largillierti</i>	VU	CR+EN
11	ウミナ科	イボウミナ <i>Batillaria zonalis</i>	VU	VU
12	ホソスジチョウジガイ科	ヌノメチョウジガイ <i>Rissoina pura</i>	NT	NT
13	ホソスジチョウジガイ科	ゴマツボ <i>Stosicia annulata</i>	NT	VU
14	ワカウラツボ科	カワグチツボ <i>Fluviocingula elegantula</i>	NT	NT
15	ワカウラツボ科	サザナミツボ <i>Nozema ziczac</i>	NT	NT
16	ワカウラツボ科	ワカウラツボ <i>Wakauraia sakaguchii</i>	NT	VU
17	イソコハクガイ科	アラウズマキ <i>Circulus duplicatus</i>	NT	VU
18	イソコハクガイ科	シキギク <i>Pseudoliotia pulchella</i>	NT	NT
19	ミズゴマツボ科	エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ) <i>Stenothyra edogawensis</i>	NT	NT
20	ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ <i>Stenothyra japonica</i>	NT	VU
21	カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ <i>Angustassiminea castanea</i>	NT	NT
22	カワザンショウ科	ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ) <i>Assiminea estuarina</i>	NT	NT
23	カワザンショウ科	イヨカワザンショウ (ヤミカワザンショウ) <i>Assiminea</i> sp.	NT	NT
24	カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ <i>Assiminea</i> aff. <i>Parasitologica</i>	NT	NT
25	ハナヅトガイ科	ハナヅトガイ <i>Velutina pusio</i>	NT	NT
26	タマガイ科	ネコガイ <i>Eunaticina papilla</i>	NT	NT
27	タマガイ科	フロガイダマシ <i>Naticarius concinnus</i>	NT	VU
28	タマガイ科	ツガイ <i>Sinum incisum</i>	NT	NT
29	タマガイ科	ツツミガイ <i>Sinum planulatum</i>	NT	NT
30	イトカケガイ科	クレハガイ <i>Epitonium clementinum</i>	NT	NT
31	イトカケガイ科	セキモリ <i>Epitonium robillardi</i>	NT	NT
32	ムシロガイ科	カニノテムシロ <i>Nassarius bellulus</i>	VU	NT
33	エゾバイ科	ミクリガイ <i>Siphonalia cassidariaeformis</i>	NT	-
34	テングニシ科	テングニシ <i>Hemifusus tuba</i>	NT	NT
35	バイ科	バイ <i>Babylonia japonica</i>	VU	NT
36	アッキガイ科	オニサザエ <i>Chicoreus asianus</i>	NT	NT
37	マクラガイ科	マクラガイ <i>Oliva mustelina</i>	NT	NT
38	フデシャジク科	クリイロマンジ <i>Pseudodaphnella leuckarti</i>	NT	NT
39	ブドウガイ科	ホソタマゴガイ <i>Limulatus ooformis</i>	NT	NT
40	トウガタガイ科	スオウクチキレ <i>Evalea suana</i>	VU	NT
41	トウガタガイ科	イトカケゴウナ <i>Bacteridium vittatum</i>	NT	NT
42	オカミミガイ科	マキスジコミミガイ <i>Laemodonta monilifera</i>	NT	NT
43	オカミミガイ科	ウスコミミガイ <i>Laemodonta exaratooides</i>	NT	NT
44	オカミミガイ科	ナギサノシタリ <i>Microtralia acteocinoides</i>	NT	-
45	キスタレガイ科	アサヒキスタレガイ <i>Acharax japonica</i>	NT	VU
46	キスタレガイ科	キスタレガイ <i>Solemya pusilla</i>	NT	NT
47	イガイ科	コケガラス <i>Modiolus modularides</i>	NT	NT
48	イタボガキ科	シカメガキ <i>Crassostrea sikamea</i>	NT	NT
49	ハボウキ科	ハボウキ <i>Pinna attenuata</i>	NT	NT
50	マテガイ科	バラフマテ <i>Solen roseomaculatus</i>	NT	NT
51	ウロコガイ科	ウロコガイ <i>Lepirodes takii</i>	NT	NT
52	ウロコガイ科	スジホシムシモドキヤドリガイ <i>Nipponomysella subtruncata</i>	NT	NT
53	ウロコガイ科	マツモトウロコガイ <i>Paraborniola matsumotoi</i>	NT	NT
54	チリハギガイ科	オサガニヤドリガイ <i>Bornioopsis macrophthalmensis</i>	NT	NT
55	ウロコガイ科	ニッポンマメアゲマキ <i>Pseudogaleomma japonica</i>	NT	NT
56	ニッコウガイ科	ヒラセザクラ <i>Clathrotellina carnicolor</i>	NT	NT
57	ニッコウガイ科	トガリユウシオガイ <i>Moerella culter</i>	VU	NT
58	ニッコウガイ科	サクラガイ <i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>	NT	NT
59	ニッコウガイ科	ウズザクラ <i>Nitidotellina minuta</i>	NT	NT
60	ニッコウガイ科	サギガイ <i>Rexithaerus sector</i>	NT	NT
61	フジノハナガイ科	キュウシュウナミノコ <i>Donax kiusiuensis</i>	NT	NT
62	シオサザナミ科	アシガイ <i>Gari maculosa</i>	NT	NT
63	シオサザナミ科	オチバガイ <i>Gari virescens</i>	NT	-
64	キスタアゲマキ科	キスタアゲマキ <i>Solecurtus divaricatus</i>	NT	NT
65	バカガイ科	オオトリガイ <i>Lutraria maxima</i>	NT	NT
66	バカガイ科	カモジガイ <i>Lutraria rhynchaena</i>	NT	NT
67	バカガイ科	ワカミルガイ <i>Mactrotoma angulifera</i>	NT	NT
68	フナガタガイ科	タガソデモドキ <i>Trapezium sublaevigatum</i>	NT	NT
69	マルスダレガイ科	ケマンガイ <i>Gafrarium divaricatum</i>	NT	NT
70	マルスダレガイ科	スダレハマグリ <i>Marcia japonica</i>	NT	NT
71	マルスダレガイ科	ガンギハマグリ <i>Pitar lineolatus</i>	NT	NT
72	マルスダレガイ科	シオヤガイ <i>Anomalodiscus squamosus</i>	VU	NT
73	スジホシムシ科	スジホシムシモドキ <i>Siphonosoma cumanense</i>	NT	-
74	ゴカイ科	イトメ <i>Tylorrhynchus osawai</i>	NT	-
75	ウロコムシ科	トゲイカリナマコウロコムシ <i>Arctonoella</i> sp.	NT	-
76	オフエリアゴカイ科	ニッポンオフエリア <i>Travisia japonica</i>	NT	-
77	イトゴカイ科	シダレイトゴカイ <i>Notomastus latericeus</i>	NT	-
78	タマシキゴカイ科	タマシキゴカイ <i>Arenicola brasiliensis</i>	NT	-
79	フサゴカイ科	カンテンフサゴカイ <i>Amatea</i> sp.	NT	-
80	ケヤリムシ科	ミナミエラコ <i>Pseudopotamilla myriops</i>	NT	-
81	ハッチンソニエラ科	カシラエビ <i>Sandersiella acuminata</i>	NT	-
82	ヤドカリ科	テナガツノヤドカリ <i>Diogenes nitidimanus</i>	NT	-
83	カニダマシ科	ウミエラカニダマシ <i>Porcellanella triloba</i>	NT	-
84	ヘイケガニ科	ヘイケガニ <i>Heikeopsis japonica</i>	NT	-
85	ムツアシガニ科	ヒメムツアシガニ <i>Mariaplax cheneae</i>	NT	-

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
86	ヒシガニ科	ホソウデヒシガニ	NT	-
87	ペンケイガニ科	クシテガニ	NT	-
88	ペンケイガニ科	ペンケイガニ	NT	-
89	モクズガニ科	ハマガニ	NT	-
90	モクズガニ科	ヒメアシハラガニ	NT	-
91	モクズガニ科	アカイソガニ	NT	-
92	モクズガニ科	スネナガイソガニ	NT	-
93	モクズガニ科	ヒメケフサイソガニ	NT	-
94	モクズガニ科	ヨコナガモドキ	NT	-
95	コメツキガニ科	ハラグクレチゴガニ	NT	NT
96	オサガニ科	オサガニ	NT	-
97	オサガニ科	ヒメメナガオサガニ	NT	-
98	オサガニ科	ヒメヤマトオサガニ	VU	-
99	スナガニ科	スナガニ	NT	-
100	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	VU	VU
101	メナシビンノ科	メナシビンノ	NT	-
102	カクレガニ科	フタハビンノ	NT	-
103	カクレガニ科	カギヅメビンノ	NT	-
104	カクレガニ科	ニホンマメガニダマシ	NT	-
105	ムツハリアケガニ科	アリアケモドキ	VU	-
106	アカヒトデ科	オオアカヒトデ	NT	-
107	カシパン科	ヨツアナカシパン	NT	-
108	スカシカシパン科	スカシカシパン	NT	-
109	カシパン科	ヒラタブンブク	NT	-

情報不足 (DD) 【29 種】

科名	種名		RDB 2019	環境省 RL2020
	和名	学名		
1	オオトゲサンゴ科	アマクサオオトゲキクメイシ	DD	-
2	ニシキウズカイ科	タイワンキサゴ	DD	NT
3	アマオブネ科	ヒメカノコ	DD	NT
4	ワカウラツボ科	イリエツボ	DD	CR+EN
5	タマガイ科	サキグロタマツメタ	DD	CR+EN
6	タマガイ科	アラゴマフダマ	DD	VU
7	タマガイ科	ゴマフダマ	EN	CR+EN
8	フトコロガイ科	マルテンスマツムシ	DD	CR+EN
9	ムシロガイ科	ウネハナムシロ	DD	CR+EN
10	タケノコガイ科	コゲチャタケ	DD	-
11	トウガタガイ科	カサガタガイ	DD	DD
12	フネガイ科	アカガイ	DD	-
13	イガイ科	ヤマホトトギス	DD	NT
14	イタボガキ科	ネコノアシガキ	DD	DD
15	サザナミガイ科	オビクイ	DD	VU
16	マテガイ科	チゴマテ	DD	VU
17	ツクエガイ科	コツツガイ	NT	NT
18	ウロコガイ科	ハチミツガイ	DD	DD
19	ニオガイ科	カキゴロモ	DD	-
20	キサガイ科	キサガイ	DD	-
21	フタバシラガイ科	ヒメシオガマ近似種	DD	-
22	カクレガニ科	アカホシマメガニ	VU	-
23	カクレガニ科	ホンコンマメガニ	NT	-
24	サメハダホシムシ科	アンチラサメハダホシムシ	DD	-
25	スナウミナナフシ科	ヒゴスナウミナナフシ	DD	-
26	スナウミナナフシ科	ヒゲナガウミナナフシ	DD	-
27	ヨウミヤクカシパン科	ハスノハカシパン	DD	-
28	イカリナマコ科	ウチワイカリナマコ	DD	-
29	カワハギ科	ヒゲハギ	DD	-

13. 群落

(1) 単一群落 (33 箇所)

維管束植物

No.	群 落 名	所在市町村
1	小岱山筒ヶ岳のスダジイ林	荒尾市
2	八方ヶ岳のモミ林	山鹿市
3	鞍岳のアセビ林	菊池市
4	立田山のコジイ林	熊本市
5	三角岳のイワガサ群落	宇城市
6	住吉神社のスダジイ林	宇土市
7	山都町緑仙峡のオニグルミ林	山都町
8	古麓稲荷神社のスダジイ林	八代市
9	日奈久のカザグルマ群落	八代市
10	上宮越のクスノキ林	八代市
11	肥後峠のアカガシ林	八代市
12	端海野のウラジロガシ林	五木村
13	平沢津谷のツガ林	五木村
14	仰鳥帽子山のブナ林	五木村・山江村・相良村
15	球磨村権現山のユズ群落	球磨村
16	球磨村権現山のツゲ群落	球磨村
17	白岩山のモミ林	山江村・球磨村
18	大野溪谷のコジイ林	人吉市
19	佐敷隧道入りロアラカシ林	芦北町
20	松田のイスノキ・アラカシ林	芦北町
21	矢城山土金国有林のスダジイ・バリバリノキ林	津奈木町
22	恋路島のタブノキ林	水俣市
23	冷水のスダジイ林	水俣市
24	水俣鬼岳のスダジイ・イスノキ林	水俣市
25	水俣市大川のコジイ林	水俣市
26	水俣大滝のカツラーケヤキ林	水俣市
27	御所浦牧島のウバメガシ群落	天草市
28	曲崎のハマジンチョウ群落	苓北町
29	苓北町のシバナ群落	苓北町
30	妙見浦のハマビワ林	天草市
31	高浜のコウボウムギ群落	天草市
32	御所浦のツメレンゲ群落	天草市
33	染岳のコジイ林	天草市

(2) 群落複合 (33 箇所)

維管束植物 (28 箇所)

No.	群 落 名	所在市町村
1	一ツ目神社裏の湿生植物群落	山鹿市
2	北向山の自然林	大津町
3	菊池溪谷の自然林	菊池市・阿蘇市
4	鞍岳・矢護山の自然林	菊池市・大津町
5	小国町流湿原	小国町
6	阿蘇俵山山麓の山地草原	西原村
7	狼ヶ宇土の自然林	南阿蘇村
8	阿蘇波野原の山地草原	阿蘇市
9	阿蘇端辺原野の山地湿原	阿蘇市
10	阿蘇火山山頂の植物群落	阿蘇市
11	根子岳の自然林	阿蘇市・高森町
12	阿蘇端辺原野の山地草原	阿蘇市・南小国町・産山村
13	阿蘇山東原野の山地草原	阿蘇市・高森町
14	江津湖一帯の水湿生植物群落	熊本市
15	緑川河口の水湿生植物群落	熊本市・宇土市
16	不知火町の塩生植物群落	宇城市
17	内大臣の自然林	山都町
18	大官山の自然林	山都町
19	五家荘の自然林	八代市
20	雁俣山の自然林	八代市・美里町
21	白髪岳の自然林	あさぎり町
22	五木大滝の自然林	五木村
23	市房山の自然林	水上村
24	人吉の紅取ヶ丘湿原	人吉市
25	水俣市無田湿原	水俣市
26	角山の自然林	天草市
27	茂串海岸の海浜植物群落	天草市
28	羊角湾の塩生植物群落	天草市

藻類 (5 箇所)

No.	群 落 名	所在市町村
1	加勢川	熊本市
2	志津川	南小国町
3	球磨川支流	錦町
4	菊池川	山鹿市
5	球磨川	錦町

14. ハビタット

哺乳類

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	天狗山洞窟	ノレンコウモリ、テングコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ	熊本市
2	古川兵戸井出	ノレンコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ	菊池市
3	菊池溪谷	ムササビ、ヤマネ、カヤネズミ、カワネズミ、モモジロコウモリ、ニホンコテングコウモリ	菊池市・阿蘇市
4	大川	ニホンモモンガ、ムササビ、ヤマネ	水俣市

鳥類

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	国見岳	クマタカ、コマドリ、ホシガラス	山都町・八代市
2	阿蘇北外輪山・端辺原野	オオジシギ、コヨシキリ、コジュリン	阿蘇市
3	牛深沖の島	ウチヤマセンニュウ、カラスバト	天草市
4	有明海干潟	シギ・チドリ類、クロツラヘラサギ	荒尾市・玉名市・熊本市・宇土市など
5	八代海（不知火海）干潟	クロツラヘラサギ、ズグロカモメ、ツクシガモ	宇城市・八代市など

両生類

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	高塚山	ベッコウサンショウウオ	五木村・水上村
2	山犬切	ベッコウサンショウウオ	水上村・八代市

昆虫類

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	一ツ目湿地	コバネアオイトトンボ	山鹿市
2	鍋の平	オオルリシジミ	高森町
3	大矢野原	オオウラギンヒョウモン	山都町
4	九折瀬洞	ツヅラセメクラチビゴミムシ	五木村

海洋動物

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	富岡周辺海岸	チョウセンハマグリ、アカウミガメ、フジナミガイなど	苓北町
2	白鶴浜	アカウミガメ、チョウセンハマグリ、ナミノコガイ	天草市
3	牛深茂串周辺海岸	アカウミガメ、カヤノミカニモリ、トウガタカニモリなど	天草市
4	熊本市北西部干潟	ハイガイ、イチョウシラトリ、イソチドリなど	熊本市
5	白川・緑川河口	シオマネキ、ハイガイ、ササゲミエガイなど	熊本市・宇土市
6	八代海（不知火海）北部、大野川・氷川河口	ヤベガワモチ、ウミマイマイ、ハイガイなど	宇城市・氷川町
7	球磨川河口	ヒナノズキン、ツバサゴカイ、ハイガイなど	八代市
8	羊角湾	ヌノメヘナタリ、ビョウブガイ、オキヒラシイノミなど	天草市
9	松島町一帯の海岸	ドロアワモチ、ヒナノズキン、ハクセンシオマネキなど	上天草市
10	本渡干潟	ミサキギボシムシ、ワダツミギボシムシなど	天草市

複合

No.	ハビタット名	保護対象種	所在市町村
1	大瀬洞	ユビナガコウモリ、ドウクツケシガムシ	球磨村
2	内大臣溪谷	ゴイシツバメシジミ、ニホンカモシカなど	山都町
3	市房山	ゴイシツバメシジミ、ホシガラス、キバシリ	水上村

V. 指定希少野生動植物と生息地等保護区

熊本県では、「熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例」により、自然の豊かさを示す希少野生動植物のうち、特に絶滅のおそれがあるために保護を図る必要がある49種を指定希少野生動植物に指定し、県内全域において捕獲、採取、殺傷、損傷を禁止しています。

また、指定希少野生動植物の生息生育環境を保全するために、生息地等保護区を14箇所指定しており、区域内での開発等を規制しています。

● 指定希少野生動植物

区分	No.	科名	種名		指定年月日
			和名	学名	
植物	1	チャセンシダ科	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	H17. 5. 20
	2	ヒメシダ科	タチヒメワラビ	<i>Phegopteris bukoensis</i>	R4. 2. 14
	3	ヒメシダ科	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	H28. 4. 1
	4	メシダ科	コモチイヌワラビ	<i>Athyrium strigillosum</i>	H25. 1. 18
	5	オシダ科	クマイワヘゴ	<i>Dryopteris anthracinisquama</i>	H17. 5. 20
	6	スイレン科	オニバス	<i>Euryale ferox</i>	H17. 5. 20
	7	スイレン科	オグラコウホネ	<i>Nuphar oguraensis</i> var. <i>oguraensis</i>	H17. 5. 20
	8	ユリ科	ヒメユリ	<i>Lilium concolor</i>	H17. 5. 20
	9	ユリ科	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	H17. 5. 20
	10	ラン科	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	H17. 5. 20
	11	ラン科	ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	H25. 1. 18
	12	ラン科	サギソウ	<i>Habenaria radiata</i>	H17. 5. 20
	13	アヤメ科	エヒメアヤメ	<i>Iris rossii</i>	H17. 5. 20
	14	ワスレグサ科	ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	H17. 5. 20
	15	クサスギカズラ科	スズラン	<i>Convallaria majalis</i> var. <i>manshurica</i>	H17. 5. 20
	16	ホシクサ科	ゴマシオホシクサ	<i>Eriocaulon nepalense</i>	H25. 1. 18
	17	カヤツリグサ科	トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	H17. 5. 20
	18	キンボウゲ科	ミチノクフクジュソウ	<i>Adonis multiflora</i>	H17. 5. 20
	19	キンボウゲ科	アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	H17. 5. 20
	20	キンボウゲ科	カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	H17. 5. 20
	21	ボタン科	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	H17. 5. 20
	22	マンサク科	トキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i>	H17. 5. 20
	23	フウロソウ科	ツクシフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>kiusianum</i>	H17. 5. 20
	24	ミソハギ科	ホザキキカシグサ	<i>Rotala rotundifolia</i>	H17. 5. 20
	25	アブラナ科	ハナハタザオ	<i>Dontostemon dentatus</i> var. <i>dentatus</i>	H28. 4. 1
	26	ナデシコ科	オグラセンノウ	<i>Silene kiusiana</i>	H17. 5. 20
	27	ナデシコ科	マツモトセンノウ	<i>Silene sieboldii</i>	H17. 5. 20
	28	サクラソウ科	サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	H17. 5. 20
	29	サクラソウ科	イワザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>tosaensis</i>	H17. 5. 20
	30	サクラソウ科	サクラソウ	<i>Primula sieboldii</i>	H17. 5. 20
	31	オオバコ科	ツクシクガイソウ	<i>Veronicastrum sibiricum</i> var. <i>zuccarinii</i>	H17. 5. 20
	32	オオバコ科	ツクシトラノオ	<i>Veronica ovata</i> subsp. <i>kiusiana</i> var. <i>kiusiana</i>	H17. 5. 20
	33	キキョウ科	ヤツシロソウ	<i>Campanula glomerata</i> subsp. <i>speciosa</i>	H17. 5. 20
	34	キク科	ヒゴシオン	<i>Aster maackii</i>	H17. 5. 20
	35	キク科	ヒゴタイ	<i>Echinops setifer</i>	H17. 5. 20
	36		ヒカリゼニゴケ	<i>Cyathodium cavernarum</i>	H28. 4. 1
動物	37	ウシ科	ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	R4. 2. 14
	38	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	H17. 5. 20
	39	モノサシトンボ科	グンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	H17. 5. 20
	40	イトトンボ科	モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	H17. 5. 20
	41	トンボ科	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	H25. 1. 18
	42	コガネムシ科	ダイコクコガネ	<i>Copris ochus</i>	H25. 1. 18
	43	シジミチョウ科	ウラジロミドリシジミ	<i>Favonius saphirinus</i>	H25. 1. 18
	44	シジミチョウ科	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	H25. 1. 18
	45	シジミチョウ科	オオルリシジミ九州亜種	<i>Shijimiaeooides divinus asonis</i>	H17. 5. 20
	46	シジミチョウ科	ゴマシジミ中国地方・九州亜種	<i>Maculinea teleius daisensis</i>	H25. 1. 18
	47	タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	H17. 5. 20
	48	ヤマタニシ科	イトマキジンヤマタニシ	<i>Cyathopoma nishinoi</i>	H28. 4. 1
	49	ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	H17. 5. 20

● 生息地等保護区

区分	No.	保護区名	所在地	面積 (ha)	区域区分	保護区指定に係る 指定希少野生動植物	指定年月日
植 物	1	立田山 生育地保護区	熊本市龍田地内	0.4	管理地区（全域）	トダスゲ	H17.5.20
	2	日奈久塩北町 生育地保護区	八代市日奈久塩北町 地内	18.6	管理地区（全域）	カザグルマ	H17.5.20
	3	中神町 生育地保護区	人吉市中神町地内	0.2	管理地区（全域）	サギソウ	H17.5.20
	4	府本 生育地保護区	荒尾市府本地内	0.7	管理地区（全域）	トキワマンサク	H17.5.20
	5	城 生育地保護区	山鹿市城地内	0.3	管理地区（全域）	オニバス	H17.5.20
	6	井手湿地 生育地保護区	阿蘇市一の宮町中通 地内	9.6	管理地区（全域）	ツクシフウロ、サクラ ソウ、ヤツシロソウ、 ヒゴシオン、ノカンゾ ウ	H17.5.20
	7	満願寺 生育地保護区	南小国町大字満願寺 地内	6.4	管理地区（全域）	オグラセンノウ	H17.5.20
	8	野尻 生育地保護区	高森町大字野尻地内 高森町大字尾下地内	2.6	管理地区（全域）	ツクシトラノオ、ツク シクガイソウ、ヤツシ ロソウ、ヒメユリ、ミ チノクフクジュソウ、 マツモトセンノウ	H17.5.20
	9	目丸山 生育地保護区	山都町目丸地内	13.5	管理地区（全域）	カタクリ	H17.5.20
	10	天主山 生育地保護区	山都町菅地内	7.9	管理地区（全域）	アズマイチゲ	H17.5.20
	11	庄屋池 生育地保護区	あさぎり町深田東地 内	0.8	管理地区（全域）	オグラコウホネ	H17.5.20
動 物	12	大野 生息地保護区	山都町大野地内	0.2	管理地区（全域）	モートンイトトンボ	H17.5.20
	13	久石 生息地保護区	南阿蘇村大字久石 地内	17.0	監視地区（14.0ha） 管理地区（3.0ha）	オオルリシジミ	H17.5.20
	14	白嶽湿地 生息地保護区	上天草市姫戸町姫浦 地内	1.9	管理地区（全域）	ハッチョウトンボ	H25.1.18

VI. 索引

■維管束植物

アイコハチジョウシダ	EN	34	イワキンバイ	VU	37	カガシラ	CR	32
アイズシモツケ	CR	32	イワザクラ	CR	33	ガガブタ	DD	41
アイノコホラシノブ	DD	40	イワシデ	EN	35	カキラン	NT	38
アオカズラ	NT	39	イワタイゲキ	DD	40	カザグルマ	CR	32
アオグキイヌワラビ	CR	30	イワタケソウ	NT	39	カシノキラン	CR	31
アオテンツキ	EN	35	イワツクバネウツギ	NT	39	カスミザクラ	DD	40
アオテンナンショウ	EN	34	イワデンダ	CR	30	カタクリ	VU	36
アオネザサ	DD	40	イワヤンダ	CR	30	カタスゲ	CR	32
アオノクマタケラン	VU	36	ウキシバ	CR	32	カネコシダ	VU	36
アオバスケ	EN	35	ウキヤガラ	DD	40	カノコユリ	VU	36
アオフタバラン	CR	31	ウシクサ	NT	39	カノツメソウ	CR	34
アオベンケイ	NT	39	ウジルカンダ	DD	40	カラクサシダ	VU	36
アオホオズキ	CR	33	ウスゲタマブキ	VU	38	カラコギカエデ	CR	33
アオヤギバナ	EN	35	ウスバイシカグマ	CR	30	カリガネソウ	CR	33
アカウキクサ	CR	30	ウスバサイシン	DD	40	カワヂシャ	NT	39
アカササゲ	EN	35	ウスバヒョウタンボク	EN	35	カワツルモ	EN	34
アカハナワラビ	CR	30	ウスバミヤマノコギリシダ	CR	30	カワミドリ	VU	37
アカヒゲガヤ	DD	40	ウスベニニガナ	DD	41	カワラアカザ	DD	40
アキザキヤツシロラン	VU	36	ウスユキクチャシダ	CR	33	カワラケツメイ	NT	39
アキタスズムシソウ	DD	40	ウスユキムグラ	CR	33	カワラサイコ	CR	32
アギナシ	NT	38	ウチウラン	EN	34	カワラボウフウ	CR	34
アキノハハコグサ	CR	33	ウチワダイモンジソウ	EN	35	カンサイタンポポ	CR	34
アキノミチヤナギ	VU	37	ウチワホングウシダ	CR	30	カンザシギボウシ	EN	35
アケボノスミレ	NT	39	ウドカズラ	VU	37	ガンゼキラン	VU	36
アサザ	CR	33	ウバタケニンジン	CR	34	カントウマムシダ	DD	40
アズキナシ	NT	39	ウマスゲ	VU	36	カンラン	CR	31
アズマイチゲ	EN	35	ウメガサソウ	NT	39	キイイトラツキョウ	CR	32
アズマガヤ	NT	39	ウライハチジョウシダ	DD	40	キイセンニンソウ	CR	32
アズマザサ	DD	40	ウラギク	EN	35	キイレツチトリモチ	CR	33
アズマツメクサ	CR	32	ウラジロウコギ	VU	38	キエビネ	EN	34
アゼオトギリ	DD	40	ウラジロマタタビ	NT	39	キオン	NT	39
アゼスゲ	EN	35	ウワバミソウ	CR	32	キキョウ	CR	33
アソサイシン	CR	31	ウンゼンカンアオイ	NT	38	キキョウラン	NT	38
アソシケシダ	VU	36	ウンヌケモドキ	EN	35	キクアザミ	CR	33
アソタイゲキ	DD	40	エソズズラン	CR	31	キクバドコロ	EN	34
アソタカラコウ	NT	39	エソツリスゲ	VU	37	キクバヤマボクチ	CR	34
アソノコギリソウ	AN	41	エビガラシダ	VU	36	キスミレ	NT	39
アソヒカゲスミレ	CR	33	エビネ	VU	36	キセワタ	VU	37
アツギノスカイタチシダマガイ	EN	34	エビノオオクジャク	CR	31	キタミソウ	EN	35
アブラシバ	NT	38	エヒメアヤメ	CR	32	キドイノモトソウ	VU	36
アマクサツチトリモチ	CR	33	エンシュウツリフネソウ	DD	40	キヌタソウ	VU	37
アマクサミツバツツジ	CR	33	オイランアザミ	CR	33	キヌラン	CR	32
アミシダ	CR	30	オオアカウキクサ	DD	40	キノクニスゲ	CR	32
アヤメ	EX	29	オオアブノメ	EN	35	キバナノアマナ	CR	31
アラゲヒメワラビ	DD	40	オオアマクサシダ	CR	30	キバナノシロウキラン	EN	34
アリマウマノズクサ (ホソバウマノズクサ)	DD	40	オオウミヒルモ	CR	31	キバナノセツコク	CR	31
アワボスゲ	CR	32	オオクボシダ	CR	31	キバナノヒメユリ	CR	31
アワモリショウマ	CR	32	オオコケシノブ	VU	36	キバナハタザオ	CR	33
イガホオズキ	VU	37	オオダイトウヒレン	DD	41	キビノクロウメモドキ	NT	39
イシヅチカラマツ	DD	40	オオタニワタリ	CR	30	キビノナワシロイチゴ (キビナワシロイチゴ)	EN	35
イズハハコ	EN	35	オオツルウメモドキ	EN	35	ギフベニシダ	VU	36
イソテンツキ	CR	32	オオトボシガラ	NT	39	ギボウシラン	CR	31
イソヤマアオキ	CR	32	オオトモエソウ	EN	35	キミズモドキ (注: ケイタオミズ)	DD	40
イチイ	NT	38	オオトリゲモ	DD	40	キュウシュウイノデ	CR	31
イチョウシダ	VU	36	オオヌマハリイ	DD	40	キュウシュウコゴメグサ	DD	41
イツキカナワラビ	CR	30	オオハイホラゴケ	EN	34	ギョクシンカ	CR	33
イッシュウチザサ	VU	37	オオバウマノズクサ	NT	38	キヨスミウツボ	EN	35
イトアゼガヤ	CR	32	オオバナヤエムグラ	CR	33	キヨズミオオクジャク	VU	36
イトイヌノハナヒゲ	VU	37	オオハマグルマ	CR	34	キリエノキ	EN	35
イトイヌノヒゲ	VU	36	オオバミヤマノコギリシダ	NT	38	クリンマイワヘゴ	CR	31
イトスゲ	NT	38	オオバメギ	DD	40	クリンシマエビネ	CR	31
イトレンツキ	NT	38	オオバヤドリギ	VU	37	クリンシマシヤクジョウ	EN	34
イトトリゲモ	EN	34	オオバライチゴ	CR	32	クリンシマテンナンショウ	VU	36
イトモ	EN	34	オオフジシダ	NT	38	クリンシマノガリヤス	AN	41
イナモリソウ	NT	39	オオホシクサ	CR	32	クリンシマヒゴタイ	NT	39
イヌイ	VU	36	オオミクリ	DD	40	クリンシマヘビノネギザ	NT	38
イヌイワイタチシダ	DD	40	オオヤママカタバミ	CR	32	クリンシマヤマザクラ	CR	32
イヌクログワイ	EN	35	オオヤマサギソウ	CR	31	クレハオオクボシダ	CR	31
イヌコリヤナギ	VU	37	オオヤマジソ	VU	37	クレンゲショウマ	CR	33
イヌセンブリ	CR	33	オオヤズメノヒエ	DD	40	キンセイラン	CR	31
イヌタマシダ	CR	31	オガタテンナンショウ	CR	31	キンチャクアオイ	EN	34
イヌトウキ	VU	38	オキナグサ	VU	37	キンバイザサ	CR	32
イヌナズナ	NT	39	オキナワクジャクシダ	EX	29	キンモウワラビ	EN	34
イヌノハナヒゲ	VU	37	オキナワコクモウクジャク	EN	34	キンラン	NT	38
イヌノヒゲ	NT	38	オクヤマガラシ (タカチホガラシ)	CR	33	ギンラン	VU	36
イヌノフグリ	EN	35	オグラコウホネ	EN	34	クサコアカソ	VU	37
イヌハギ	EN	35	オグラセンノウ	EN	35	クサソツテツ	NT	38
イヌヨモギ	NT	39	オグルマ	DD	41	クサノオウバノギク	DD	41
イノウエトラノオ	EN	34	オケラ	CR	33	クサボケ	CR	32
イバラモ	CR	31	オサシダ	NT	38	クサレダマ	VU	37
イブキ	VU	36	オサラン	EN	34	クジュウツリスゲ	CR	32
イブキトラノオ	NT	39	オトコシダ	VU	36	クチナシグサ	EN	35
イブキヌカボ	NT	39	オドリコカグマ	NT	38	クマイワヘゴ	CR	31
イヨカズラ	VU	37	オナモミ	EX	30	クマガイソウ	CR	31
イヨクジャク	CR	30	オニコナスビ	CR	33	クマガワイノモトソウ	VU	36
イヨフウロ	VU	37	オニスゲ	VU	36	クマガワナンテンハギ	VU	37
イワアカバナ	EN	35	オニノヤガラ	EN	34	クマガワブドウ	EN	35
イワカガミ	NT	39	オニバス	CR	31	クマナリヒラ	DD	40
イワガサ	NT	39	オニホソバシモツケ	CR	32	クマノダケ	VU	38
イワギク	CR	33	オノエテンツキ	DD	40	クマヤブソツテツ	CR	31
			オヒルムシロ	CR	31	クモイジガバチ	DD	40
			オワセベニシダ	CR	31	クモラン	NT	38
			カイジンドウ	CR	33	クラマゴケ	DD	40

クリンユキフデ	CR	33	シオクグ	NT	38	チョウセンキンミズヒキ	CR	32
クルマバアカネ	EN	35	シオジ	NT	39	チョウセンスイラン (マンシュウスイラン)	VU	37
クロイゲ	CR	32	シオン	VU	37	チョウセンニワフジ	DD	40
クロイチゴ	EN	35	シカクイ	NT	39	チョウセンヤマニガナ	NT	39
クログワイ	NT	39	ジガバチソウ	CR	31	チョクザキミズ	VU	37
クロタマガヤツリ	CR	32	シギンカラマツ	NT	39	ツクスキオトギリ	EN	35
クロバナキハギ	CR	32	シコクチャルメルソウ	CR	32	ツクシアオイ	NT	38
クロフネサイシン	VU	36	シコクヒロハデンナンショウ	CR	31	ツクシアケボノツツジ	VU	37
クロホシクサ	CR	32	シコクフクジュソウ	VU	37	ツクシアブラガヤ	CR	32
クロミノハライ	DD	40	シンラン	VU	37	ツクシイバラ	NT	39
クロモ	DD	40	シズイ	CR	32	ツクシイワシャジン	CR	33
クロヤツシロラン	VU	36	シソクサ	EN	35	ツクシカイドウ	EW	30
クワノハエノキ	VU	37	シタキシソウ	VU	37	ツクシンガヤ	CR	32
クワレシダ	CR	30	シチトウハナワラビ	DD	40	ツクシカンガレイ	EN	35
グンバイヒルガオ	CR	33	シナミズニラ	CR	30	ツクシキケマン	VU	37
ケイビラン	NT	38	シノノメソウ	EN	35	ツクシンガイソウ	CR	33
ケキンモウワラビ	CR	30	シバナ	EN	34	ツクシクサボタン	NT	39
ケシンジュガヤ	EX	30	シバネム	NT	39	ツクシクロイヌノヒゲ	DD	40
ケスゲ	NT	38	シマイヌワラビ	CR	30	ツクシコウモリソウ	VU	38
ケチドメグサ	VU	38	シマキケマン	CR	32	ツクシコゴメグサ	VU	37
ケヒエスゲ	CR	32	シマサクラガンピ	EN	35	ツクシコメツツジ	VU	37
ケホシダ	EN	34	シマシロヤマシダ	CR	30	ツクシスミレ	CR	32
ケミヤマナミキ	CR	33	シマバライチゴ	EN	35	ツクシタチドコロ	NT	38
ケルリソウ	CR	33	シマヒメタデ (フトボノスカボタデ)	CR	33	ツクシタンボボ	CR	34
ゲンカイツツジ	CR	33	シムランニンジン	EN	36	ツクシチャルメルソウ	AN	41
コアマモ	VU	36	シモツケソウ	EN	35	ツクシデンツキ	NT	39
コイケマ	VU	37	シモツケスリトラノオ	CR	30	ツクシトウヒレン	EN	35
コイスガラシ	VU	37	シヤクジョウソウ	EN	35	ツクシトラノオ	EN	35
コイヌノハナヒゲ	NT	39	ジャコウソウ	VU	37	ツクシフウロ	CR	33
コウボウ	CR	32	ジュンサイ	CR	31	ツクシミズ	VU	37
コウボウシバ	EN	35	ショウブ	NT	38	ツクシムレスズメ	CR	32
コウボウムギ	EN	35	ショウベンノキ	CR	33	ツクシヤブソテツ	VU	36
コウホネ	CR	31	シラシマメダケ	VU	37	ツゲ	EN	35
コウヤザサ	NT	39	シラネワラビ	CR	31	ツゲモチ	DD	41
コウヤボウキ	DD	41	シラヒゲソウ	NT	39	ツシマカンコノキ	CR	32
コウライテンナンショウ	DD	40	シラン	CR	31	ツチグリ	CR	32
コウラボシ	EN	34	シロシャクジョウ	EN	34	ツツイイワヘゴ	CR	31
コオロギラン	CR	31	シロネ	CR	33	ツメレンゲ	EN	35
コガネシダ	EN	34	シソグウスゲ	DD	40	ツユクサシュスラン	VU	36
コカンスゲ	DD	40	シンジュガヤ	VU	37	ツリシュスラン	VU	36
コギシギシ	NT	39	スイラン	VU	38	ツルギキョウ	EN	35
コキンバイザサ	EN	34	スギラン	EN	34	ツルキジムシロ	DD	40
コクワガタ	VU	37	スジヒトツバ	CR	30	ツルダカナワラビ	CR	31
コケイランモドキ	DD	40	スズサイコ	VU	37	ツルモウリシカ	CR	33
コケシノブ	CR	30	スズメノハコベ	VU	37	ツレサギソウ	NT	38
コケセンボンギク	CR	33	スズラン	EN	35	テツホシダ	VU	36
コケホラゴケ	CR	30	スナビキソウ	CR	33	テバコワラビ	CR	30
コケミス	NT	39	スズタ	EN	34	テリハアザミ	CR	33
コケモモ	DD	41	スルガラン	CR	31	デンジソウ	CR	30
コジキイチゴ	VU	37	セイタカヨシ	NT	39	トウオオバコ	DD	41
コシンジュガヤ	VU	37	セキショウモ	NT	38	トウゴクサバノオ	NT	39
コタニワタリ	CR	30	センダイソウ	VU	37	トキソウ	EN	34
コチャルメルソウ	EN	35	セندگانサ	DD	41	トキリマメ	EN	35
コツブスマハライ	CR	32	センニンモ	DD	40	ドクゼリ	EX	30
コナミキ	CR	33	センボンギク (タニガワコンギク)	VU	37	トゲウミヒルモ	CR	31
コバナガンクビソウ	CR	33	ソコベニヒルガオ	CR	33	トゲカラクサイヌワラビ	VU	36
コバノクロツル	DD	40	ソナレムグラ	CR	33	トケンラン	CR	31
コバノトンボソウ	CR	31	タイキンギク	DD	41	トサノチャルメルソウ (トサチャルメルソウ)	NT	39
コバノヒルムシロ	CR	31	ダイサギソウ	CR	31	トダイアカバナ	CR	33
コハリスゲ	EN	35	ダイモンジソウ	NT	39	トダスゲ	CR	32
コバンムグラ	CR	33	タイヨウシダ	CR	30	トチカガミ	CR	31
ゴマクサ	EN	35	タイワンスゲ	AN	41	トビカズラ	CR	32
ゴマシオホシクサ	CR	32	タカクマヒキオコシ	EN	35	トモエソウ	CR	33
コマツカサススキ	CR	32	タカサゴソウ	DD	41	トラノハナヒゲ	VU	37
ゴマノハグサ	NT	39	タカサブロウ	NT	39	トリゲモ	DD	40
コムラサキ	VU	37	タカネコウリンギク	CR	34	トンボソウ	CR	31
コメガヤ	NT	39	タカネマスカサ	CR	32	ナガエミクリ	NT	38
コモチイヌワラビ	CR	30	タキキビ	CR	32	ナガバノウナギツカミ	DD	40
サイカチ	EN	35	タキミシダ	CR	30	ナガバノコウヤボウキ	CR	33
サイコクヒメコウホネ	CR	31	タコノアシ	VU	37	ナガホノナツノハナワラビ	VU	36
サイゴクホングウシダ	VU	36	タシロデンナンショウ	VU	36	ナガボノワレモコウ	VU	37
サカバサトメシダ	CR	30	タシロラン	EN	34	ナカミシラン	VU	36
サガミトリゲモ	CR	31	タチカモメツル	NT	39	ナガミノオニシバ	NT	39
サギソウ	EN	34	タチコゴメグサ	DD	41	ナギラン	NT	38
サキモリヌワラビ	CR	30	タチデンダ	NT	38	ナゴラン	EN	34
サクラジマハナヤスリ	CR	30	タチドコロ	NT	38	ナツエビネ	NT	38
サクラスミレ	NT	39	タチハコベ	CR	33	ナツノハナワラビ	NT	38
サクラソウ	VU	37	タチバナ	CR	33	ナベナ	VU	38
ササキビ	CR	32	タチヒメワラビ	CR	30	ナメラダイモンジソウ	CR	32
ササバラン	CR	31	タチフウロ	NT	39	ナンカクラン	CR	30
サツマサンキライ	NT	38	タニジャコウソウ	VU	37	ナンゴククガイソウ	CR	33
サツマシダ	VU	36	タニヘゴ	NT	38	ナンゴクナライシダ	VU	36
サツマノギク	EX	30	タニワタリノキ	NT	39	ナンゴクホウビシダ	EN	34
サツマハチジョウシダ	CR	30	タマカラマツ	DD	40	ナンゴクミツバツツジ	EN	35
サツマアザミ	VU	37	タマガワホトトギス	VU	36	ナンゴクミネカエデ	CR	33
サトメシダ	NT	38	タマツリスゲ	CR	32	ナンビイノデ	CR	31
サナギイチゴ	CR	32	タマボウキ	CR	32	ニイタカチドリ	CR	31
ザリコミ	CR	32	タマミズキ	VU	37	ニオイタデ	NT	39
サルメンエビネ	CR	31	チチブホラゴケ	EN	34	ニオウヤブマオ (オニヤブマオ)	DD	40
サワギキョウ	NT	39	チャボイ	DD	40	ニシキウツギ	VU	38
サワダツ	VU	37	チャボツメレンゲ	CR	32	ニシキゴロモ	DD	41
サワトウガラシ	NT	39	チャボハナヤスリ	NT	38	ニシキソウ	DD	40
サワトラノオ	CR	33	チャンチンモドキ	VU	37	ニセシロヤマシダ	CR	30
サンショウモ	CR	30	チョウジザクラ	CR	32	ニセヒロハノコギリシダ	CR	30
シイバサトメシダ	CR	30	チョウセンカメバソウ	CR	33	ニセヨゴレイタチシダ	CR	31

ニッポンイヌノヒゲ	NT	38	ヒメバイカモ	EN	35	ホトトギス	VU	36
ニラバラン	EN	34	ヒメハイホラゴケ	EN	34	ホンゴウソウ	CR	31
スカイタチシダ	NT	38	ヒメハシゴシダ	NT	38	マイサギソウ	CR	31
スカイタチシダマガイ	CR	31	ヒメハマナデシコ	VU	37	マイヅルテンナンショウ	EN	34
スカボタデ	DD	40	ヒメヒゴタイ	CR	33	マキエハギ	NT	39
スマガヤ	CR	32	ヒメビシ	CR	33	マシカクイ	NT	39
スマゼリ	EX	30	ヒメフタバラン	DD	40	マツカサススキ	CR	32
スリワラビ	NT	38	ヒメホウチャクソウ	DD	40	マツグミ	CR	33
ネコノシタ (ハマグルマ)	VU	38	ヒメホタルイ	VU	37	マツバニンジン	DD	40
ネバリタデ	DD	40	ヒメミクリ	CR	32	マツバラン	VU	36
ネビキグサ	CR	32	ヒメミズワラビ	NT	38	マツモ	DD	40
ノカラマツ	VU	37	ヒメムカゴシダ	EN	34	マツモトセンノウ	EN	35
ノカンゾウ	CR	32	ヒメヤブラン	NT	38	マツラン	VU	36
ノグルミ	VU	37	ヒメユリ	CR	31	マデバシイ	DD	40
ノジギク	DD	41	ヒメヨツバハギ	NT	39	マネキシシジュウガヤ	EX	30
ノジトラノオ	DD	40	ヒモヅル	EN	34	マメダオシ	EX	30
ノハラテンツキ	CR	32	ヒモラン	VU	36	マメヅタラン	NT	38
ノヒメユリ	VU	36	ヒュウガアジサイ	CR	33	マヤラン	CR	31
ノヤナギ	NT	39	ヒュウガカナワラビ	CR	30	マルバオモダカ	CR	31
バアソブ	NT	39	ヒュウガシケシダ	CR	30	マルバウコギ	EN	35
ハイイヌガヤ	CR	31	ヒュウガシダ	VU	36	マルバテイショウソウ	NT	39
ハイコモチシダ	VU	36	ヒュウガセンキュウ	EN	36	マルバヌカイトチシダモドキ	CR	31
ハガクレカナワラビ	EN	34	ヒュウガトンボ	CR	31	マルバノイチャクソウ	VU	37
ハカマカズラ	VU	37	ヒュウガナルコユリ	DD	40	マルバノサウトウガラシ	CR	33
ハクウンボク	NT	39	ヒュウガミツバツツジ	NT	39	マルバマンネングサ	DD	40
ハクウンラン	CR	31	ヒュウガヤブレガサ	CR	33	マルミカンアオイ	VU	36
ハクサンハタザオ	CR	33	ヒラモ	EN	34	マンシュウハンドイ	EN	35
ハタケテンツキ	CR	32	ヒルムシロ	NT	38	マンセンカラマツ	NT	39
ハタベカンガレイ	EN	35	ビロウ	CR	32	マンネンスギ	VU	36
ハタベスゲ	EX	30	ビロードキビ	EX	30	ミカワタヌキモ	CR	33
ハチジョウシダ	EN	34	ビロードスゲ	NT	38	ミクマノシダ	CR	30
ハチジョウナ	CR	33	ビロードムラサキ	EN	35	ミクリ	VU	36
ハナイカリ	CR	33	ヒロハコンロンカ	VU	37	ミコシギク	EX	30
ハナガガシ	VU	37	ヒロハコンロンソウ	CR	33	ミサオノキ	NT	39
ハナカズラ	CR	32	ヒロハナライシダ	CR	31	ミシマサイコ	EN	36
ハナシノブ	CR	33	ヒロハネム	CR	32	ミズアオイ	CR	32
ハナハタザオ	CR	33	ヒロハノイヌノヒゲ	EN	35	ミズオオバコ	VU	36
ハナビスゲ	CR	32	ヒロハノコギリシダ	VU	36	ミズキカシグサ	CR	33
ハナビゼキショウ	NT	38	ヒロハノドジョウツナギ	EN	35	ミズタカモジグサ (ミズタカモジ)	CR	32
ハナビゼリ	CR	34	ヒロハハナヤスリ	EN	34	ミズチドリ	VU	36
ハマウツボ	CR	33	ヒロハヒメウラボシ	CR	31	ミズトラノオ	EX	30
ハマクワガタ	CR	33	ヒロハマツナ	EN	35	ミズトンボ	NT	38
ハマゴウ	NT	39	ヒロハヤマヨモギ	AN	41	ミズネコノオ	CR	33
ハマサジ	VU	37	フウラン	EN	34	ミズマツバ	NT	39
ハマサルトリイバラ	CR	31	フウリンウメモドキ	EN	35	ミスミソウ	CR	32
ハマジンチョウ	CR	33	フガクスズムシソウ	CR	31	ミズユキノシタ	NT	39
ハマゼリ	VU	38	フキヤミツバ	CR	34	ミゾシダモドキ	CR	30
ハマセンダン	NT	39	フクド	VU	37	ミチシバ	CR	32
ハマタマボウキ	EX	30	フクレギシダ	CR	30	ミチノクフクジュソウ	VU	37
ハマツメクサ	DD	40	フクロシダ	VU	36	ミツガシワ	EX	30
ハマナツメ	VU	37	フサスゲ (シラホスゲ)	NT	38	ミツバテンナンショウ	VU	36
ハマニガナ	EN	35	フジ	VU	37	ミツバフウロ	CR	33
ハマハタザオ	CR	33	フジキ	EN	35	ミドリヨウラク	VU	36
ハマハナヤスリ	CR	30	フジシダ	VU	36	ミドリワラビ	EN	34
ハマビシ	EX	30	フジセンニンソウ	VU	37	ミノボロ	CR	32
ハマボウフウ	CR	34	フシノハアワブキ	EN	35	ミミカキグサ	NT	39
ハマホラシノブ	CR	30	ブゼンノギク	CR	33	ミヤコアオイ	CR	31
ハママツナ	VU	37	フッキソウ	VU	37	ミヤコアザミ	VU	38
ハママンネングサ	NT	39	フトヒルムシロ	NT	38	ミヤコイヌワラビ	EN	34
ハリモミ	VU	36	フナバラソウ	VU	37	ミヤコジマツツラフジ	EN	35
ハルザギヤツシロラン	VU	36	ヘイケモリアザミ	EN	35	ミヤジマシダ	VU	36
ハンゲショウ	NT	38	ヘゴ	EN	34	ミヤマイボタ	EN	35
ヒカゲアマクサシダ	CR	30	ヘツカニガキ	NT	39	ミヤマイワスゲ	CR	32
ヒカゲスミレ	EN	35	ベニシュスラン	VU	36	ミヤマエンレイソウ (シロバナエンレイソウ)	NT	38
ヒキノカサ	DD	40	ベニバナヤマシヤクヤク	CR	32	ミヤマカラマツ	CR	32
ヒゲシバ	DD	40	ヘビノネゴザ	CR	30	ミヤマカンスゲ	NT	38
ヒゲスゲ	NT	39	ベンケイヤワラスゲ	CR	32	ミヤマコナスピ	NT	39
ヒゴカナワラビ	CR	31	ホウライイヌワラビ	CR	30	ミヤマザクラ	VU	37
ヒゴコバイモ	NT	38	ボウラン	CR	31	ミヤマシラスゲ	VU	36
ヒゴシオン	EN	35	ホオノカワシダ	EN	34	ミヤマツチトリモチ	CR	33
ヒゴタイ	EN	35	ホガエリガヤ	CR	32	ミヤマナミキ	CR	33
ヒゴミズキ	EN	35	ホクチアザミ	NT	39	ミヤマナルコユリ	VU	36
ヒツジグサ	CR	31	ホクリクムヨウラン	CR	31	ミヤマニガウリ	CR	32
ヒトツボクロ	EN	34	ホコガタシダ	CR	30	ミヤマノダケ	DD	41
ヒナスミレ	VU	37	ホコシダ	VU	36	ミヤマムギラン	CR	31
ヒナノカンザシ	CR	32	ホザキキカシグサ	EN	35	ミヤマムグラ	EN	35
ヒナノシヤクジョウ	EN	34	ホザキキケマン	DD	40	ミヤマヨメナ	DD	41
ヒナヒゴタイ	CR	33	ホザキノミミカキグサ	EN	35	ムカゴサイシン	DD	40
ヒナラン	EN	34	ホシクサ	NT	38	ムカゴソウ	NT	38
ヒメイワトラノオ	EN	34	ホシナシゴウソ	CR	32	ムカゴツツリ	NT	39
ヒメウラジロ	VU	36	ホソバオグルマ	AN	41	ムカゴトンボ	CR	31
ヒメカンガレイ	EN	35	ホソバショリマ	CR	30	ムカゴニンジン	NT	40
ヒメキセウタ	DD	41	ホソバシロスミレ	NT	39	ムカデラン	CR	31
ヒメキランソウ	VU	37	ホソバチクセツニンジン	CR	34	ムギガラガヤツリ	CR	32
ヒメコウガイゼキショウ	NT	38	ホソバナコバイモ	EN	34	ムギラン	NT	38
ヒメコケシノブ	CR	30	ホソバニガナ	DD	41	ムヨウラン	EN	34
ヒメコマツ	VU	36	ホソバノウナギツカミ	DD	40	ムラサキ	EX	30
ヒメサザラン	CR	31	ホソバハマアカザ (ホソバノハマアカザ)	NT	39	ムラサキセンブリ	VU	37
ヒメスギラン	EN	34	ホソバヒカゲスゲ	NT	38	ムラサキベニシダ	EN	34
ヒメタデ	DD	40	ホソバヒメトラノオ	VU	37	ムラサキミミカキグサ	NT	39
ヒメナエ	CR	33	ホソバミズヒキモ	EN	34	メグスリノキ	NT	39
ヒメナミキ	EN	35	ホソバヤブソテツ	EN	34	メジロホオズキ	VU	37
ヒメニラ	CR	32	ホタルカズラ	VU	37	メハジキ	NT	39
ヒメノコギリシダ	CR	30	ホッスモ	CR	31	モイワシヤジン (マンシュウツリガネニンジン)	DD	41
ヒメノボタン	EN	35	ホテイシダ	NT	38	モエジマシダ	CR	30

モミジコウモリ	DD	41
モリアザミ	NT	39
モリイバラ	NT	39
モロコシソウ	DD	41
ヤエヤマハギカズラ	CR	32
ヤクカナワラビ	DD	40
ヤクシマアカシユスラン	EN	34
ヤクシマハチジョウシダ	EN	34
ヤシャゼンマイ	CR	30
ヤシャダケ	DD	40
ヤシャビシヤク	EN	35
ヤチカワズスゲ	VU	36
ヤチマタイカリソウ（注：ヒゴイカリソウ）	NT	39
ヤッコソウ	CR	33
ヤツシロソウ	EN	35
ヤナギアザミ	VU	37
ヤナギスプタ	VU	36
ヤナギニガナ	CR	33
ヤナギヌカボ	CR	33
ヤハズハハコ	EN	35
ヤブヨモギ	EN	35
ヤブレガサ	VU	38
ヤマエオオクジャク	CR	31
ヤマクルマバナ	DD	41
ヤマサギソウ	CR	31
ヤマジソ	DD	41
ヤマシヤクヤク	NT	39
ヤマシロギク（イナカギク）	DD	41
ヤマトウバナ	NT	39
ヤマトウミヒルモ	NT	38
ヤマトキシソウ	VU	36
ヤマトグサ	CR	33
ヤマトミクリ	VU	36
ヤマトラノオ	EN	35
ヤマハンショウヅル	CR	32
ヤマヒハツ	VU	37
ヤマヒョウタンボク	EN	35
ヤマヒヨドリバナ	VU	37
ヤマブキシヨウマ	DD	40
ヤマブキシソウ	VU	37
ヤマホオズキ	VU	37
ヤマボクチ	CR	34
ヤマホロシ	CR	33
ヤリノホクリハラン	CR	31
ヤワラハチジョウシダ	CR	30
ヤンバルハコベ	DD	40
ユウシュンラン	CR	31
ユキワリイチゲ	NT	39
ユキワリソウ	CR	33
ユノミネシダ	CR	30
ヨウラクツツジ	EN	35
ヨウラ克蘭	VU	36
ヨツバハギ	NT	39
ヨツバリキンギョモ	DD	40
ヨロイグサ	EN	36
リュウキュウイタチシダ	CR	31
リュウキュウコザクラ	CR	33
リュウキュウスゲ	DD	40
リュウキンカ	VU	37
リュウノヒゲモ	CR	31
リュウビンタイ	NT	38
リュウトウイタチシダ	DD	40
ルリハッカ	EX	30
レンゲツツジ	CR	33
レンブクソウ	CR	34
レンリソウ	VU	37
ロクオンソウ	VU	37
ロッカクイ	CR	32
ワカナシダ	EN	34
ワダソウ	VU	37
ワタナベソウ	EN	35
ワニグチソウ	CR	32
ワンドスゲ	EN	35

■コケ植物

イチョウウキゴケ	NT	41
オオサナダゴケ	VU	41
オオミズゴケ	NT	41
オオミツヤゴケ	VU	41
オニゴケ	CR	41
キブリハネゴケ	NT	41
キャラハゴケモドキ	CR	41
クマノゴケ	NT	41
コウライイチイゴケ	NT	41
コキシノオゴケ	NT	41
コキヌシッポゴケ	EN	41
コモチイチイゴケ	EN	41
セイナンヒラゴケ	NT	41
タイワントラノオゴケ	VU	41
トガリミミゴケ	NT	41
ヒカリゼニゴケ	CR	41
ヒメタチヒラゴケ	EN	41
ヒロハシノブイトゴケ	NT	41
ホソヒモゴケ	EN	41
ムチエダイトゴケ	VU	41

■藻類

アオカワモズク	NT	43
アサクサノリ	CR	43
アマクサキリンサイ	DD	43
オオイシソウ	VU	43
オキチモズク	CR	43
カワノリ	DD	43
スイゼンノリ	CR	43
チヌヅノリ	EN	43
チャイロカワモズク	NT	43
ホソエガサ	DD	43

■哺乳類

オオカミ	EX	48
オヒキコウモリ	VU	48
カヤネズミ	NT	48
カワネズミ	NT	48
クロホオヒゲコウモリ	CR	48
コキクガシラコウモリ	NT	48
スミスネズミ	AN	48
ツキノワグマ	EX	48
テングコウモリ	VU	48
ニホンイタチ	VU	48
ニホンウサギコウモリ	DD	48
ニホンカモシカ	CR	48
ニホンカワウソ	EX	48
ニホンコテングコウモリ	VU	48
ニホンジネズミ	AN	48
ニホンモモンガ	EN	48
ノレンコウモリ	VU	48
ハタネズミ	AN	48
ヒナコウモリ	VU	48
ヒメヒミズ	CR	48
ムササビ（ホオジロムササビ）	NT	48
モモジロコウモリ	AN	48
モリアブラコウモリ	DD	48
ヤマコウモリ	DD	48
ヤマネ	NT	48
ユビナガコウモリ	NT	48

■鳥類

アオシギ	EN	56
アオバズク	EN	56
アカアシシギ	VU	56
アカショウビン	EN	56
アカツクシガモ	AN	57
アカハジロ	AN	57
アカヤマドリ	EN	56
イカルチドリ	VU	56
イスワシ	CR	55
ウズラ	CR	55
ウチヤマセンニュウ	CR	56
ウミスズメ	EN	56
オオアカゲラ	EN	56
オオコノハズク	CR	55
オオジシギ	CR	55
オオセグロカモメ	DD	57
オオソリハシシギ	VU	56
オオタカ	NT	56
オオヒシクイ	AN	57
オオムシクイ	AN	57
オオルリ	NT	56
オシドリ	AN	57
オナガ	EX	55
カシラダカ	NT	56
カッコウ	NT	56
カモメ	NT	56
カラシラサギ	NT	56
カラスバト	VU	56
カラフトアオアシシギ	AN	57
カリガネ	AN	57
カンムリウミスズメ	VU	56
キバシリ	EN	56
クイナ	DD	57
クマタカ	VU	56
クロサギ	AN	57
クロツグミ	EN	56
クロツラヘラサギ	VU	56
クロヅル	AN	57
クロトキ	AN	57
ケリ	AN	57
コアジサシ	EN	56
コウノトリ	AN	57
コガラ	VU	56
コサメビタキ	EN	56
コシアカツバメ	VU	56
コシロヤマドリ	EN	56
コシヤクシギ	EN	56
ゴジュウカラ	VU	56
コジュリン	CR	56
コノハズク	EN	56

コマドリ	CR	56
コミミズク	NT	56
コヨシキリ	NT	56
ササゴイ	EN	56
サシバ	EN	56
サンカノゴイ	DD	57
サンコウチョウ	VU	56
サンショウクイ	CR	56
シベリアアオオハシシギ	AN	57
シマアカモズ	EN	56
シマクイナ	AN	57
ジュウイチ	EN	56
シロチドリ	VU	56
ズグロカモメ	NT	56
センダイムシクイ	NT	56
ダイシャクシギ	VU	56
タカブシギ	VU	56
タマシギ	EN	56
チゴモズ	AN	57
チュウサギ	NT	56
チュウヒ	EN	56
ツクシガモ	NT	56
ツツドリ	EN	56
ツバメチドリ	VU	56
ツミ	VU	56
ツルシギ	VU	56
トモエガモ	VU	56
ナベヅル	NT	56
ノスリ	LP	57
ハイイロチュウヒ	NT	56
ハイタカ	NT	56
ハギマシコ	NT	56
ハチクマ	CR	55
ハマシギ	NT	56
ハヤブサ	VU	56
ヒクイナ	NT	56
ヒシクイ	AN	57
ヒメウ	EN	56
ビンズイ	LP	57
フクロウ	EN	56
ブッボウソウ	CR	55
ヘラサギ	NT	56
ヘラシギ	CR	55
ホウロクシギ	EN	56
ホオアカ	AN	57
ホシガラス	CR	56
マガン	AN	57
マダラウミスズメ	AN	57
マナヅル	NT	56
ミサゴ	DD	57
ミゾゴイ	EN	56
ミヤコドリ	DD	57
メボソムシクイ	CR	56
ヤイロチョウ	CR	56
ヨシゴイ	CR	55
ヨタカ	CR	55

■爬虫類

シロマダラ	NT	59
タカチホヘビ	NT	59
ニホンイシガメ	NT	59

■両生類

アカハライモリ	NT	61
アマクササンショウウオ	DD	61
オオイタサンショウウオ	EN	61
オオサンショウウオ	DD	61
カジカガエル	NT	61
カスミサンショウウオ	NT	61
コガタブチサンショウウオ	NT	61
ソボサンショウウオ	CR	61
タゴガエル	NT	61
チクシブチサンショウウオ	NT	61
トノサマガエル	NT	61
ニホンアカガエル	NT	61
ニホンヒキガエル	NT	61
ベッコウサンショウウオ	VU	61
ヤマアカガエル	NT	61

■淡水魚類

アカザ	EX	64
アブラボテ	NT	65
アリアケギバチ	VU	64
アリアケシラウオ	CR	64
アリアケスジマドジョウ	AN	65
アリアケヒメシラウオ	CR	64
イドミズハゼ	VU	64
エツ	NT	65
エドハゼ	VU	64
オオウナギ	AN	65

オカメハゼ	AN	65
オヤニラミ	VU	64
カジカ	EN	64
カジカ中卵型	EN	64
カゼトゲタナゴ	VU	64
カネヒラ	VU	64
カマキリ (アユカケ)	EX	64
カワアナゴ	NT	65
カワヒガイ	NT	65
ガンテンイシヨウジ	AN	65
キセルハゼ	VU	64
クチサケハゼ	AN	65
クボハゼ	VU	64
クルマサヨリ	NT	65
ゴマハゼ	NT	65
ショウキハゼ	AN	65
シラウオ	VU	64
シロウオ	NT	65
シロチチブ	NT	65
スナヤツメ南方種	NT	65
スミウキゴリ	AN	65
セボシタビラ	CR	64
タネハゼ	NT	65
タビラクチ	NT	65
チクゼンハゼ	NT	65
チチブモドキ	NT	65
チワラスボ	AN	65
テングヨウジ	AN	65
ドジョウ	NT	65
ニッポンバラタナゴ	CR	64
ニホンイトヨ	EX	64
ニホンウナギ	NT	65
ノボリハゼ	AN	65
ヒナハゼ	AN	65
ヒモハゼ	AN	65
ボウズハゼ	AN	65
ミナミハゼ	AN	65
ミナメダカ	NT	65
ムツゴロウ	VU	64
ヤマノカミ	EN	64
ヤリタナゴ	VU	64
ルリヨシノボリ	AN	65
ワラスボ	AN	65

■昆虫類

アイヌハンミョウ	NT	76
アイノミドリシジミ	CR	74
アオサナエ	VU	75
アオタマムシ	VU	75
アオナガタマムシ	VU	75
アオハダトンボ	VU	75
アオヤンマ	CR	73
アカエゾゼミ	DD	76
アカシジミ	NT	76
アカジマトラカミキリ	NT	76
アカヘリミドリタマムシ	EX	73
アカマダラセンチコガネ	NT	76
アカマダラハナムグリ	VU	75
アサカミキリ	VU	75
アジアイトトンボ	NT	75
アシグロツエムシ	DD	76
アソキマダラウマ	NT	75
アマミナカボソタマムシ	DD	76
アヤナミツバゲンゴロウ (シャープツバゲンゴロウ)	EN	74
アリアケキイロヒラタガムシ	CR	74
イガブチヒゲハナカミキリ	NT	76
イセテントウ	CR	74
イッシキキモンカミキリ	VU	75
イトアメンボ	CR	73
イナゴモドキ	NT	75
ウスイロシマゲンゴロウ	VU	75
ウスイロツヤヒラタガムシ	CR	74
ウスバカマキリ	DD	76
ウチワヤンマ	VU	75
ウラキンシジミ	VU	75
ウラギンシジミヒョウモン	NT	76
ウラギンヒョウモン	AN	77
ウラクロシジミ	DD	76
ウラゴマダラシジミ	VU	75
ウラジロミドリシジミ	CR	74
ウラナミジャノメ	NT	76
ウラムシシジミ	VU	75
ウンゼンツエムシ	NT	75
エゾゼミ	VU	75
エゾトンボ	CR	73
エゾハルゼミ	NT	75
エゾミドリシジミ	VU	75
オオアオカミキリ	NT	76
オオイトトンボ	CR	73
オオウラギンヒョウモン	VU	75
オオオカメコオロギ	DD	76
オオキノコムシ	NT	76
オオクボカミキリ九州亜種	NT	76
オオクワガタ	EN	74

オオゲンゴロウ	CR	74
オオチャイロハナムグリ	VU	75
オオテントウ	NT	76
オオトラカミキリ	VU	75
オオホソコバネカミキリ	NT	76
オオマダラゲンゴロウ	EX	73
オオマルケシゲンゴロウ	EN	74
オオミズスマシ	CR	74
オオミドリシジミ	VU	75
オオムラサキ	NT	76
オオルリシジミ九州亜種	CR	74
オオルリボシヤンマ	CR	73
オカモトツヤアナハネムシ	NT	76
オキナワイトアメンボ	VU	75
オグマサナエ	NT	75
オナガシジミ	EN	74
オナガミズアオ	DD	76
オナガミズスマシ	CR	74
オニベニシタバ	NT	76
カギモンハナオオイアツバ	NT	76
カヤコオロギ	NT	75
カラスシジミ	EN	74
カワラバツタ	EX	73
カワラハンミョウ九州亜種	DD	76
カラムリセスジゲンゴロウ	CR	74
キイトトンボ	NT	75
キイロコガシラミズムシ	CR	74
キイロサナエ	VU	75
キイロヤマトンボ	CR	73
キトンボ	VU	75
キバネセセリ	VU	75
キバラハキリバチ	NT	76
ケベリカタビロハナカミキリ	CR	74
ケベリケシヒラタガムシ	CR	74
ケベリマメゲンゴロウ	CR	74
キボシケシゲンゴロウ	CR	74
キボシツバゲンゴロウ	EX	73
キマダラモドキ	VU	75
キュウシュウエゾゼミ	VU	75
キュウシュウシナカミキリ	NT	76
キュウシュウニセコリクワガタ	VU	75
キョウトアオハナムグリ	NT	76
ギンイチモンジセセリ	AN	77
キンイロネクイハムシ	CR	74
キンヘリタマムシ九州亜種	VU	75
ギンモンアカコトウ	CR	74
クスベニカミキリ	VU	75
クビクロケンモン	DD	76
クマモトツチスガリ	EX	73
クモガタヒョウモン	NT	76
クロカタヒロオサムシ	NT	76
クロカナブン	NT	76
クロゲンゴロウ	EN	74
クロダケササキリモドキ	DD	76
クロツバメシジミ九州沿岸・朝鮮半島亜種	NT	76
クロツバメシジミ西日本亜種	CR	74
クロヒカゲモドキ	EN	74
クロマダラタマムシ	NT	76
クロマメゲンゴロウ	CR	74
クロミドリシジミ	VU	75
クロモンヤグソコガネ	EN	74
クワトゲエダシヤク	DD	76
グンバイトンボ	CR	73
ケブカアオコハナバチ	DD	76
ゴイシツバメシジミ	CR	74
コウベツツゲンゴロウ	VU	75
コオイムシ	NT	75
コオナガミズスマシ	CR	74
コガタガムシ	EN	74
コガムシ	VU	75
コクロメゲンゴロウ	EX	73
コシロシタバ	NT	76
コバネアオイトンボ	CR	73
コバネササキリ	DD	76
コバンムシ	CR	74
コフキヒメイトトンボ	EN	74
ゴマシジミ中国地方・九州亜種	CR	74
コミズスマシ	CR	74
サツマリノゴカミキリ	DD	76
サメハダマルケシゲンゴロウ	CR	74
サラヤンマ	NT	75
サワダマメゲンゴロウ	EN	74
シータテハ	NT	76
シコクヒメコブハナカミキリ	NT	76
シジミガムシ	CR	74
シナノクロフカミキリ	NT	76
シマケシゲンゴロウ	CR	74
シマゲンゴロウ	EN	74
ジュウサンホシテントウ	NT	76
シルビアシジミ	VU	75
シロヘリツチカメムシ	NT	75
シロヘリハンミョウ	EN	74
スギタニルリシジミ九州亜種	NT	76
スキバホウジャク	DD	76
スジゲンゴロウ	EX	73

スネケブカヒロコバネカミキリ	NT	76
セアカオサムシ	VU	75
セスジイトトンボ	VU	75
セスジゲンゴロウ	VU	75
ソボトゲヒサゴゴミムシダマシ	NT	76
ダイコクコガネ	CR	74
タイリクアカネ	NT	75
タイワンツバメシジミ	EN	74
タガメ	CR	73
タナミツバゲンゴロウ (ルイスツバゲンゴロウ)	VU	75
タベサナエ	NT	75
タンボオカメコオロギ	DD	76
チビコガシラミズムシ	CR	74
チビマルガムシ	CR	74
チビマルケシゲンゴロウ	CR	74
チャイロマメゲンゴロウ	VU	75
チュウブホソガムシ	EN	74
チンメルマンセスジゲンゴロウ	CR	74
ツツラセメクラチビゴミムシ	CR	74
ツマキレオナガミズスマシ	EX	73
ツヤマガソコガネ	CR	74
ドウクツケシガムシ	CR	74
トカラクロケシヒラタガムシ	CR	74
トライクビチョッキリ	DD	76
トラサンドクガ	NT	76
トラフカミキリ	VU	75
トラフコメツキ	DD	76
トラフトンボ	AN	77
ナカネダルマガムシ	CR	74
ナガマルチビゲンゴロウ	CR	74
ナギサスズ	VU	75
ナゴヤサナエ	CR	73
ナマリキンタバ	NT	76
ニセコクロヒラタガムシ	CR	74
ニホンカワトンボ	EN	74
ネアカヨシヤンマ	CR	73
ハセガワダルマガムシ	CR	74
ハッチョウトンボ	CR	73
ハネビロエゾトンボ	CR	73
ハマスズ	DD	76
ハヤシミドリシジミ	VU	75
ハラグロオオテントウ	NT	76
ヒカゲチョウ	VU	75
ヒゲブトハナカミキリ	NT	76
ヒゴケリガ	DD	76
ヒゴケナガクビボソムシ	NT	76
ヒコサンセスジゲンゴロウ	CR	74
ヒサマツミドリシジミ	VU	75
ヒメオオクワガタ九州亜種	VU	75
ヒメキマダラヒカゲ	EN	74
ヒメシロチョウ	EN	74
ヒメスズメ	NT	76
ヒメピロウドカミキリ	VU	75
ヒメボタル	NT	76
ヒメミズカマキリ	VU	75
ヒメミズスマシ	CR	74
ヒラタミズク	NT	75
フジキオビ	DD	76
フジミドリシジミ	CR	74
フタコブルリハナカミキリ	NT	76
フタスジサナエ	VU	75
ヘイケボタル	NT	76
ベッコウトンボ	DD	76
ベニイトトンボ	VU	75
ヘリグロチャバネセセリ	NT	76
ヘリグロホソハナカミキリ九州亜種	NT	76
ホシアシブトハバチ	NT	76
ホシミスジ	VU	75
ホソクロマメゲンゴロウ	CR	74
ホソゴマフガムシ	EN	74
ホソセスジゲンゴロウ	NT	76
ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ九州亜種	CR	74
ホソハンミョウ	NT	76
ホンサナエ	DD	76
ホンシュウセスジダルマガムシ	CR	74
マイコアカネ	CR	73
マダラコガシラミズムシ	CR	74
マルガタゲンゴロウ	CR	74
マルクビケマダラカミキリ	VU	75
マルケシゲンゴロウ	CR	74
マルコガタノゲンゴロウ	CR	74
マルタンヤンマ	AN	77
マルヒラタガムシ	VU	75
ミスジチョウ	NT	76
ミズスマシ	CR	74
ミツノエンマコガネ	CR	74
ミドリオオオクスイ	DD	76
ミドリカミキリ	VU	75
ミドリシジミ	CR	74
ミナミヤンマ	DD	76
ミヤマカラスシジミ	EN	74
ミヤマダイコクコガネ	VU	75
ミュキシジミガムシ	EN	74
ムカシトンボ	VU	75
ムカシヤンマ	EN	74

ムサシセモンササキリモドキ	DD	76
ムスジイトトンボ	VU	75
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	CR	74
ムナコブハナカミキリ	NT	76
ムネアカセンチョガネ	VU	75
ムネホシシロカミキリ	VU	75
ムモンチビコツブゲンゴロウ	CR	74
ムモンベニカミキリ	DD	76
メスアカミドリシジミ	EN	74
モートンイトトンボ	CR	73
モンクロベニカミキリ	EN	75
ヤクシマトゲオトンボ	NT	75
ヤネホソバ	NT	76
ヤホシホソマダラ	NT	75
ヤマトスジグロシロチョウ	AN	77
ヤマトヒメメダカコウムシ	NT	76
ヤマトホソガムシ	CR	74
ヤマトモンシデムシ	DD	76
ヨコミソドロムシ	EN	75
ヨコヤマトラカミキリ	NT	76
ヨツボシカミキリ	VU	75
ヨツボシメツブテントウ	CR	74
ヨドシロヘリハンショウ	CR	74
ルイスハンショウ	DD	76
ルーミスシジミ	EX	73
ルリクワガタ	VU	75
ルリナカボソタムシ	VU	75
ルリヒラタムシ	NT	76
八景水谷・江津湖の両湧水池に生息するナベタムシ	LP	77

■クモ・多足類

イツキメナシナミハグモ	CR	78
オカツクシヤスデ	DD	79
カワベナミハグモ	EN	78
キシノウエトタゲモ	NT	79
キノボリトタゲモ	NT	79
キムラグモ類	NT	79
ドウシグモ	DD	79
ネンジュヤスデ	DD	79
ノコギリヤスデ類	DD	79
ヤマシナヒラタヤスデ	DD	79
ヤマトウシオグモ	DD	79
ヤマリュウガヤスデ	DD	79
ワスレナグモ	NT	79

■陸産・淡水産貝類

アキメカサマイマイ近似種	DD	92
アズマギセル	DD	92
アムクサマイマイ	EN	91
アメイロギセル	NT	91
アラナミギセル	NT	92
アラハダノミギセル	NT	92
イシカワギセル	CR	91
イトマキミジンヤマトニシ	CR	91
ウスイロオカチグサ	VU	91
ウメムラシタラ	NT	92
オオウエキビ	NT	92
オオウスイロヘソカドガイ	EN	91
オオウスピロウドマイマイ	CR	91
オオクラヒメベッコウ	NT	92
オオコウラナメクジ	VU	91
オオスミウロコマイマイ	CR	91
オオスミピロウドマイマイ	CR	91
オオタニシ	DD	92
オキモドキギセル	NT	91
カザアナギセル	CR	91
カサネシタラ	EN	91
カタギセル	NT	91
カタハガイ	EN	91
カタハリビルスブリムシオイ（仮称）	DD	92
カトウナタネ	DD	92
カワモトギセル	EN	91
カンダマイマイ	DD	92
カイイキビ近似種	DD	92
キセルモドキ	VU	91
キバサナギガイ	DD	92
キュウシュウササノハガイ	CR	91
キュウシュウシロマイマイ	NT	92
クマモトアツブタムシオイ	CR	91
クルマナタネ	DD	92
ケシガイ	VU	91
ケショウギセル	CR	91
コウベマイマイ類似種	DD	92
コガタシロヒメベッコウ	DD	92
ゴカノショウゴマガイ（仮称）	CR	91
コシキジマギセル	DD	92
コベソマイマイ	NT	92
サツマオカチョウジガイ	DD	92
サツمامシオイ	NT	91
シイバムシオイ	CR	91
シチトウベッコウ	DD	92
シマケルギセル	NT	91

シメクチマイマイ	NT	92
シリプトゴマガイ	NT	91
シロヒメベッコウの仲間	DD	92
シンチュウギセル	NT	92
スナガイ	EN	91
セトウチマイマイ	DD	92
タカチホムシオイ	CR	91
タメトモマイマイ	DD	92
チクヤケマイマイ	EN	91
チョウセンスナガイ	DD	92
ツシマケマイマイ	DD	92
ツシマナガキビ	VU	91
テラマチベッコウ	NT	92
トウキョウヒラマキガイ	DD	92
トサギセル	NT	91
ナガオカモノアラガイ	VU	91
ナタネガイ	DD	92
ナタネガイモドキ	DD	92
ナミハダギセル	NT	91
ナンビギセル	CR	91
ニセマツカサガイ	EN	91
ニセモリサキギセル（仮称）（モリサキギセル近似種）	VU	91
ノミガイ	EN	91
ハクサンベッコウ類似種	DD	92
ハナコギセル	CR	91
ハマダゴマガイ（仮称）	CR	91
ハリマナタネ	DD	92
ヒゴコンボウギセル	CR	91
ヒゴフリエデルマイマイ	DD	92
ヒメヒラマキミズマイマイ	DD	92
ヒメマルマメタニシ	VU	91
ヒラドマルナタネ	DD	92
ヒラベッコウ	NT	92
ヒラベッコウの仲間	NT	92
ヒラマキミズマイマイ	NT	92
ビルスブリギセル	NT	91
フトクビムシオイ（仮称）	CR	91
ヘソカドガイ	NT	91
ホソキセルモドキ	VU	91
ホラアナミジンナ	EN	91
マツカサガイ	VU	91
マルクチコギセル	CR	91
マルナタネ	DD	92
ミジンナタネ	DD	92
ミジンマイマイ	VU	91
ミズゴマツボ	NT	92
ヤマキサゴ	CR	91
ヤマトキバサナギガイ	CR	91
レンズガイ	NT	92

■淡水産無脊椎動物

サイゴクコツブムシ	NT	93
ヒメヌマエビ	NT	93
ミナミヌマエビ	NT	93
ヤマトヌマエビ	NT	93

■海洋動物

アオサギガイ	VU	99
アカイソガニ	NT	101
アカウミガメ	CR	98
アカガイ	DD	101
アカホシマメガニ	DD	101
アゲマキ	CR	98
アサヒキスタレガイ	NT	100
アシガイ	NT	100
アズキカワザンショウ	VU	99
アダムスタマガイ	VU	99
アツカガミ	CR	98
アマクサオオトゲキクメイシ	DD	101
アラウズマキ	NT	100
アラゴマフダマ	DD	101
アリアケガニ	EN	98
アリアケカワゴカイ	EN	98
アリアケケボリ	EN	98
アリアケモドキ	NT	101
アリアケヤウラガニ	EN	98
アワジチガイ	EN	98
アンチラサメハダホシムシ	DD	101
イオウハマグリ	VU	99
イシゴロモ	CR	98
イセシラガイ	EN	98
イソアワモチ	EN	98
イソカゼガイ	VU	99
イソチドリ	EN	98
イタボガキ	EN	98
イタヤガイ	EN	98
イチョウシラトリ	VU	99
イトカケゴウナ	NT	100
イトメ	NT	100
イボウミニナ	NT	100
イボキサゴ	VU	99
イボキサゴナカセクチキレモドキ	EN	98

イヨカワザンショウ（ヤミカワザンショウ）	NT	100
イリエツボ	DD	101
イワカワトクサ	EN	98
ウスコミミガイ	NT	100
ウズザクラ	NT	100
ウスハマグリ	VU	99
ウチノミカナダマシ	EN	98
ウチワイカリナマコ	DD	101
ウチワゴカイ	VU	99
ウネナシイトカケ	VU	99
ウネハナムシロ	DD	101
ウネムシロ	EN	98
ウミエラカナダマシ	NT	100
ウミサボテン	VU	99
ウミタケ	VU	99
ウミヒメカノコ	VU	99
ウミマイマイ	EN	98
ウモレベンケイガニ	EN	98
ウラカガミ	CR	98
ウロコガイ	NT	100
エドガワミズゴマツボ（ウミゴマツボ）	NT	100
オウギウロコガイ	VU	99
オオアカヒトデ	NT	101
オオシャミセンガイ	CR	98
オオシリプトヒザラガイ	EN	98
オオトリガイ	NT	100
オオノガイ	EN	98
オオモモノハナ	VU	99
オオヨコナガビンノ	EN	98
オガイ	EN	98
オカミミガイ	VU	99
オキアサリ	VU	99
オキナノエガオ	EN	98
オキヒラシイノミ	CR	98
オサガニ	NT	101
オサガニヤドリガイ	NT	100
オダマキ	VU	99
オチバガイ	NT	100
オニイソメ	EN	98
オニサザエ	NT	100
オビクイ	DD	101
オマセムシロ	VU	99
オリイレシラタマ	VU	99
オリイレボラ	VU	99
カキゴロモ	DD	101
カギヅメビンノ	NT	101
カサガタガイ	DD	101
カンラエビ	NT	100
カニノテムシロ	NT	100
カハタレカワザンショウ	VU	99
カミズカイコガイダマシ	VU	99
カモジガイ	NT	100
カヤノミカニモリ	VU	99
カワアイ	NT	100
カワグチツボ	NT	100
ガンギハマグリ	NT	100
カンテンフサゴカイ	NT	100
キサガイ	DD	101
キサゴ	NT	100
キヌカツギハマシイノミ	VU	99
キスタアゲマキ	NT	100
キスタレガイ	NT	100
ギボシマメガニ	EN	98
キュウシュウナミノコ	NT	100
クシケマスオ	VU	99
クシテガニ	NT	101
クマサルボウ	EN	98
クリイロカワザンショウ	NT	100
クリイロコミミガイ	VU	99
クリイロランギ	NT	100
クルマヒラマキ	VU	99
クレハガイ	NT	100
クロヘナタリ	NT	100
ケガイ	EN	98
ケマンガイ	NT	100
コオキナガイ	EN	98
コケガラス	NT	100
コゲチャタケ	DD	101
コゲツノブエ	NT	100
コタマガイ	VU	99
コヅツガイ	DD	101
ゴマツボ	NT	100
ゴマツボモドキ	VU	99
ゴマフダマ	DD	101
コメツブツララ	VU	99
サギガイ	NT	100
サキグロタマツメタ	DD	101
サクラガイ	NT	100
ササゲミミエガイ	EN	98
サザナミツボ	NT	100
サザナミマクラ	VU	99
サザメガイ	EN	98
サナギモツボ	VU	99
シイノミミミガイ	VU	99
シオマネキ	VU	99

シオヤガイ	NT	100	ヒメマスオ	VU	99
シカメガキ	NT	100	ヒメムツアシガニ	NT	100
シダレイトゴカイ	NT	100	ヒメナガオサガニ	NT	101
シチクガイ	EN	98	ヒメヤマトオサガニ	NT	101
シナヤカスエモノガイ	VU	99	ビョウブガイ	CR	98
シマヘナタリ	CR	98	ヒラザクラ	VU	99
シラオガイ	VU	99	ヒラセザクラ	NT	100
シラギク	NT	100	ヒラタブンブク	NT	101
スオウクチキレ	NT	100	ヒロオビヨフバイ	EN	98
スカシカシバン	NT	101	ヒロクチカノコ	VU	99
スジウネリチョウジガイ	VU	99	フジタニコハクノツユ	VU	99
スジホシムシ	VU	99	フジテガニ	VU	99
スジホシムシモドキ	NT	100	フジナミガイ	CR	98
スジホシムシモドキヤドリガイ	NT	100	フジノハナガイ	VU	99
スタレハマグリ	NT	100	フタハビンノ	NT	101
スナガニ	NT	101	フドロ	VU	99
スナメリ	CR	98	フルイガイ	EN	98
スネナガイソガニ	NT	101	フロガイダマシ	NT	100
ズベタイラギ	CR	98	ヘイケガニ	NT	100
スミノエガキ	VU	99	ベッコウイモ	VU	99
セキモリ	NT	100	ヘナタリ	NT	100
セムシマドアキガイ	VU	99	ベニガイ	VU	99
セワケガイ	VU	99	ベンケイガニ	NT	101
センベイアワモチ	VU	99	ホソウデヒシガニ	NT	101
ダイミョウガイ	VU	99	ホソタマゴガイ	NT	100
タイワンキサゴ	DD	101	ホンコンマメガニ	DD	101
タガソデモドキ	NT	100	ホンコンモミジボラ	EN	98
タクミナ	VU	99	マキガイイソギンチャク	EN	98
タケノコカワニナ	VU	99	マキスジコミミガイ	NT	100
タマシキゴカイ	NT	100	マキモノガイ	VU	99
チゴマテ	DD	101	マクラガイ	NT	100
チドリマスオ	VU	99	マゴコロガイ	VU	99
チビイトマキヒトデ	VU	99	マツモトウロコガイ	NT	100
チョウセンハマグリ	CR	98	マルテンスマツムシ	DD	101
チリメンユキガイ	CR	98	マンジュウイシモドキ	EX	98
ツガイ	NT	100	ミクリガイ	NT	100
ツツミガイ	NT	100	ミサキギボシムシ	CR	98
ツバサゴカイ	EN	98	ミズゴマツボ	NT	100
ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ)	NT	100	ミドリシャミセンガイ種群	NT	100
ツボミ	NT	100	ミドリユムシヤドリガイ	CR	98
ツルマルケボリ	VU	99	ミナミアシハラガニ	VU	99
テナガツノヤドカリ	NT	100	ミナミエラコ	NT	100
テリザクラ	VU	99	ミヤコドリ	NT	100
テングニシ	NT	100	ミルクイ	EN	98
トウガタカニモリ	VU	99	ムギワラムシ	VU	99
トガリユウシオガイ	NT	100	ムラクモキジビキガイ	EN	98
トゲイカリナマコウロコムシ	NT	100	ムラサキガイ	EN	98
トリウミアカイソモドキ	VU	99	メナガオサガニ	VU	99
ドロアワモチ	CR	98	メナシビンノ	NT	101
ナギサノシタタリ	NT	100	モモノハナ	VU	99
ナミノコガイ	VU	99	ヤドリカニダマシ	VU	99
ナラビオカミミガイ	VU	99	ヤドリムツアシガニ	EN	98
ニッポンオフエリア	NT	100	ヤベガワモチ	CR	98
ニッポンマメアゲマキ	NT	100	ヤマホトトギス	DD	101
ニッポンヨーヨーシジミ	VU	99	ヤミノニシキ	EN	98
ニホンマメガニダマシ	NT	101	ユキガイ	VU	99
ニンジンイソギンチャク	EN	98	ユキノアシタ	VU	99
ヌカルクチキレ	VU	99	ヨコナガモドキ	NT	101
ヌノメチョウジガイ	NT	100	ヨシダカワザンショウ	VU	99
ヌノメヘナタリ	CR	98	ヨツアナカシバン	NT	101
ヌノメホソクチキレ	VU	99	ヨモギホンヤドカリ	EN	98
ネコガイ	NT	100	リシケタイラギ	EN	98
ネコノアシガキ	DD	101	ワカウラツボ	NT	100
バイ	NT	100	ワカミルガイ	NT	100
ハイガイ	EN	98	ワダツミギボシムシ	CR	98
バカガイ	VU	99			
ハクセンシオマネキ	NT	101			
ハザクラ	VU	99			
ハスノハカシバン	DD	101			
ハチミツガイ	DD	101			
ハナグモリ	VU	99			
ハナツトガイ	NT	100			
ハナヒラガイ	EN	98			
ハナワケイソギンチャク	NT	100			
ハネナシヨウラク	VU	99			
ハボウキ	NT	100			
ハマガニ	NT	101			
ハマグリ	VU	99			
ハマシイノミガイ	VU	99			
ハラグクレチゴガニ	NT	101			
バラフマテ	NT	100			
ヒガシナメクジウオ	EN	98			
ヒゲナガウミナナフシ	DD	101			
ヒゲハギ	DD	101			
ヒゴスナウミナナフシ	DD	101			
ヒシガイ	EN	98			
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	NT	100			
ヒナノズキン	EN	98			
ヒナユキスズメ	NT	100			
ヒメアカガイ	CR	98			
ヒメアシハラガニ	NT	101			
ヒメエガイ	CR	98			
ヒメカノコ	DD	101			
ヒメケフサイソガニ	NT	101			
ヒメシオガマ近似種	DD	101			